高齢者福祉計画及び第９期介護保険事業計画
策定に向けた各種アンケート調査

結果報告書

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査
在宅介護実態調査
介護人材実態調査
ふれあいサロンリーダーアンケート調査

令和５年３月

小　浜　市

目　次

Ⅰ．調査の概要 1
１．調査の概要 1
２．本報告書の留意点 3
Ⅱ．介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果 4
１．回答者の属性 4
（１）性別 4
（２）年齢 4
（３）居住地区 5
（４）介護認定の状況 6
２．回答者の家族や生活状況について 7
（１）家族構成 7
（２）介護・介助の必要性 9
（３）経済的な状況 11
３．からだを動かすことについて 12
（１）日常の動作について 12
（２）転倒について 16
（３）運動機能の低下について 19
４．外出・移動手段について 20
（１）外出の状況 20
（２）移動手段 23
５．食べることについて 26
（１）低栄養 26
（２）口腔機能の低下 27
（３）歯の状態 28
（４）食事環境 29
６．毎日の生活について 30
（１）認知機能の低下 30
（２）自身での行動について 31
（３）ＩＡＤＬ（手段的日常生活動作）について 38
（４）携帯電話（スマートフォン含む）の所有 39
（５）新型コロナウイルス感染症による影響 41
７．地域での活動について 43
（１）各種地域活動への参加状況 43
（２）近所の方への手助け 44
（３）地域活動への参加意向 46
８．たすけあいについて 50
（１）心配事など 50
（２）看病や世話 51
９．健康状態について 52
（１）主観的健康観 52
（２）幸福度 53
（３）現在治療中、または後遺症のある病気について 54
（４）喫煙について 56
（５）うつ傾向 57

（６）フレイルの認知度 58
（７）ＭＣＩ（軽度認知障害）の認知度 59
10. 認知症について 60
（１）認知症の症状 60
（２）認知症についての相談窓口の認知度 61
（３）成年後見制度の認知度 63
11.「もしものとき」の介護や医療について 65
（１）もしものときの話し合いについて 65
（２）終活について 69
（３）地域包括支援センターの認知度 70
Ⅲ. 在宅介護実態調査 71
１．回答者の属性 71
（１）性別 71
（２）年齢 71
（３）要介護度 72
（４）居住地区 73
２．基本調査項目（Ａ票） 74
（１）世帯類型 74
（２）家族等による介護の頻度 76
（３）主な介護者について 78
（４）多重介護について 81
（５）主な介護者が行っている介護 82
（６）介護のための離職の有無 84
（７）介護保険サービス以外の支援・サービスの利用状況 85
（８）在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス 92
（９）本人が抱えている傷病 99
(10) 施設等検討の状況 102
(11) 訪問診療の利用の有無 103
(12) 介護保険サービスについての利用の有無 104
３．主な介護者に関する調査項目（Ｂ票） 106
（１）主な介護者の勤務形態 106
（２）主な介護者の方の働き方の調整の状況 107
（３）就労継続に効果的な勤め先からの支援 109
（４）主な介護者の就労継続の可否に係る意識 111
（５）主な介護者が不安に感じる介護 113
（６）地域包括支援センターについて 116
（７）介護の相談相手 118
（８）成年後見制度の認知度 120
（９）認知症支援サービス・活動の認知度 122
Ⅳ. 介護人材実態調査 124
１．回答事業所の状況 124
（１）事業所のサービス系統 124
（２）介護職員数 124
２．職員の状況について 125
（１）過去１年間の採用者数・離職者数からみる職員数 125
（２）雇用形態の状況 126
（３）職員の資格取得の状況 129
３．訪問介護のサービス提供状況について 131
（１）訪問介護のサービス提供時間について 131

４．人材の確保について ･･ 133
（１）人材確保の状況 ･･ 133
（２）不足している職種 ･･ 135
（３）実施している職員の定着促進策 ･･ 137
Ｖ．ふれあいサロンリーダーアンケート調査 ･･ 141
１．回答者について ･･ 141
（１）居住地区 ･･ 141
（２）サロンリーダー以外の仕事・役割 ･･ 142
２．ふれあいサロンについて ･･ 143
（１）サロン開催目的として大切にしていること ･･ 143
（２）サロン開催の協力者 ･･ 144
（３）サロンとしての課題 ･･ 145
（４）サロン活動の効果 ･･ 147
（５）参加者の困りごとの発見 ･･ 149
（６）困りごとを発見した際の対応 ･･ 150
（７）話し合いの場への参加意向 ･･ 151

Ⅰ．調査の概要

１．調査の概要

高齢者福祉計画及び第９期介護保険事業計画策定に向け、①介護予防・日常生活圏域ニーズ調査、②在宅介護実態調査、③介護人材実態調査、④ふれあいサロンリーダーアンケート調査を実施しました。

①介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

項目	内　容
目的	高齢者の生活状況や支援ニーズ、地域課題等を把握するため、国の示す調査手法に基づき、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査を実施しました。
対象者	要支援認定者、総合事業対象者及び一般高齢者（要介護認定を受けていない高齢者）
調査方法	郵送法（郵送による配布・回収）
調査時期	令和４年 12 月
配布数	1,000（無作為抽出）
回収数	820
回収率	82.0%

②在宅介護実態調査

項目	内　容
目的	高齢者等の適切な在宅生活の継続、家族等介護者の就労継続に向けた介護サービスのあり方を検討する基礎資料を得るため、国の示す調査手法に基づき、在宅介護実態調査を実施しました。
対象者	在宅で生活されている要介護認定者（施設等入所者は除く）
調査方法	郵送法（郵送による配布・回収）
調査時期	令和４年 12 月
配布数	730
回収数	521
回収率	71.4%

③介護人材実態調査

項目	内　容
目的	介護人材の現状（性別・年齢構成、資格保有状況、過去１年間の採用・離職の状況、訪問介護サービスにおけるサービス提供の実態など）を把握するため、国の示す調査手法に基づき、介護人材実態調査を実施しました。
対象者	市内に所在する介護保険サービスを提供する施設・事業所
調査方法	メールによる調査票の配布、回収
調査時期	令和５年１月
回収数	事業所票 35（施設系・通所系 22　訪問系 13）　　職員票 109

④ふれあいサロンリーダーアンケート調査

項目	内　容
目的	ふれあいサロン活動の現状や課題等の把握を目的にアンケート調査を実施しました。
対象者	ふれあいサロンリーダー
調査方法	郵送による配布、サロンリーダー研修会での回収
調査時期	令和５年１月～２月
配布数	86
回収数	68
回収率	79.1%

２．本報告書の留意点

◆比率は百分率（%）で表し、小数点以下２位を四捨五入して算出しています。したがって、合計が 100%を上下する場合もあります。
◆基数となるべき実数は、“n=〇〇〇”として掲載し、各比率は“n=〇〇〇”を 100%として算出しています。
◆グラフに【複数回答】とある問は、１人の回答者が複数の回答を出してもよい問のため、各回答の合計比率は 100%を超える場合があります。
◆問の中には回答を限定する問があり、回答者の数が少ない問が含まれます。
◆選択肢が長文の場合、文中で省略して表記している場合があります。
◆「前回調査」は第８期介護保険事業計画策定のため令和２年１月～２月に実施した同種のアンケート調査結果となります。
◆本調査においては、地域別の傾向や課題等を把握するため、生活様式や地域性、人口規模などを考慮して市内を８地区に分けて集計・分析を行っています。

地区区分
①小浜地区　②雲浜地区　③西津地区　④今富地区　⑤宮川・国富地区 ⑥遠敷・松永地区　⑦内外海・加斗地区　⑧中名田・口名田地区

◆市では２つの日常生活圏域を設定しており、それぞれの圏域に含まれる地区は次のとおりとなります。

圏域１	圏域２
小浜、雲浜、西津、内外海、加斗	国富、宮川、松永、遠敷、今富、口名田、中名田

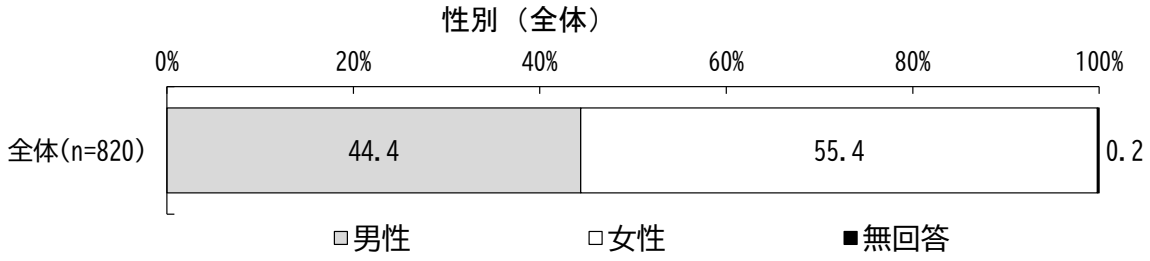
※日常生活圏域；高齢者が住み慣れた地域で生活を継続しながら、多様なサービスが受けられるよう、地理的条件、人口、交通事情その他の社会的条件、介護サービスを提供するための施設の整備状況等を総合的に勘案して定める区域。

Ⅱ．介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果

１．回答者の属性

（１）性別

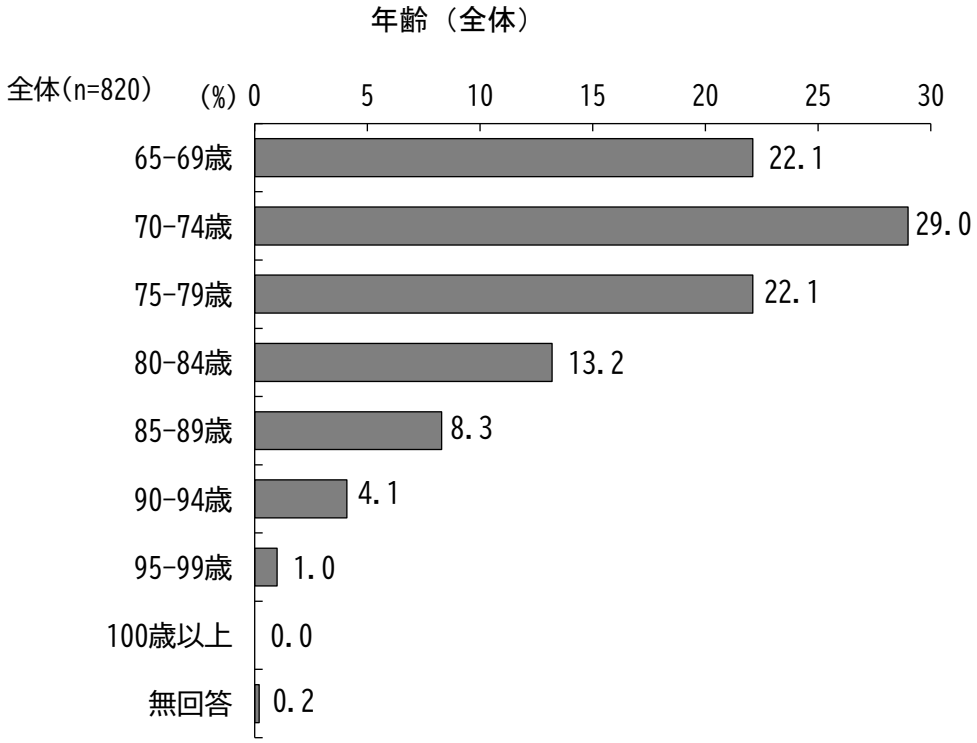
回答者の性別は、「女性」が 55.4%、「男性」が 44.4%となっています。



（２）年齢

①年齢

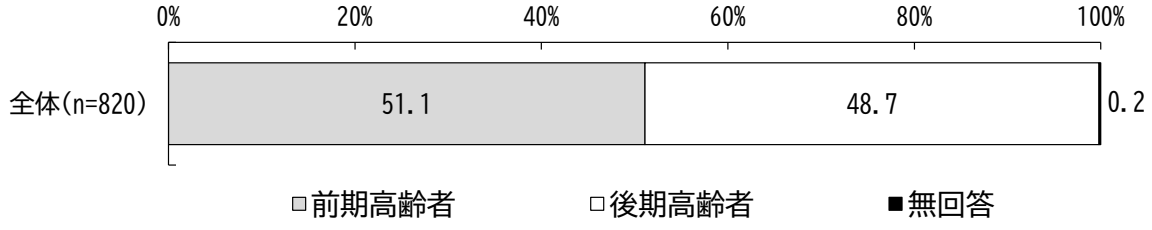
回答者の年齢は、「70-74 歳」が 29.0%で最も多く、次いで「65-69 歳」及び「75-79 歳」（同率 22.1%）、「80-84 歳」（13.2%）が続きます。



②年齢区分

回答者の年齢区分は、「前期高齢者」が51.1%、「後期高齢者」が48.7%となっています。

年齢区分（全体）

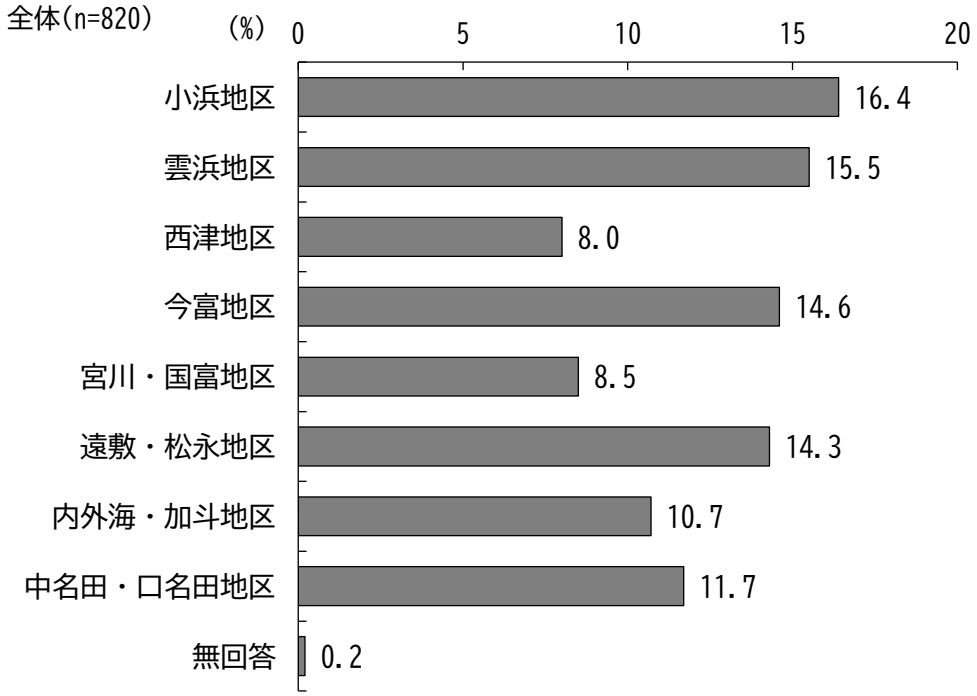


（３）居住地区

①居住地区

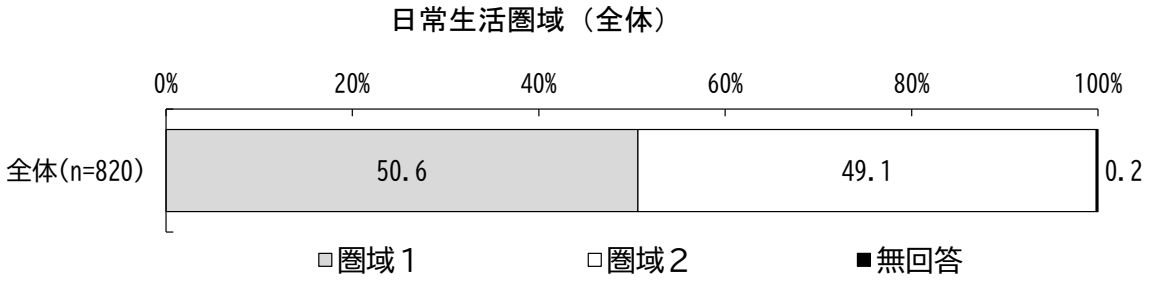
回答者の居住地区は、「小浜地区」が 16.4%で最も多く、次いで「雲浜地区」（15.5%）、「今富地区」（14.6%）、「遠敷・松永地区」（14.3%）が続きます。

居住地区（全体）



②日常生活圏域

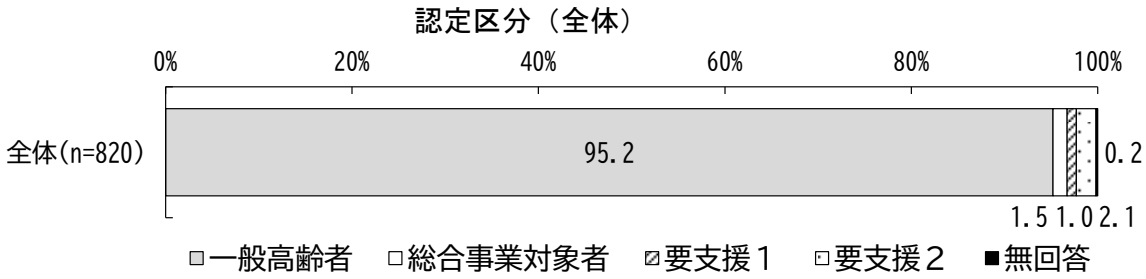
回答者の日常生活圏域は、「圏域１」が50.6%、「圏域２」が49.1%となっています。



（４）介護認定の状況

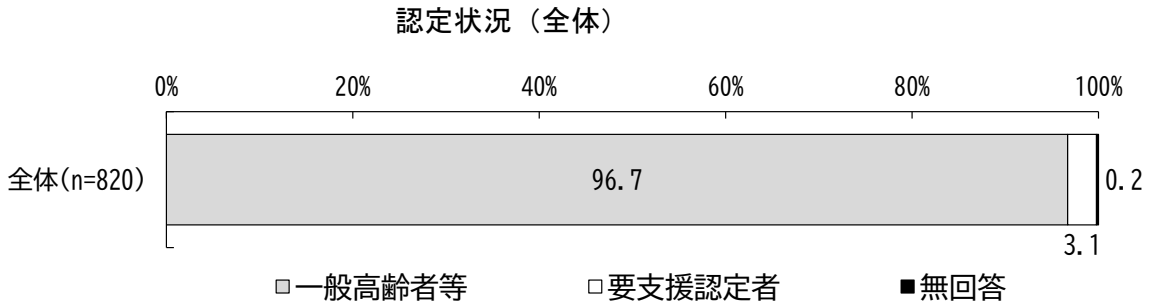
①認定区分

回答者の介護認定の区分は、「一般高齢者」が95.2%を占め、「要支援２」が2.1%、「総合事業対象者」が1.5%、「要支援１」が1.0%となっています。



②認定状況

回答者の介護認定の状況は、「一般高齢者等」が96.7%、「要支援認定者」が3.1%となっています。



２．回答者の家族や生活状況について

（１）家族構成

設問	問１（１）家族構成をお教えください

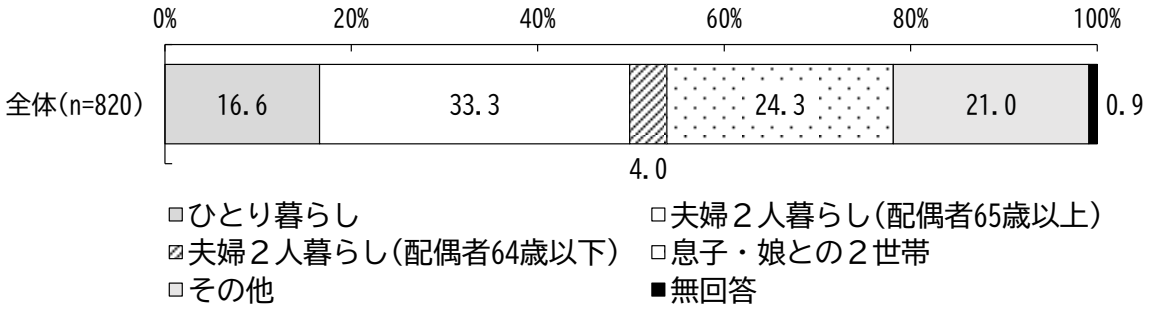
◆「夫婦２人暮らし（配偶者 65 歳以上）」が 33.3%。「ひとり暮らし」は 16.6%。
◆85 歳以上では「ひとり暮らし」が約３割。

家族構成については、「夫婦２人暮らし（配偶者 65 歳以上）」が 33.3%で最も多く、次いで「息子・娘との２世帯」が 24.3%で続きます。また、「ひとり暮らし」は 16.6%となっています。

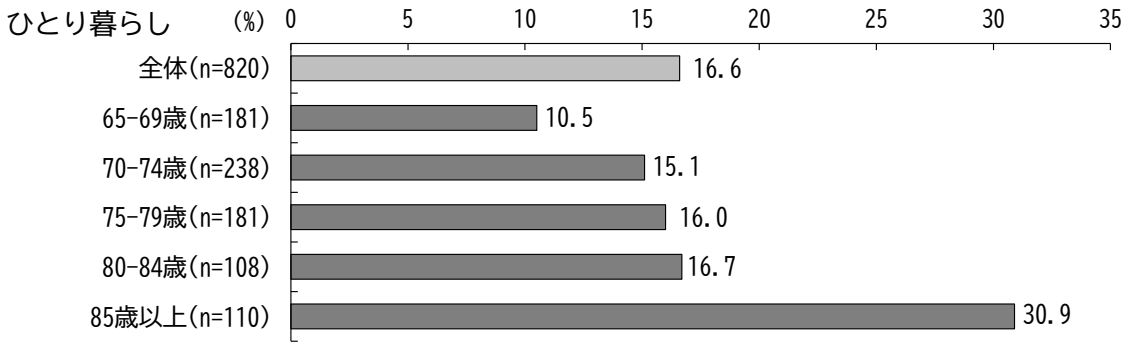
「ひとり暮らし」の割合を年齢別でみると、85 歳以上（30.9%）では約３割を占めています。

地区別でみると、「ひとり暮らし」は雲浜地区（29.1%）、西津地区（28.8%）で約３割と比較的多くなっています。また、「夫婦２人暮らし（配偶者 65 歳以上）」は遠敷・松永地区（41.0%）、今富地区（38.3%）で４割前後となっています。

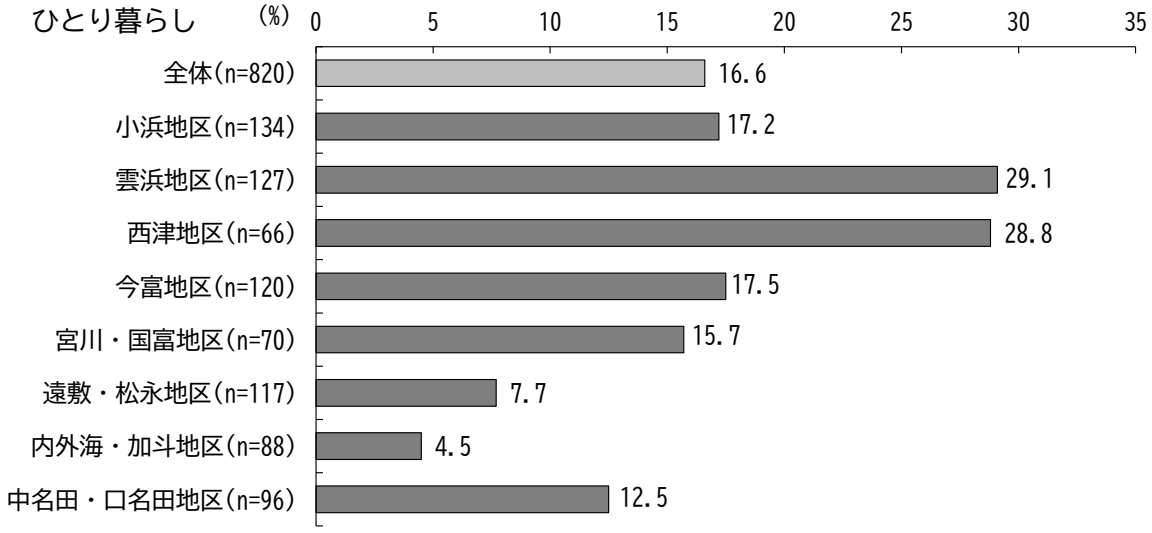
家族構成（全体）



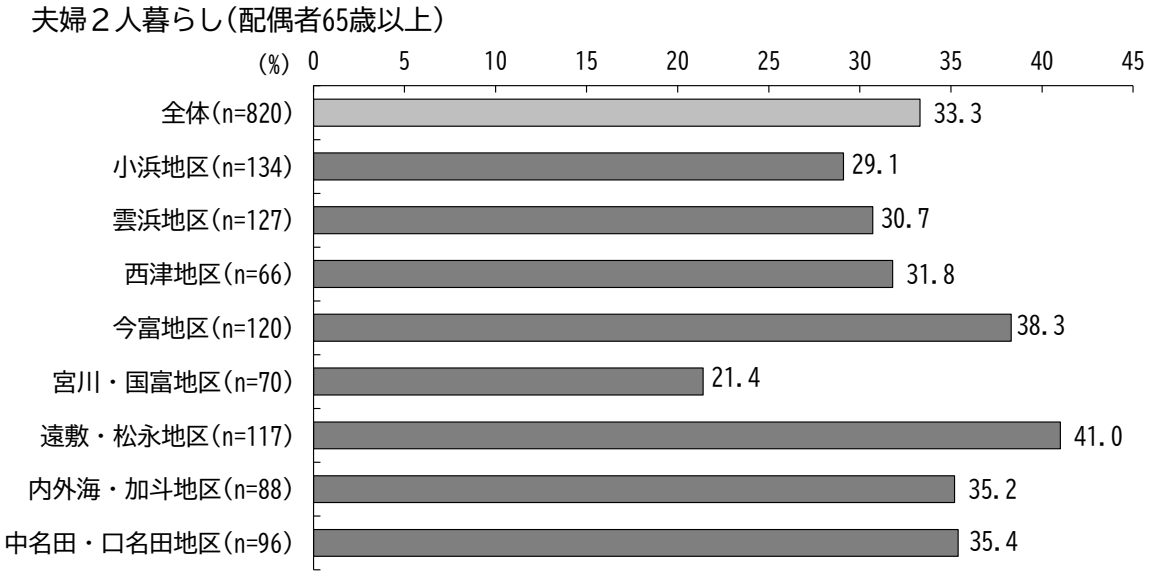
家族構成（ひとり暮らし・年齢別）



家族構成（ひとり暮らし・地区別）



家族構成（夫婦２人暮らし（配偶者 65 歳以上）・地区別）



（２）介護・介助の必要性

設問	問１（２）あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか 問１（２）※主にどなたの介護・介助を受けていますか

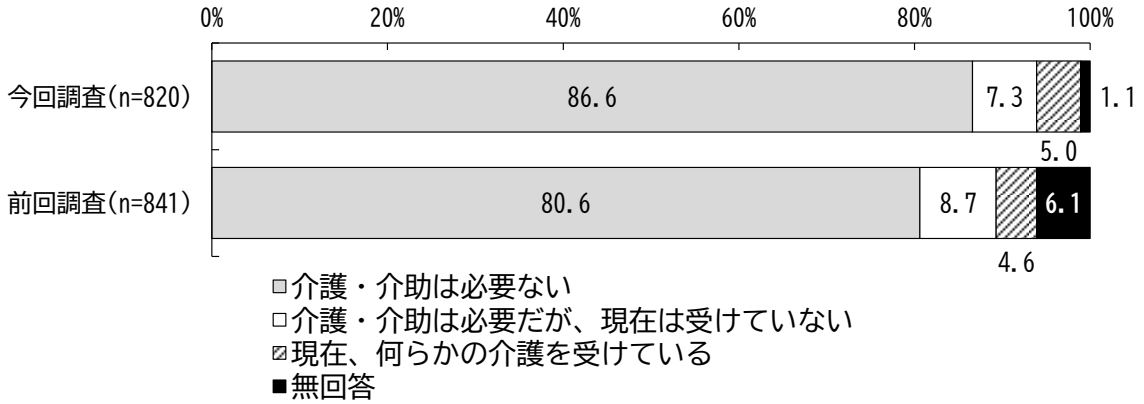
◆介護・介助を必要とする高齢者は１割強。

普段の生活における介護・介助の必要性については、「介護・介助は必要だが、現在は受けていない」(7.3%)、「現在、何らかの介護を受けている」(5.0%）をあわせた、介護・介助を必要とする高齢者は１割強にとどまり、前回調査と同様の傾向となっています。

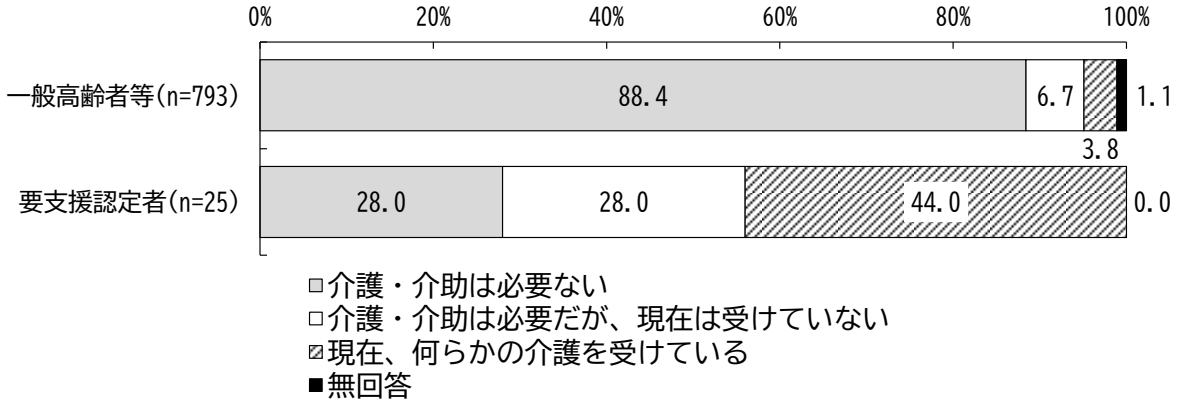
認定状況別でみると、要支援認定者では「現在、何らかの介護を受けている」が44.0%となっています。

主な介護・介助者については、一般高齢者では「息子」(26.7%)、要支援認定者では「息子」及び「娘」(同率45.5%）が最も多くなっています。

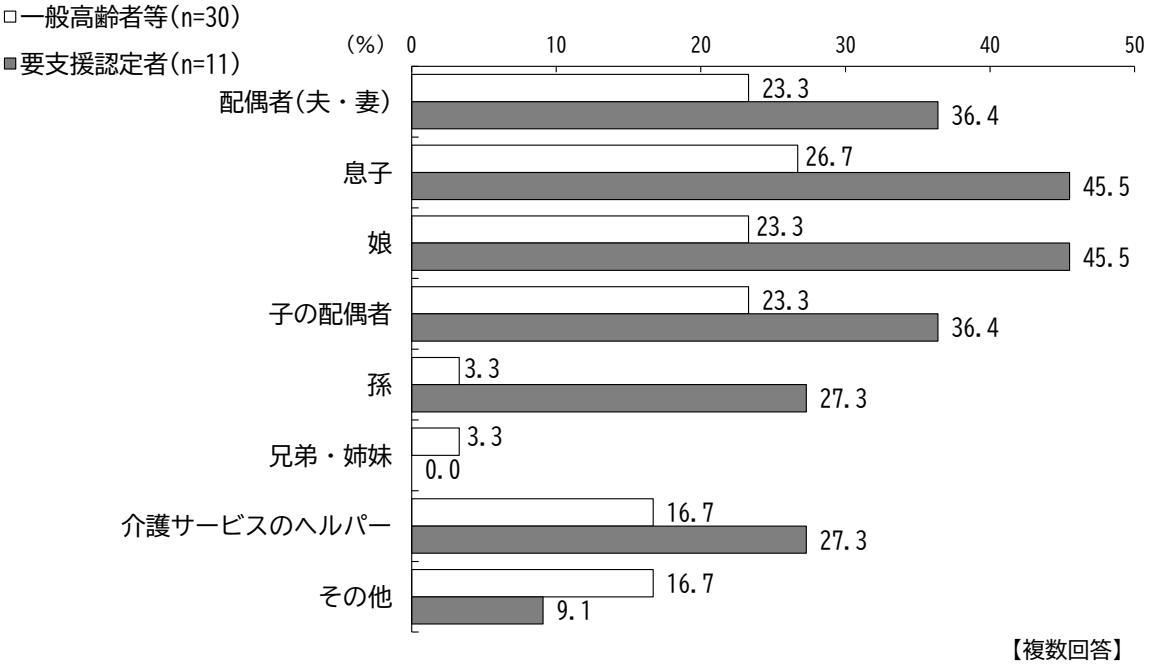
介護・介助の必要性（全体／前回調査との比較）



介護・介助の必要性（認定状況別）

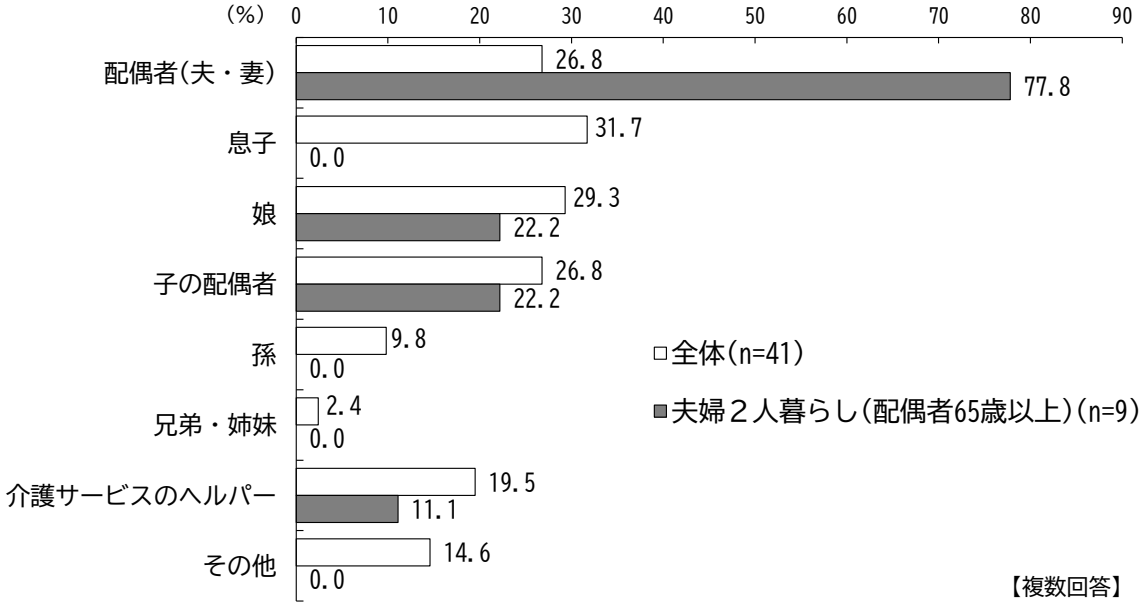


主な介護・介助者（認定状況別）

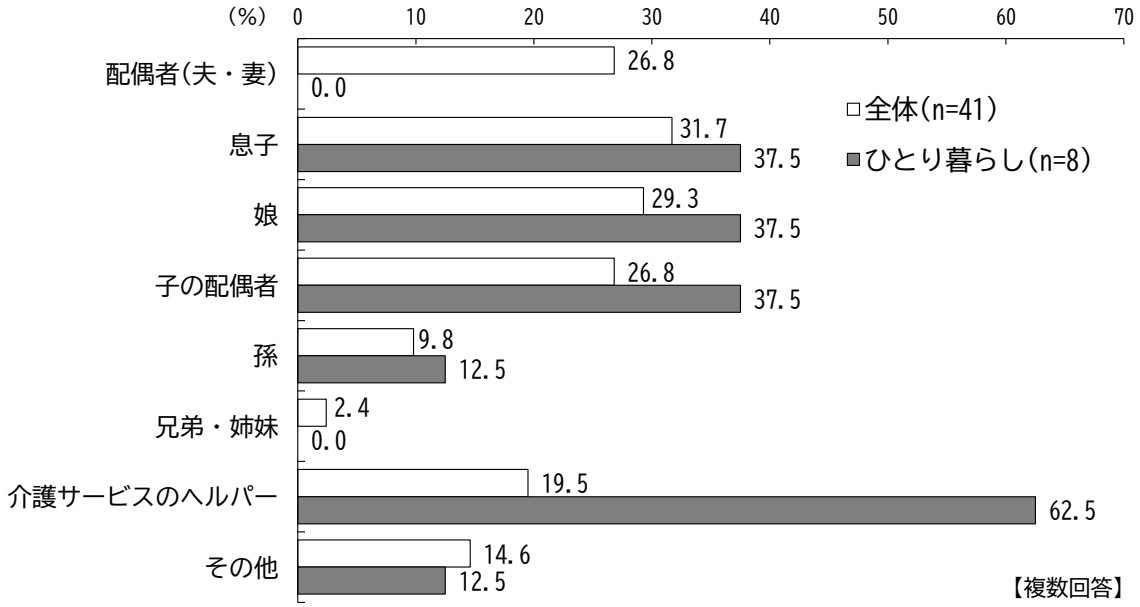


主な介護・介助者について家族構成でみると、夫婦２人暮らし（配偶者 65 歳以上）では「配偶者(夫・妻)」が 77.8%と８割弱を占めますが、ひとり暮らしでは「介護サービスのヘルパー」が 62.5%と６割強となっています。このことから、高齢夫婦世帯が将来的にひとり暮らし世帯へ移行する際に介護サービスのヘルパーのニーズが高まることが推察されます。

主な介護・介助者（全体・夫婦２人暮らし（配偶者 65 歳以上））



主な介護・介助者（全体・ひとり暮らし）



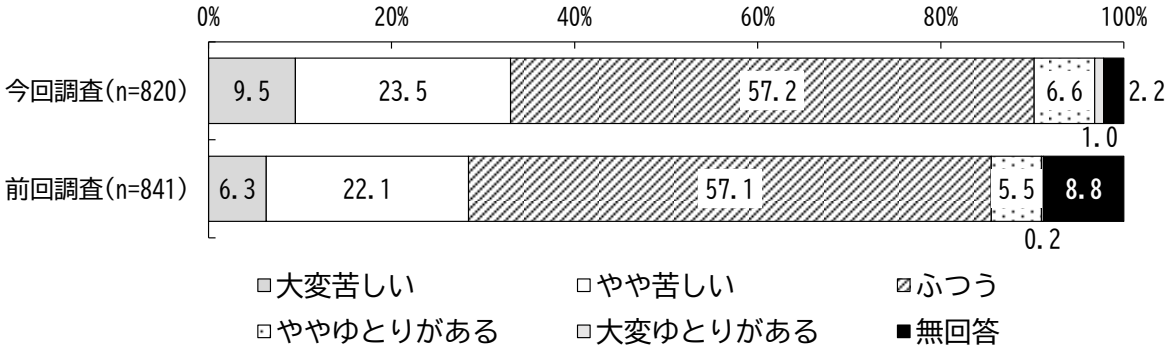
（３）経済的な状況

設問	問１（３）現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか

◆３人に１人が『苦しい』と回答。前回調査より増加。

回答者の経済的な現状については、「大変苦しい」（9.5%）と「やや苦しい」（23.5%）をあわせた 33.0%の方が『苦しい』と回答しており、前回調査（28.4%）より約５ポイント増加しています。

経済的な状況（全体／前回調査との比較）



３．からだを動かすことについて

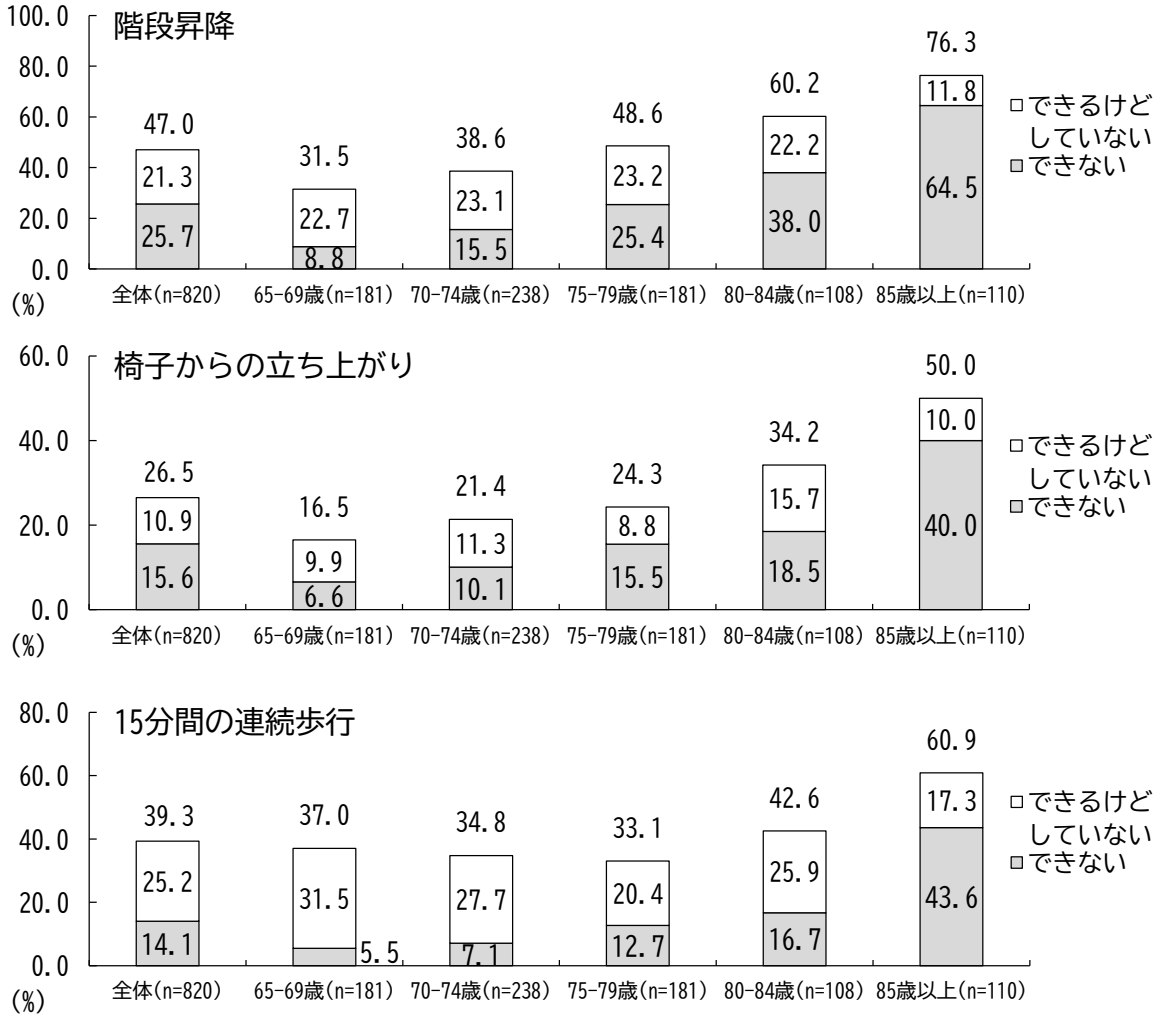
（１）日常の動作について

設問	問２（１）階段を手すりや壁をつたわらずに昇っていますか 問２（２）椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか 問２（３）15 分位続けて歩いていますか

◆②椅子からの立ち上がり、③15 分間の連続歩行では、「できるけどしていない」と回答する割合が 75-79 歳から 80-84 歳で増加。

運動機能の維持・向上のための日頃の動作として、①階段昇降、②椅子からの立ち上がり、③15 分間の連続歩行の状況についてたずねた結果、加齢とともに「できない」と回答する割合が増加しますが、②椅子からの立ち上がり、③15 分間の連続歩行では「できるけどしていない」と回答する割合が 75-79 歳から 80-84 歳で増加し、さらに加齢とともに機能低下が進行し、「できない」状態に移行する方が多いと推察されます。

日頃の動作（全体・年齢別）



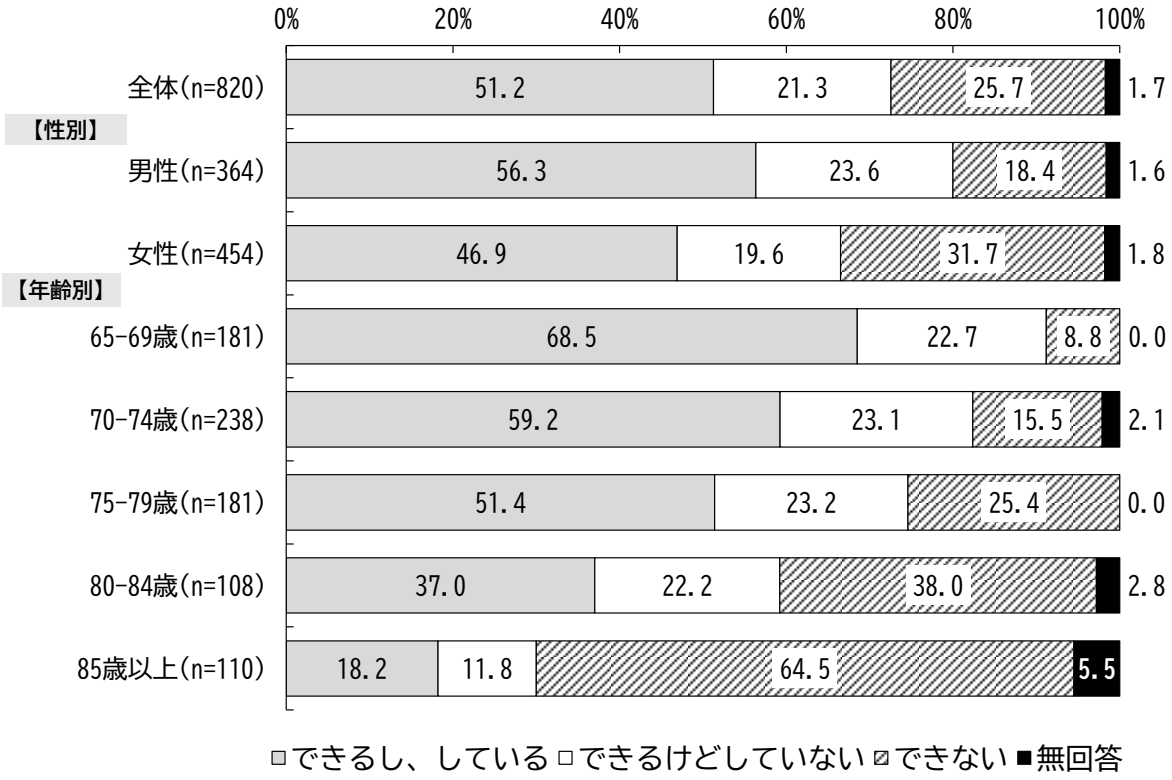
①階段昇降

日常の動作として手すりや壁をつたわらずに階段を昇ることについて、「できない」が25.7%となっています。

性別でみると、女性で「できない」（31.7%）と回答する割合が男性（18.4%）を上回ります。

年齢別では、加齢とともに「できない」と回答する割合が増加し、85歳以上では64.5%と６割を超えます。

階段昇降（全体・性別・年齢別）



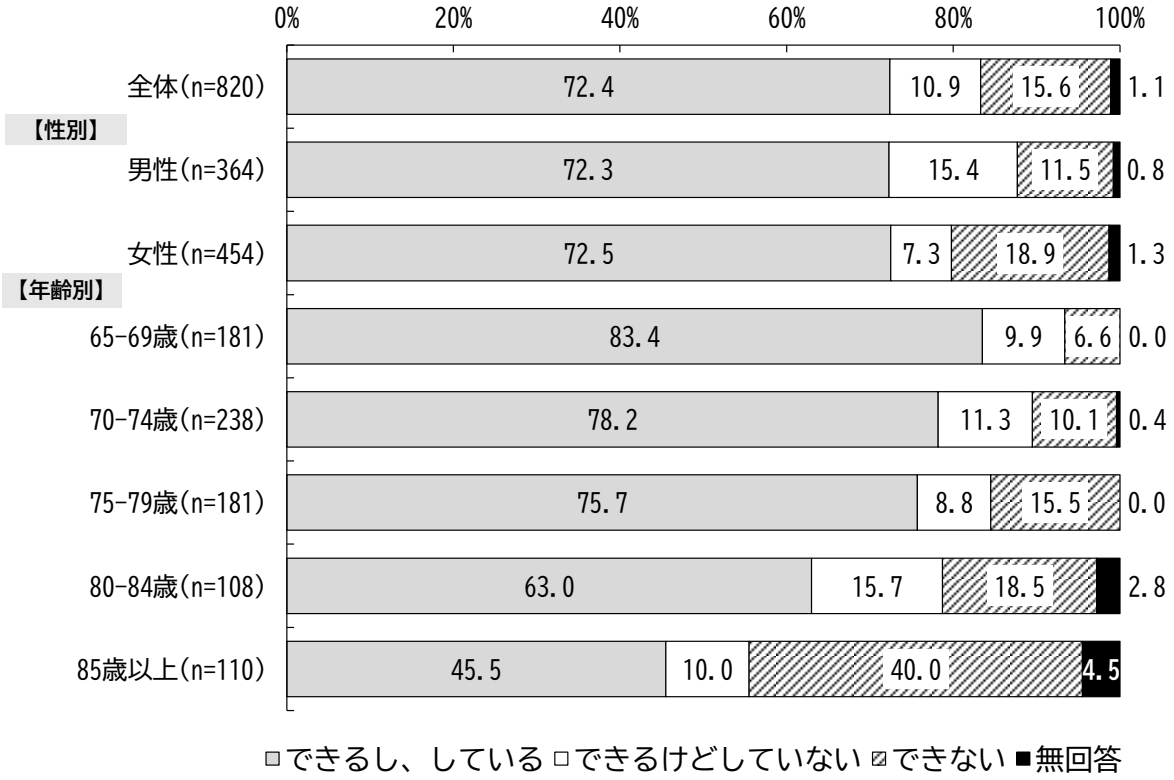
②椅子からの立ち上がり

何もつかまらず椅子から立ち上がることについて、「できない」が15.6%となっています。

性別でみると、女性で「できない」（18.9%）と回答する割合が男性（11.5%）を上回ります。

年齢別では、加齢とともに「できない」と回答する割合が増加し、85歳以上では40.0%と４割となっています。

椅子からの立ち上がり（全体・性別・年齢別）



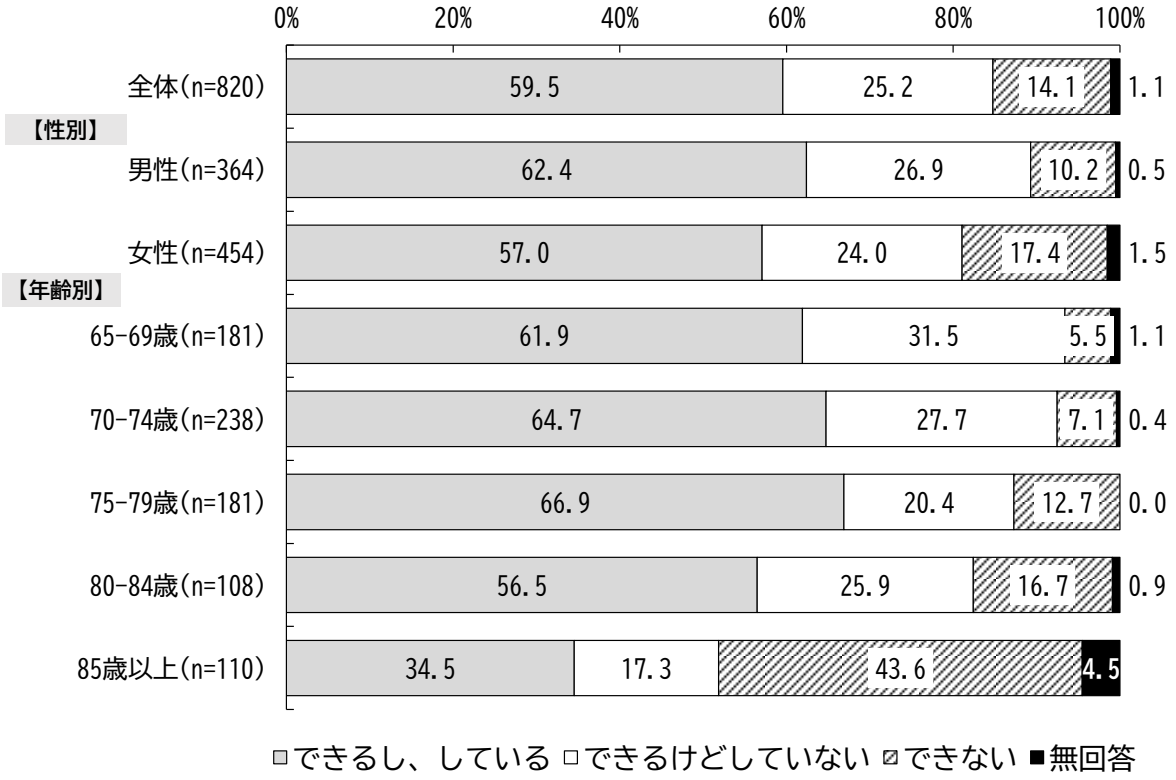
③15 分間の連続歩行

15 分位続けて歩くことについては、「できない」が 14.1%となっています。

性別でみると、女性で「できない」（17.4%）と回答する割合が男性（10.2%）を上回ります。

年齢別では、加齢とともに「できない」と回答する割合が増加し、85 歳以上では 43.6%と４割を超えます。

15 分間の連続歩行（全体・性別・年齢別）



（２）転倒について

設問	問２（４）過去１年間に転んだ経験がありますか 問２（５）転倒に対する不安は大きいですか

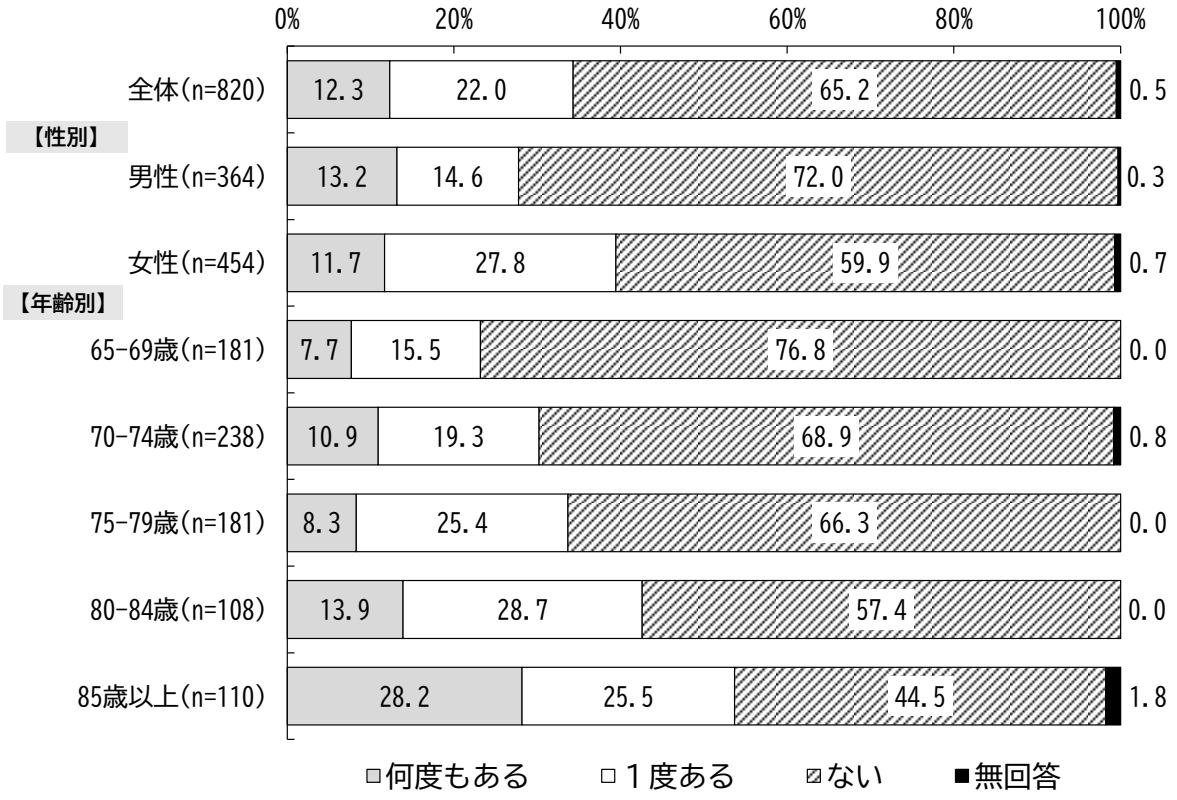
◆転倒経験は「何度もある」が約１割、「１度ある」が約２割。
◆転倒リスクのある高齢者は３人に１人。
◆転倒に対する不安のある高齢者は約６割。

①転倒経験

過去１年間に転んだ経験については、「何度もある」が 12.3%、「１度ある」が 22.0%となっています。

転倒経験を性別でみると、「１度ある」は女性（27.8%）が男性（14.6%）を上回ります。年齢別でみると、おおむね加齢とともに「何度もある」と回答する割合が増加し、85 歳以上では 28.2%と約３割となっています。

過去１年間の転倒経験（全体・性別・年齢別）



②転倒リスク

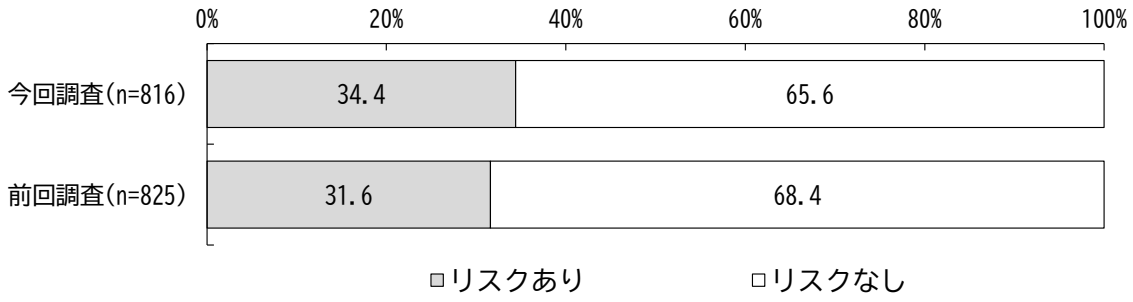
過去１年間の転倒経験について「何度もある」または「１度ある」と回答した方を転倒の「リスクあり」と判定したところ、その割合は 34.4%と前回調査(31.6%)から大きな変化はみられません。また、年齢別でみると、加齢とともに「リスクあり」の割合が増加し、85 歳以上で 54.6%と半数を超えます。

転倒リスクを判定するための項目

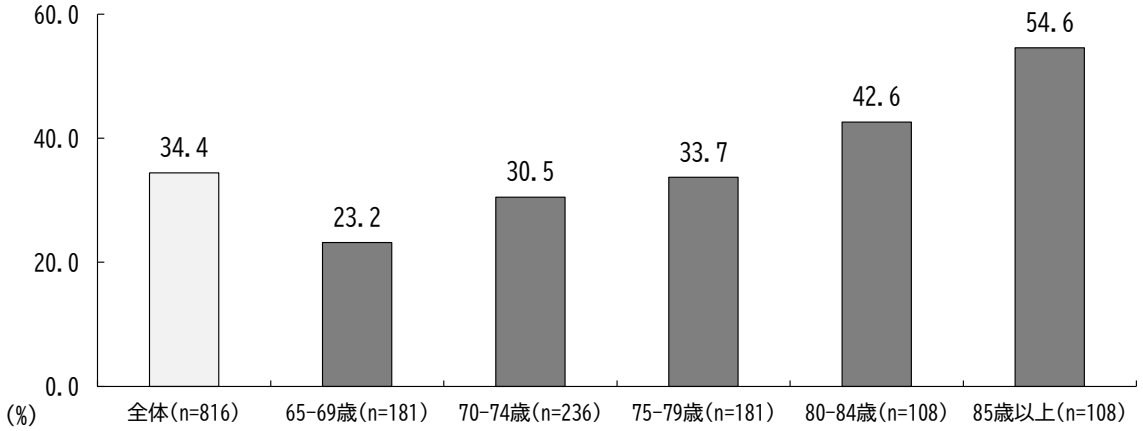
	設問内容	選択肢
設問	問２（４）過去１年間に転んだ経験がありますか	１．何度もある　　または ２．１度ある

※リスク状況を判定する各設問が無回答である場合、判定が行えないため、集計対象から外しています。

転倒リスク（全体／前回調査との比較）



転倒リスク :「リスクあり」の割合（全体・年齢別）

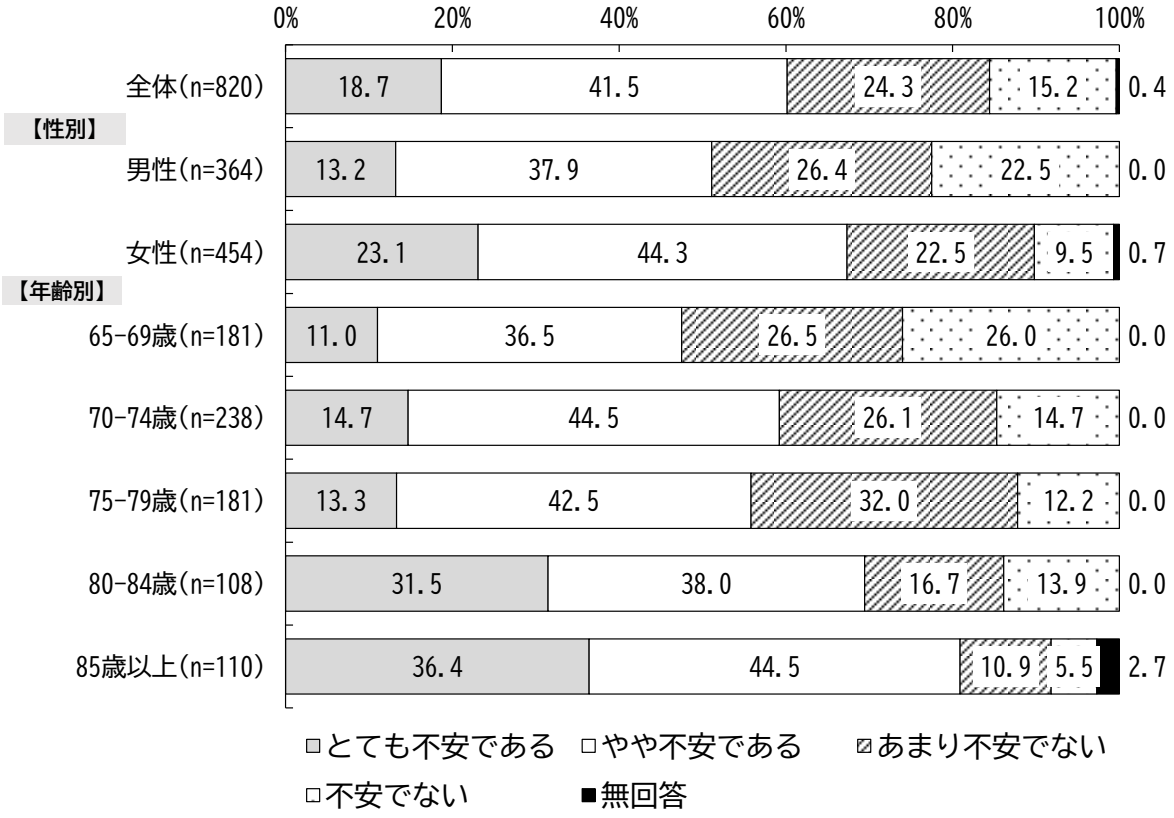


③転倒に対する不安

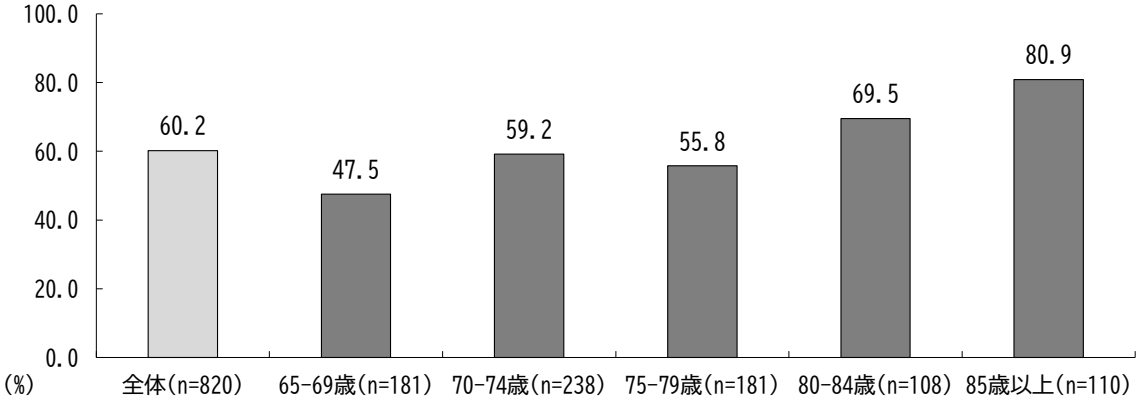
転倒に対して『不安』(「とても不安である」18.7%と「やや不安である」41.5%の合計）と回答した割合は60.2%となっています。

『不安』と回答する割合を性別でみると、女性（67.4%）が男性（51.1%）を大きく上回ります。また、年齢別でみると、加齢とともに『不安』の割合が増加し、85歳以上では80.9%と約８割となっています。

転倒に対する不安（全体・性別・年齢別）



転倒に対して『不安』と回答する割合（全体・年齢別）



（３）運動機能の低下について

◆運動機能の低下リスクのある高齢者は約２割。

問２（１）～問２（５）の回答結果の組み合わせにより、運動機能の低下の有無について判定を行いました。問２（１）～問２（５）の５つの設問のうち、３つ以上の設問において、該当する選択肢を選択した場合に、その回答者を「運動機能の低下がみられる（リスクあり）」と判定しています。その結果、「リスクあり」は22.6％と前回調査（20.8％）から大きな変化はみられません。

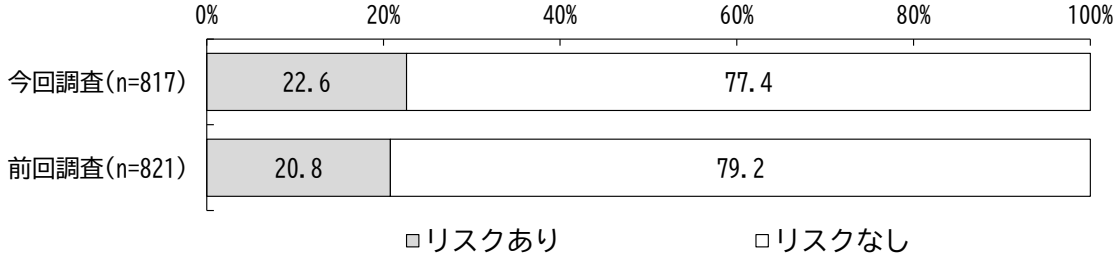
年齢別でみると、加齢とともに「リスクあり」の割合が増加し、85 歳以上では56.1％と半数以上が「リスクあり」と判定されます。

運動機能の低下の有無を判定するための項目

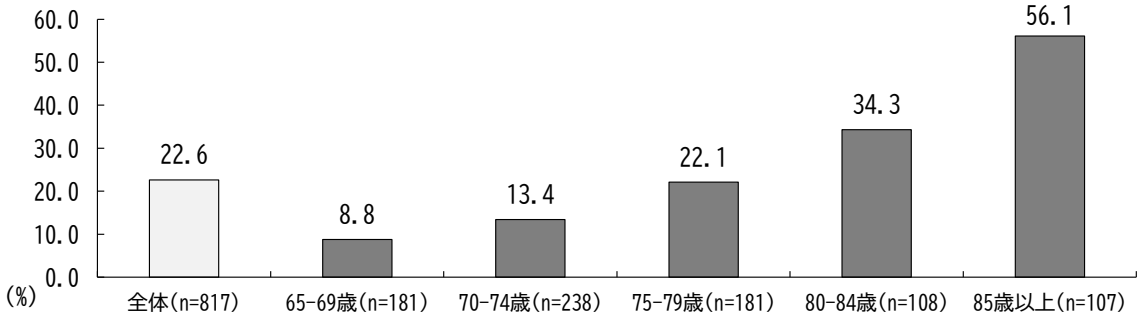
	設問内容	選択肢
設問	問２（１）階段を手すりや壁をつたわらずに昇っていますか	３．できない
	問２（２）椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	３．できない
	問２（３）15分位続けて歩いていますか	３．できない
	問２（４）過去１年間に転んだ経験がありますか	１．何度もある　または ２．１度ある
	問２（５）転倒に対する不安は大きいですか	１．とても不安である　または ２．やや不安である

※リスク状況を判定する各設問が無回答である場合、判定が行えないため、集計対象から外しています。

運動機能の低下（全体／前回との比較）



運動機能の低下：「リスクあり」の割合（全体・年齢別）



４．外出・移動手段について

（１）外出の状況

設問	問２（６）週に１回以上は外出していますか 問２（７）昨年と比べて外出の回数が減っていますか

◆閉じこもり傾向のリスクがある高齢者が２割。

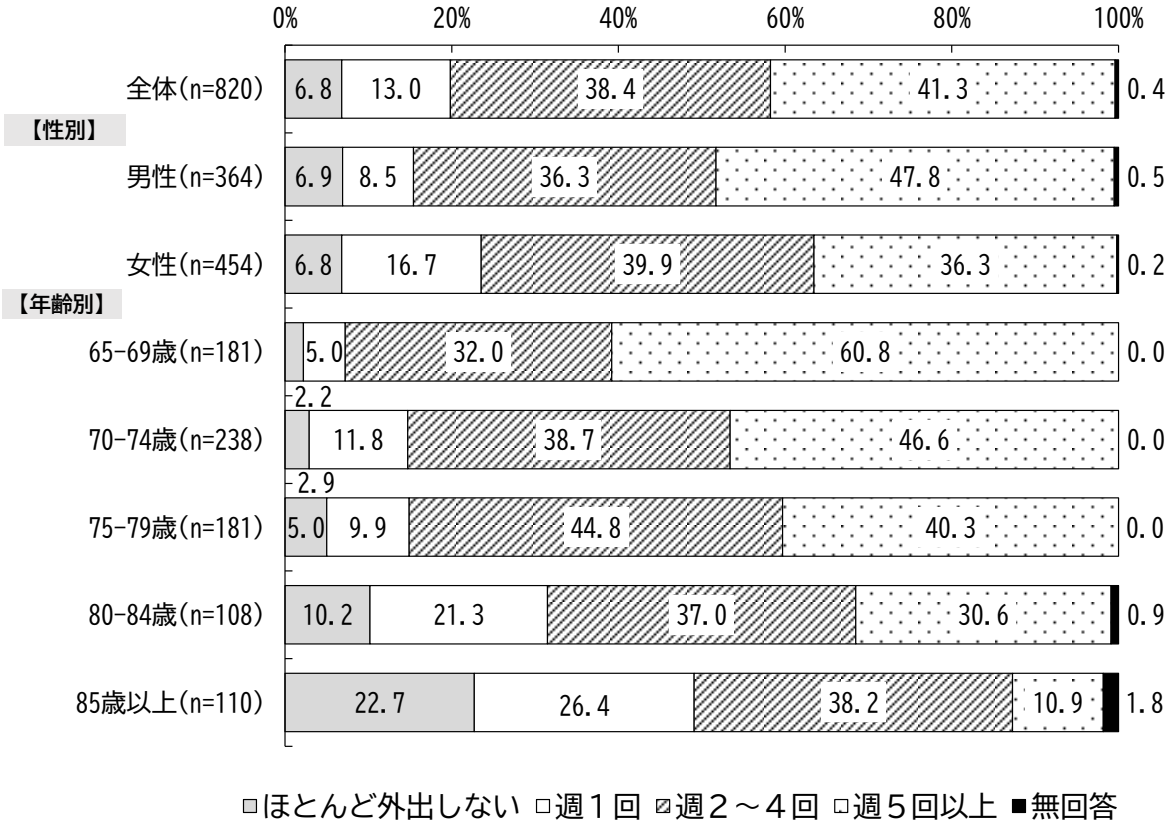
①外出の頻度

外出頻度については、「週１回」が 13.0%、「ほとんど外出しない」が 6.8%となっており、前回調査とほぼ同様の傾向となっています。

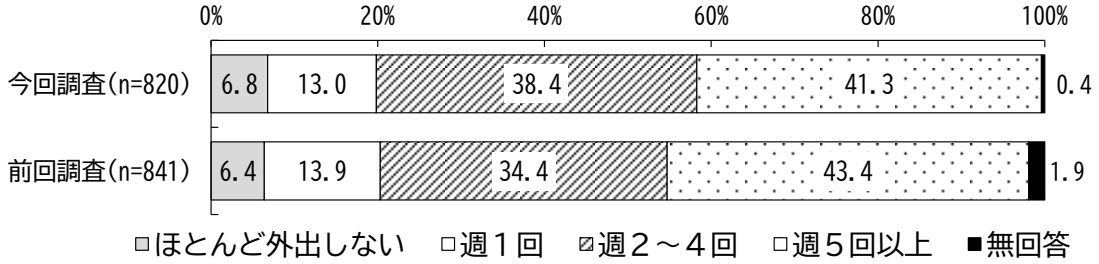
性別でみると、「週１回」と回答する割合が女性（16.7%）で男性（8.5%）を上回ります。

年齢別でみると、おおむね加齢とともに「ほとんど外出しない」及び「週１回」と回答する割合が増加し、85 歳以上では「ほとんど外出しない」が 22.7%、「週１回」が 26.4%となっています。

外出の頻度（全体・性別・年齢別）



外出の頻度（全体／前回調査との比較）

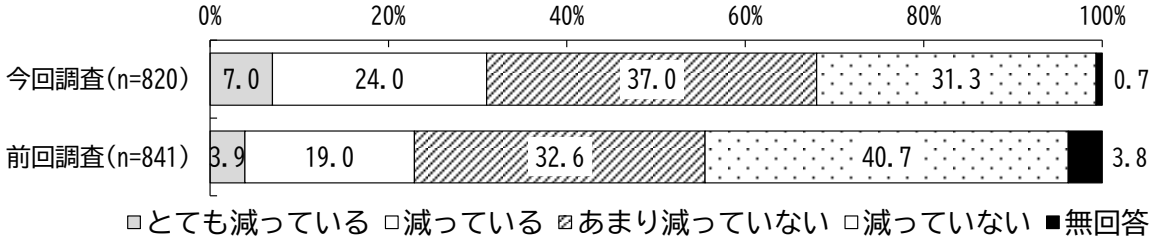


②外出回数の減少

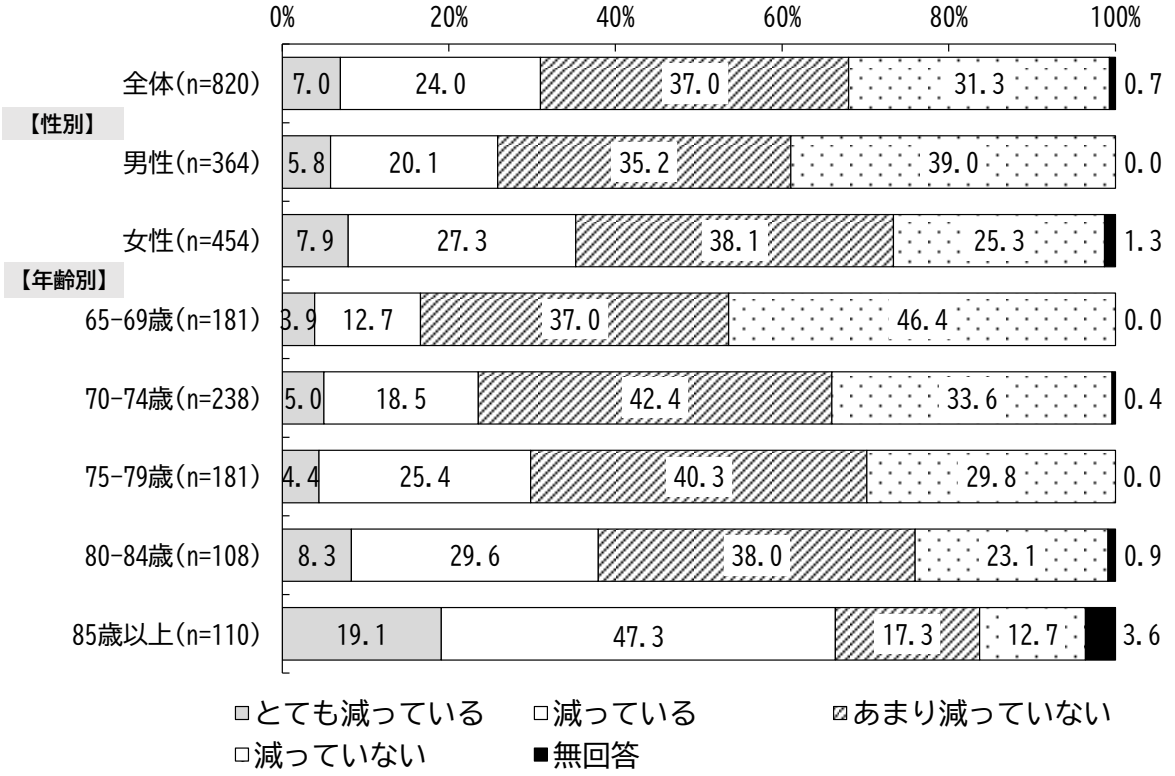
昨年と比較した外出回数の減少については、「とても減っている」が 7.0%、「減っている」が 24.0%となっており、前回調査に比べて外出回数が減った高齢者が増加しています。

性別でみると、女性で外出回数が減少しており、年齢別ではおおむね加齢とともに外出回数が減少する傾向がみられます。

外出回数の減少（全体／前回調査との比較）



外出回数の減少（全体・性別・年齢別）



③閉じこもり傾向

問２（６）の回答結果について、外出頻度が「ほとんど外出しない」または「週１回」と回答した方を、閉じこもり傾向の「リスクあり」と判定しました。

この結果、閉じこもり傾向の「リスクあり」と判定される回答者は 20.0%と前回調査（20.7%）とほぼ同様となっています。

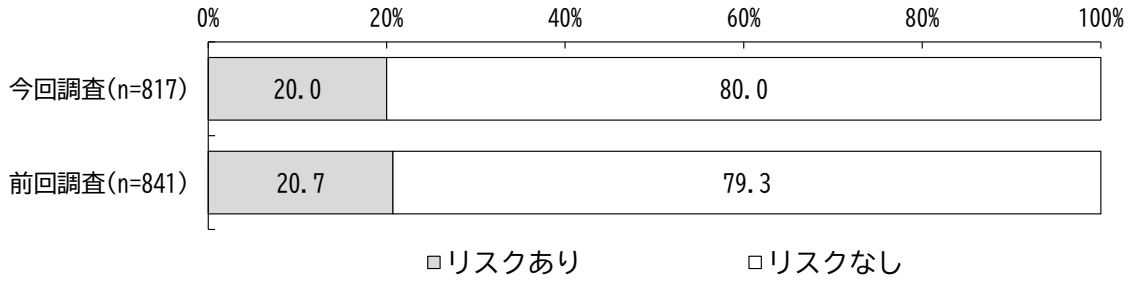
また、年齢別でみると、「リスクあり」の割合は 80-84 歳から急増し、80-84 歳（31.8%）で約３割、85 歳以上（50.0%）で半数となっています。

閉じこもり傾向を判定するための項目

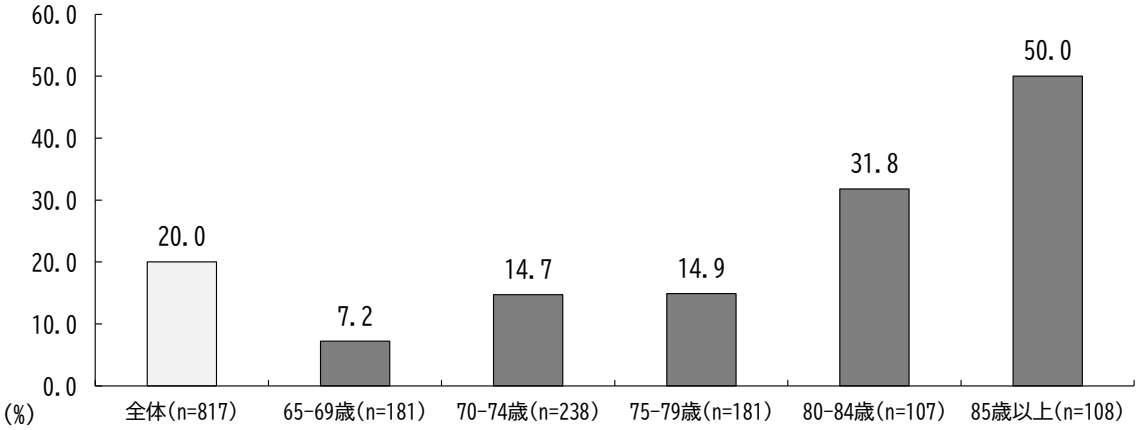
	設問内容	選択肢
設問	問２（６）週に１回以上は外出していますか	１．ほとんど外出しない　または ２．週１回

※リスク状況を判定する各設問が無回答である場合、判定が行えないため、集計対象から外しています。

閉じこもり傾向（全体／前回調査との比較）



閉じこもり傾向：「リスクあり」の割合（全体・年齢別）



（２）移動手段

設問	問２（８）外出する際の移動手段は何ですか

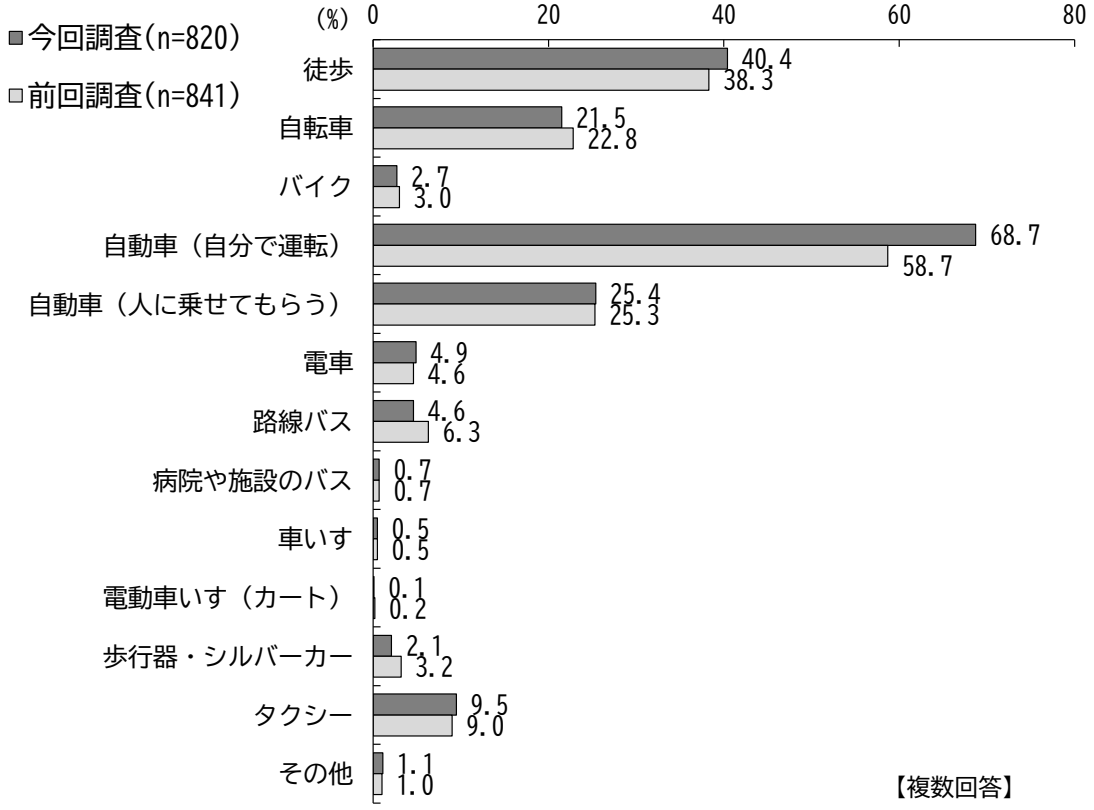
◆移動手段は「自動車（自分で運転）」、「徒歩」、「自動車（人に乗せてもらう）」が上位に挙げられ、自動車を利用する方の割合が多い。
◆85 歳以上で「自動車（自分で運転）」が２割強。

外出する際の移動手段としては、「自動車（自分で運転）」が 68.7％で最も多く、次いで「徒歩」（40.4％）、「自動車（人に乗せてもらう）」（25.4％）が続き、移動手段として自動車を利用する方の割合が多くなっています。この傾向は前回調査と比較しても同様となっていますが、「自動車（自分で運転）」と回答する割合が 10 ポイント増加しています。

年齢別でみると、「自動車（自分で運転）」と回答した割合は、加齢とともに割合が減少するものの、85 歳以上で 23.6％と２割強となっています。また、加齢とともに「自動車（人に乗せてもらう）」、「タクシー」と回答する割合が増加しています。

地区別でみると、「自動車（自分で運転）」と回答した割合は、今富地区（81.7％）、宮川・国富地区（78.6％）で８割前後となっています。また、「タクシー」は雲浜地区（18.9％）、小浜地区（14.9％）で特に利用されている傾向がみられます。

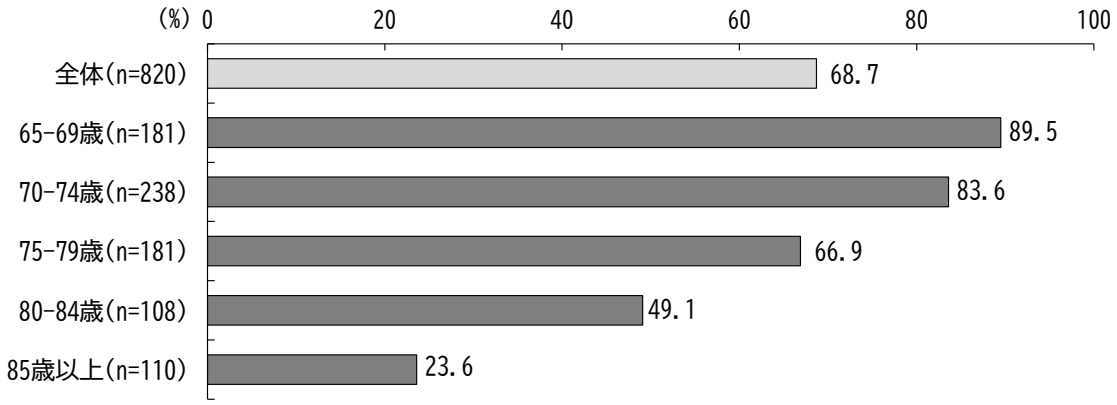
移動手段（全体／前回調査との比較）



【複数回答】

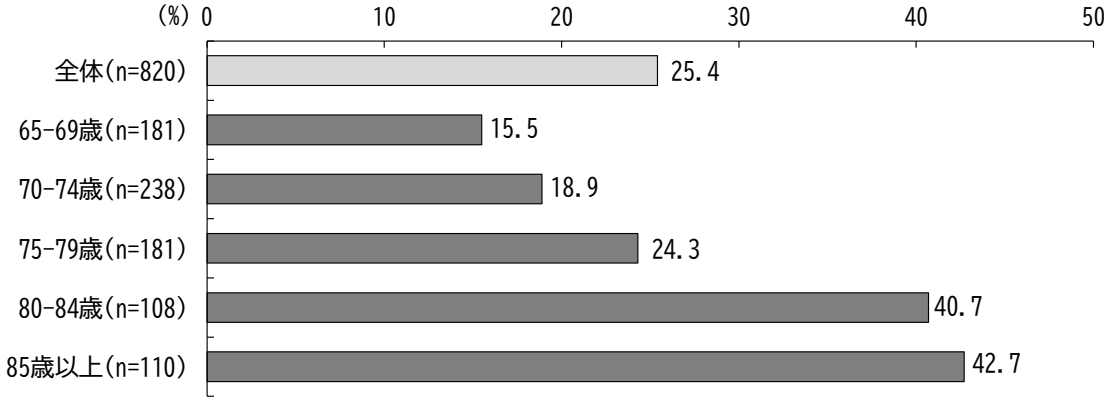
「自動車（自分で運転）」の割合（全体・年齢別）

「自動車（自分で運転）」



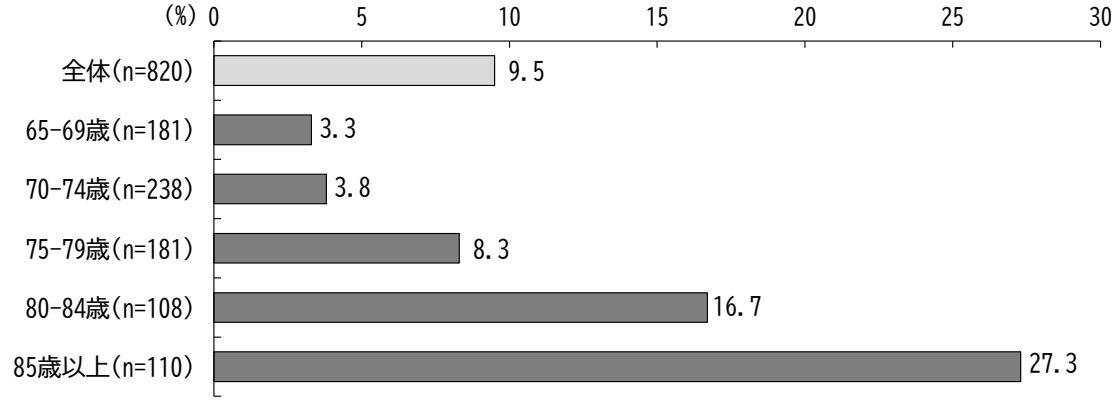
「自動車（人に乗せてもらう）」の割合（全体・年齢別）

「自動車（人に乗せてもらう）」

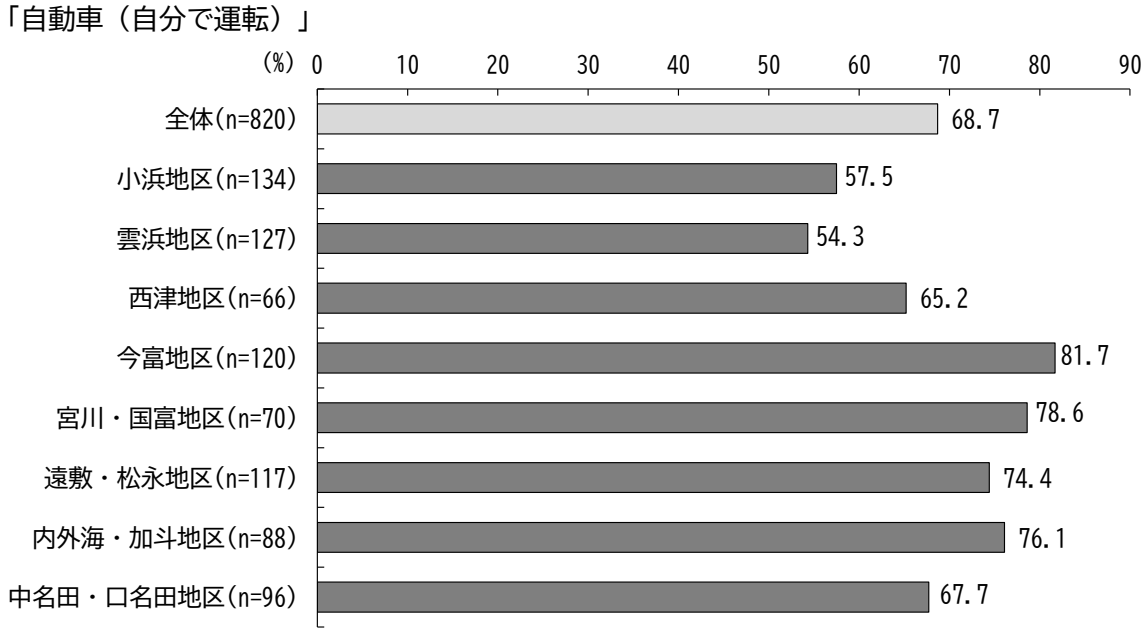


「タクシー」の割合（全体・年齢別）

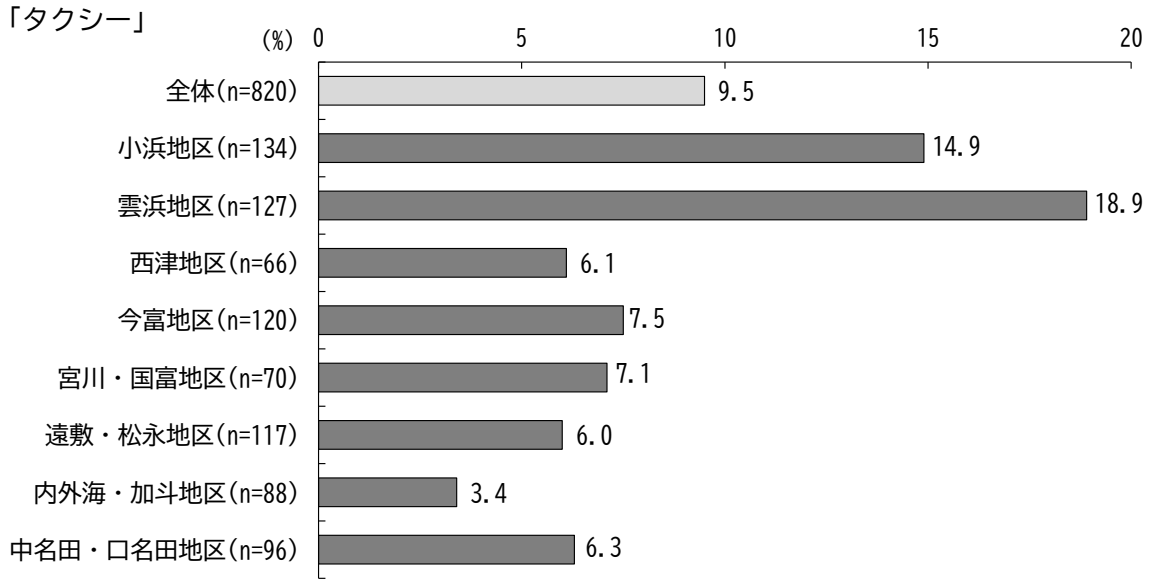
「タクシー」



「自動車（自分で運転）」の割合（全体・地区別）



「タクシー」の割合（全体・地区別）



５．食べることについて

（１）低栄養

設問	問３（１）身長・体重をご記入ください

◆低栄養のリスクがある高齢者は1.6%。

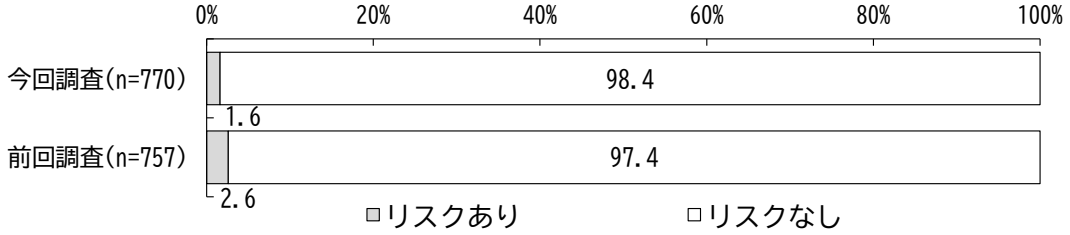
問３（１）「身長・体重」の回答結果よりＢＭＩを算出し、ＢＭＩが18.5未満かつ問３（６）で体重減少のあった方を低栄養の「リスクあり」と判定しました。この結果、「リスクあり」は1.6%と、前回調査（2.6%）と同様に該当する回答者はわずかとなっています。年齢別でみると、85歳以上で「リスクあり」の割合が5.8%と比較的多くなっています。

低栄養を判定するための項目

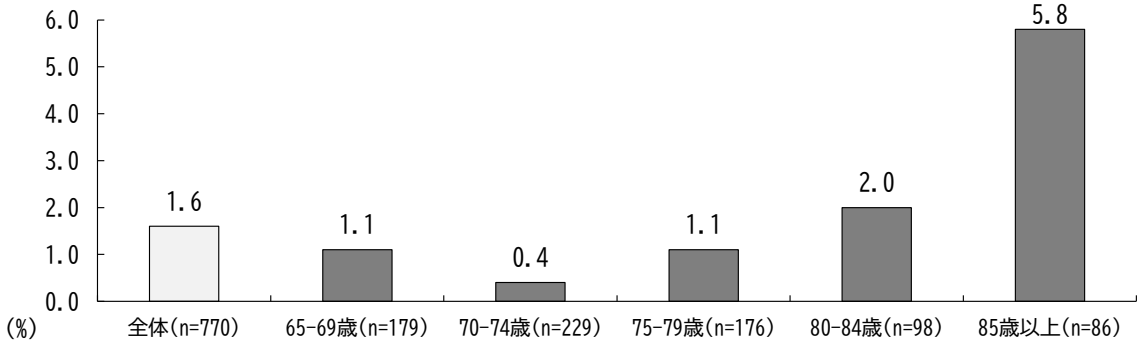
	設問内容	選択肢
設問	問３（１）ＢＭＩ	18.5未満
	問３（６）６か月間で２～３kg以上の体重減少がありましたか	１．はい

※リスク状況を判定する各設問が無回答である場合、判定が行えないため、集計対象から外しています。
※ＢＭＩとはBody Mass Indexの略でボディ・マス指数（体格指数）と呼ばれています。体重(kg)÷身長(m)の２乗で算出され、18.5未満が「低体重（やせ）」、18.5以上25未満が「普通体重」、25以上が「肥満」に分類されます。

低栄養（全体／前回調査との比較）



低栄養（全体・年齢別）



（２）口腔機能の低下

◆口腔機能の低下がみられる高齢者は約３割。前回調査より約５ポイント増加。

問３（２）～問３（４）の回答結果の組み合わせにより、口腔機能の低下の有無について判定を行いました。問３（２）～問３（４）の３つの設問のうち、２つ以上の設問において、該当する選択肢を選択した場合に、その回答者を「口腔機能の低下がみられる（リスクあり）」と判定しています。

この結果、「リスクあり」と判定される回答者は 29.9％と前回調査（25.1％）より約５ポイント増加しています。

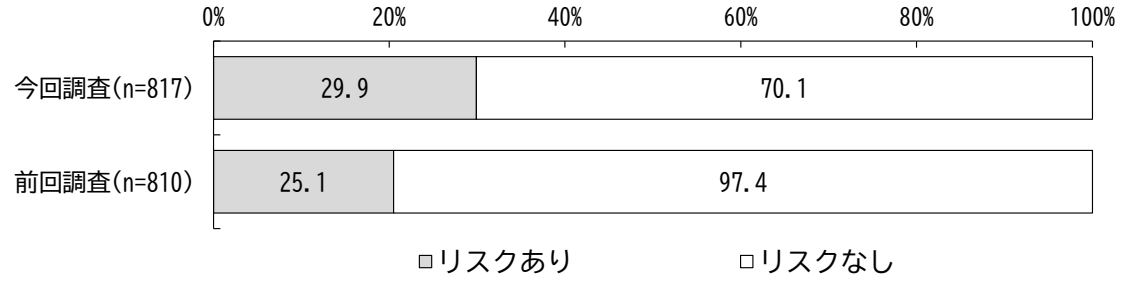
年齢別でみると、「リスクあり」の割合がおおむね加齢とともに増加し、85 歳以上で 45.4％となっています。

口腔機能の低下の有無を判定するための項目

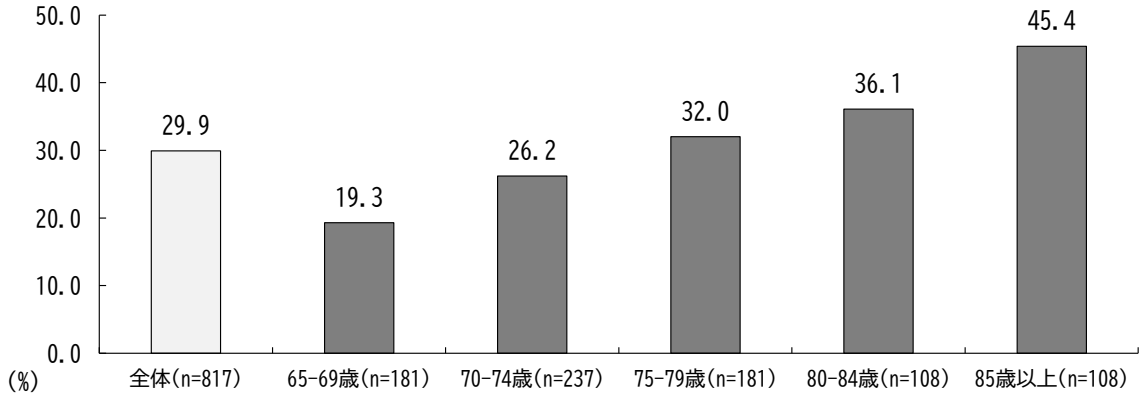
	設問内容	選択肢
設問	問３（２）半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	１．はい
	問３（３）お茶や汁物等でむせることがありますか	１．はい
	問３（４）口の渇きが気になりますか	１．はい

※リスク状況を判定する各設問が無回答である場合、判定が行えないため、集計対象から外しています。

口腔機能の低下（全体／前回調査との比較）



口腔機能の低下：「リスクあり」の割合（全体・年齢別）



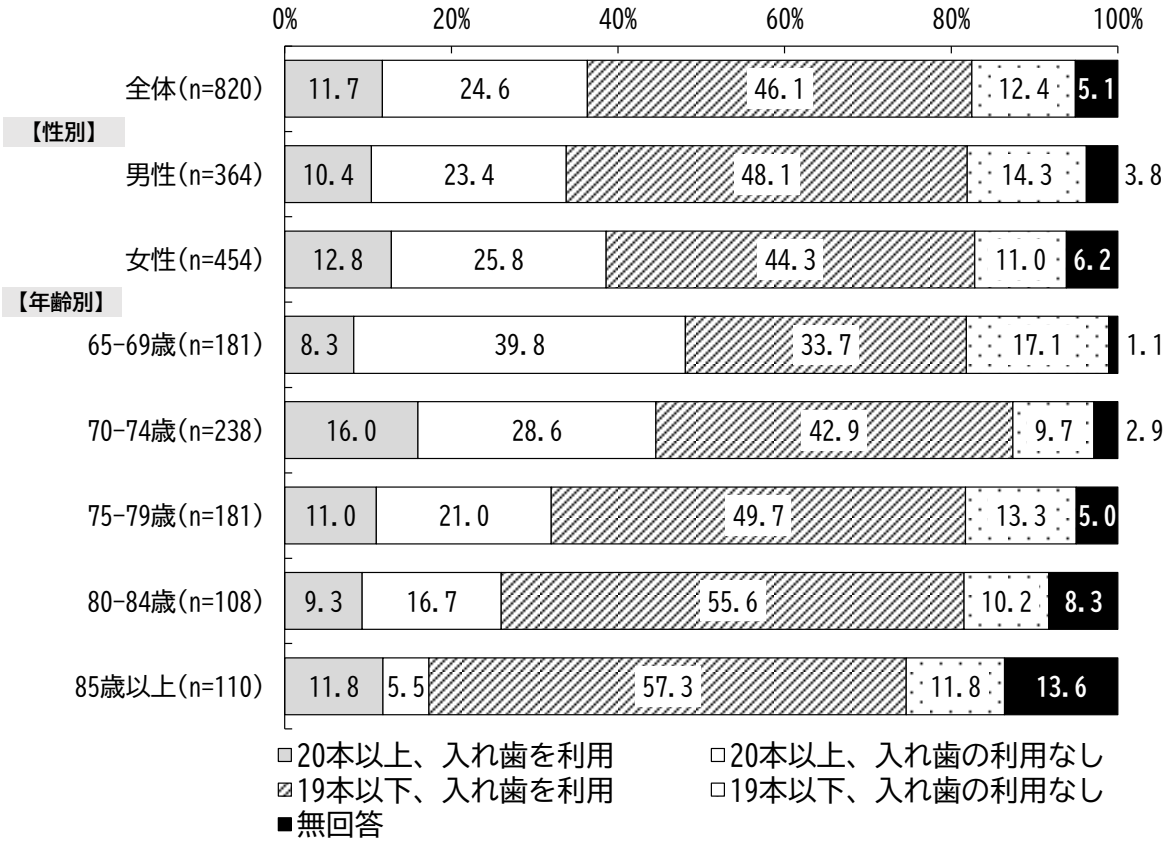
（３）歯の状態

設問	問３（５）歯の数と入れ歯の利用状況をお教えください（成人の歯の総本数は、親知らずを含めて 32 本です）

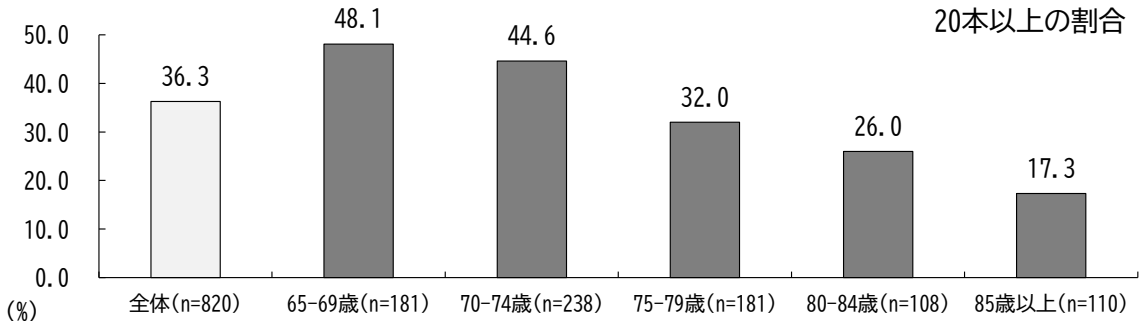
◆歯の数が 20 本以上の方は 80-84 歳で 26.0%、85 歳以上で 17.3%。

歯の数が 20 本以上ある方の割合は、加齢とともに減少し、80-84 歳で 26.0%、85 歳以上で 17.3%にとどまります。

歯の状態（全体・性別・年齢別）



歯の状態：20 本以上の割合（全体・年齢別）



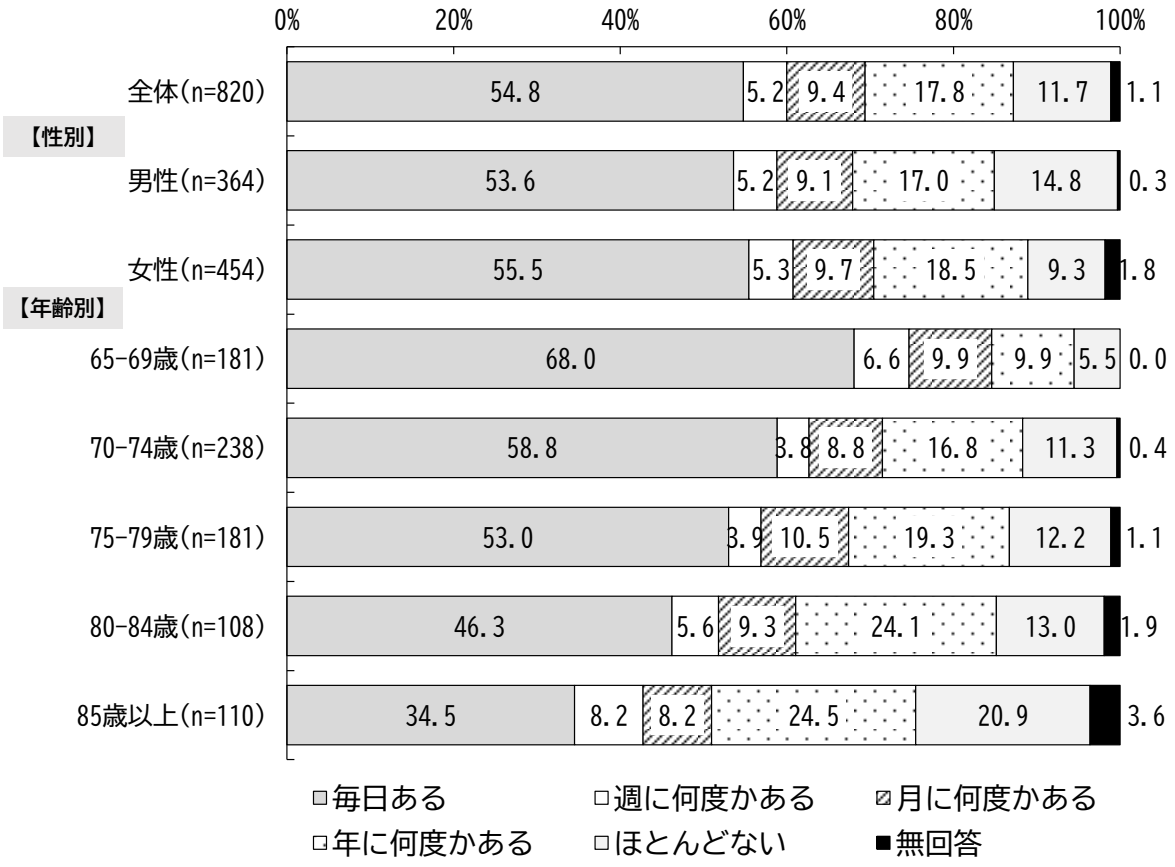
（４）食事環境

設問	問３（６）どなたかと食事をともにする機会はありますか

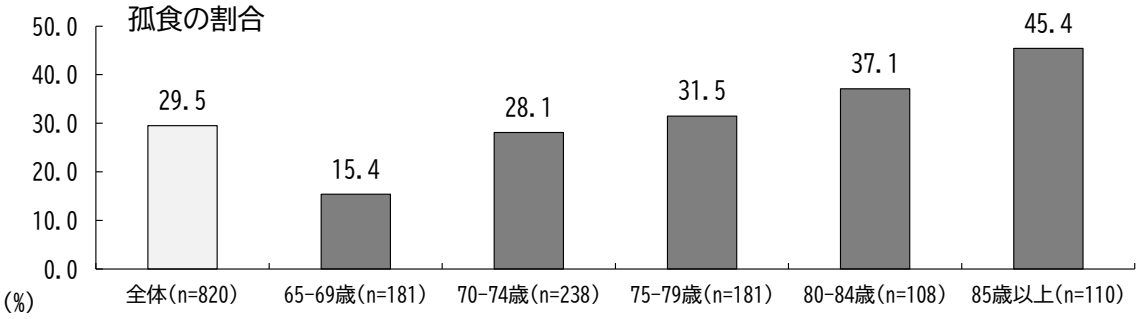
◆約３割の高齢者が孤食の状況。

どなたかと食事をともにする機会については、「年に何度かある」(17.8%)、「ほとんどない」(11.7%）と回答した方の割合はあわせて 29.5%となっており、約３の方が誰かと食事をともにする機会が少ない「孤食」となっています。

食事環境（全体・性別・年齢別）



食事環境：孤食の割合（全体・年齢別）



６．毎日の生活について

（１）認知機能の低下

◆認知機能の低下リスクがある高齢者は 46.1%。前回調査より約 10 ポイント増加。

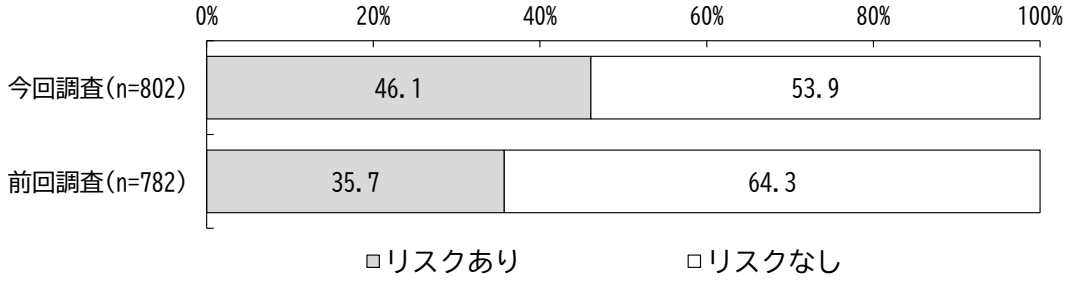
問４（１）「物忘れが多いと感じますか」について、「はい」と回答した方について「認知機能の低下がみられる（リスクあり）」と判定したところ、「リスクあり」と判定される回答者は 46.1%と前回調査（35.7%）より約 10 ポイント増加しています。年齢別でみると、「リスクあり」が 85 歳以上で 60.0%と６割となっています。

認知機能の低下の有無を判定するための項目

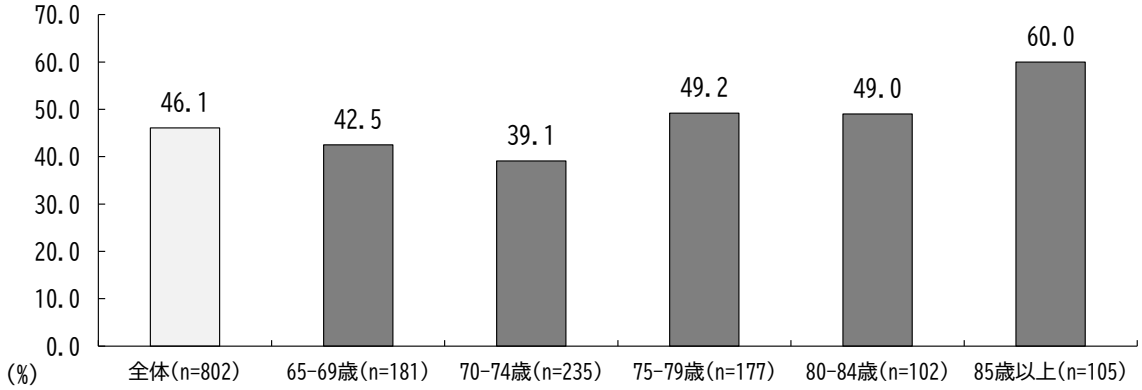
	設問内容	選択肢
設問	問４（１）物忘れが多いと感じますか	１．はい

※リスク状況を判定する各設問が無回答である場合、判定が行えないため、集計対象から外しています。

認知機能の低下（全体／前回調査との比較）



認知機能の低下：「リスクあり」の割合（全体・年齢別）



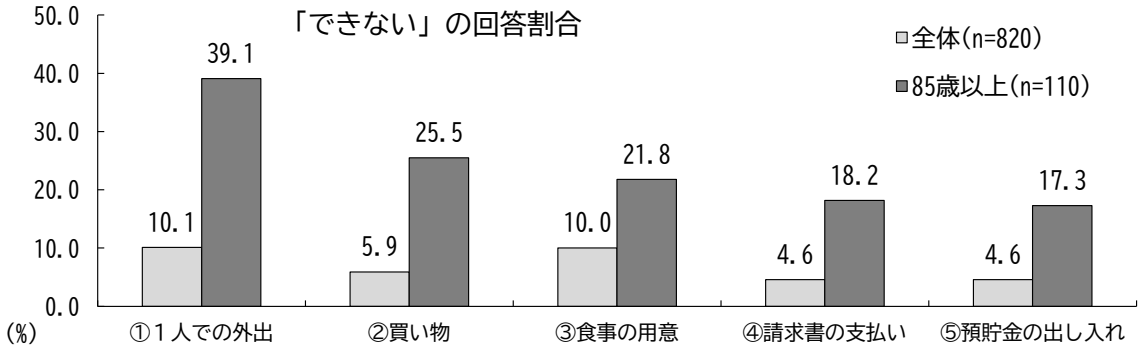
（２）自身での行動について

設問	問４（２）バスや鉄道を使って１人で外出していますか（自家用車でも可） 問４（３）自分で食品・日用品の買い物をしていますか 問４（４）自分で食事の用意をしていますか 問４（５）自分で請求書の支払いをしていますか 問４（６）自分で預貯金の出し入れをしていますか

◆85 歳以上になると①１人での外出は約４割、②買い物や③食事の用意は２割以上、④請求書の支払いや⑤預貯金の出し入れは２割弱の方が行動に不自由がある。
◆男性では③食事の用意、女性では①１人での外出で「できない」と回答する割合が多い。
◆②買い物で「できない」と回答した潜在的な買い物支援が必要な方は 5.9%、③食事の用意で「できない」と回答した潜在的な配食サービスが必要な方は 10.0%。

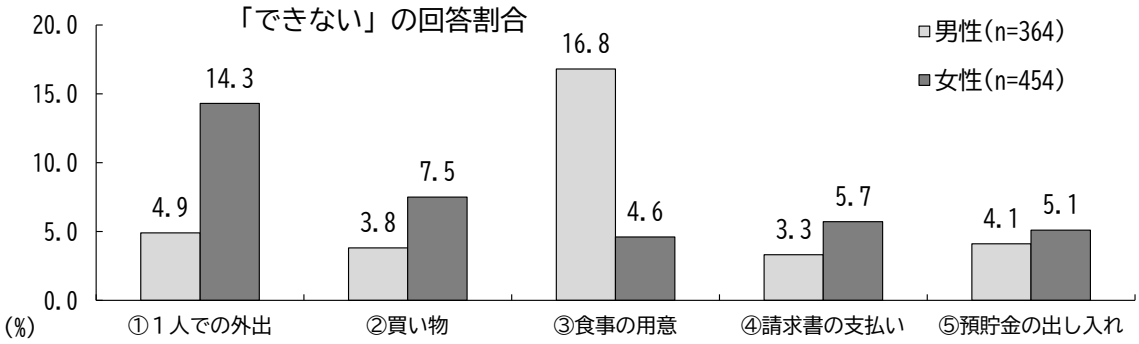
自身での行動として、①１人での外出、②買い物、③食事の用意、④請求書の支払い、⑤預貯金の出し入れの状況についてたずねました。５つの行動すべて加齢とともに「できない」と回答する割合が増加し、85 歳以上になると①１人での外出は約４割、②買い物や③食事の用意は２割以上、④請求書の支払いや⑤預貯金の出し入れは２割弱の方が行動に不自由がある結果となっています。

自身での行動について：「できない」の回答割合（全体・年齢別 85 歳以上）



また、「できない」と回答する割合を性別でみると、男性では③食事の用意（16.8%）、女性では①１人での外出（14.3%）で割合が比較的多くなっています。

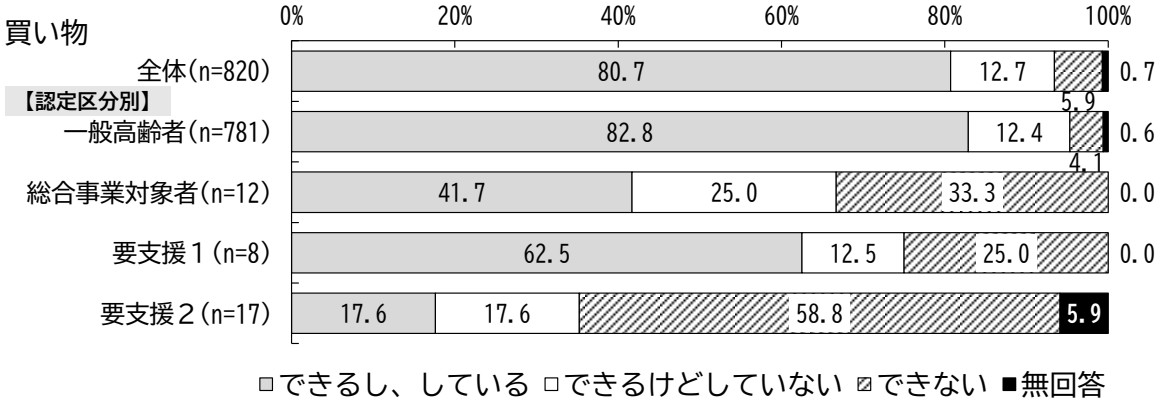
自身での行動について：「できない」の回答割合（性別）



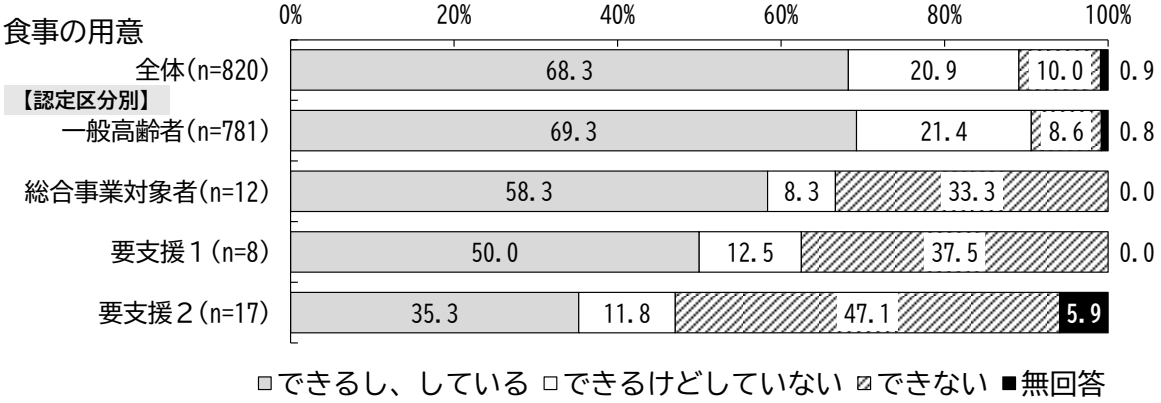
さらに、認定区分でみると、②買い物で「できない」と回答した潜在的な買い物支援が必要な方は、一般高齢者で 4.1%、最も多い要支援２で 58.8%となっています。

③食事の用意で「できない」と回答した潜在的な配食サービスが必要な方は、一般高齢者で 8.6%、最も多い要支援２で 47.1%となっています。

買い物（全体・認定区分別）



食事の用意（全体・認定区分別）

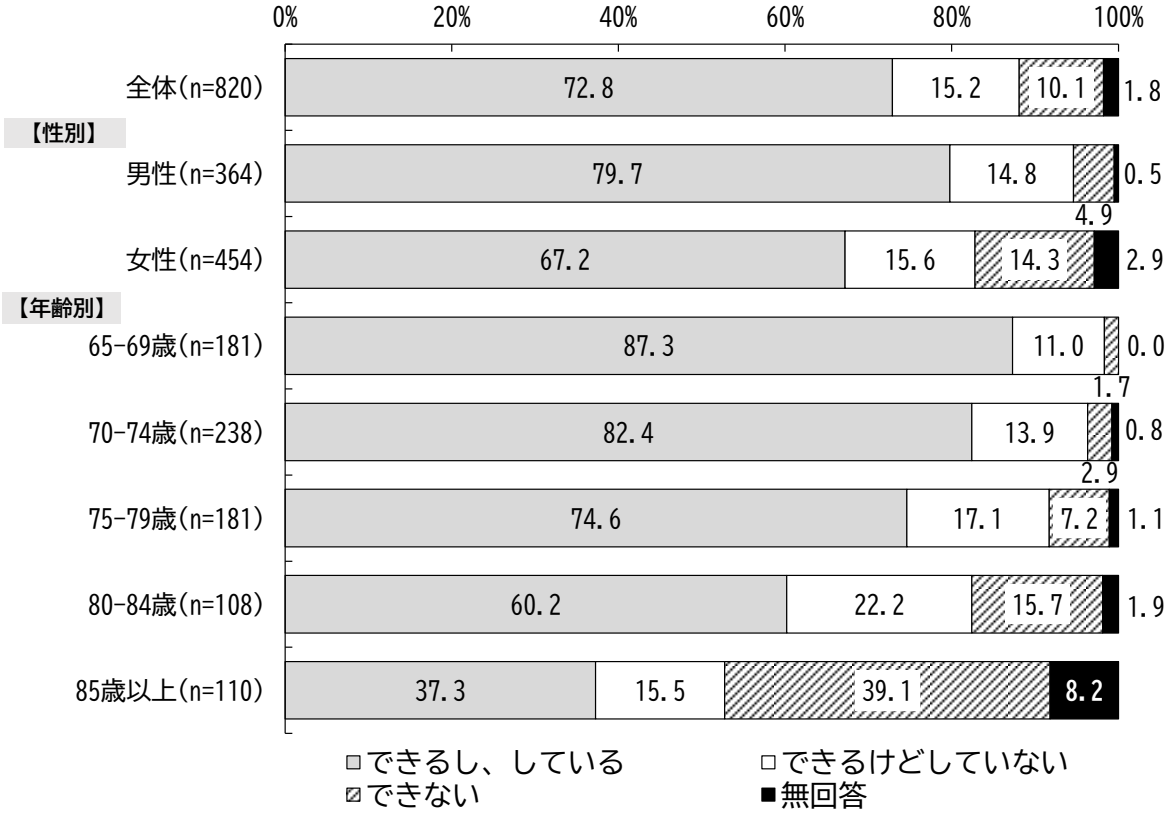


①バスや電車を使った１人での外出

バスや電車を使って１人で外出しているかについては、「できない」は 10.1%となっています。

性別では、女性で「できない」（14.3%）が男性（4.9%）を上回ります。また、年齢別では加齢とともに「できない」と回答する割合が増加し、85 歳以上で 39.1%となっています。

バスや電車を使った１人での外出（全体・性別・年齢別）



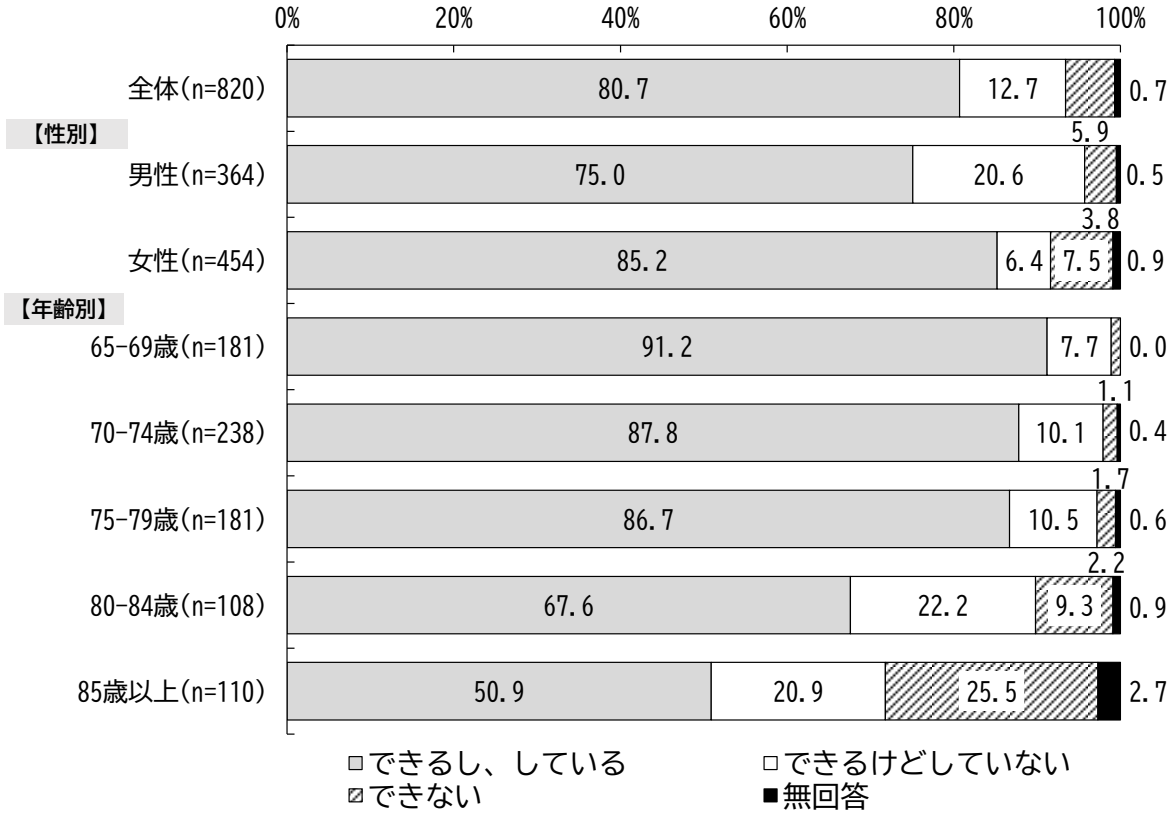
②食品・日用品の買い物

食品・日用品の買い物については、「できない」は5.9%となっています。

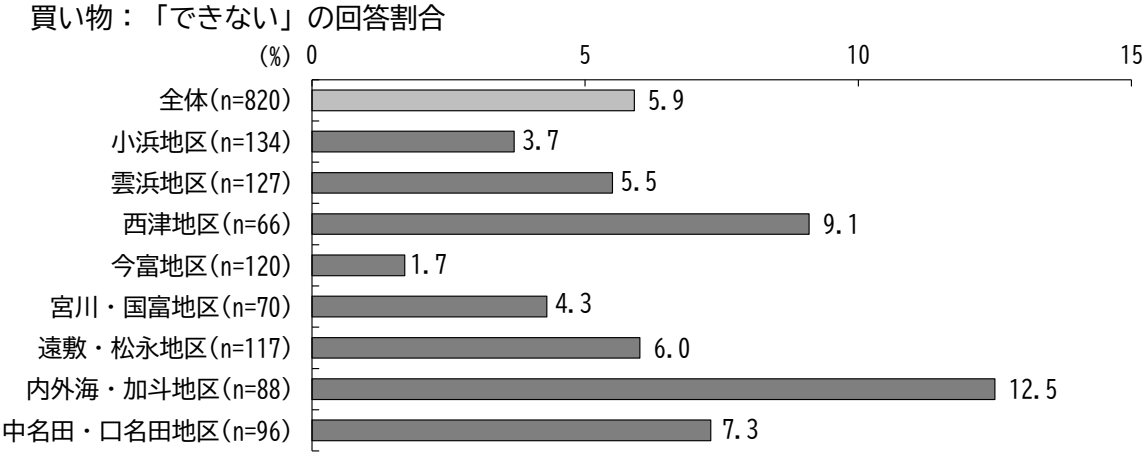
性別では「できない」に大きな差はみられませんが、男性で「できるけどしていない」(20.6%)が女性(6.4%)を大きく上回ります。また、年齢別では「できるけどしていない」が80-84歳で大きく増加しています。

地区別では、「できない」と回答する割合が内外海・加斗地区(12.5%)で比較的多くなっています。

食品・日用品の買い物(全体・性別・年齢別)



食品・日用品の買い物:「できない」の回答割合(全体・地区別)

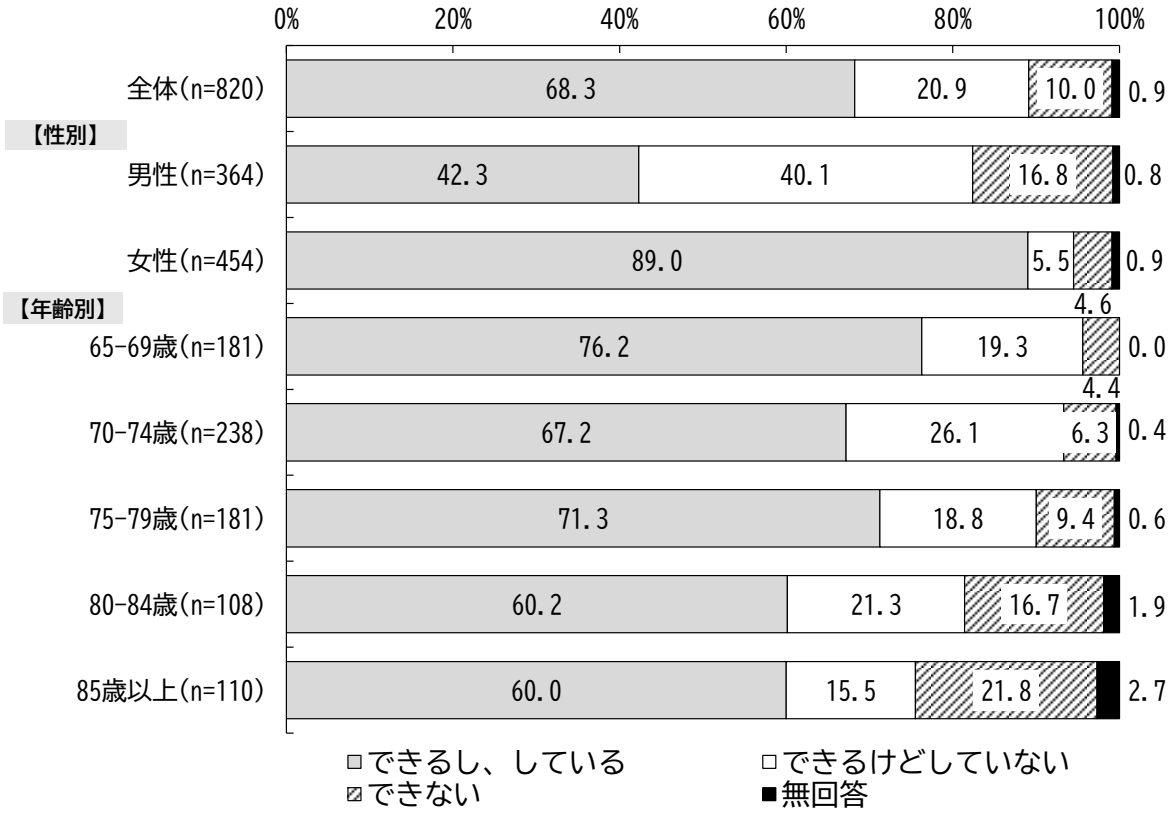


③食事の用意

食事の用意については、「できない」は 10.0%となっています。

性別でみると、「できない」と回答する割合は男性（16.8%）で女性（4.6%）を大きく上回ります。また、男性で「できるけどしていない」が 40.1%と女性の 5.5%を大きく上回ります。年齢別では 85 歳以上で「できない」が 21.8%と約２割となっています。

食事の用意（全体・性別・年齢別）

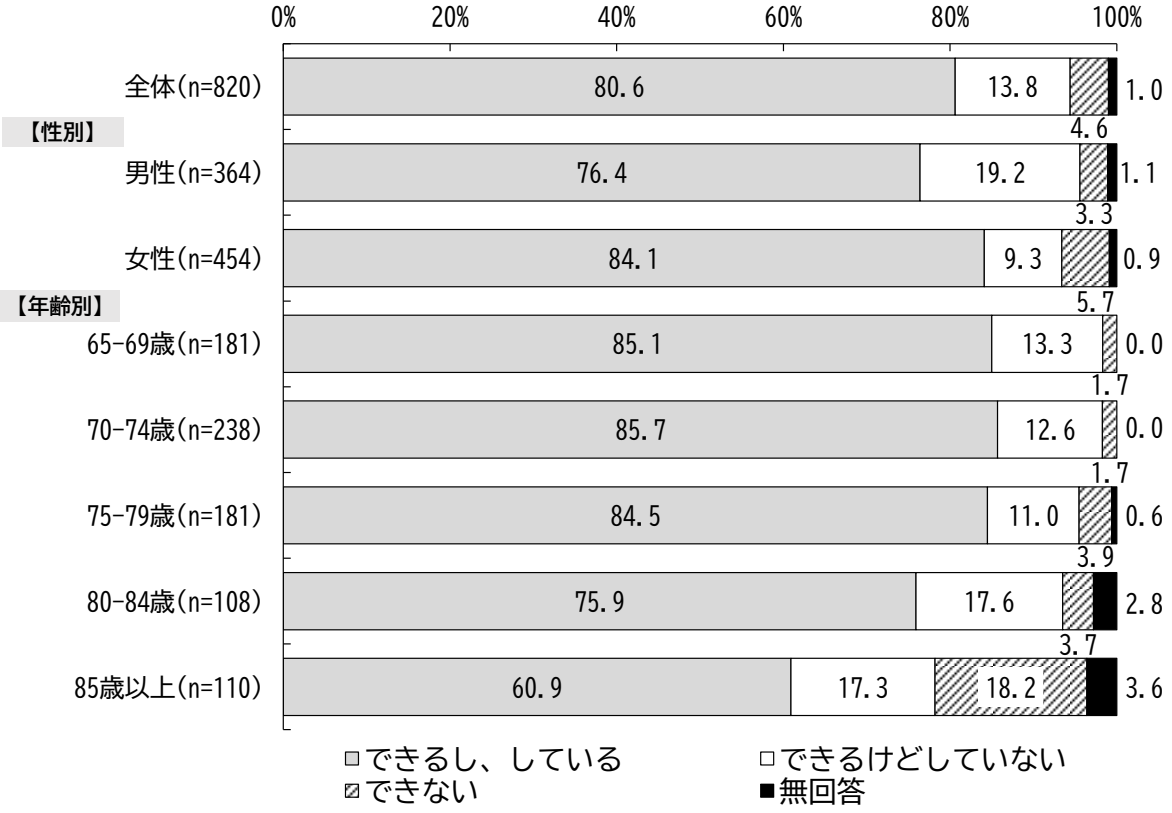


④請求書の支払い

請求書の支払いについては、「できない」は4.6%となっています。

性別で「できない」と回答する割合に大きな差はみられませんが、男性で「できるけどしていない」(19.2%)が女性(9.3%)を大きく上回ります。また、年齢別では85歳以上で「できない」(18.2%)と回答する割合が急増します。

請求書の支払い(全体・性別・年齢別)

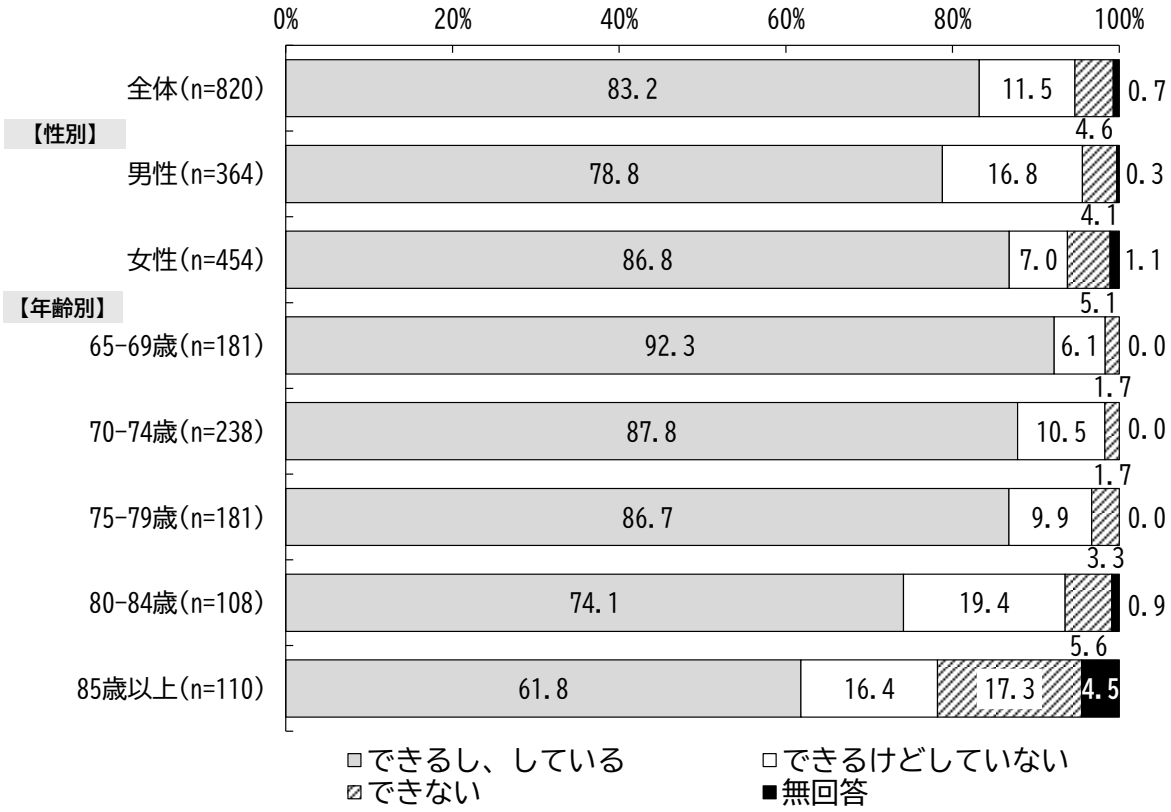


⑤預貯金の出し入れ

預貯金の出し入れについては、「できない」は4.6%となっています。

性別で「できない」と回答する割合に大きな差はみられませんが、男性で「できるけどしていない」(16.8%)が女性(7.0%)を上回ります。また、年齢別では85歳以上で「できない」(17.3%)と回答する割合が急増しています。

預貯金の出し入れ（全体・性別・年齢別）



（３）ＩＡＤＬ（手段的日常生活動作）について

◆ＩＡＤＬ（手段的日常生活動作）の機能にリスクがある高齢者は 7.5%。

問４（２）～問４（６）の５つの設問に対する回答結果を組み合わせ、回答者のＩＡＤＬ(手段的日常生活動作)の機能の判定を行いました。各設問で「できるし、している」または「できるけどしていない」と回答した場合にそれぞれ１点を加点し、５つの設問における得点の合計が５点（満点）であればＩＡＤＬに関する機能が「高い」、４点であれば「やや低い」、３点以下であれば「低い」と判定しています。その結果、ＩＡＤＬに関する機能に「リスクあり」（低い）と判定される割合は7.5%と前回調査（7.3%）とほぼ同率となっています。

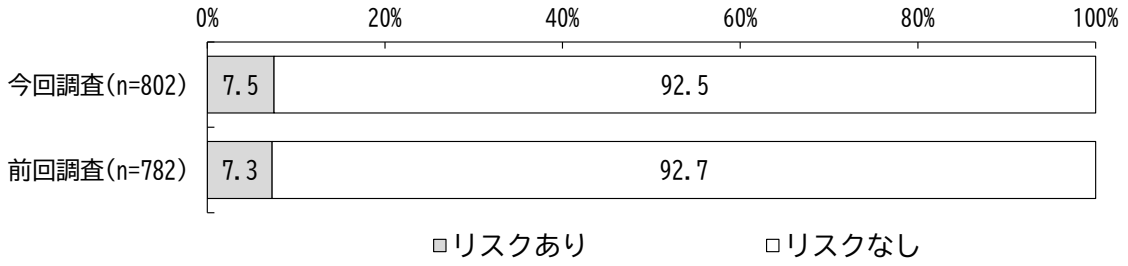
年齢別でみると、80-84 歳（12.6%）から「リスクあり」が急増し、85 歳以上（30.5%）では約３割となっています。

ＩＡＤＬ（手段的日常生活動作）を判定するための項目

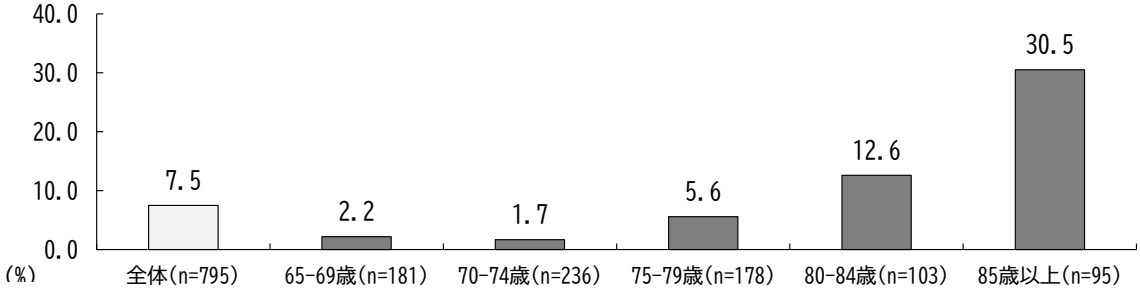
	設問内容	選択肢
設問	問４（２）バスや電車を使って１人で外出していますか（自家用車でも可）	１．できるし、している または ２．できるけどしていない を選択した場合に１点
	問４（３）自分で食品・日用品の買い物をしていますか	
	問４（４）自分で食事の用意をしていますか	
	問４（５）自分で請求書の支払いをしていますか	
	問４（６）自分で預貯金の出し入れをしていますか	

※リスク状況を判定する各設問が無回答である場合、判定が行えないため、集計対象から外しています。
※ＩＡＤＬとは手段的日常生活動作（instrumental activity of daily living）の略で、買い物、食事の準備、財産管理、乗り物等の日常生活上の複雑な動作がどの程度可能かを示す指標。

ＩＡＤＬ（手段的日常生活動作）（全体／前回調査との比較）



ＩＡＤＬ（手段的日常生活動作）:「リスクあり」の割合（全体・年齢別）



（４）携帯電話（スマートフォン含む）の所有

設問	問４（７）携帯電話（スマートフォン含む）を持っていますか 問４（７）※どのような用途で使用されていますか

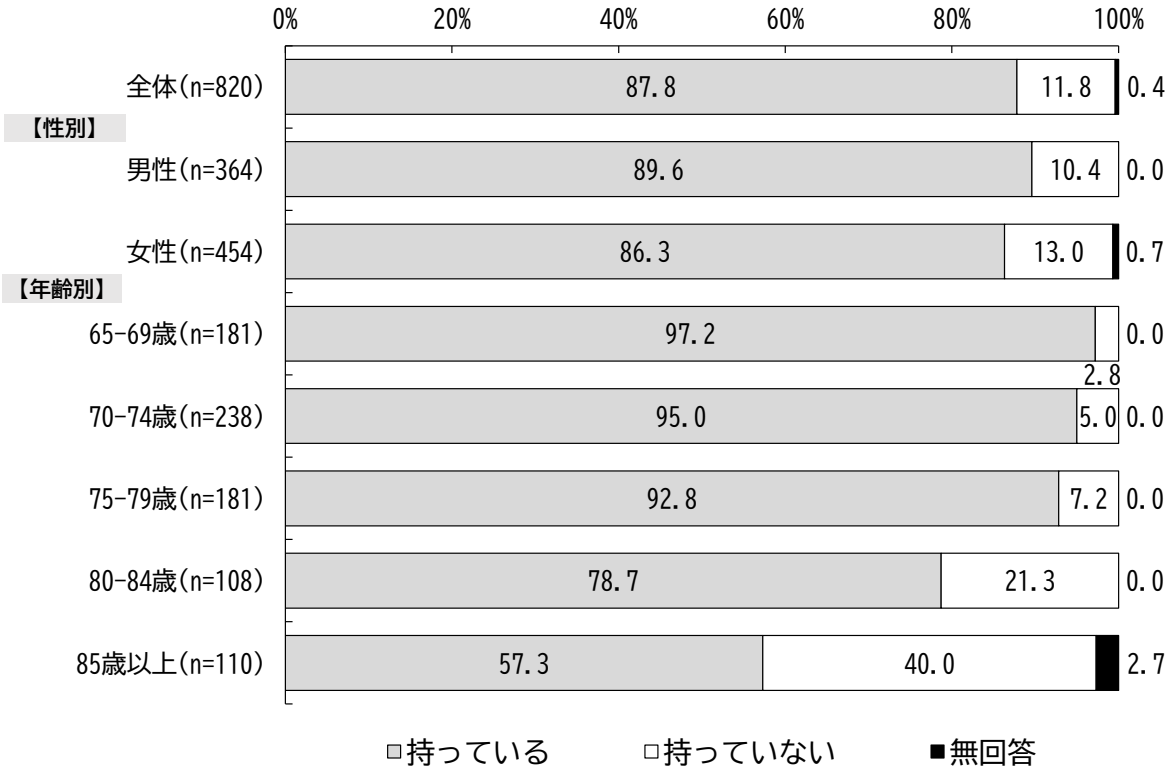
◆約９割の高齢者が携帯電話（スマートフォン含む）を持っている。
◆「通話」のほか、「メール」は６割半ば、「インターネット」や「ＳＮＳ」は３割台が利用している。

①携帯電話（スマートフォン含む）の所有

携帯電話（スマートフォン含む）を所有しているかどうかをたずねたところ、「持っている」(87.8%）が約９割となっています。

性別では大きな差はみられませんが、年齢別では「持っている」が 65-69 歳で 97.2%と最も多く、加齢とともに減少し、85 歳以上では 57.3%となっています。

携帯電話（スマートフォン含む）の所有（全体・性別・年齢別）

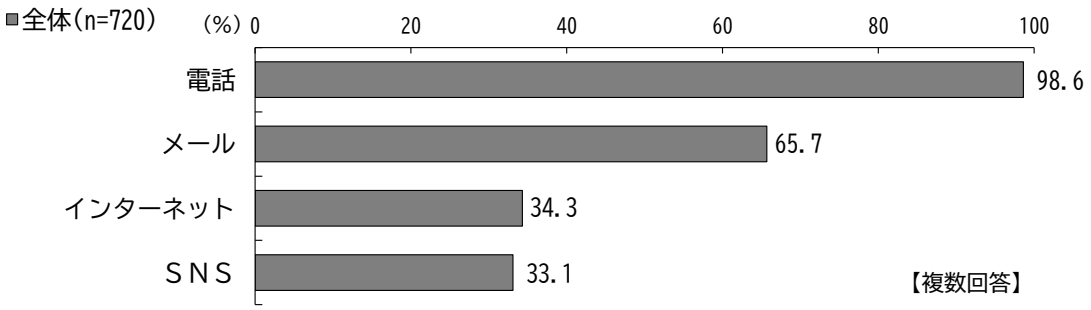


②携帯電話の活用方法

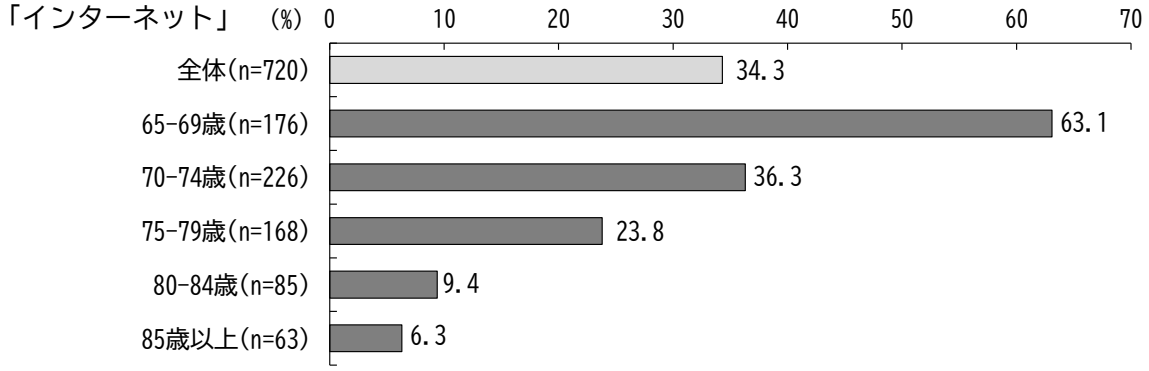
携帯電話の活用方法については、「電話」(98.6%)、「メール」(65.7%) が多く、「インターネット」(34.3%) や「ＳＮＳ」(33.1%) は３割台となっています。

年齢別でみると、「インターネット」、「ＳＮＳ」を利用している割合は若い層ほど多くなっています。

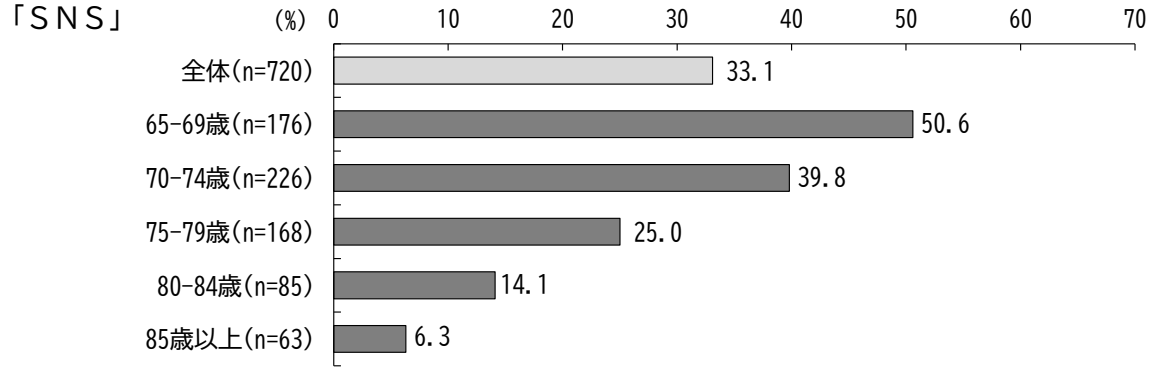
携帯電話の活用方法（全体）



携帯電話の活用方法：インターネット（全体・年齢別）



携帯電話の活用方法：ＳＮＳ（全体・年齢別）



（５）新型コロナウイルス感染症による影響

設問	問４（８）あなたは、この２年間の新型コロナウイルス感染症の影響により、精神的、身体的な変化はありましたか 問４（８）※具体的にどのような変化がありましたか

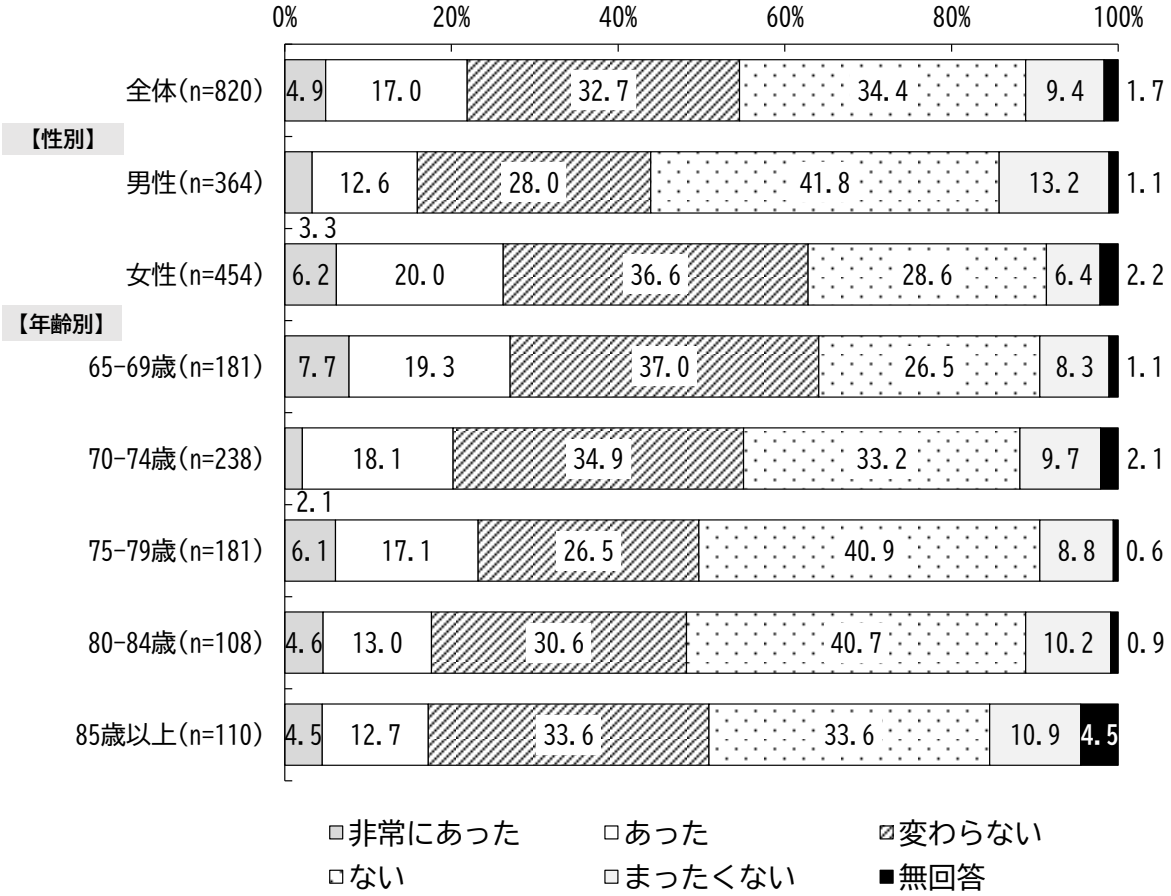
◆『影響があった』は約２割。女性、65-69 歳の層で影響が大きい。
◆『影響があった』と回答した層は、外出回数が減少し、うつリスクが増加する傾向がみられた。

①新型コロナウイルス感染症による影響

新型コロナウイルス感染症による影響について、『影響があった』(「非常にあった」4.9%と「あった」17.0%の合計）は 21.9%と約２割となっています。

性別では、『影響があった』は女性（26.2%）で男性（15.9%）を大きく上回ります。また、年齢別では 65-69 歳（27.0%）で最も多くなっています。

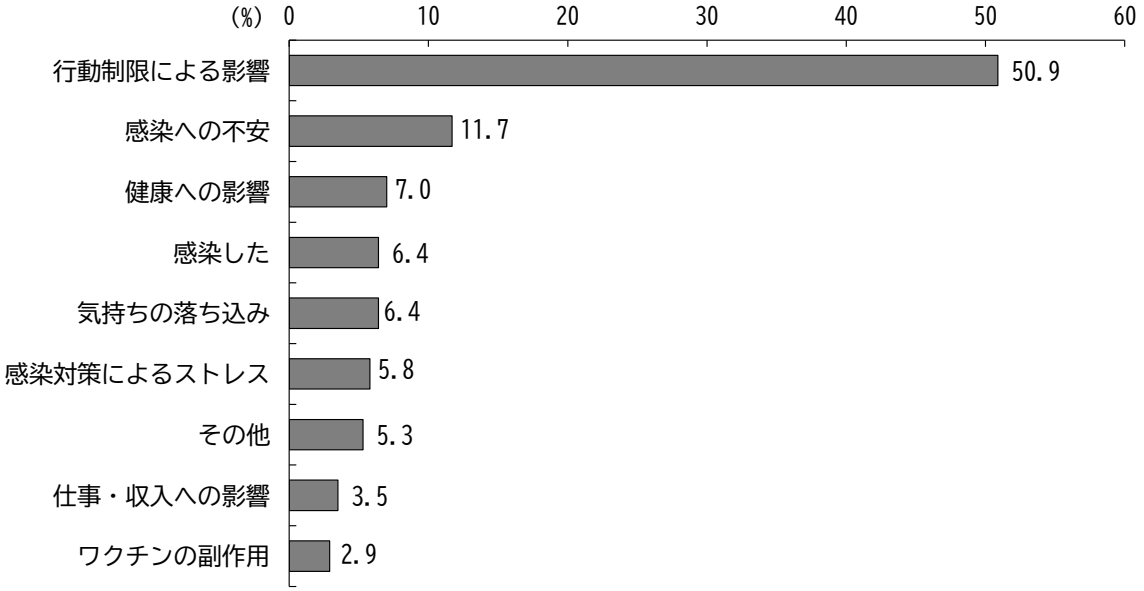
新型コロナウイルス感染症による影響（全体・性別・年齢別）



②具体的な影響

新型コロナウイルス感染症による『影響があった』と回答した方に具体的な変化を自由記述でたずねた結果（記入数 171 件）を意見の傾向で分類すると、「行動制限による影響」が 50.9%（87 件）で他を大きく引き離して最も多く、次いで「感染への不安」が 11.7%（20 件）、「健康への影響」が 7.0%（12 件）となっています。

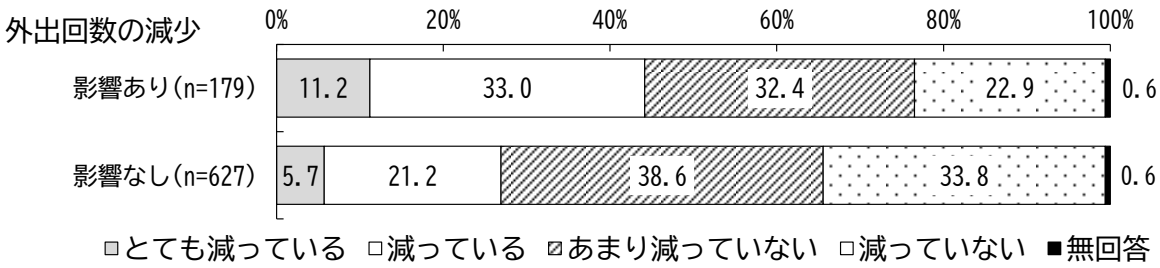
具体的な影響（全体）

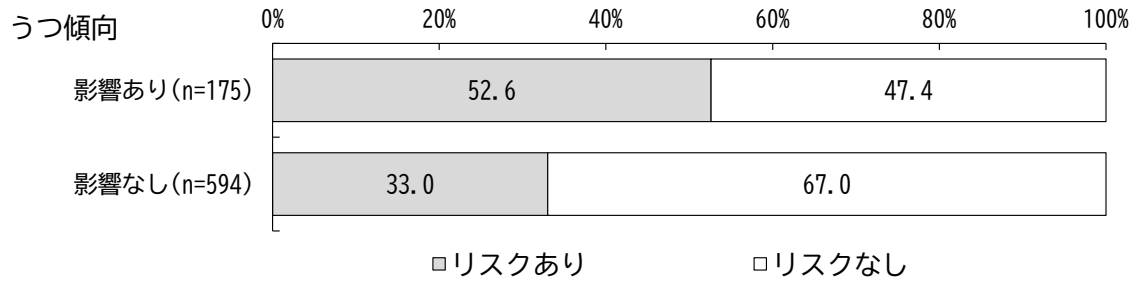


③影響があったと回答した方の傾向

『影響があった』と回答した方の傾向を他設問でみると、影響がないと回答した層と大きな差がみられる項目として、外出回数の減少（44.2%）、うつ傾向のリスク割合（52.6%）が挙げられます。

新型コロナによる影響の有無





７．地域での活動について

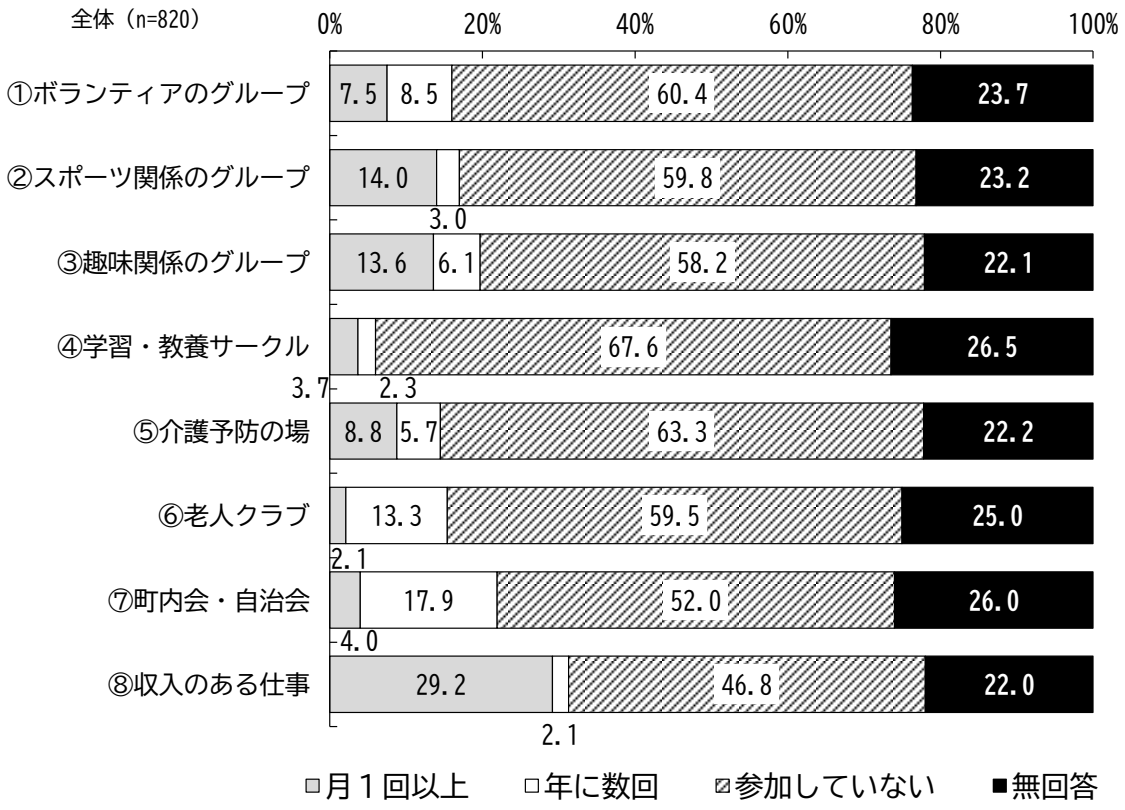
（１）各種地域活動への参加状況

設問	問５（１）以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか

◆「月１回以上」と回答した割合は、⑧収入のある仕事が最も多く、次いで②スポーツ関係のグループ、③趣味関係のグループ、⑤介護予防の場の順。

各種地域活動への参加状況については、「参加していない」が各活動で多数を占める結果となっています。また、「月１回以上」と回答した割合は、⑧収入のある仕事（29.2%）が最も多く、次いで②スポーツ関係のグループ（14.0%）、③趣味関係のグループ（13.6%）、⑤介護予防の場（8.8%）が続きます。

各種地域活動への参加状況（全体）



（２）近所の方への手助け

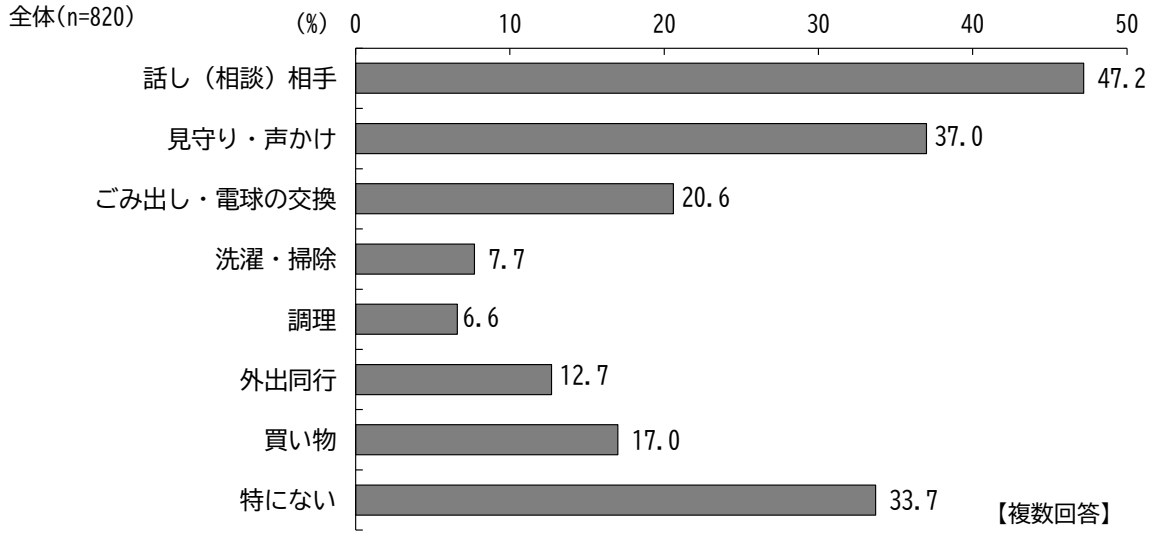
設問	問５（２）あなたは、地域の中で近所の方にどのような手助けができますか

◆「話し（相談）相手」が最も多く、次いで「見守り・声かけ」の順。

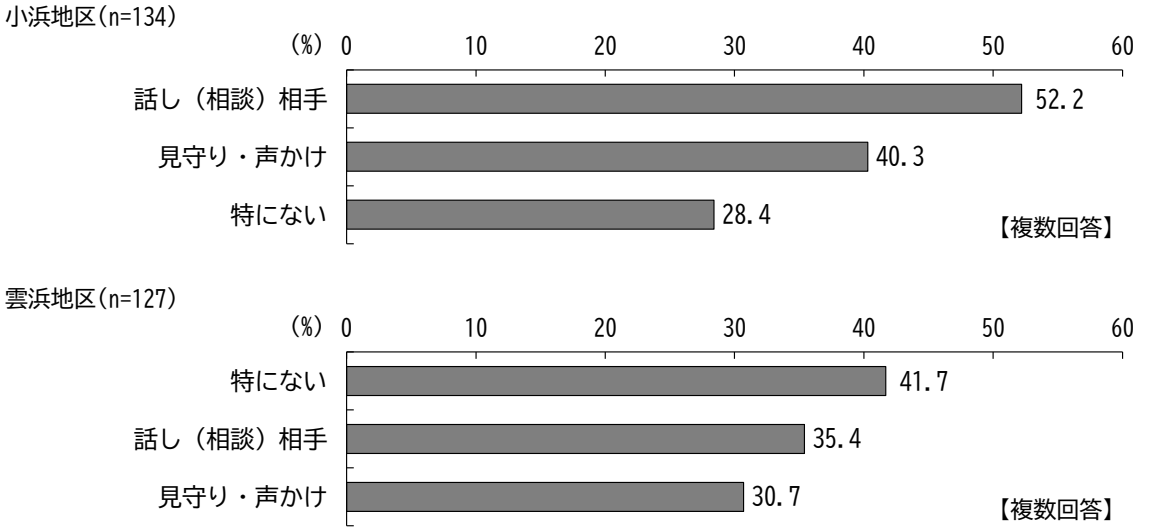
近所の方への手助けについては、「話し（相談）相手」（47.2%）が最も多く、次いで「見守り・声かけ」（37.0%）、「特にない」（33.7%）が続きます。

地区別でみても、ほとんどの地区で「話し（相談）相手」及び「見守り・声かけ」が上位に挙げられています。

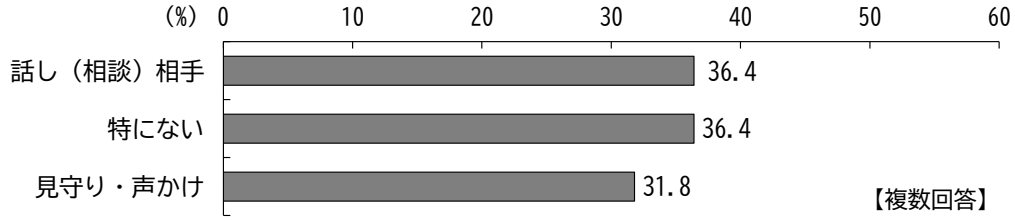
近所の方への手助け（全体）



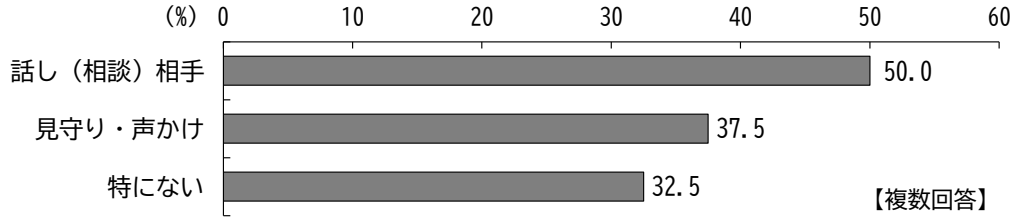
近所の方への手助け（地区別／上位回答）



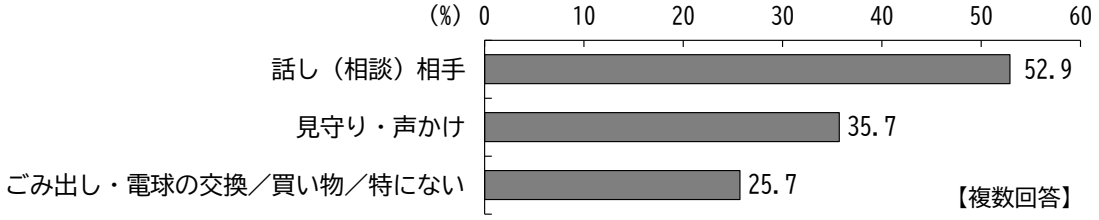
西津地区(n=66)



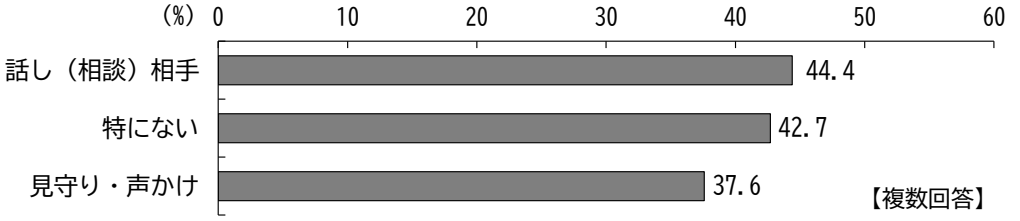
今富地区(n=120)



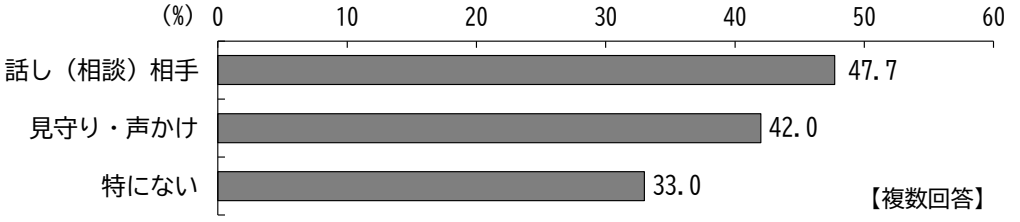
宮川・国富地区(n=70)



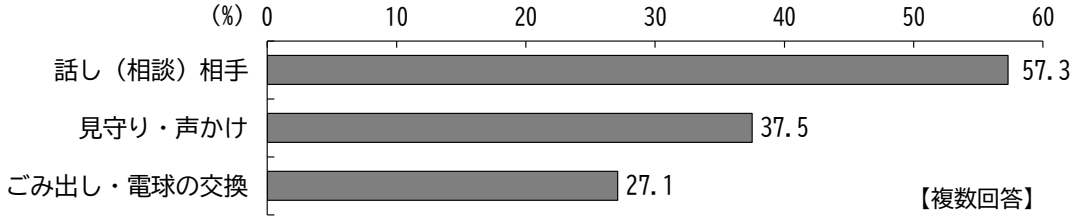
遠敷・松永地区(n=117)



内外海・加斗地区(n=88)



中名田・口名田地区(n=96)



（３）地域活動への参加意向

設問	問５（３）地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか 問５（４）地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか

◆参加者として『参加意向あり』は 55.3%、企画・運営側としてでは 34.7%。

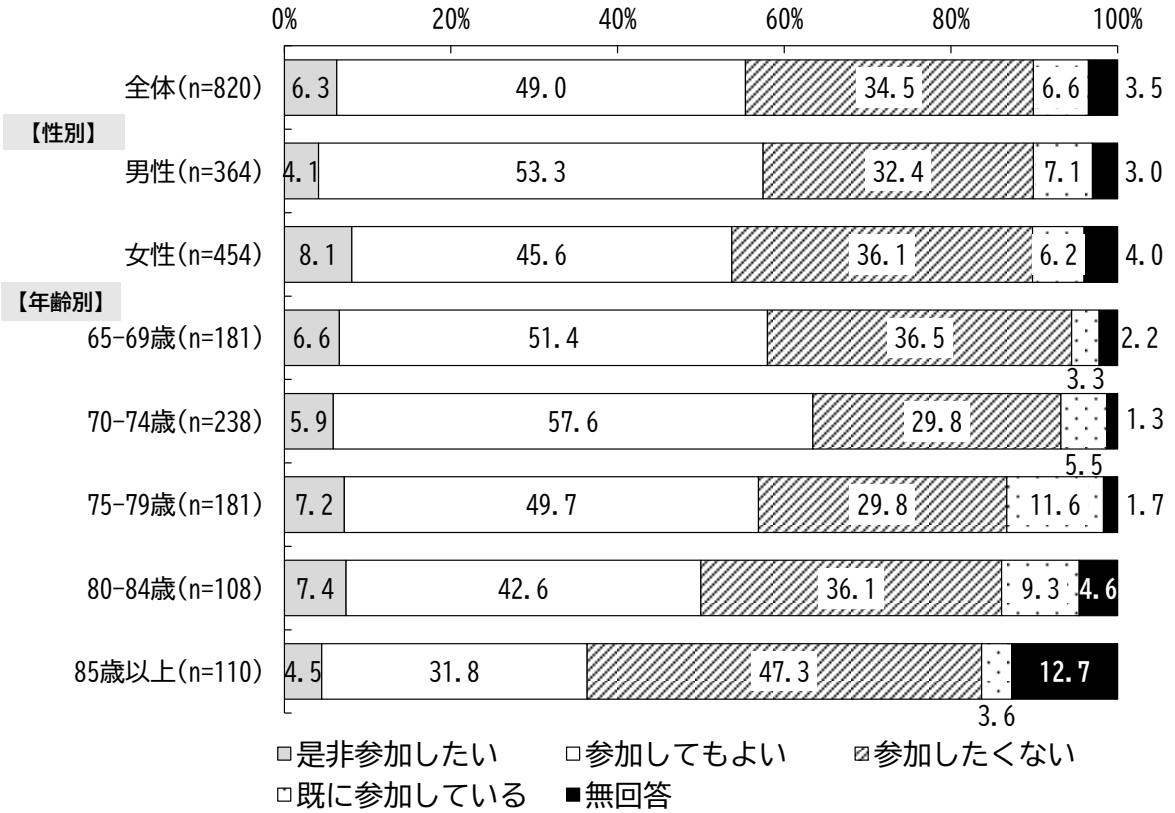
①参加者としての参加意向

地域活動への参加者としての参加意向は、「参加してもよい」が 49.0%と約半数を占め、「是非参加したい」（6.3%）をあわせた『参加意向あり』が 55.3%と、前回調査（48.1%）より約７ポイント増加しています。

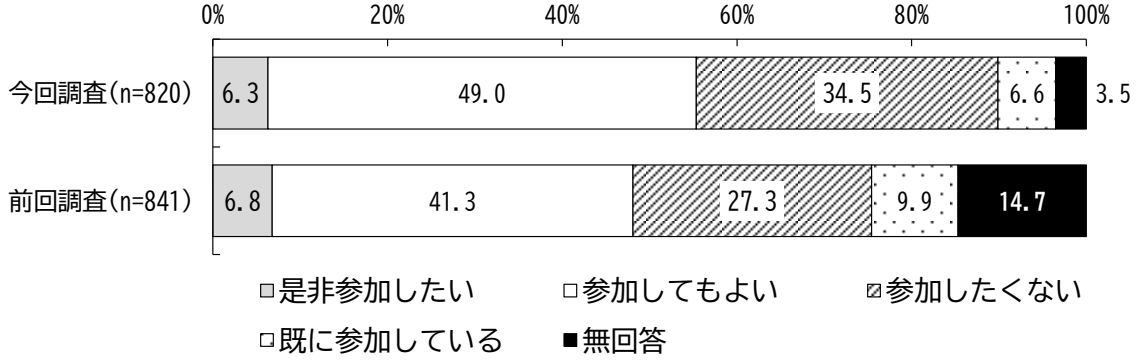
性別では、男性・女性ともに『参加意向あり』が半数を超えています。また、年齢別では 70-74 歳で『参加意向あり』が 63.5%と最も多くなっています。

地区別でみても、すべての地区で『参加意向あり』が半数を超え、宮川・国富地区（60.0%）で最も多くなっています。

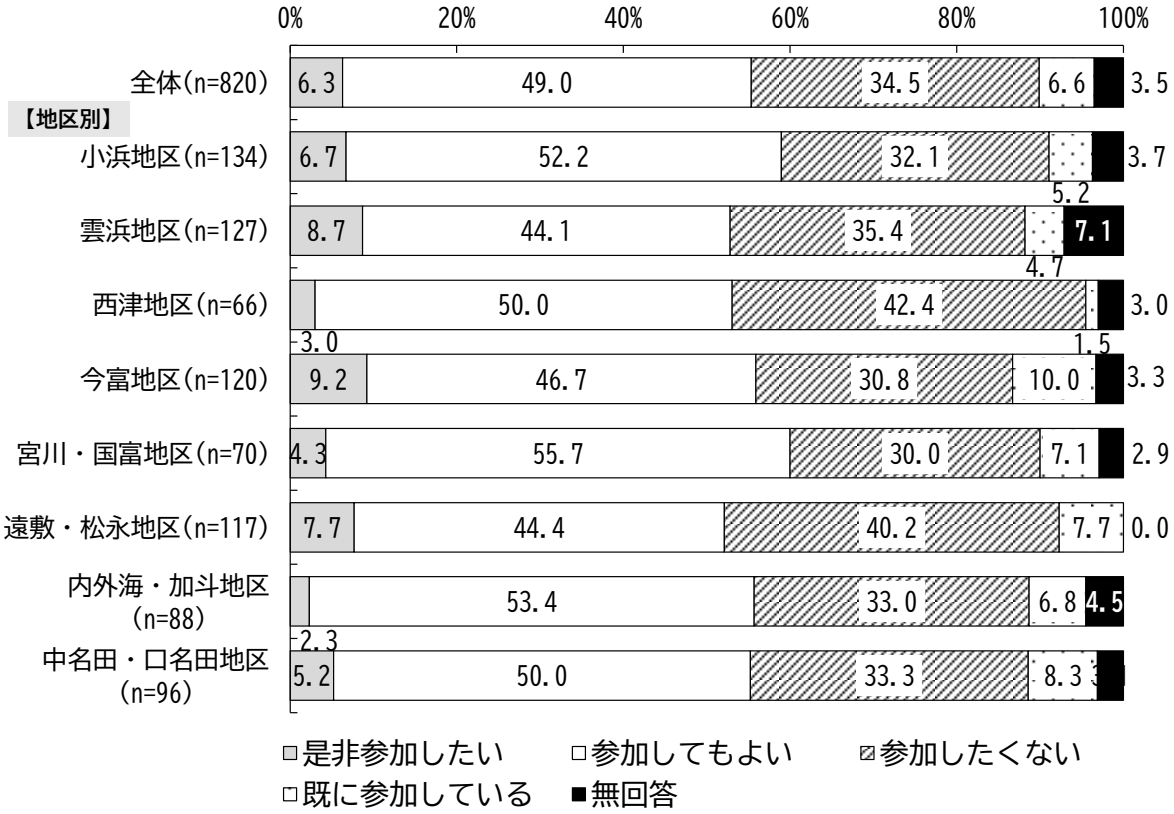
参加者としての参加意向（全体・性別・年齢別）



参加者としての参加意向（全体／前回調査との比較）



参加者としての参加意向（全体・地区別）



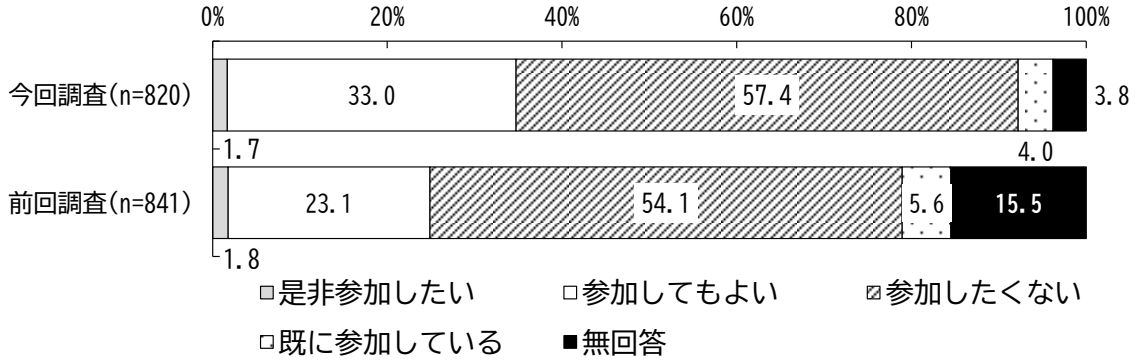
②企画・運営側としての参加意向

地域活動への企画・運営側としての参加意向は、「参加してもよい」（33.0%）と「是非参加したい」（1.7%）をあわせた『参加意向あり』が 34.7%と、前回調査（24.9%）より約 10 ポイント増加しています。

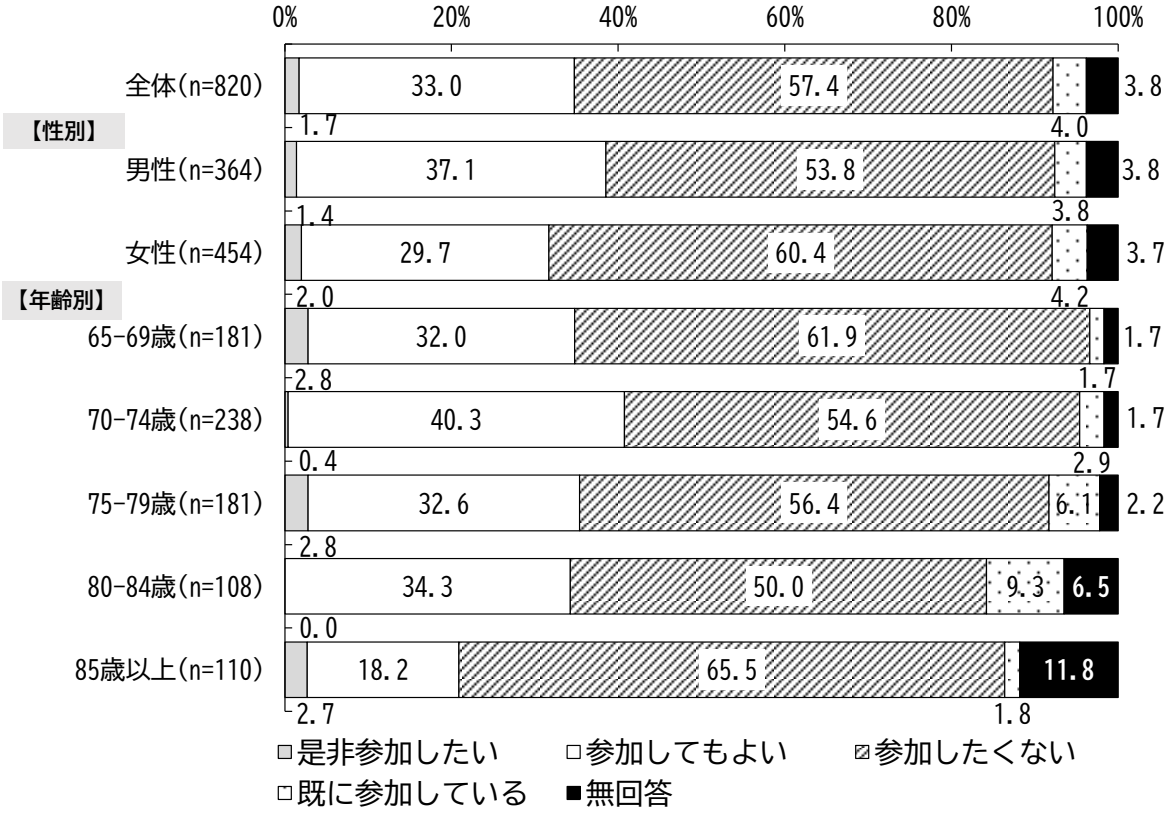
性別では、男性の『参加意向あり』（38.5%）が女性（31.7%）を上回ります。また、年齢別では 70-74 歳で『参加意向あり』が 40.7%と最も多くなっています。

地区別でみても、ほとんどの地区で『参加意向あり』が３割を超え、今富地区で 38.4%と最も多くなっています。

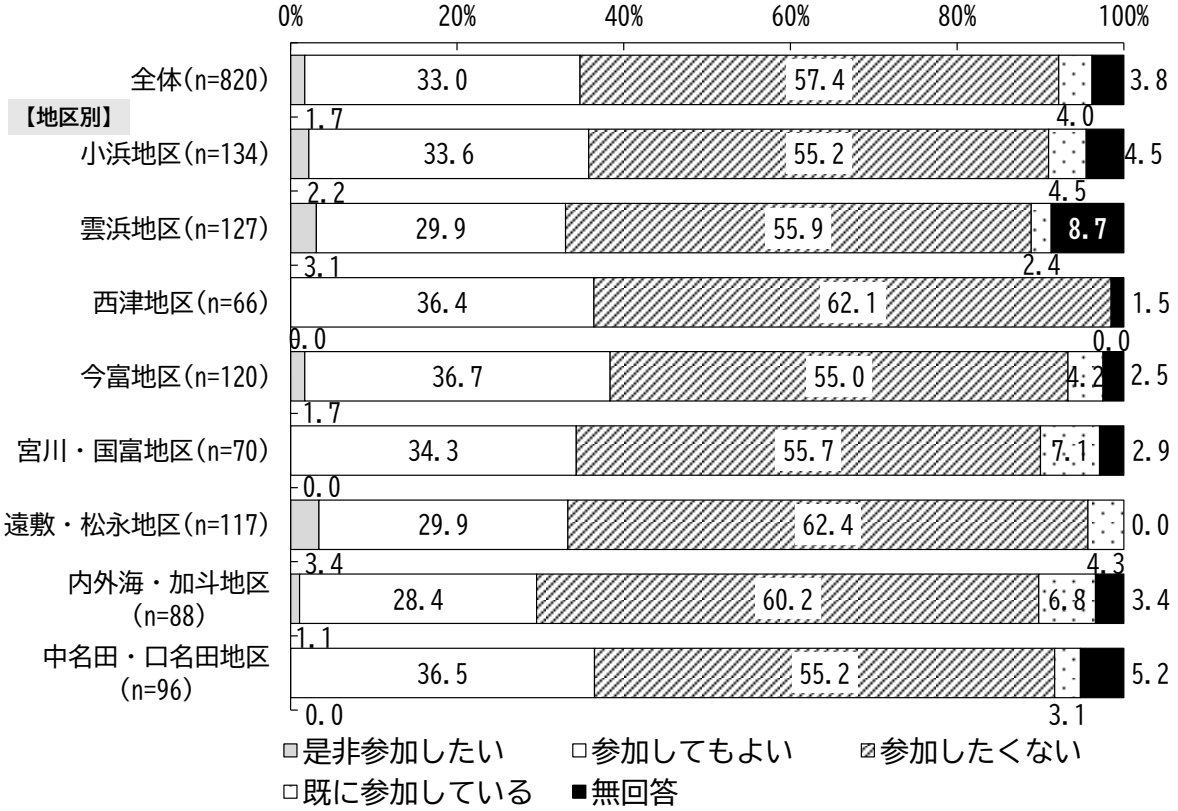
企画・運営側としての参加意向（全体／前回調査との比較）



企画・運営側としての参加意向（全体・性別・年齢別）



企画・運営側としての参加意向（全体・地区別）



８．たすけあいについて

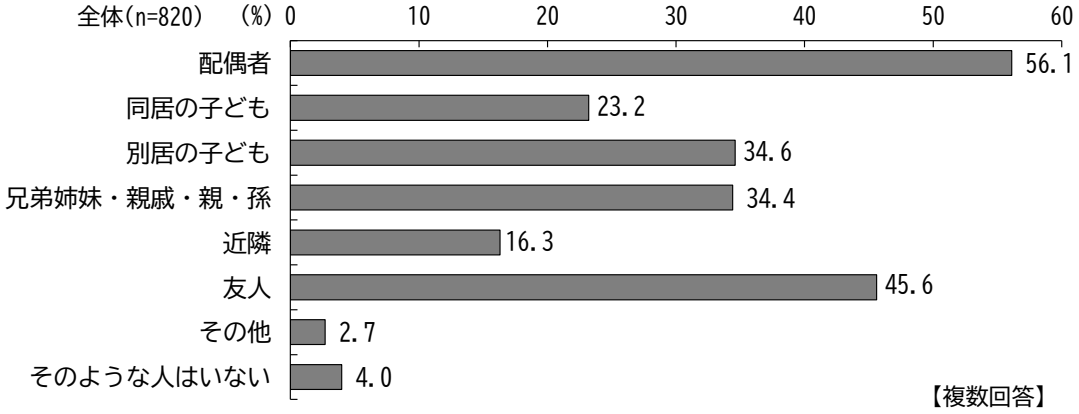
（１）心配事など

設問	問６（１）あなたの心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人 問６（２）反対に、あなたが心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人

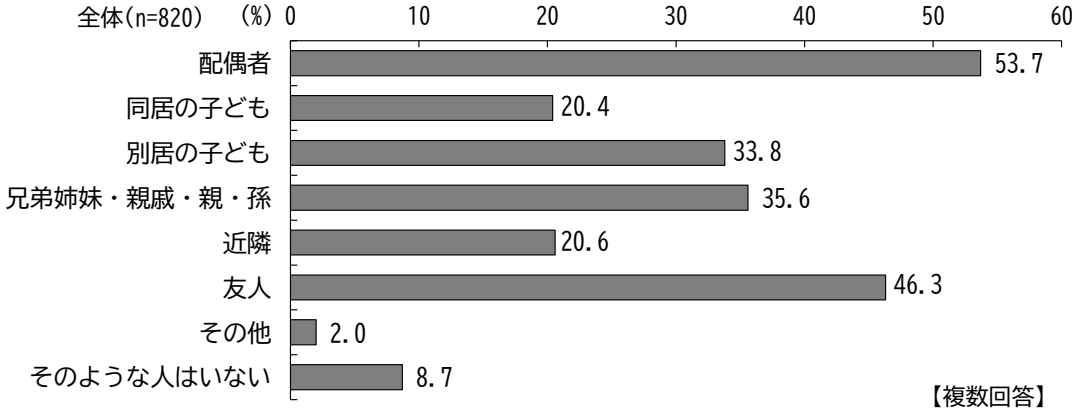
◆あなたの心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人やあなたが心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人は「配偶者」が最も多い。

あなたの心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人やあなたが心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人についてたずねたところ、いずれも「配偶者」が最も多くなっています。

あなたの心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人（全体）



あなたが心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人（全体）



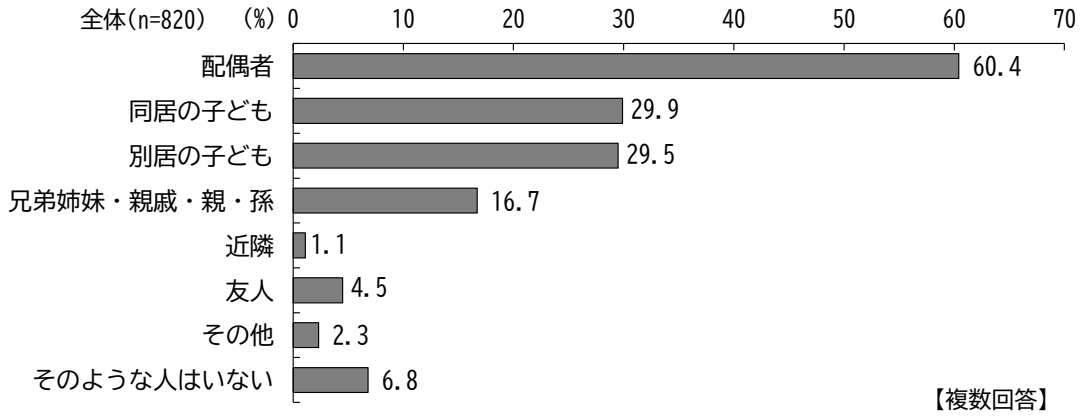
（２）看病や世話

設問	問６（３）あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人 問６（４）反対に、看病や世話をしてあげる人

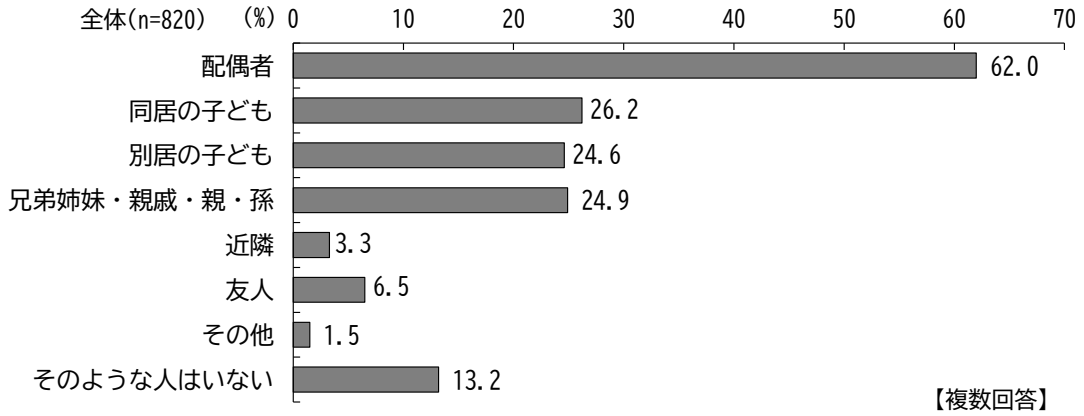
◆看病や世話をしてくれる人や看病や世話をしてあげる人は「配偶者」が最も多い。

看病や世話をしてくれる人や看病や世話をしてあげる人についてたずねたところ、いずれも「配偶者」が最も多くなっています。

看病や世話をしてくれる人（全体）



看病や世話をしてあげる人（全体）



９．健康状態について

（１）主観的健康観

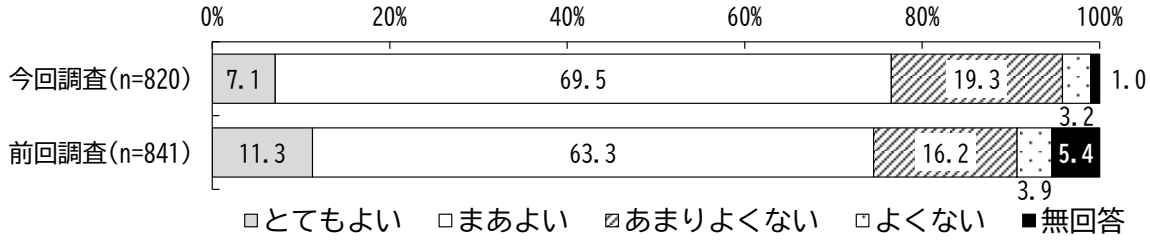
設問	問７（１）現在のあなたの健康状態はいかがですか

◆健康状態が『よくない』と感じている高齢者は約２割。

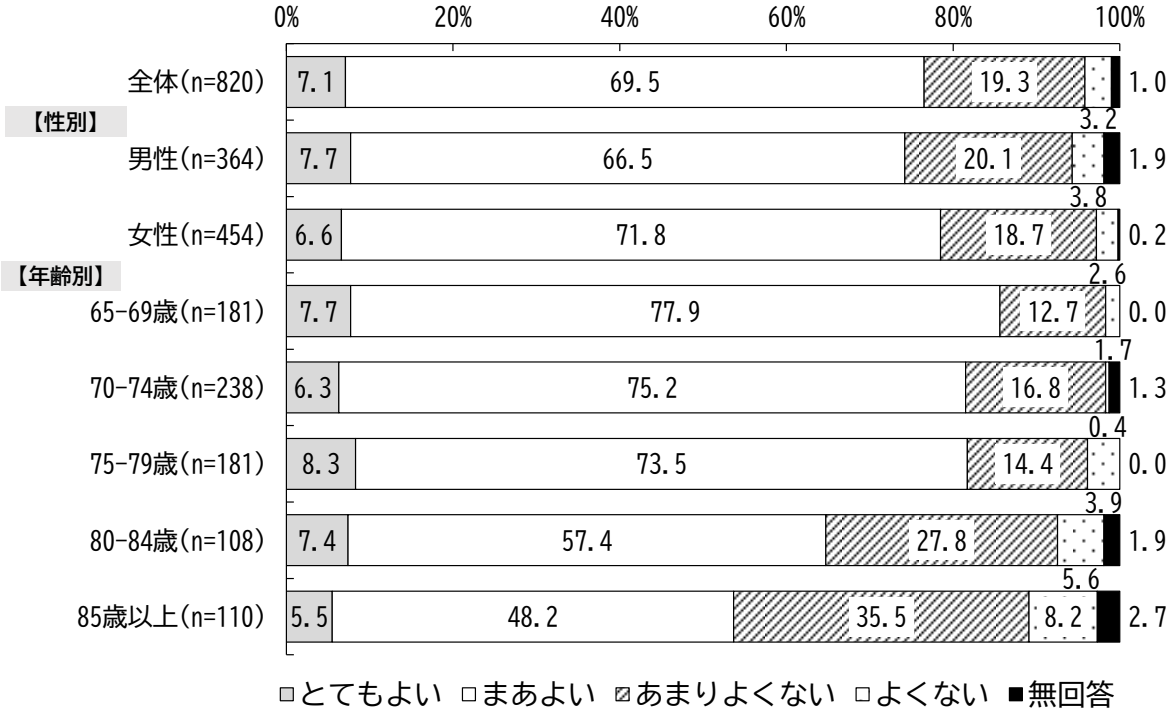
現在の健康状態についてたずねたところ、『よくない』(「あまりよくない」19.3%と「よくない」3.2%の合計）と回答する割合は 22.5%と前回調査（20.1%）から大きな変化はみられません。

性別でみても、男性・女性ともに『よくない』が２割強となっています。年齢別では、『よくない』と回答する割合が加齢とともに増加し、85 歳以上では 43.7%と約４割となっています。

主観的健康観（全体／前回調査との比較）



主観的健康観（全体・性別・年齢別）



（２）幸福度

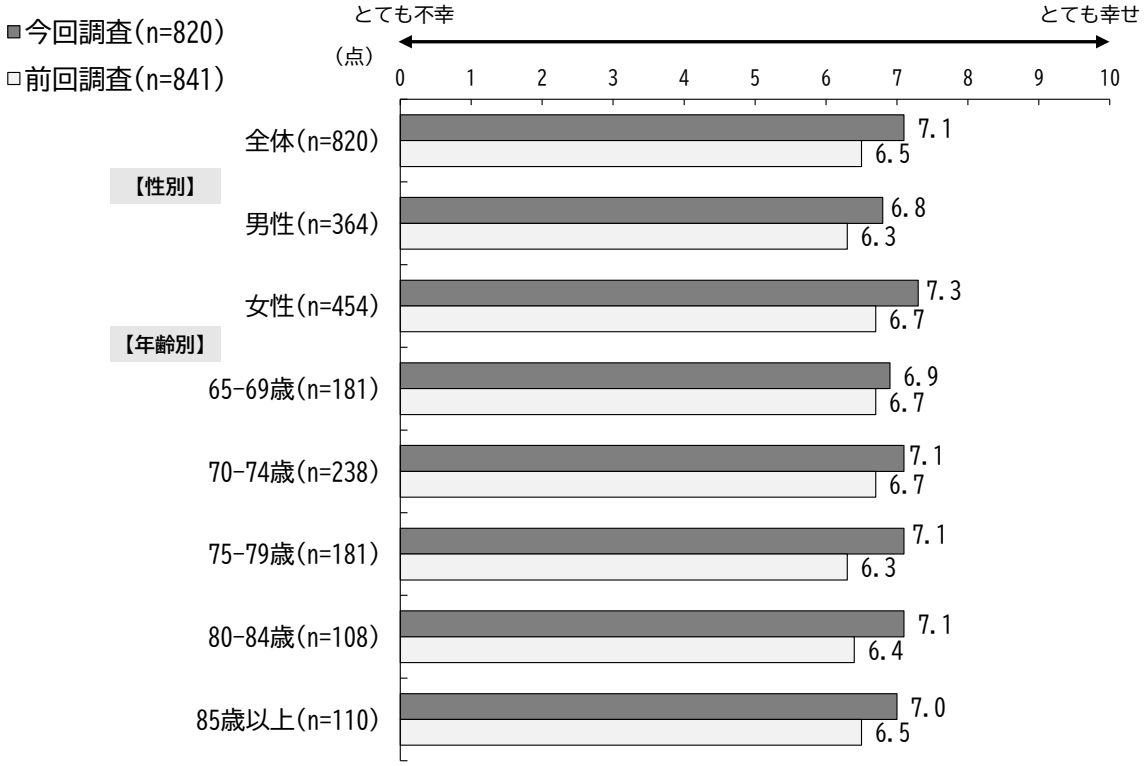
設問	問７（２）あなたは、現在どの程度幸せですか

◆前回調査の 6.5 点から 7.1 点へ平均点が上昇。

現在、どの程度幸せと感じるかについて、「とても幸せ」を 10 点とし、10 点満点中の何点であるかたずねた結果を点数化したところ、全体では 7.1 点と前回調査（6.5 点）より上昇しています。

性別でみると、女性（7.3 点）で男性（6.8 点）を上回ります。また、年齢別ではすべての層で７点前後となっており、いずれの層でも前回調査より平均点が高くなっています。

幸福度（平均点／全体・性別・年齢別／前回調査との比較）



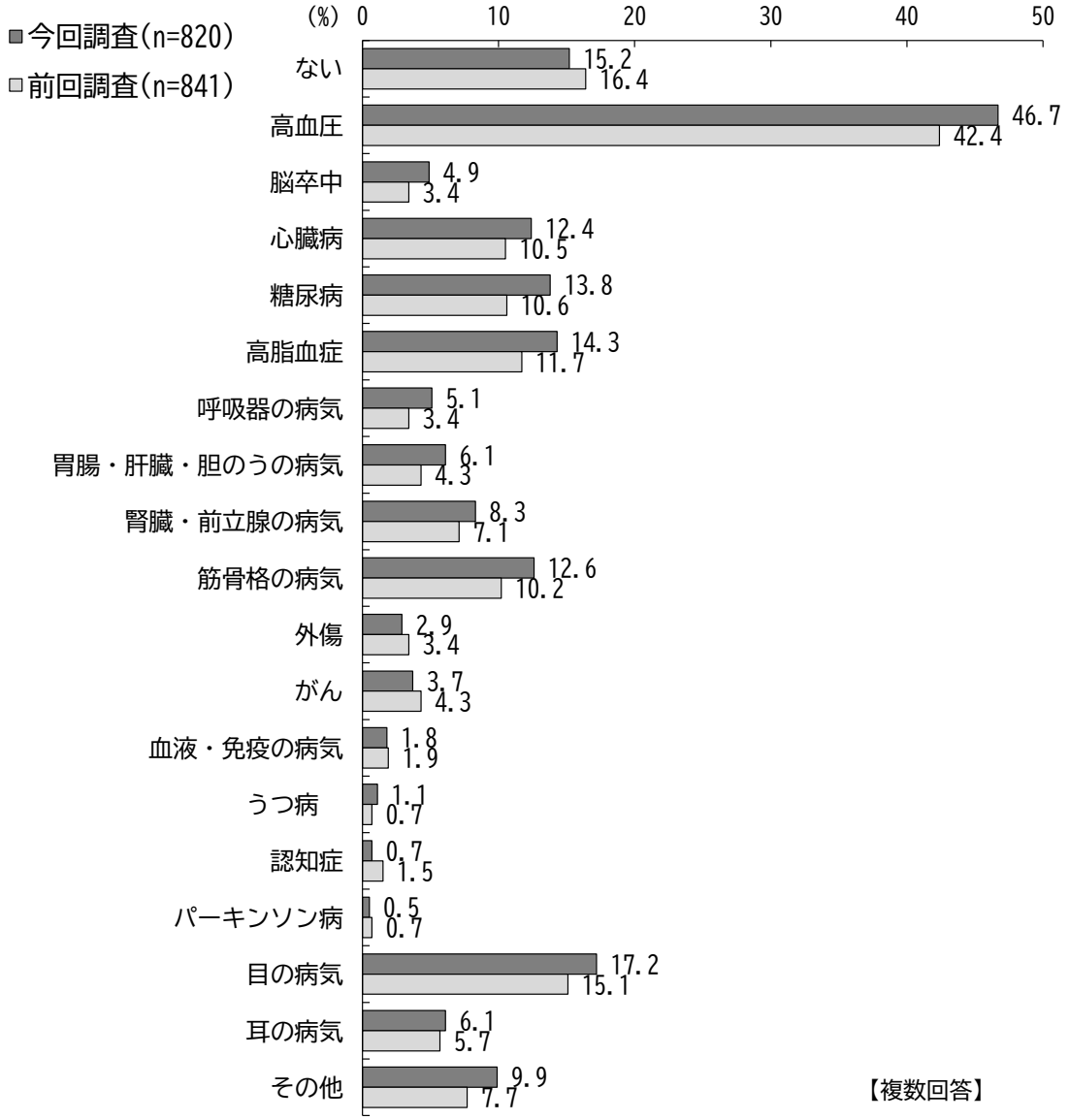
（３）現在治療中、または後遺症のある病気について

設問	問７（３）現在治療中、または後遺症のある病気はありますか

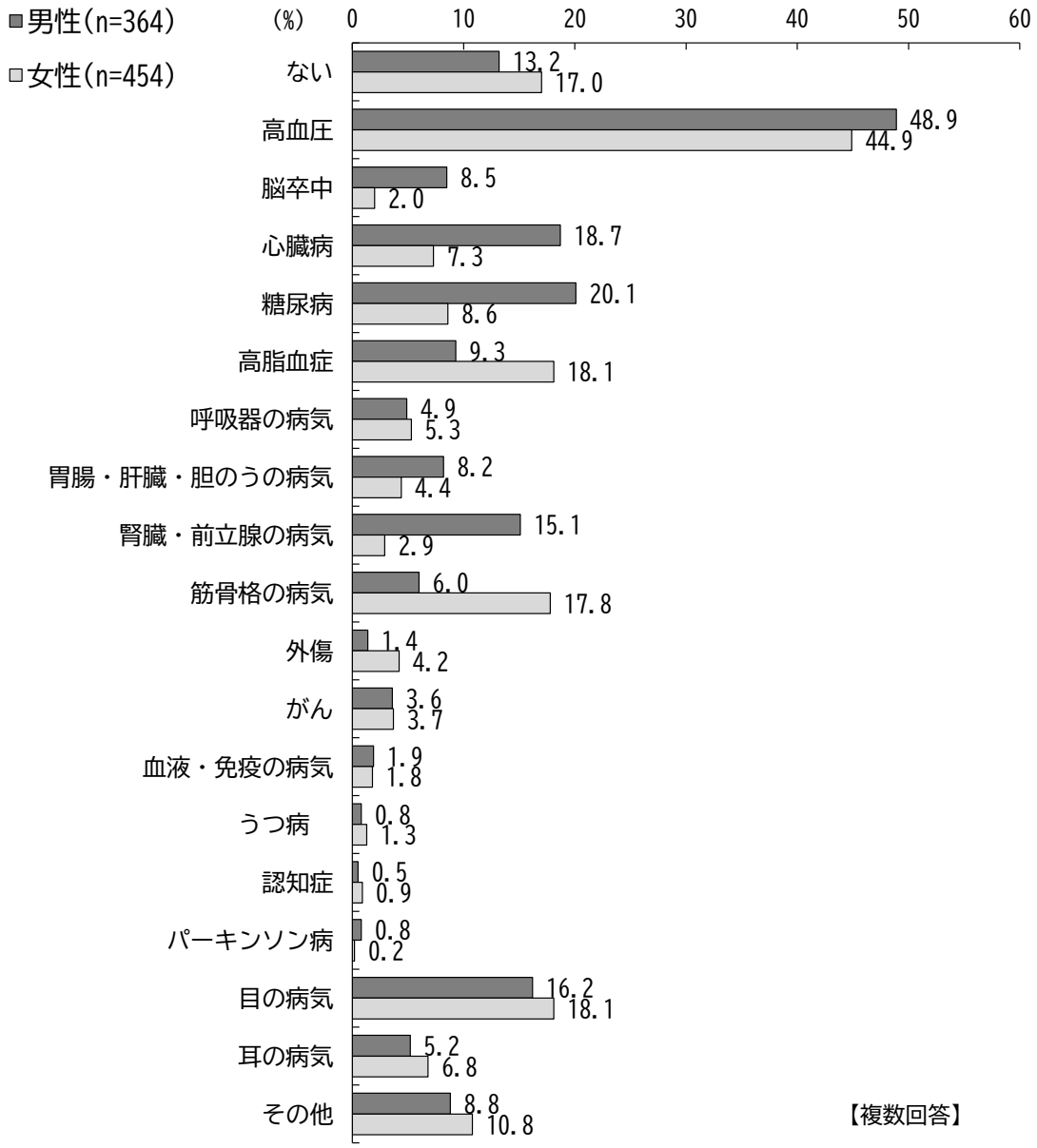
◆現在治療中、または後遺症のある病気は「高血圧」が最も多い。

現在治療中、または後遺症のある病気については、前回調査と同様に「高血圧」（46.7%）が他を大きく引き離して最も多く、次いで「目の病気」（17.2%）、「ない」（15.2%）が続きます。性別でみても、男性、女性ともに「高血圧」が最も多く、男性では「糖尿病」、「心臓病」、女性では「筋骨格の病気」と回答する割合が比較的多くなっています。

現在治療中、または後遺症のある病気について（全体／前回調査との比較）



現在治療中、または後遺症のある病気について（性別）



（４）喫煙について

設問	問７（５）タバコは吸っていますか

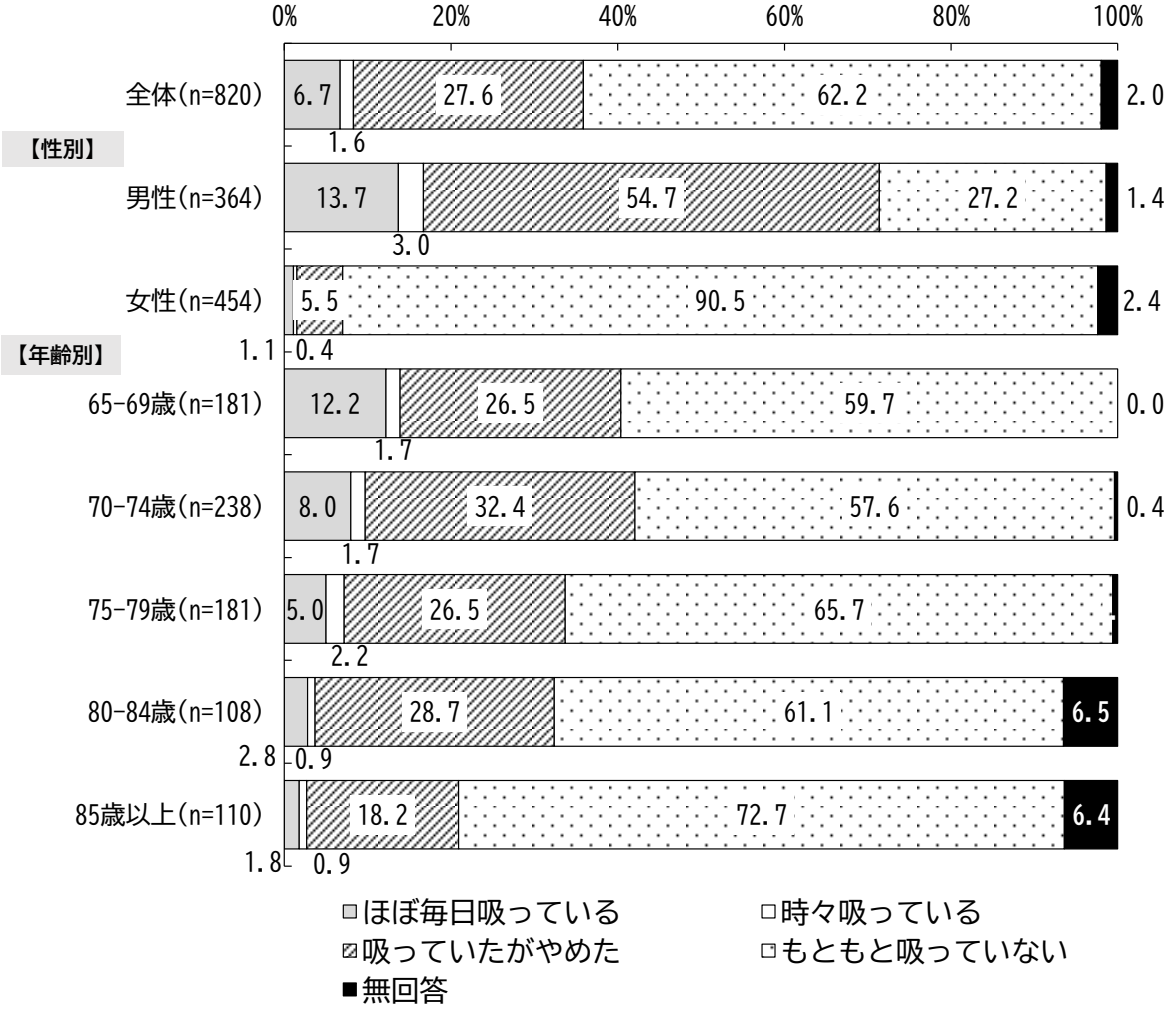
◆喫煙者は 8.3%。

喫煙状況については、喫煙者（「ほぼ毎日吸っている」6.7%と「時々吸っている」1.6%の合計）は 8.3%、「もともと吸っていない」が 62.2%と６割を超え、「吸っていたがやめた」が 27.6%となっています。

性別でみると、男性では「吸っていたがやめた」（54.7%）、女性では「もともと吸っていない」（90.5%）がそれぞれ最も多くなっています。

年齢別では、「もともと吸っていない」が各年齢層で最も多い回答となっており、加齢とともに喫煙者は減少しています。

喫煙について（全体・性別・年齢別）



（５）うつ傾向

◆うつ傾向のリスクがある高齢者は４割弱。前回調査より約７ポイント減少。

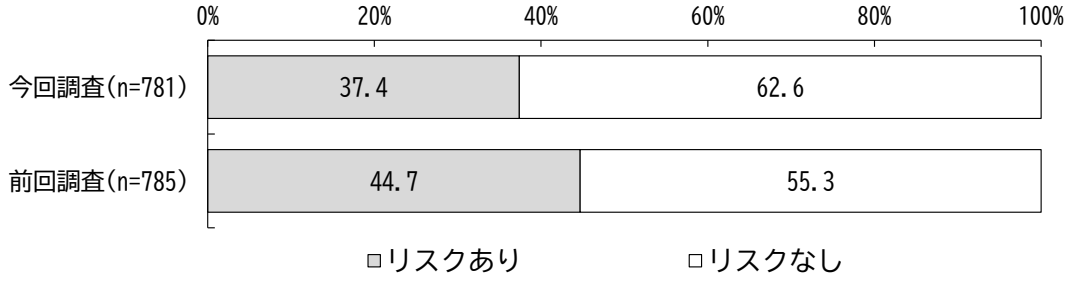
問７（５）及び問７（６）の２項目において、いずれか１つでも「１．はい」を選択した場合をうつ傾向の「リスクあり」と判定しました。その結果をみると、「リスクあり」に該当する回答者は 37.4%と前回調査（44.7%）から約７ポイント減少しています。また、年齢別でみると、85 歳以上（43.9%）で「リスクあり」の割合が多くなっています。

うつ傾向を判定するための項目

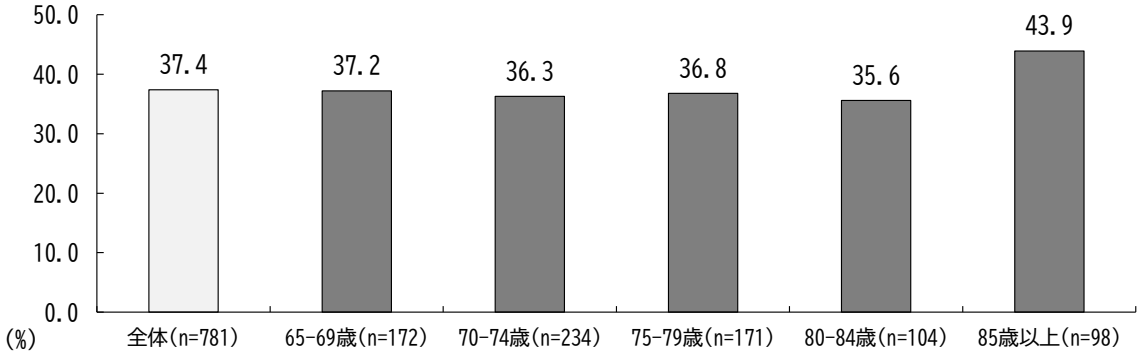
	設問内容	選択肢
設問	問７（５）この１か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか	１．はい
	問７（６）この１か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか	１．はい

※リスク状況を判定する各設問が無回答である場合、判定が行えないため、集計対象から外しています。

うつ傾向（全体／前回調査との比較）



うつ傾向：「リスクあり」の割合（全体・年齢別）



（６）フレイルの認知度

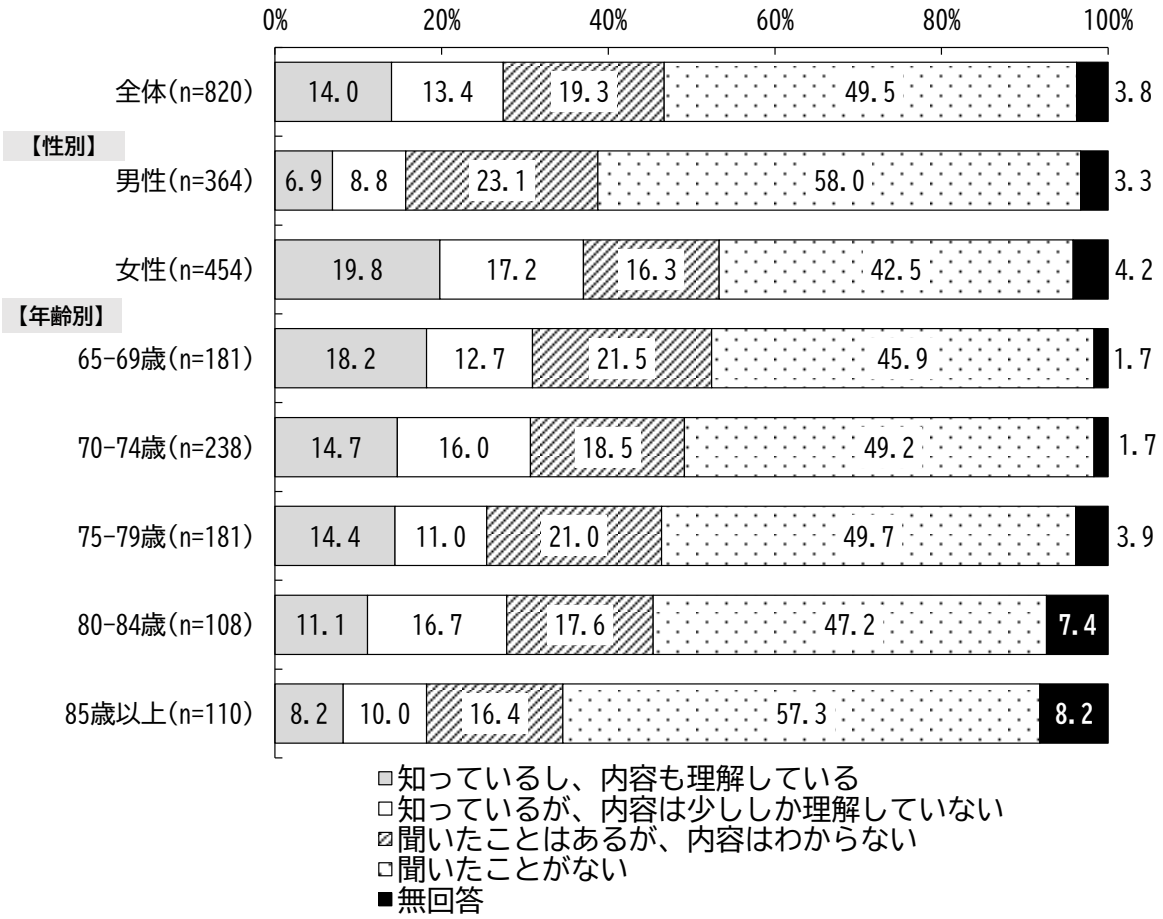
設問	問７（７）あなたは、フレイルをご存知ですか

◆「聞いたことがない」が約半数を占める。特に男性で認知度が低い。

フレイルについては、「聞いたことがない」が 49.5%と約半数を占め、「聞いたことはあるが、内容はわからない」が 19.3%で続きます。

性別では、男性で「聞いたことがない」が 58.0%と女性（42.5%）を大きく上回ります。年齢別では、80 歳以上で「聞いたことがない」が 57.3%と最も多くなっています。

フレイルの認知度（全体・性別・年齢別）



フレイル

年齢を重ね、筋力・認知機能・社会とのつながりといった心身の活力が低下した状態を「フレイル」といいます。フレイルの兆候を早期に発見し、日常生活を見直すなど対処をすれば、フレイルの進行を抑制することができます。

（７）ＭＣＩ（軽度認知障害）の認知度

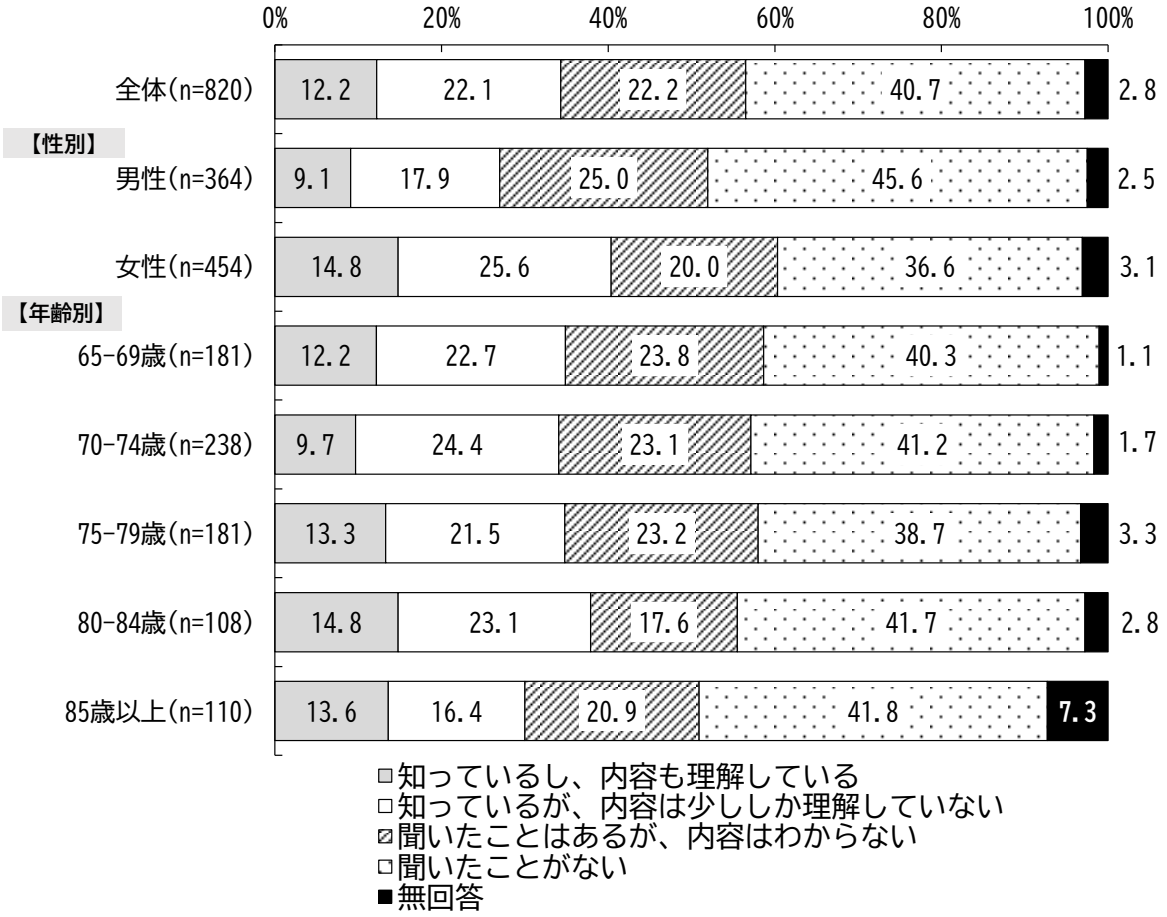
設問	問７（８）あなたは、ＭＣＩ（軽度認知障害）をご存知ですか

◆「聞いたことがない」が約４割を占める。特に男性で認知度が低い。

ＭＣＩ（軽度認知障害）については、「聞いたことがない」が 40.7％と約４割を占め、「聞いたことはあるが、内容はわからない」が 22.2％で続きます。

性別では、男性で「聞いたことがない」が 45.6％と女性（36.6％）を大きく上回ります。年齢別では、すべての年齢層で「聞いたことがない」が４割前後となっています。

ＭＣＩ（軽度認知障害）の認知度（全体・性別・年齢別）



ＭＣＩ（軽度認知障害）
物忘れはありますが日常生活に支障がない、正常な状態と認知症の中間の状態で、10～30％が認知症に進行します。早期に適切な治療・予防をすることで回復したり、認知症への進行を抑制することが可能とされています。

10. 認知症について

（１）認知症の症状

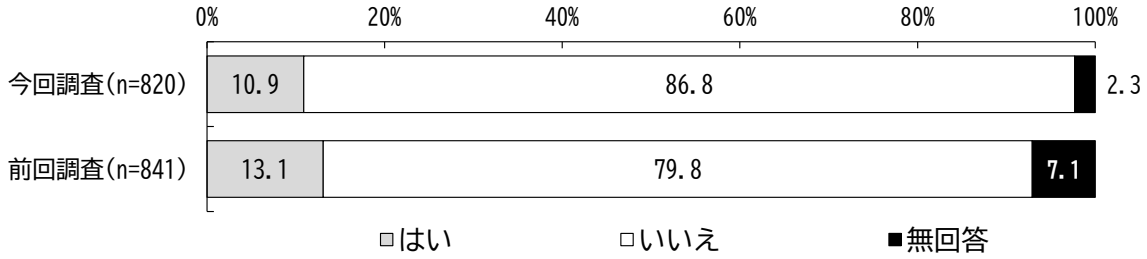
設問	問８（１）認知症の症状がある、または家族に認知症の症状がある人がいますか

◆認知症の症状がある、または家族に認知症の症状がある人は約１割。

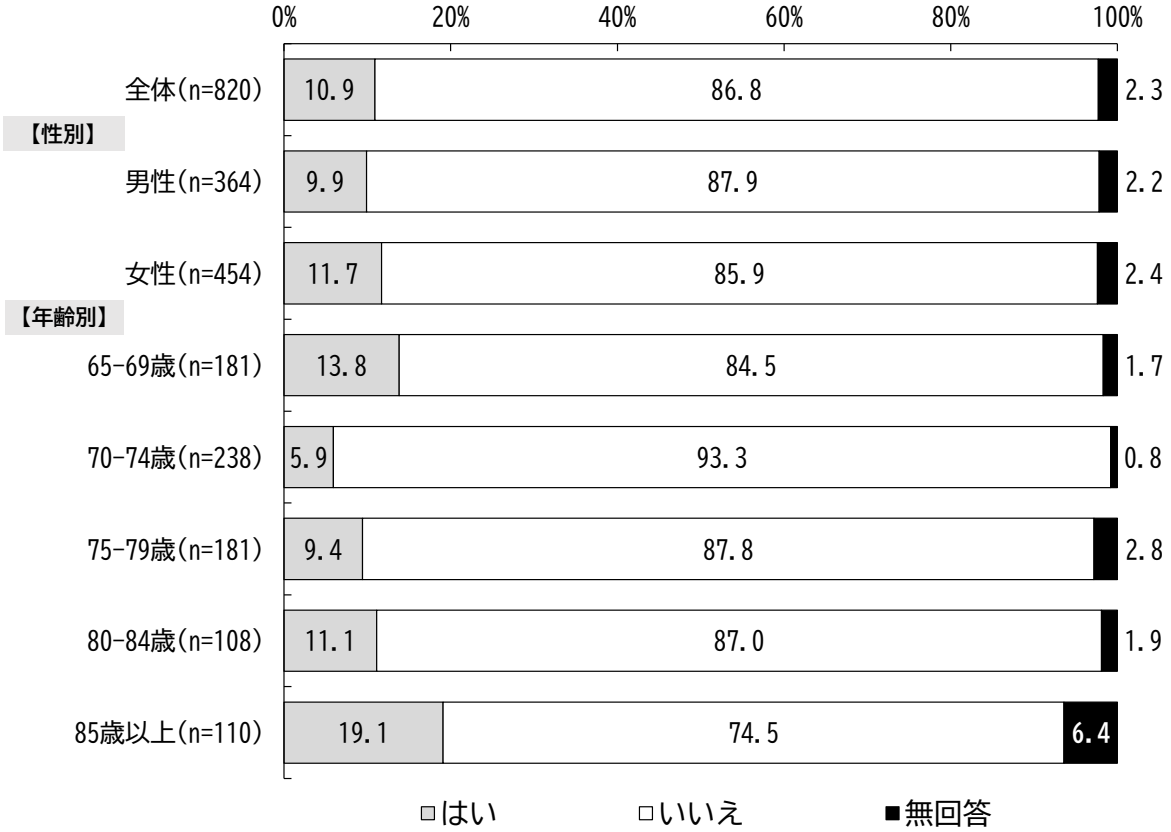
認知症の症状がある、または家族に認知症の症状がある人がいるかどうかをたずねたところ、「はい」が 10.9%と前回調査（13.1%）とほぼ同率となっています。

「はい」と回答する割合をみると、年齢別の 85 歳以上（19.1%）で比較的多くなっています。

認知症の症状（全体／前回調査との比較）



認知症の症状（全体・性別・年齢別）



（２）認知症についての相談窓口の認知度

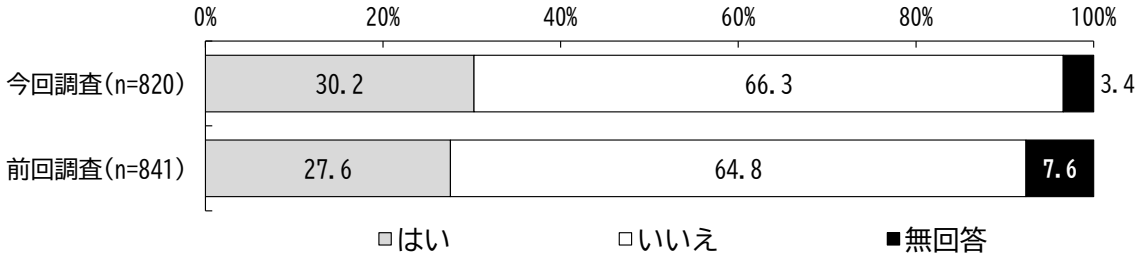
設問	問８（２）認知症についての相談窓口を知っていますか

◆認知症についての相談窓口を知っている高齢者は約３割。

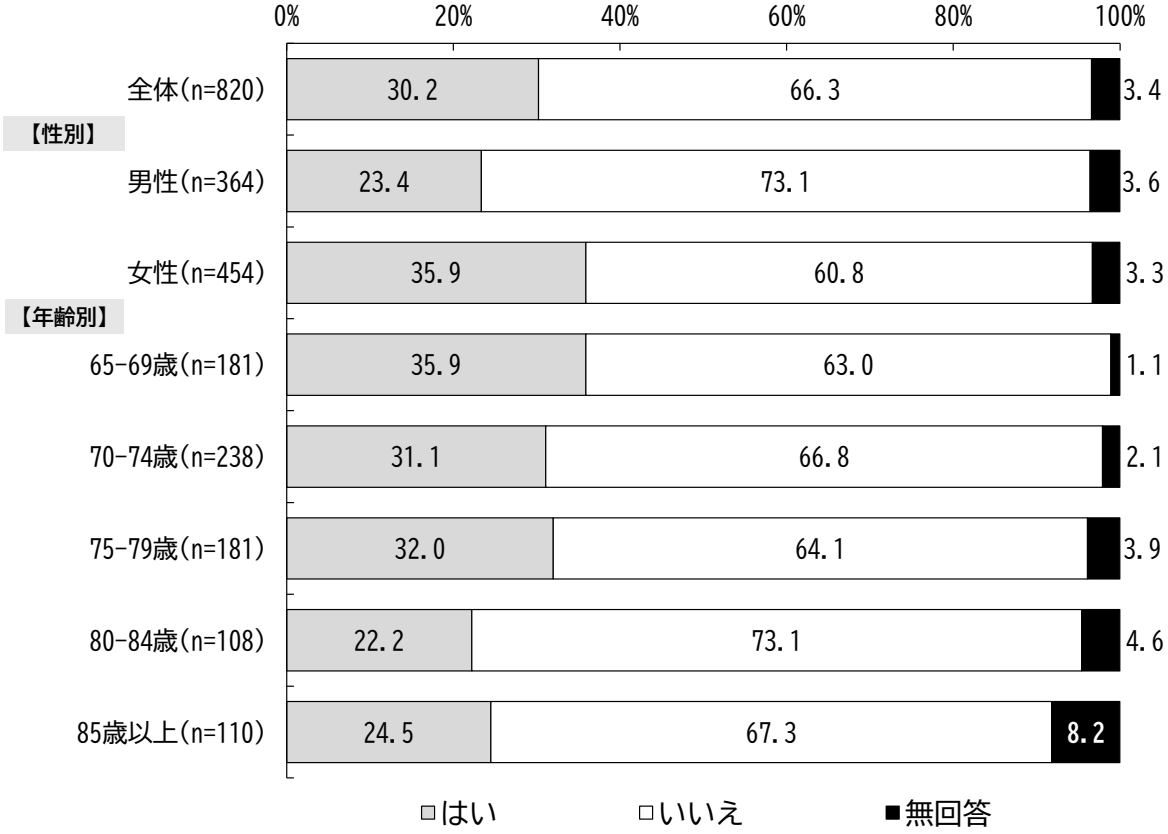
認知症についての相談窓口の認知度たずねたところ、「はい」（知っている）が30.2%と前回調査（27.6%）とほぼ同率となっています。

「はい」（知っている）と回答する割合は、性別の男性（23.4%）、年齢別の80-84歳（22.2%）、地区別の西津地区（21.2%）、認定区分別の要支援２（23.5%）で比較的少なくなっています。

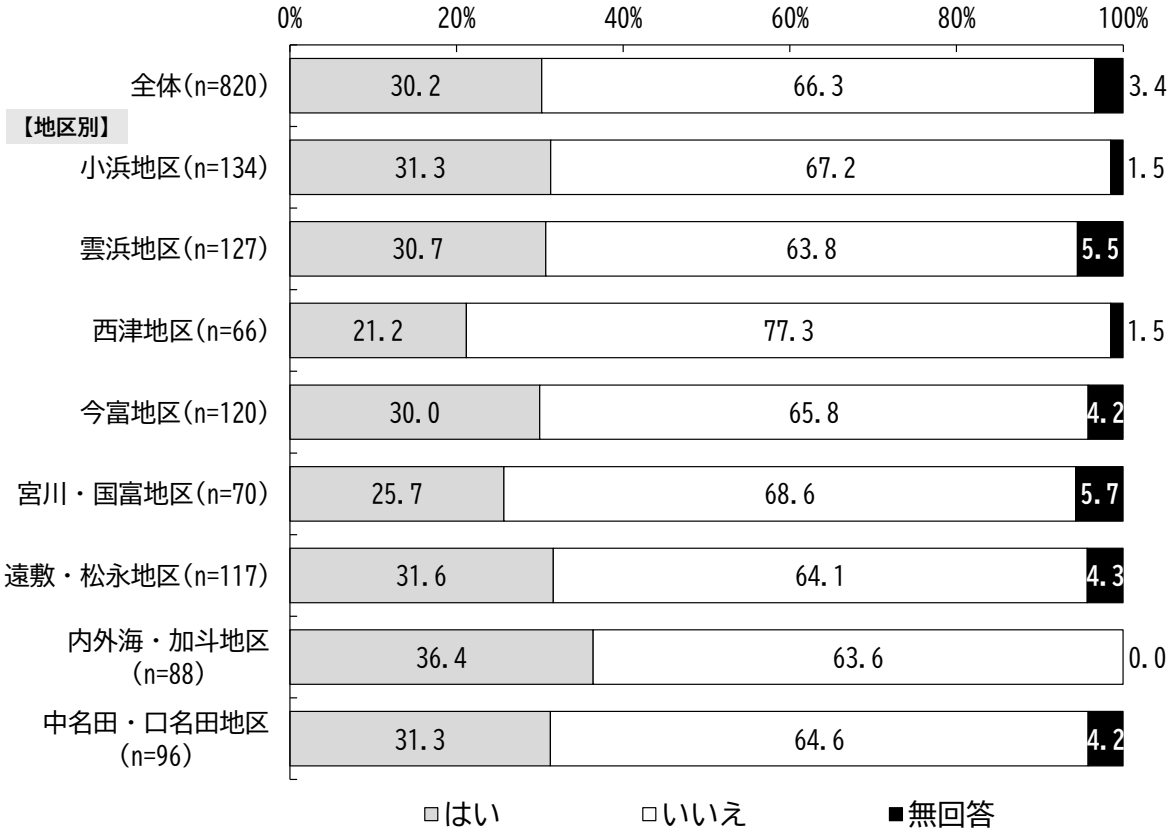
認知症についての相談窓口の認知度（全体／前回調査との比較）



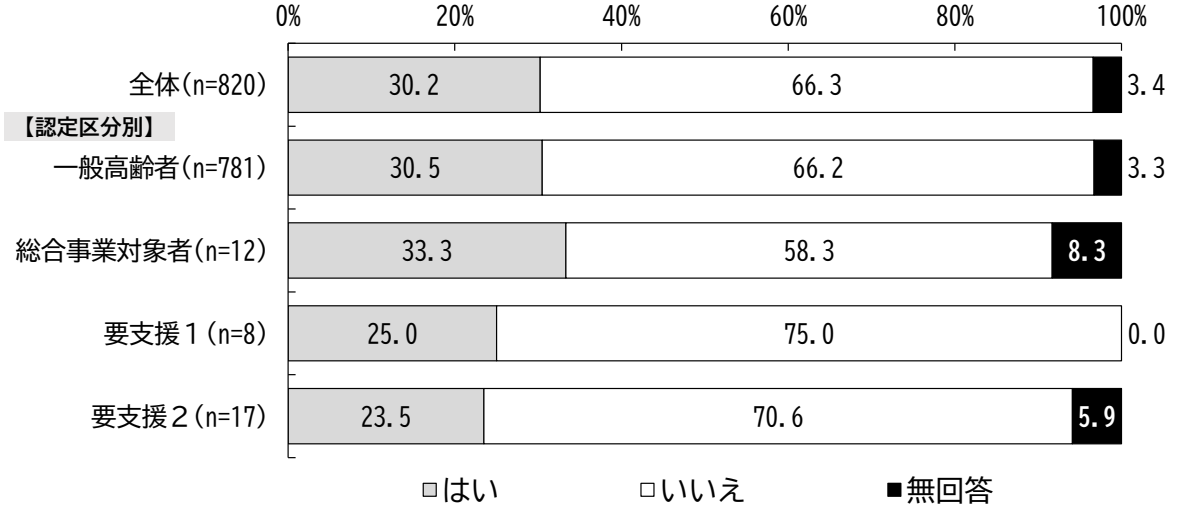
認知症についての相談窓口の認知度（全体・性別・年齢別）



認知症についての相談窓口の認知度（全体・地区別）



認知症についての相談窓口の認知度（全体・認定区分別）



（３）成年後見制度の認知度

設問	問８（３）あなたは、成年後見制度をご存知ですか

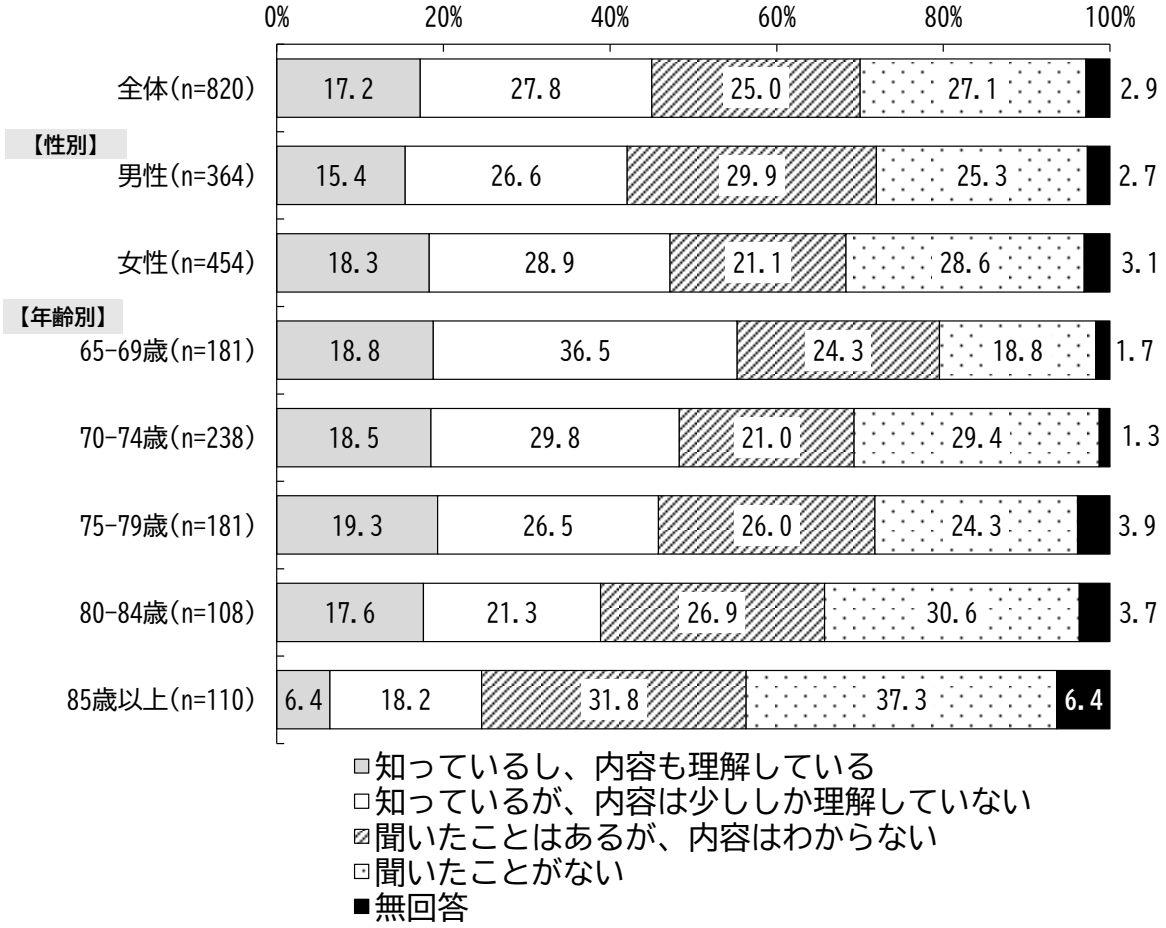
◆成年後見制度について「聞いたことがない」、「内容はわからない」という回答があわせて半数を超える。

成年後見制度について、「聞いたことがない」が 27.1%、「聞いたことがあるが、内容はわからない」が 25.0%となっており、半数以上が理解していない状況にあります。

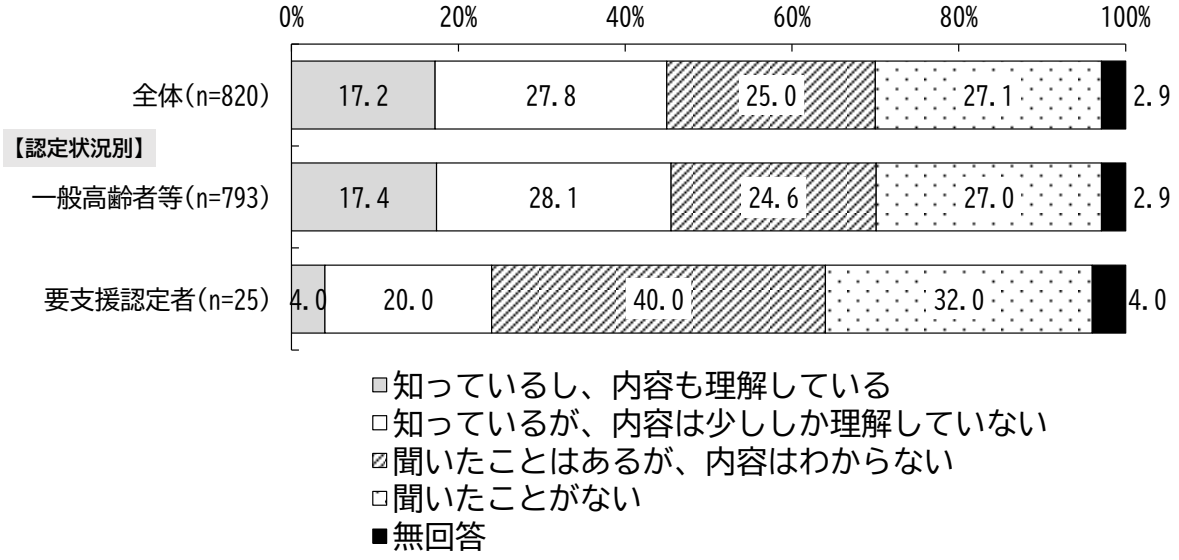
「聞いたことがない」、「聞いたことがあるが、内容はわからない」と回答する割合は、女性より男性で多く、年齢別の 85 歳以上では約７割を占めています。

認定状況別でみると、要支援認定者は「聞いたことがあるが、内容はわからない」が 40.0%、「聞いたことがない」が 32.0%と、あわせて７割を超え、認知度が低い傾向がみられます。

成年後見制度の認知度（全体・性別・年齢別）



成年後見制度の認知度（全体・認定状況別）



成年後見制度

認知症などにより判断能力が十分ではない方について、本人の権利を守る援助者（「成年後見人」等）を選ぶことで、契約や財産管理などの法律行為等をする際などにおいて、本人を法律的に支援する制度です。市では、成年後見制度に関する相談窓口として、「小浜市成年後見ステーション」を小浜市地域包括支援センター内に設置しています。

11.「もしものとき」の介護や医療について

（１）もしものときの話し合いについて

設問	問９（１）これから先、もし病気や事故などによりご自身で意思決定ができなくなったときに備えて、家族や親族など誰かと、自分が希望する介護や医療について、話し合ったことがありますか 問９※①誰と話し合いましたか 問９※②今後、ご家族等や医療関係者等と、話し合っておきたいと思いますか

◆「話し合ったことがある」が約３割。話し合った相手は「子（息子・娘）」及び「配偶者(夫・妻)」が上位を占める。
◆話し合ったことのない方のうち８割以上が、今後、話し合いたいと回答。

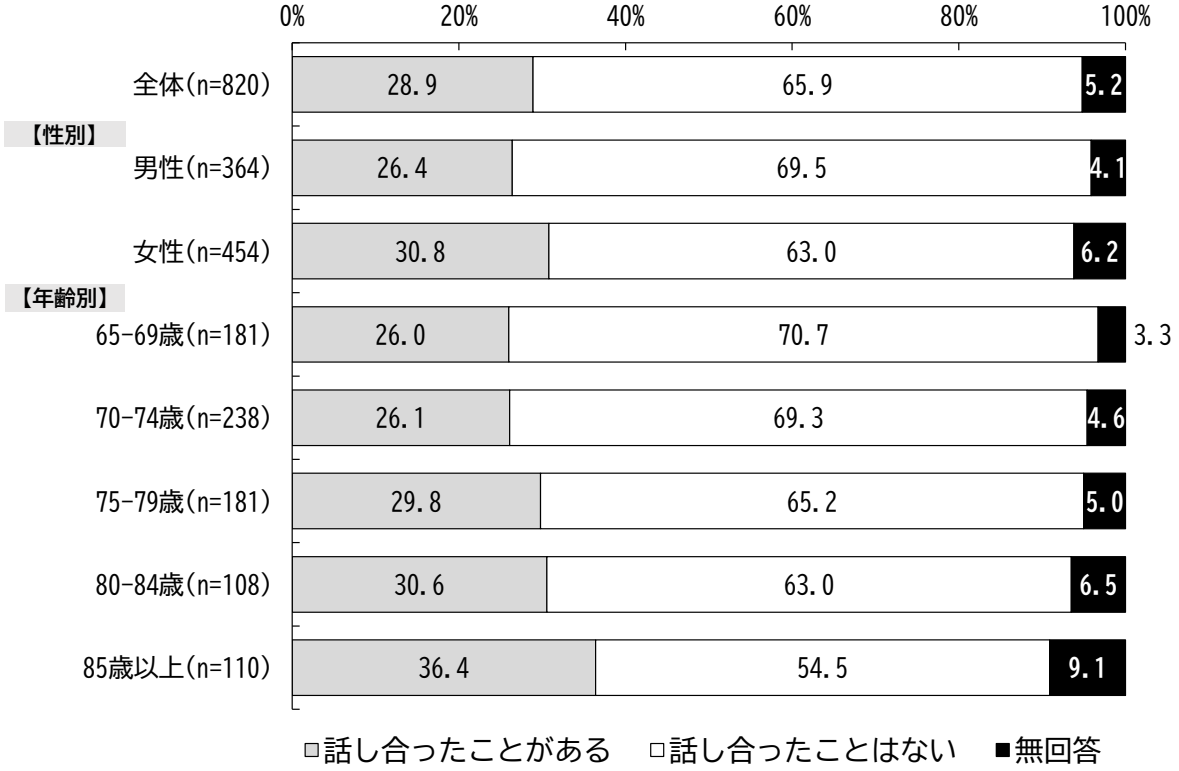
①話し合いの有無

人生の最終段階の医療･療養について、ご家族や医療関係者等とあらかじめ話し合ったことがあるかどうかをたずねたところ､｢話し合ったことがある｣(28.9%)が約３割､｢話し合ったことはない｣は 65.9%となっています。

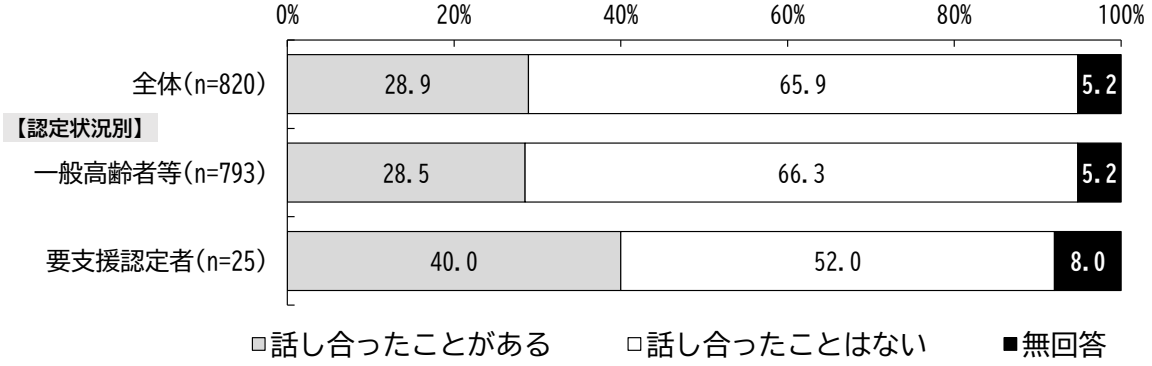
「話し合ったことがある」の割合をみると、性別では女性（30.8%)、年齢別では 85 歳以上（36.4%）で比較的多くなっています。

認定状況別でみると、要支援認定者で「話し合ったことがある」が 40.0%と一般高齢者等の 28.5%を大きく上回ります。

話し合いの有無（全体・性別・年齢別）



話し合いの有無（全体・認定状況別）

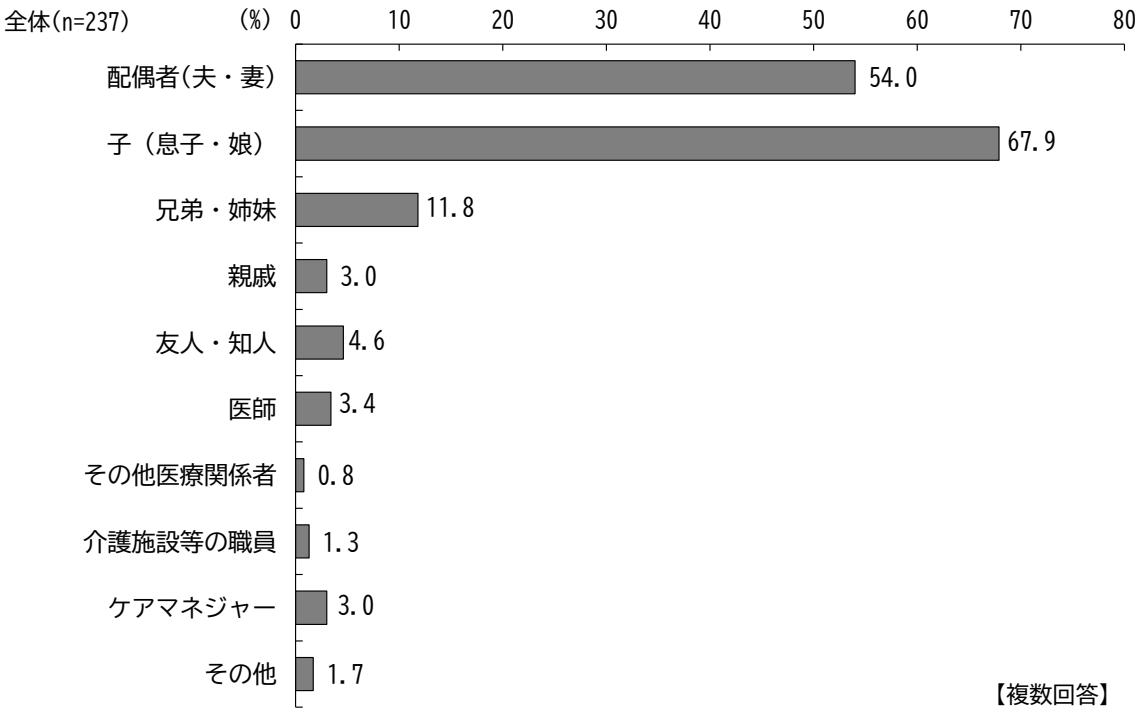


②話し合った相手

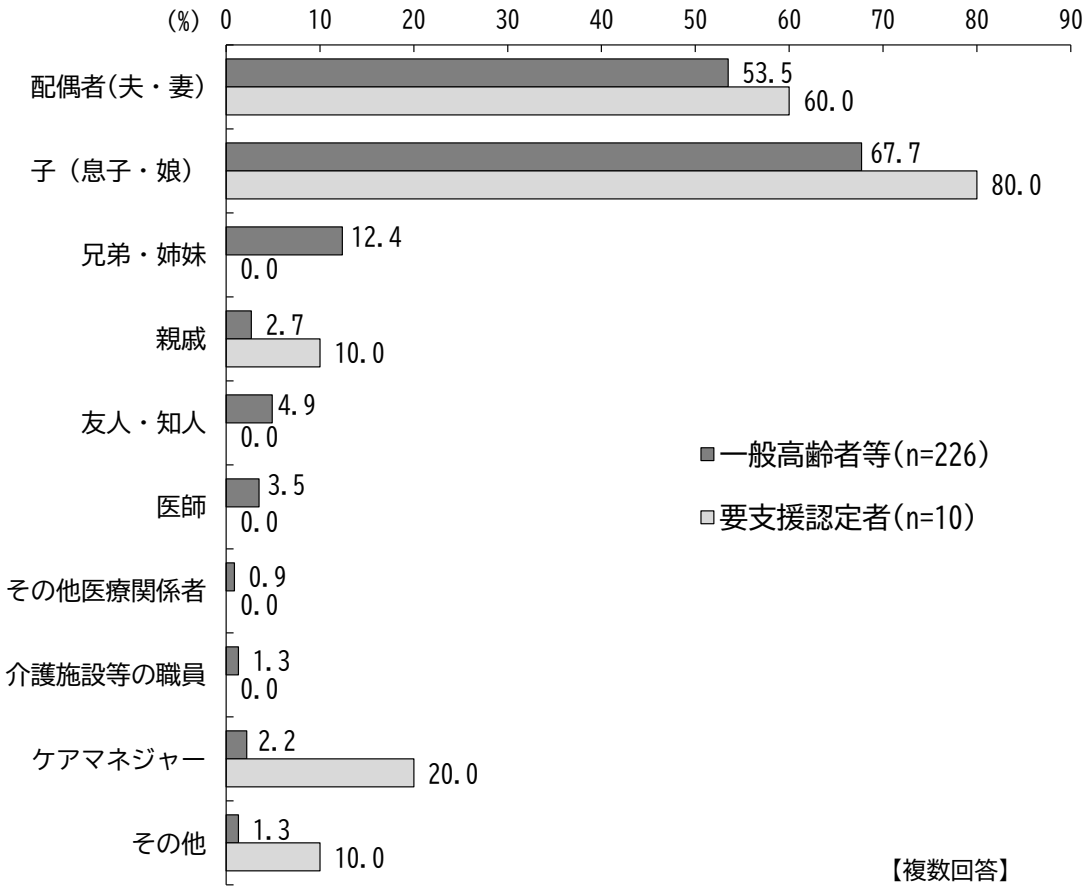
人生の最終段階の医療・療養について「話し合ったことがある」と回答した人に、話し合った相手をたずねたところ、「子（息子・娘)」(67.9%）及び「配偶者(夫・妻)」(54.0%）が上位を占め、次いで「兄弟・姉妹」(11.8%)、「友人・知人」（4.6%）が続きます。

認定状況別でみると、一般高齢者等では「子（息子・娘)」(67.7%）及び「配偶者(夫・妻)」(53.5%）が上位を占めている一方、要支援認定者では「子（息子・娘)」(80.0%）が最も多く、次いで「配偶者(夫・妻)」(60.0%)、「ケアマネジャー」(20.0%）が続きます。

話し合った相手（全体）



話し合った相手（認定状況別）



③今後の話し合いの意向

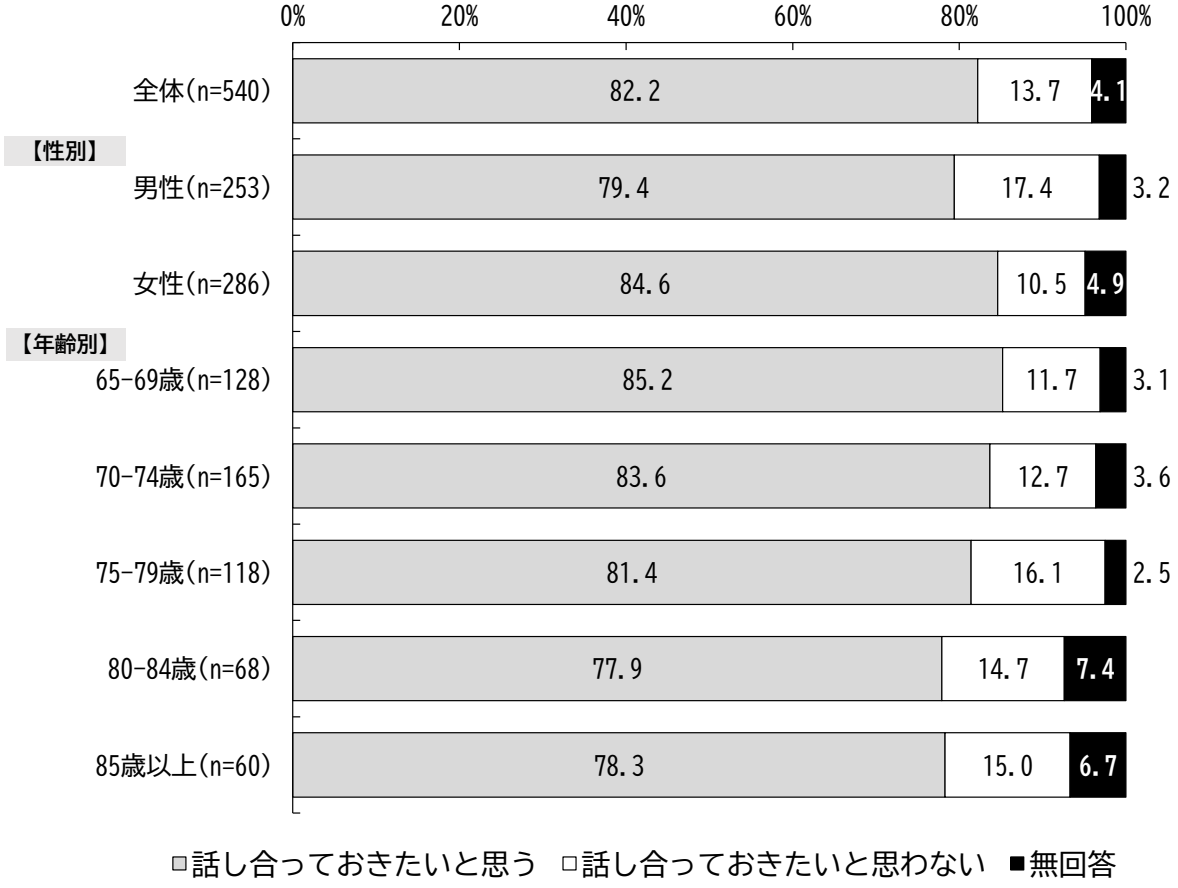
人生の最終段階の医療・療養について「話し合ったことはない」と回答した人に、今後の話し合いの意向をたずねたところ、「話し合っておきたいと思う」が82.2%と８割を超えます。

性別では、「話し合っておきたいと思う」が女性（84.6%）で男性（79.4%）を上回ります。

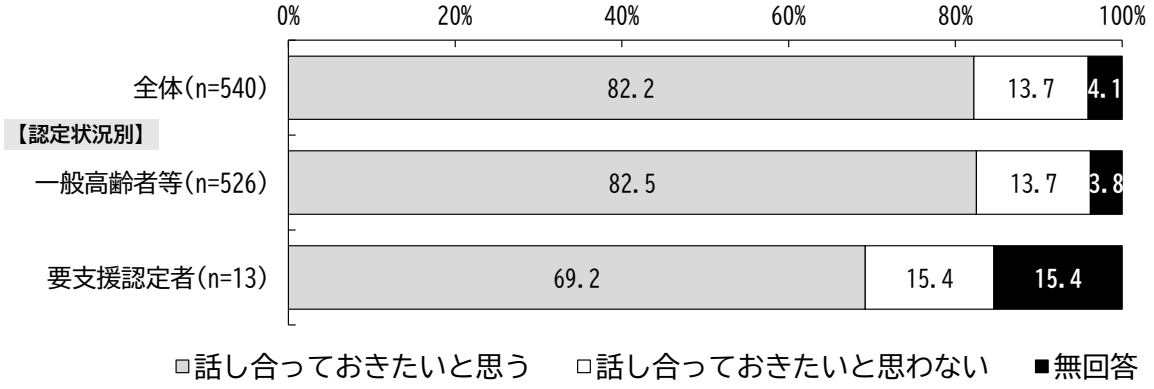
年齢別では、「話し合っておきたいと思う」と回答する割合が65-69歳で85.2%と最も多く、その他の年齢層でも８割前後を占めています。

認定状況別でみると、「話し合っておきたいと思う」が一般高齢者等で82.5%、要支援認定者で69.2%となっています。

今後の話し合いの意向（全体・性別・年齢別）



今後の話し合いの意向（全体・認定状況別）



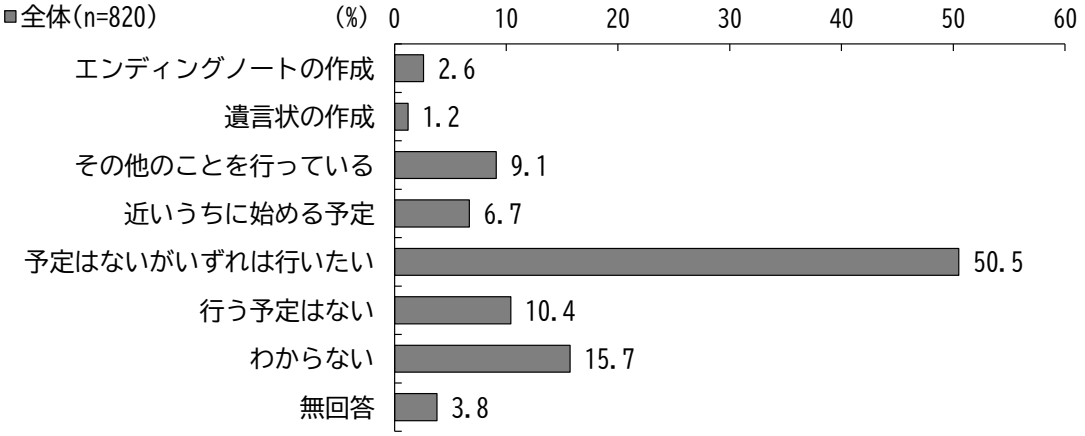
（２）終活について

設問	問９（２）「終活」を行っていますか

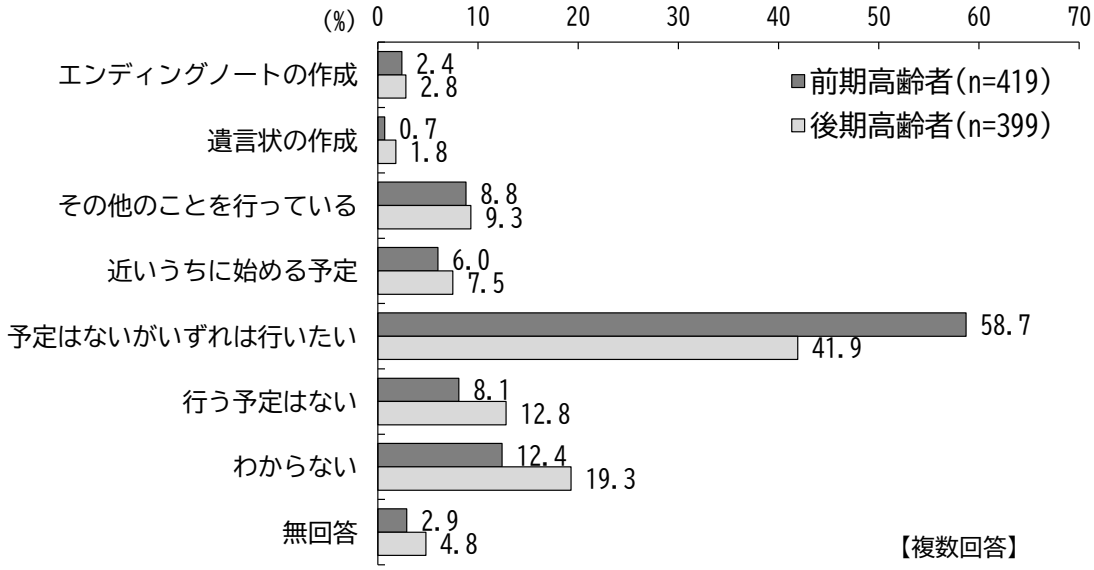
◆「予定はないがいずれは行いたい」が約半数。

「終活」については、「予定はないがいずれは行いたい」が 50.5%と約半数を占めています。年齢別でみても「予定はないがいずれは行いたい」が最も多い回答となっています。

終活について（全体）



終活について（年齢別）



終活
「終活」とは、「自らの人生の終わりに向けた活動」の略語で、自分が亡くなった際の葬儀、お墓、遺言の準備や、財産相続、身の回りの生前整理などを行うことです。

（３）地域包括支援センターの認知度

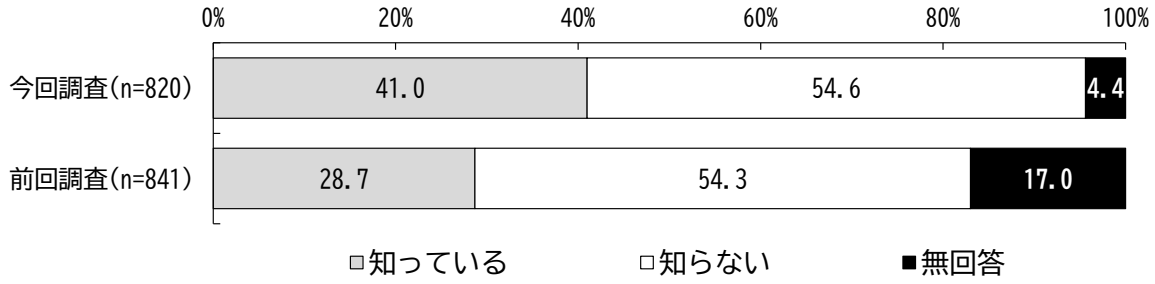
設問	問９（３）あなたは、お住まいの地区を担当する地域包括支援センターを知っていますか

◆「知っている」が約４割。前回調査から約 12 ポイント増加。

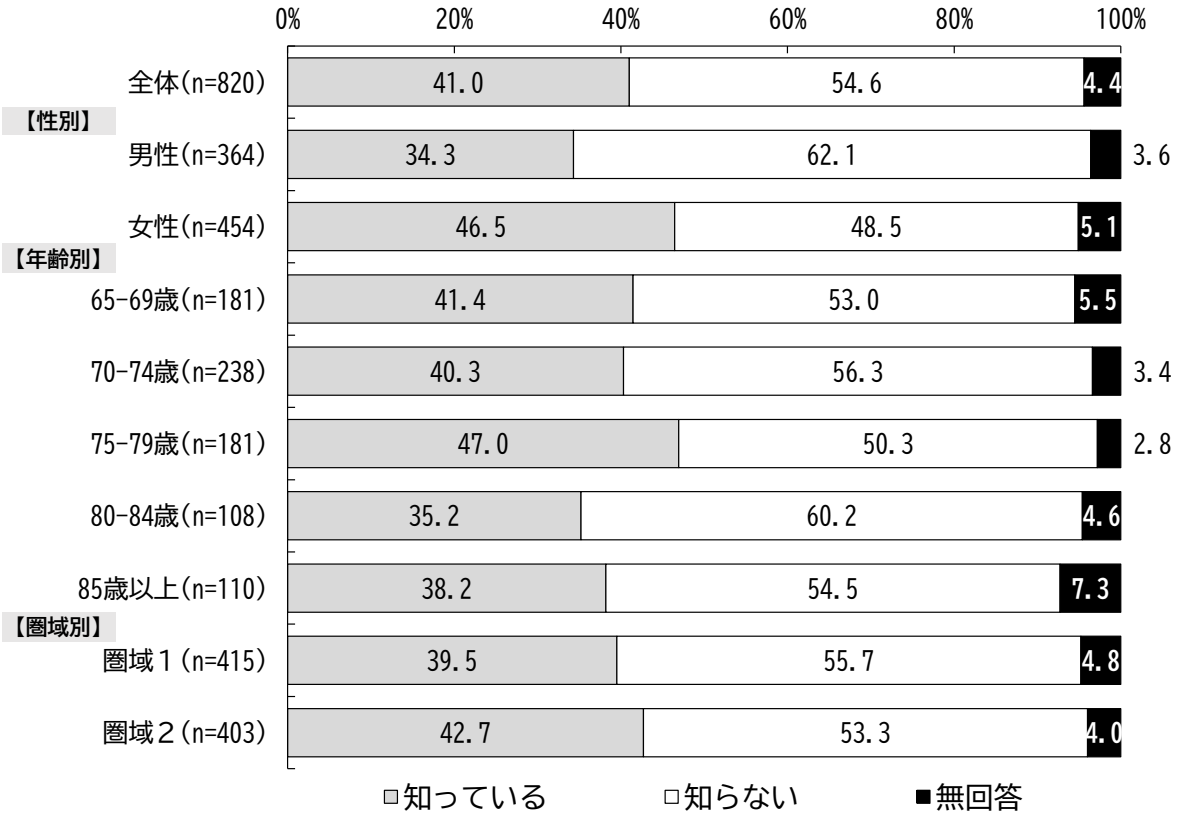
お住まいの地区の地域包括支援センターの認知度については、「知っている」（41.0%）が約４割と、前回調査（28.7%）から約 12 ポイント増加しています。

「知っている」と回答する割合は、性別では女性（46.5%）、年齢別では 75-79 歳（47.0%）で比較的多くなっています。

地域包括支援センターの認知度（全体／前回調査との比較）



地域包括支援センターの認知度（全体・性別・年齢別・圏域別）

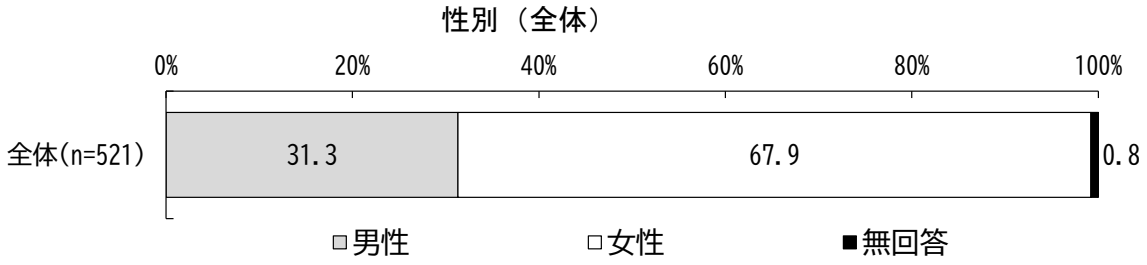


Ⅲ．在宅介護実態調査

１．回答者の属性

（１）性別

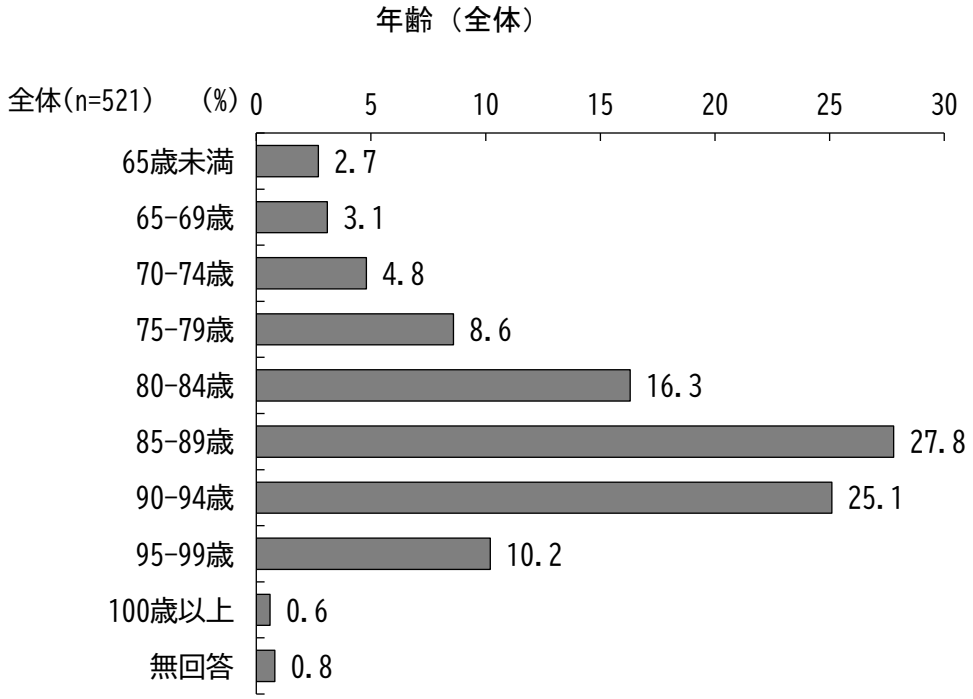
回答者の性別は、「女性」が67.9%、「男性」が31.3%となっています。



（２）年齢

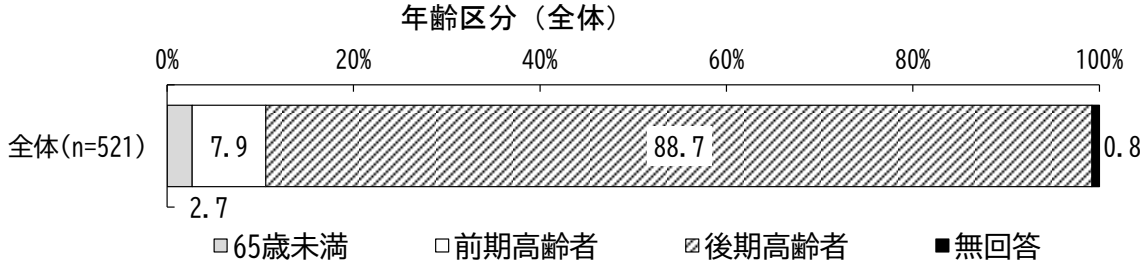
①年齢

回答者の年齢は、「85-89歳」が27.8%で最も多く、次いで「90-94歳」(25.1%)、「80-84歳」（16.3%）が続きます。



②年齢区分

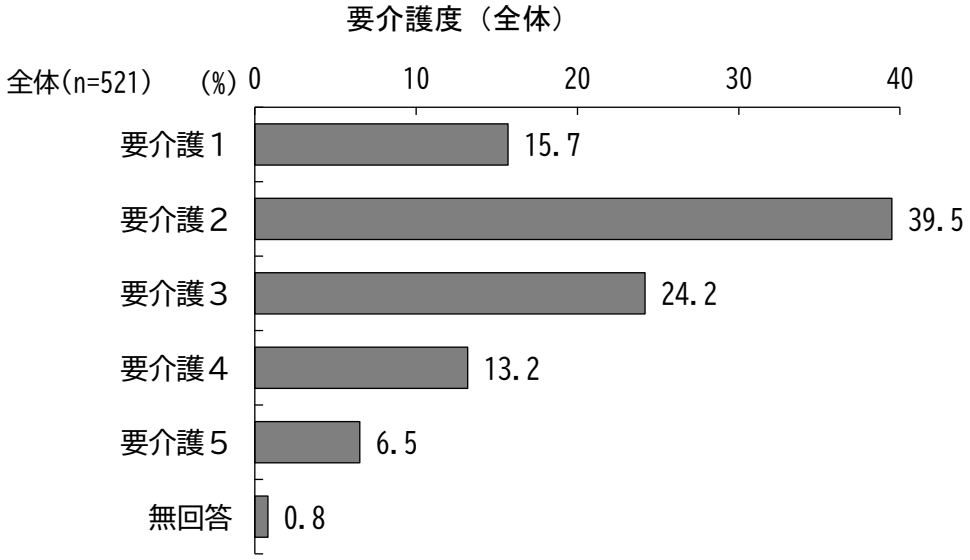
回答者の年齢区分は、「後期高齢者」が 88.7%、「前期高齢者」が 7.9%、「65 歳未満」が 2.7%となっています。



（３）要介護度

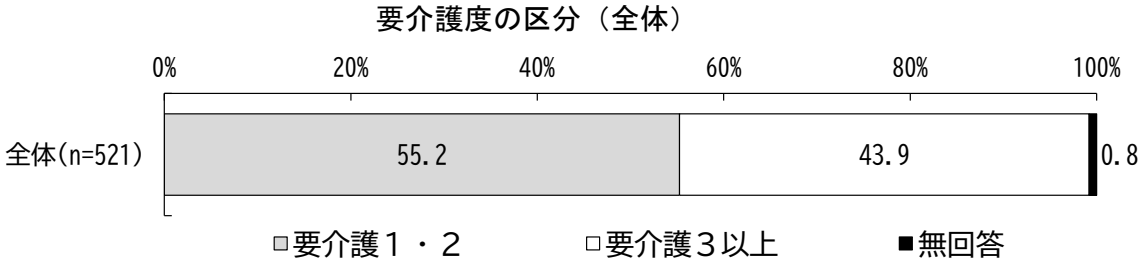
①要介護度

回答者の要介護度は、「要介護２」が 39.5%で最も多く、次いで「要介護３」（24.2%）、「要介護１」（15.7%）が続きます。



②認定区分

回答者の要介護度の区分は、「要介護１・２」が 55.2%、「要介護３以上」が 43.9%となっています。

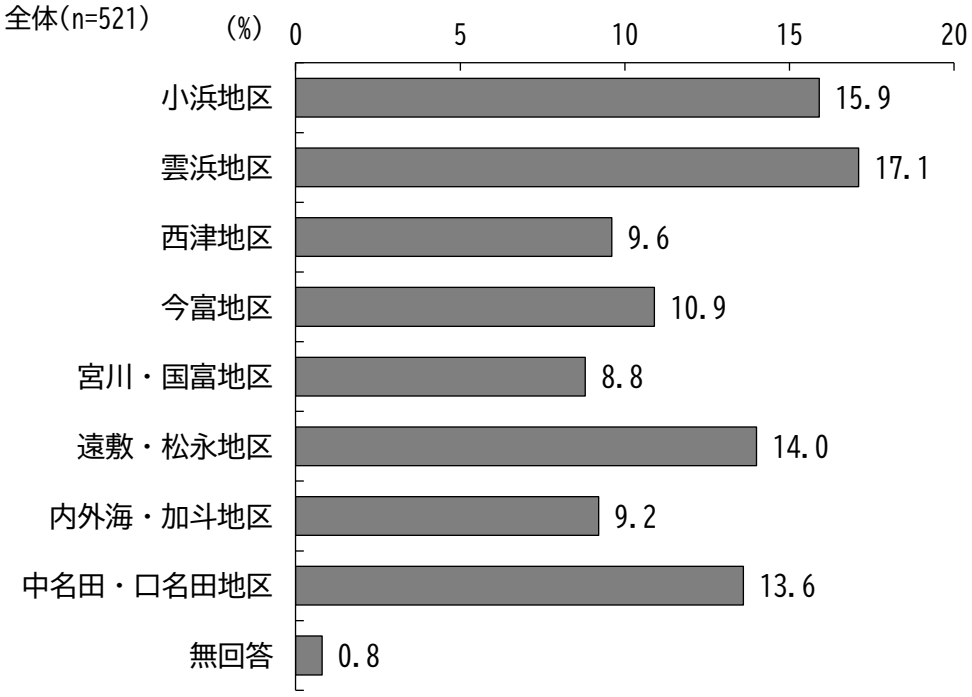


（４）居住地区

①居住地区

回答者の居住地区は、「雲浜地区」が 17.1％で最も多く、次いで「小浜地区」（15.9％）、「遠敷・松永地区」（14.0％）、「中名田・口名田地区」（13.6％）が続きます。

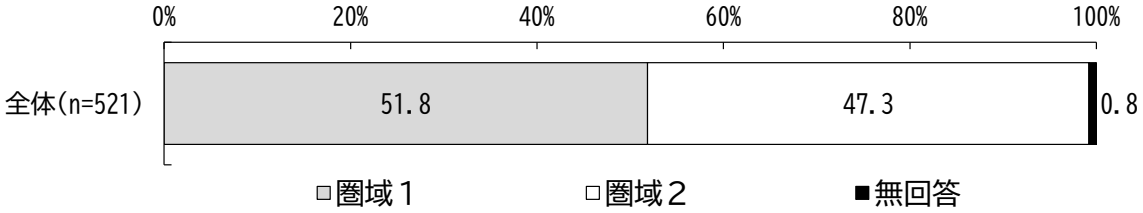
居住地区（全体）



②日常生活圏域

回答者の日常生活圏域は、「圏域１」が 51.8％、「圏域２」が 47.3％となっています。

日常生活圏域（全体）



２．基本調査項目（Ａ票）

（１）世帯類型

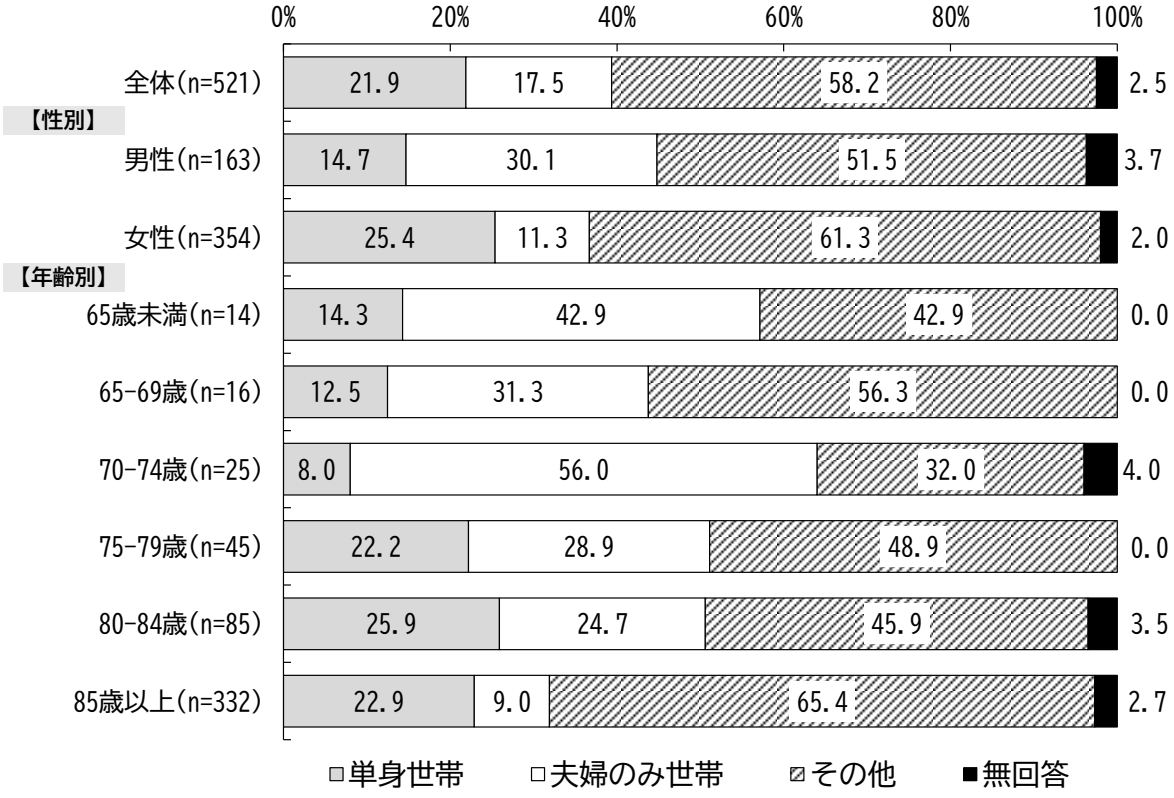
設問	Ａ票問１　世帯類型について、ご回答ください

◆「単身世帯」が 21.9%、「夫婦のみ世帯」が 17.5%。
◆「単身世帯」は女性、80-84 歳、西津地区、要介護１・２で比較的多い。

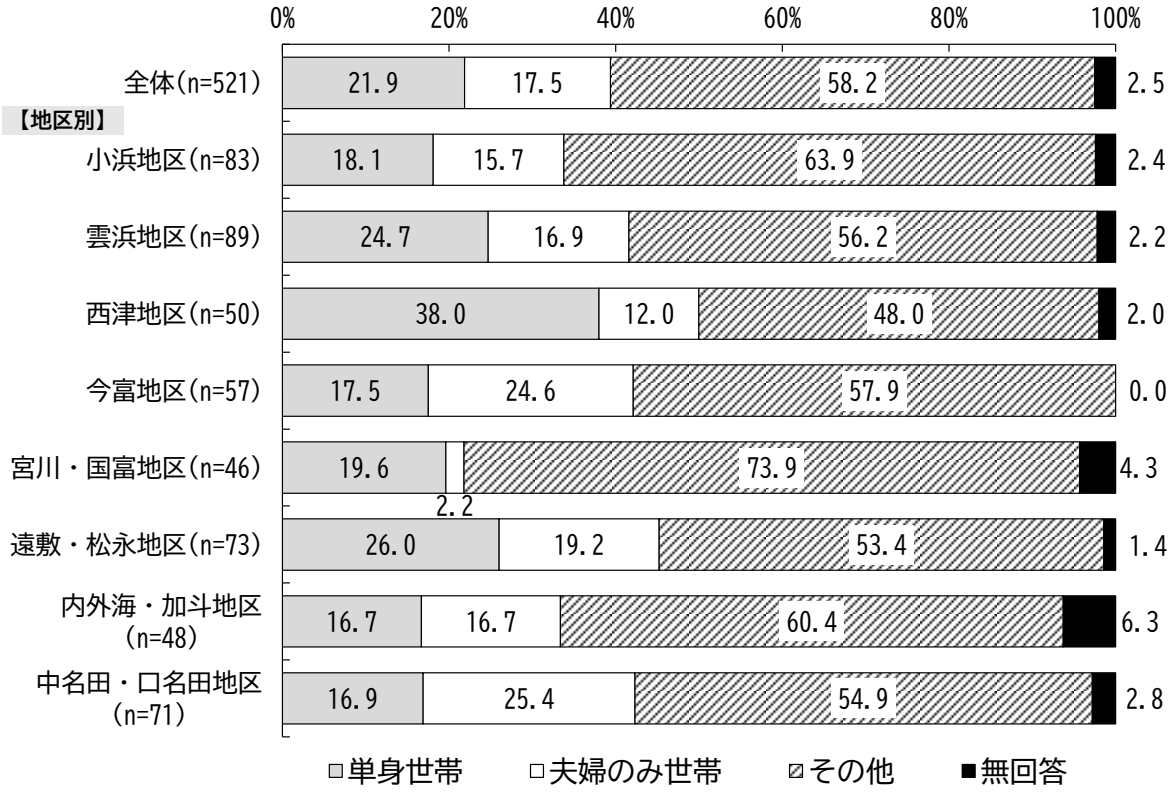
世帯類型については、「その他」が 58.2%で最も多く、次いで「単身世帯」が 21.9%、「夫婦のみ世帯」が 17.5%となっています。

「単身世帯」の割合は、性別の女性（25.4%）、年齢別の 80-84 歳（25.9%）、地区別の西津地区（38.0%）、要介護度別の要介護１・２（25.7%）で比較的多くなっています。

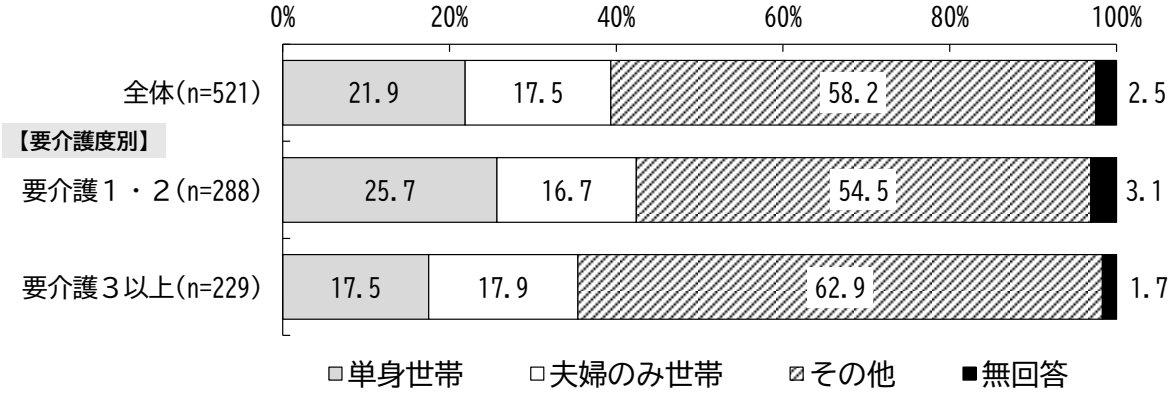
世帯類型（全体・性別・年齢別）



世帯類型（全体・地区別）



世帯類型（全体・要介護度別）



（２）家族等による介護の頻度

設問	Ａ票問２　ご家族やご親族の方からの介護は、週にどのくらいありますか（同居していない子どもや親族等からの介護を含む）

◆家族等による介護が「ほぼ毎日ある」は 66.6%。

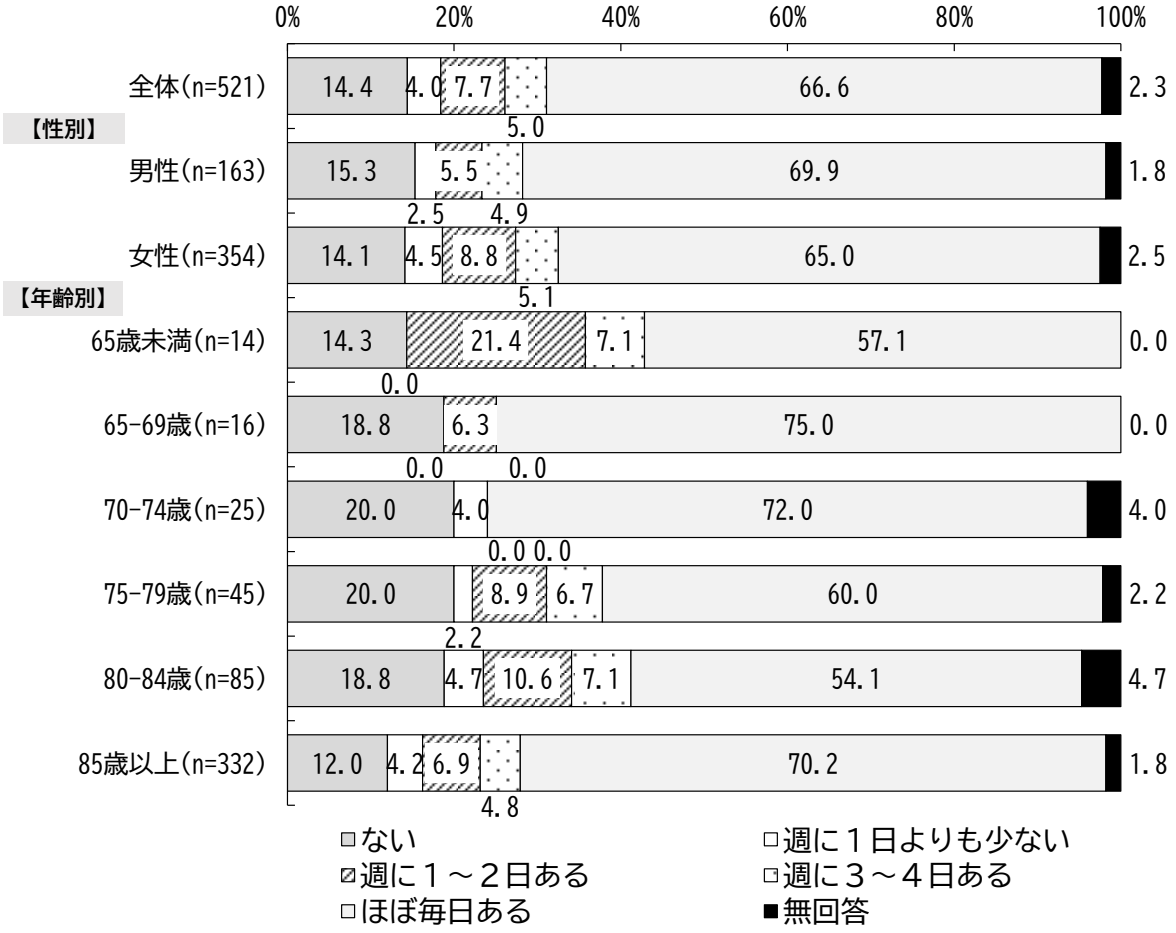
家族等による介護の頻度については、「ほぼ毎日ある」が 66.6%を占め、次いで「ない」(14.4%)、「週に１～２日ある」(7.7%) が続きます。

性別では大きな差はみられませんが、年齢別では、「ほぼ毎日ある」が 65-69 歳 (75.0%)、70-74 歳 (72.0%)、85 歳以上 (70.2%) で比較的多くなっています。

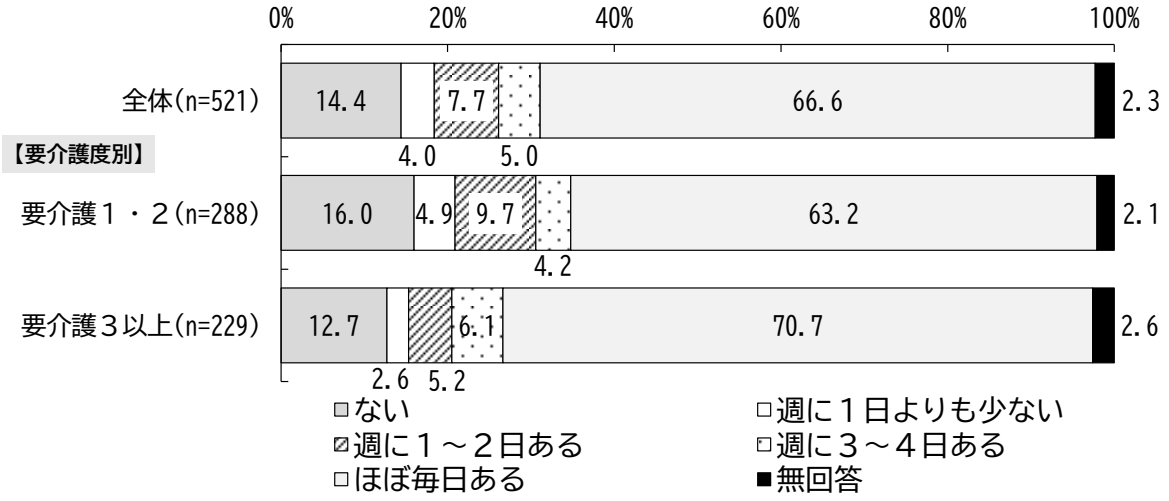
要介護度別では、「ほぼ毎日ある」が要介護１・２で 63.2%、要介護３以上で 70.7%となっています。

世帯類型別では、「ほぼ毎日ある」がその他 (79.9%) で約８割となっています。

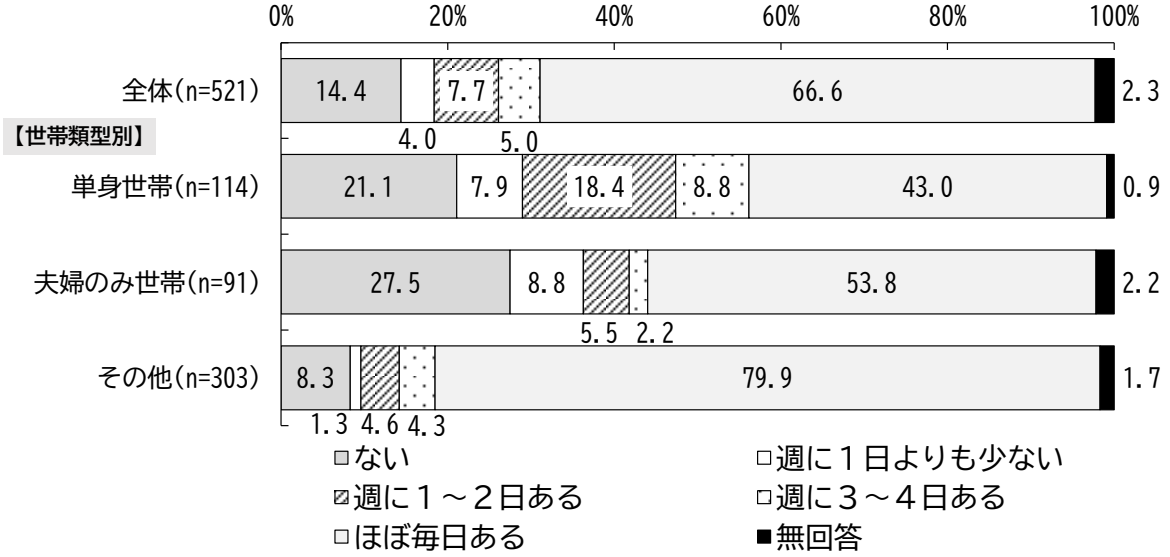
家族等による介護の頻度（全体・性別・年齢別）



家族等による介護の頻度（全体・要介護度別）



家族等による介護の頻度（全体・世帯類型別）



（３）主な介護者について

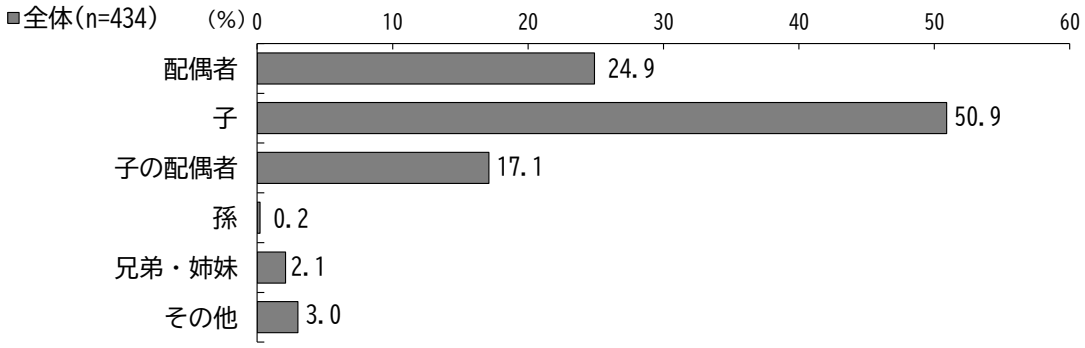
設問	Ａ票問３　主な介護者の方は、どなたですか Ａ票問４　主な介護者の方の性別について、ご回答ください Ａ票問５　主な介護者の方の年齢について、ご回答ください Ａ票問６　主な介護者の方のお住まいについて、ご回答ください

◆主な介護者は子、女性が多く、年齢は 60 歳以上が７割。また、同居している介護者が７割以上を占め、介護者のうち約９割が市内在住。

①主な介護者の本人との関係

主な介護者の本人との関係については、「子」が 50.9%で最も多く、次いで「配偶者」（24.9%）、「子の配偶者」（17.1%）が続きます。

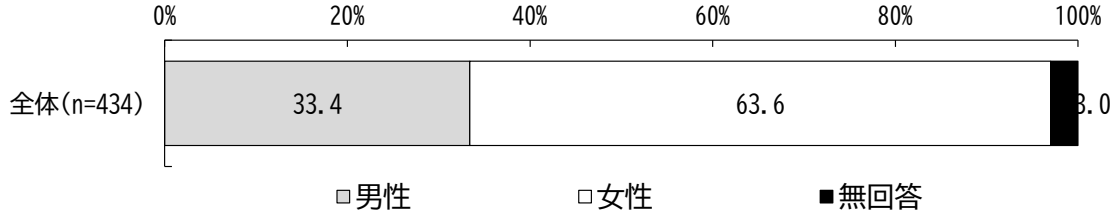
主な介護者の本人との関係（全体）



②主な介護者の性別

主な介護者の性別については、「女性」が 63.6%、「男性」が 33.4%となっています。

主な介護者の性別（全体）

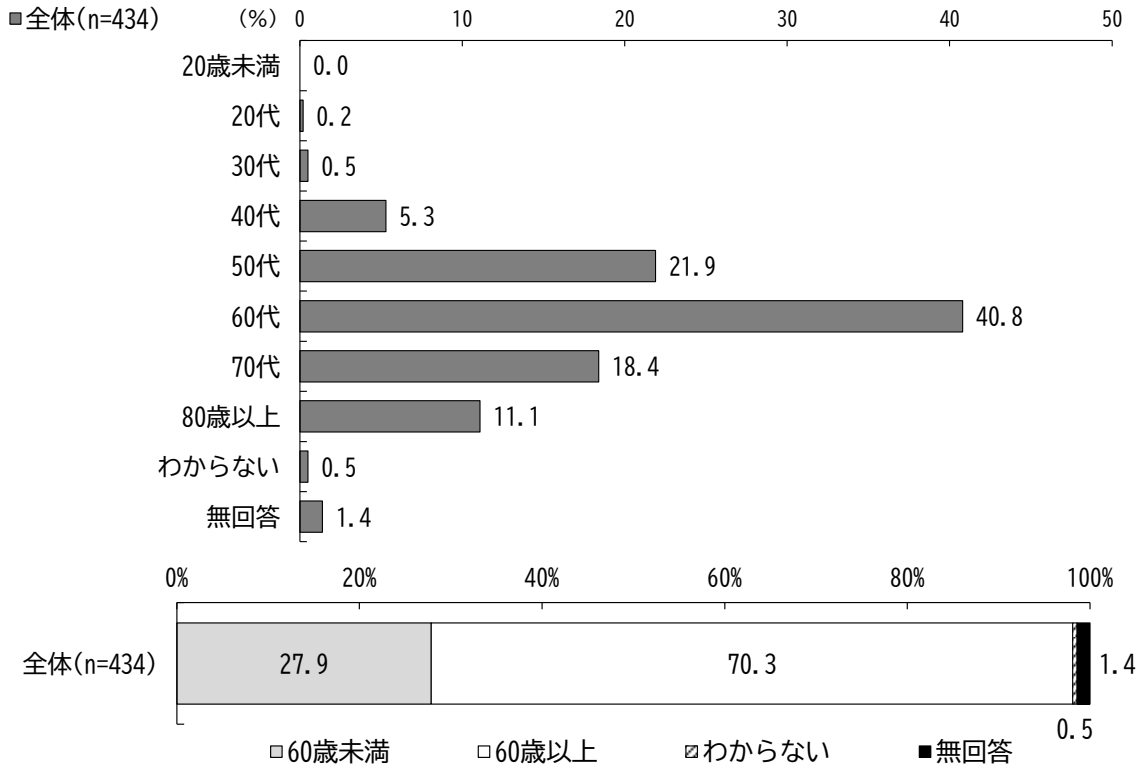


③主な介護者の年齢

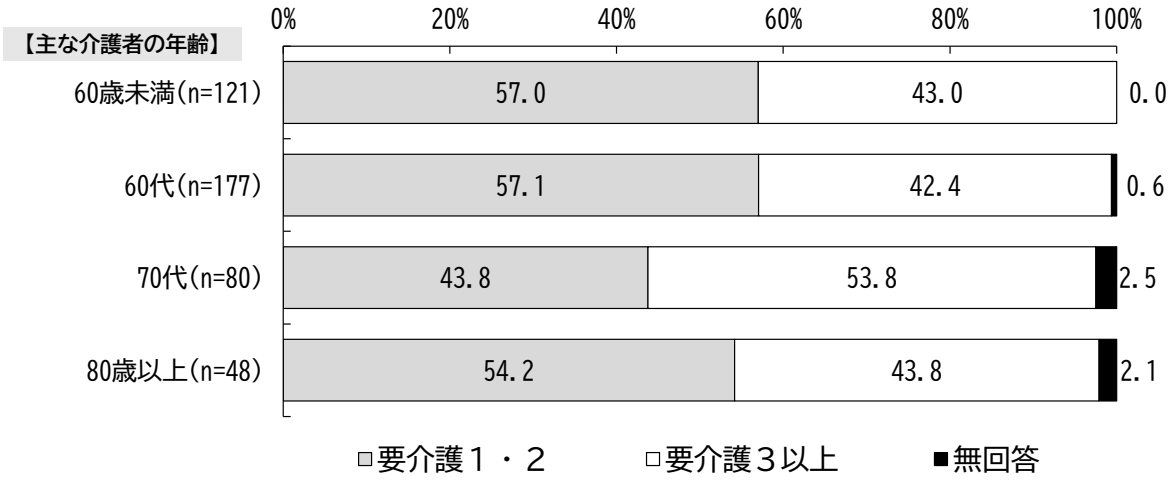
主な介護者の年齢については、「60 代」が 40.8%で最も多く、次いで「50 代」(21.9%)、「70 代」(18.4%)、「80 歳以上」(11.1%)が続き、60 歳以上は 70.3%、60 歳未満は 27.9%となっています。

主な介護者の年齢別に介護されている方の要介護度をみると、「要介護３以上」が 70 代で 53.8%と最も多くなっています。

主な介護者の年齢（全体）



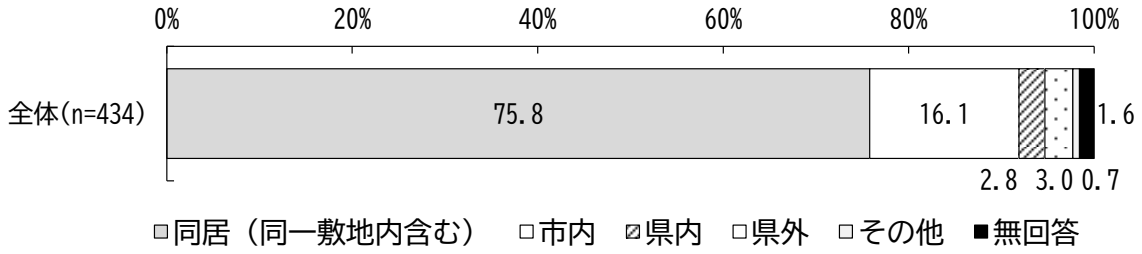
主な介護者の年齢と介護されている方の要介護度（全体）



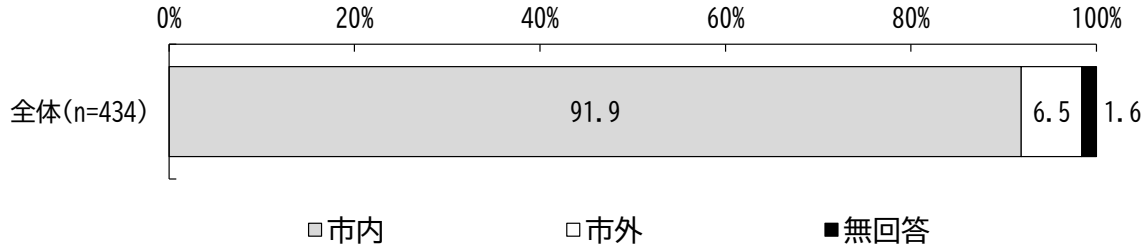
④主な介護者の居住地

主な介護者の居住地については、「同居（同一敷地内含む）」が 75.8%で最も多く、次いで「市内」（16.1%）が続き、市内在住の介護者は 91.9%と９割を占めています。

主な介護者の居住地（全体）



主な介護者の居住地（全体）



（４）多重介護について

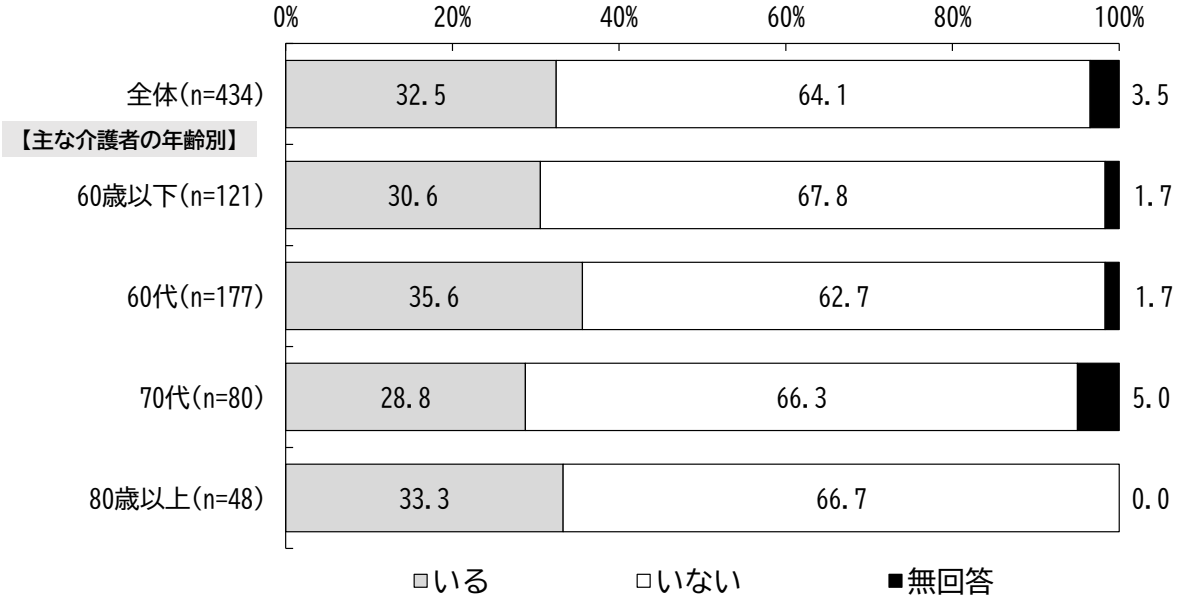
設問	Ａ票問７　あなたの主な介護者の方は、あなた以外にも介護をしている人がいますか

◆介護者の３人に１人が多重介護の状況。

主な介護者が複数の方を介護しているかどうかをたずねたところ、他に介護している人が「いる」と回答した人が 32.5%と、ほぼ３人に１人が多重介護の状況にある結果となっています。

主な介護者の年齢別でみると、「いる」と回答する割合が各年齢層で３割前後となっており、60 代で 35.6%と比較的多くなっています。

多重介護の状況（全体・主な介護者の年齢別）



（５）主な介護者が行っている介護

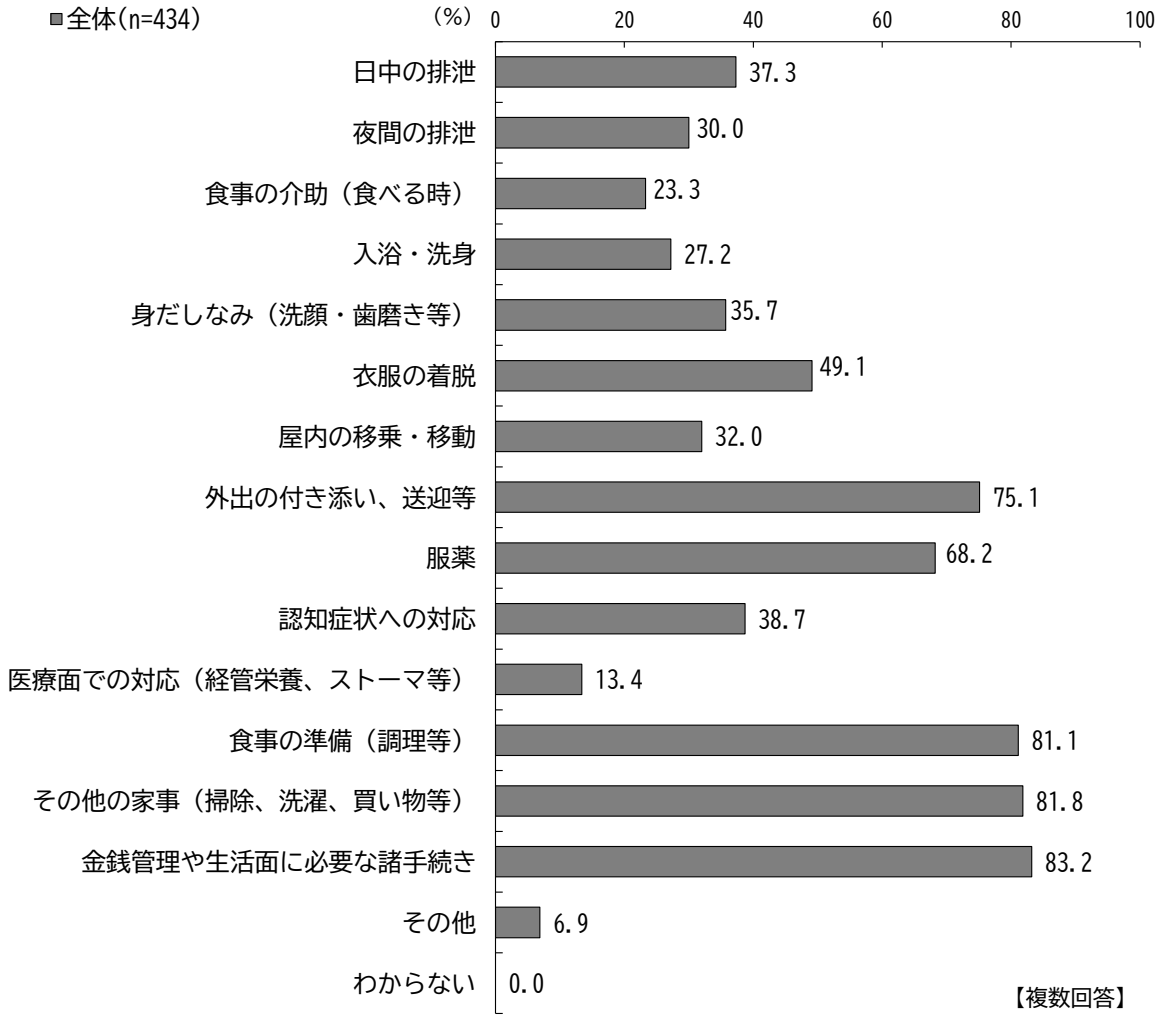
設問	Ａ票問８　現在、主な介護者の方が行っている介護等について、ご回答ください

◆「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」、「食事の準備（調理等）」「外出の付き添い、送迎等」が上位を占める。

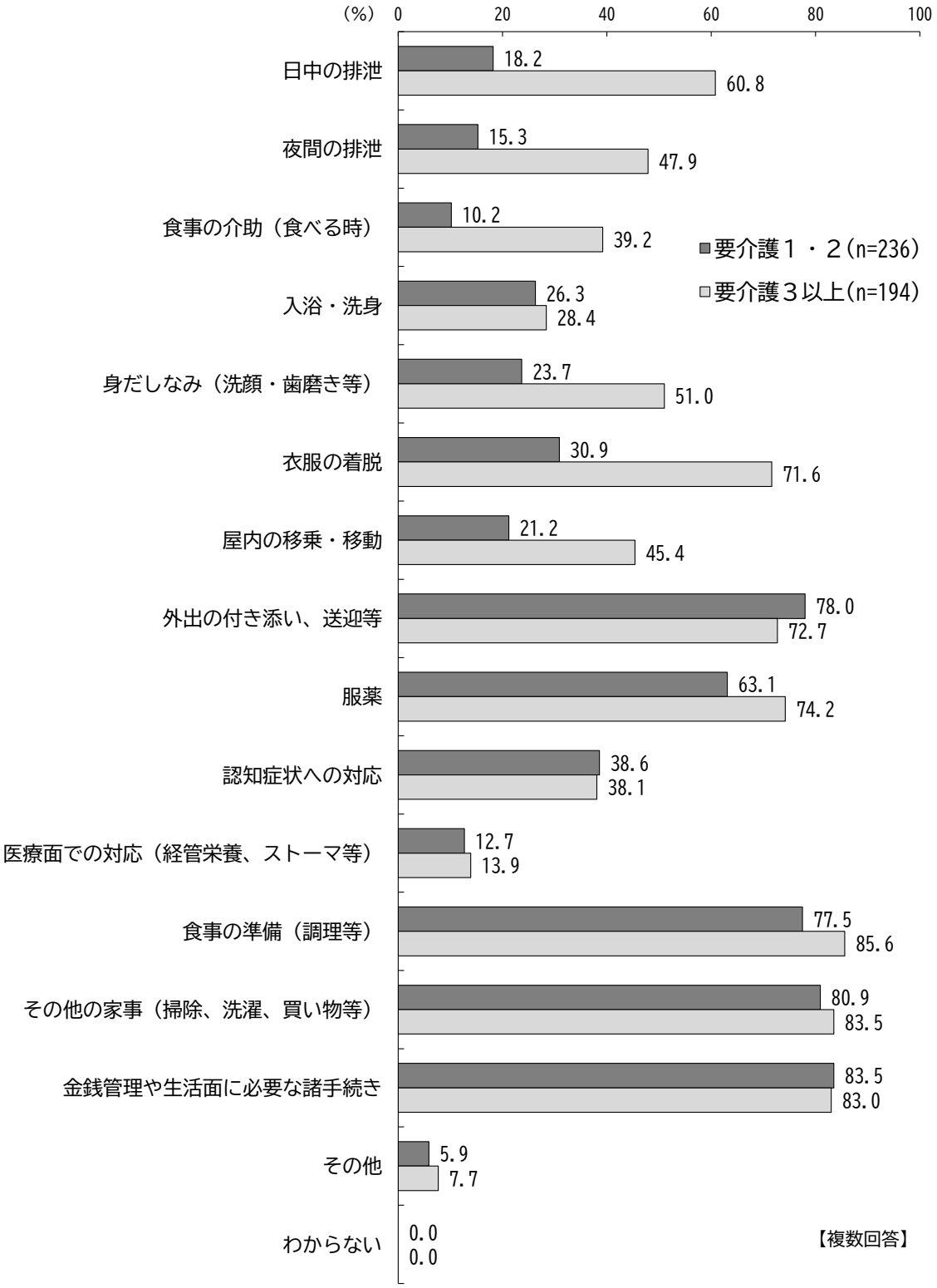
主な介護者が行っている介護については、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」（83.2%）、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」（81.8%）、「食事の準備（調理等）」（81.1%）、「外出の付き添い、送迎等」（75.1%）、が続きます。

要介護度別でみると、要介護３以上ではほとんどの生活動作で介護が必要となることがうかがえます。

主な介護者が行っている介護（全体）



主な介護者が行っている介護（要介護度別）



（６）介護のための離職の有無

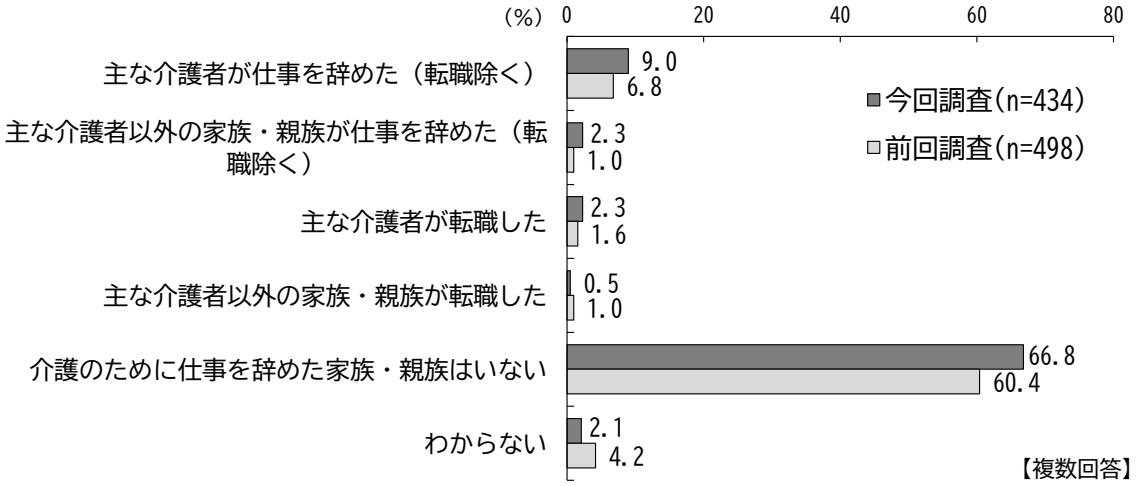
設問	Ａ票問９　ご家族やご親族の中で、ご本人の介護を主な理由として、過去１年の間に仕事を辞めた方はいますか（現在働いているかどうかや、現在の勤務形態は問いません）

◆介護のため「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」は約１割。

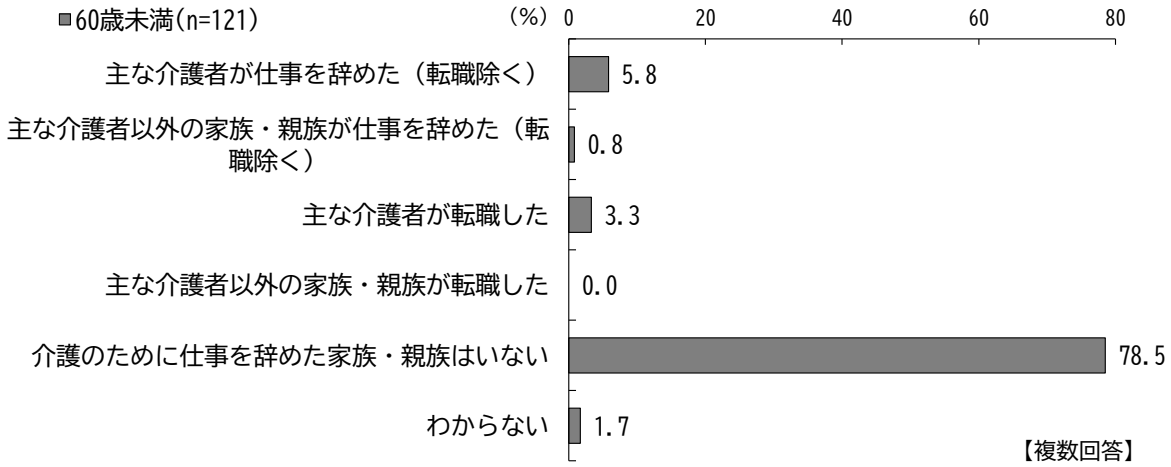
介護のための離職の有無をたずねたところ、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が 66.8%を占め、「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」が 9.0%と約１割となっています。また、前回調査と比較しても傾向に差はみられませんでした。

主な介護者の年齢別で 60 歳未満の傾向をみると、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が 78.5%を占め、「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」は 5.8%となっています。

介護のための離職の有無（全体／前回調査との比較）



介護のための離職の有無（主な介護者の年齢別で 60 歳未満）



（７）介護保険サービス以外の支援・サービスの利用状況

設問	Ａ票問 10　現在、利用している、「介護保険サービス以外」の支援・サービスについて、ご回答ください

◆利用している具体的なサービスは「移送サービス」、「配食」、「外出同行」など。

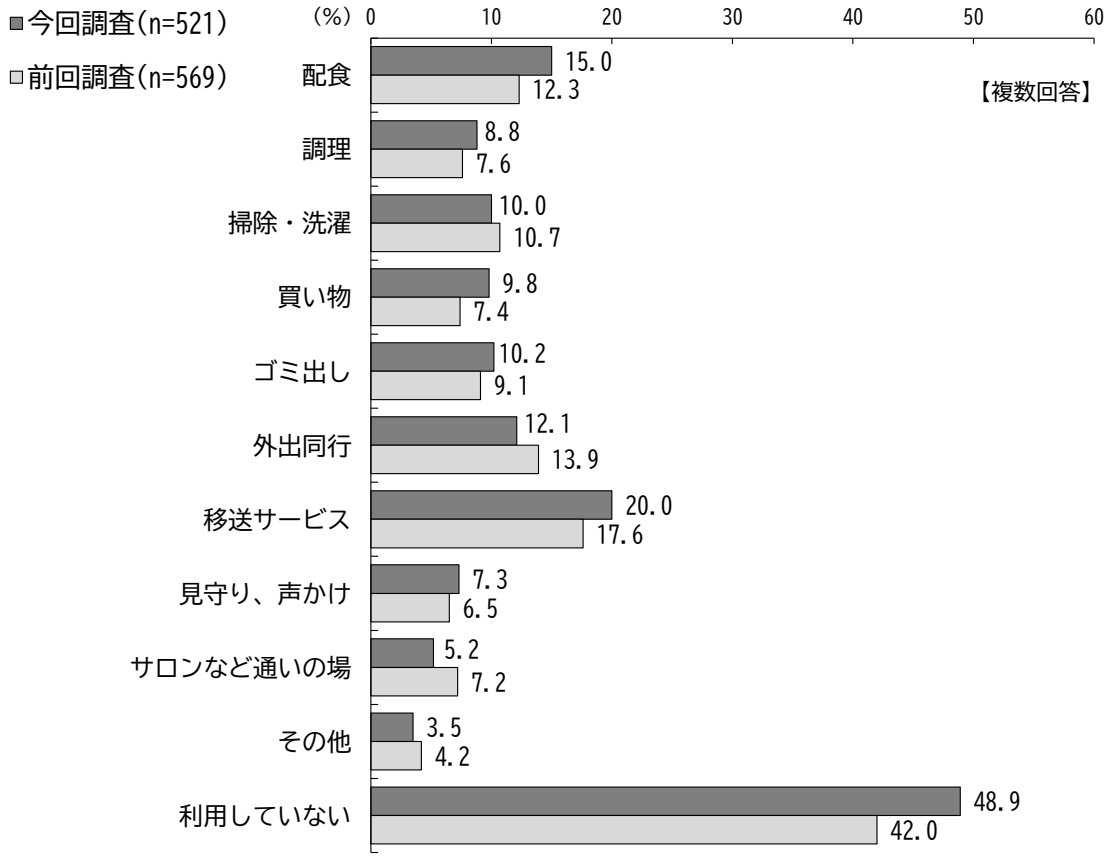
①介護保険サービス以外の支援・サービスの利用状況

介護保険サービス以外の支援・サービスの利用状況については、「利用していない」(48.9%) が約半数を占めますが、利用している具体的なサービスとしては「移送サービス」が 20.0%で最も多く、次いで「配食」(15.0%)、「外出同行」(12.1%) が続きます。

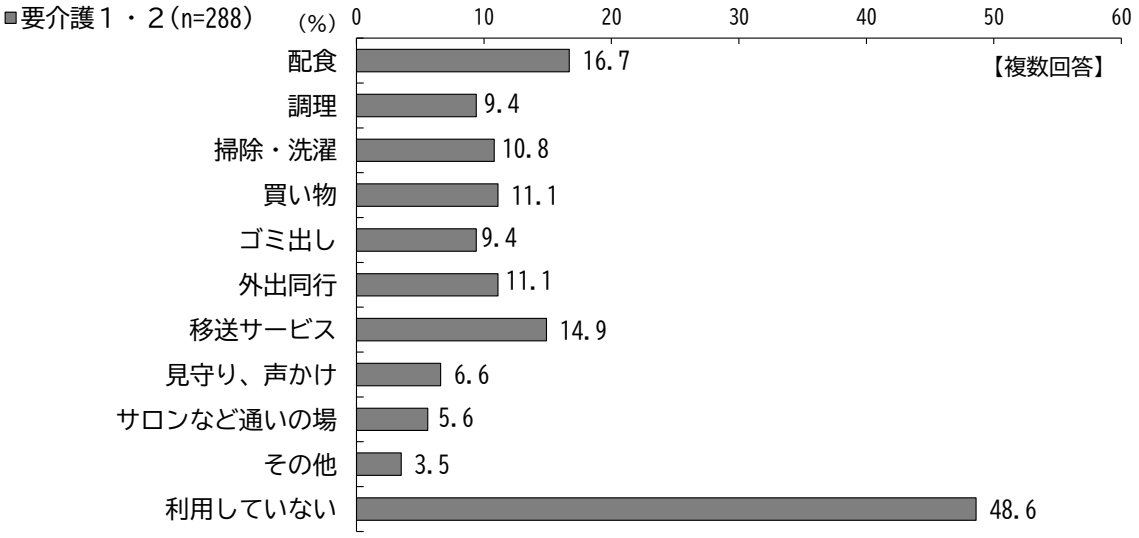
要介護度別でみると、具体的なサービスの上位回答は要介護１・２では「配食」（16.7%)、要介護３以上では「移送サービス」（26.2%）となっています。

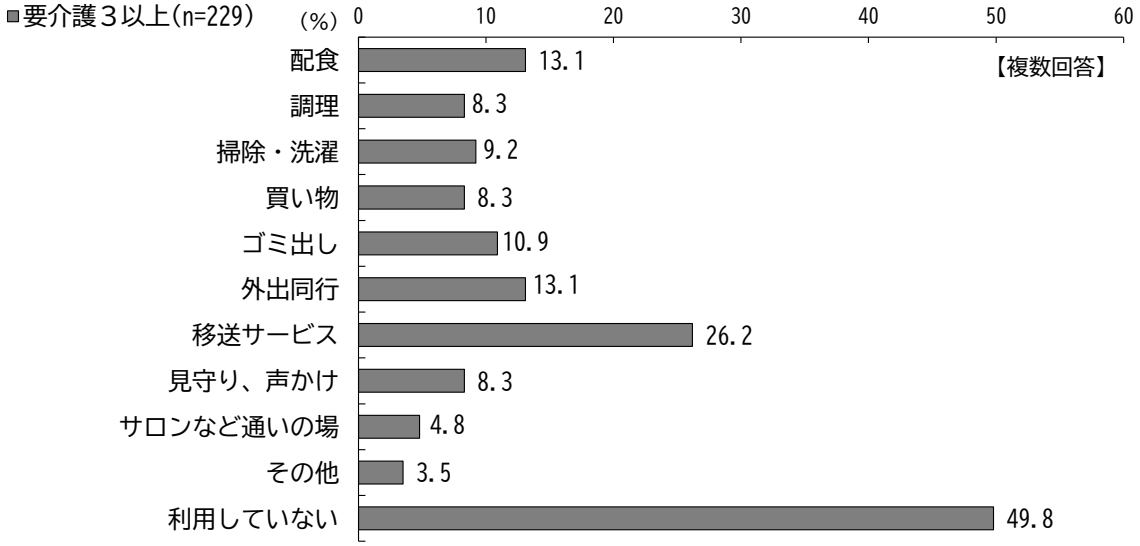
世帯類型別では、単身世帯での多くの項目の回答割合が１割を超えるなど、各種支援・サービスを利用している傾向がみられ、具体的なサービスの上位回答は「買い物」(26.3%)、「掃除・洗濯」(24.6%）などとなっています。

介護保険サービス以外の支援・サービスの利用状況（全体／前回調査との比較）

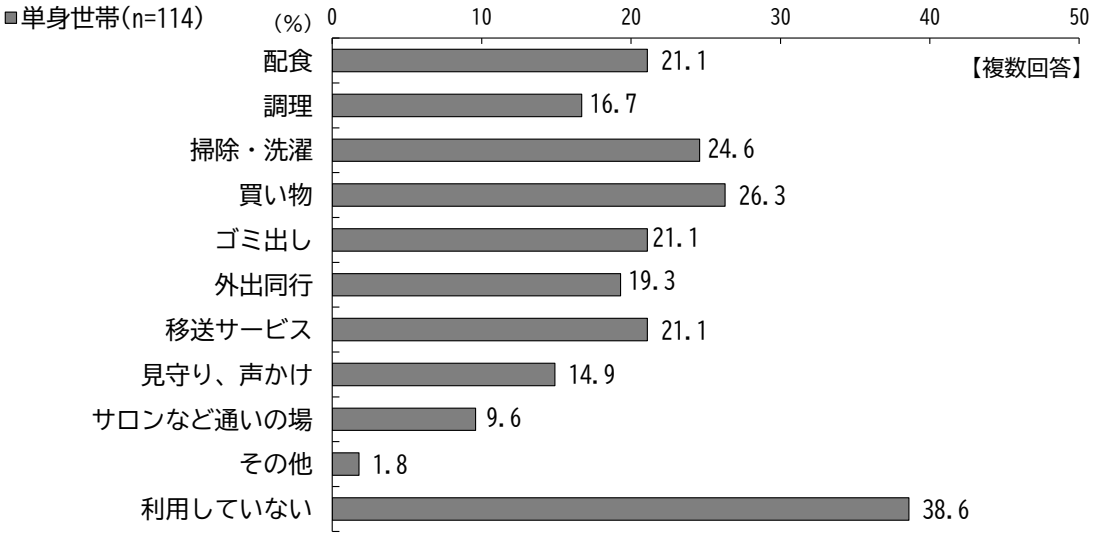


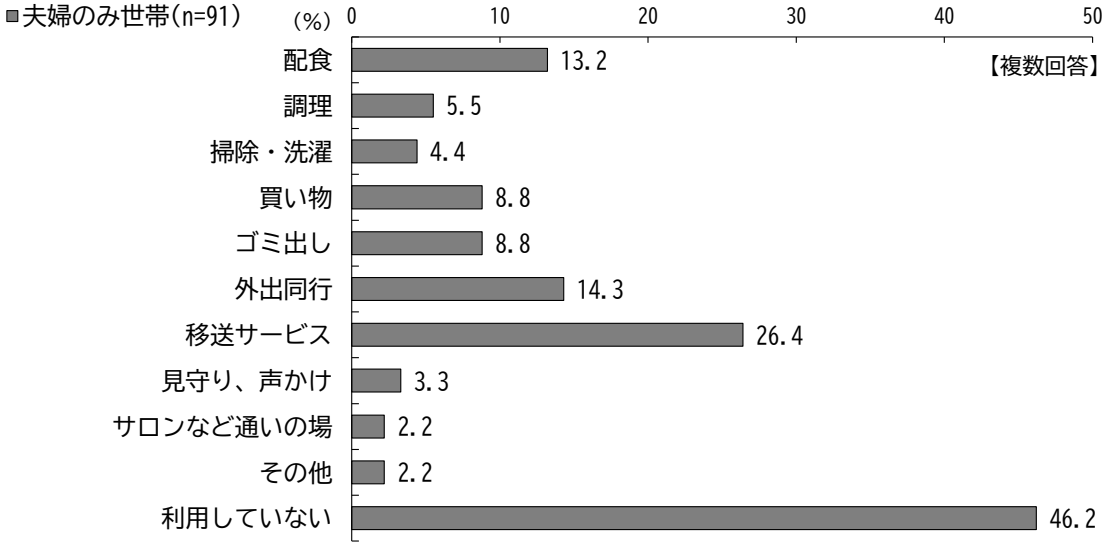
介護保険サービス以外の支援・サービスの利用状況（要介護度別）

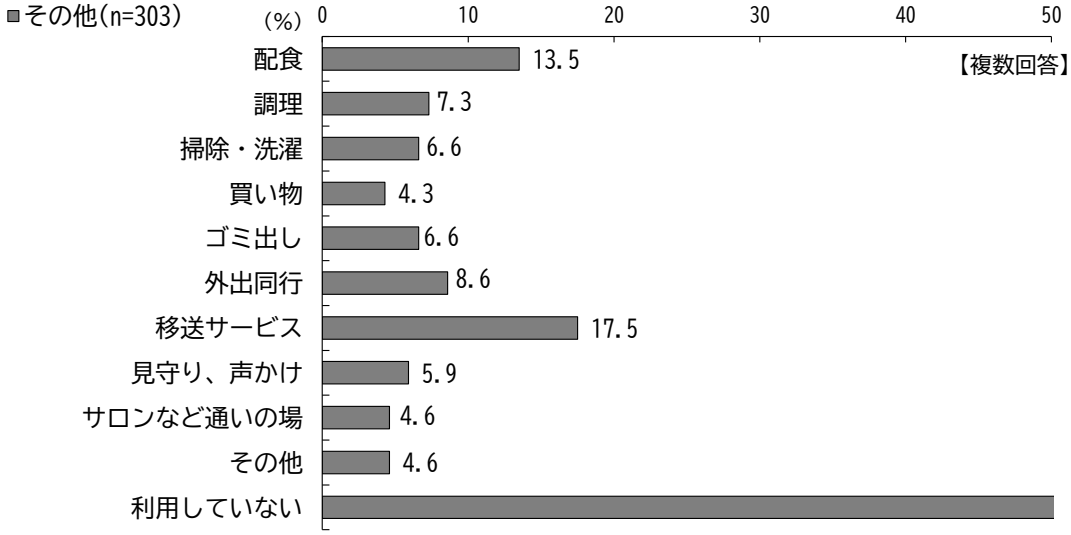




介護保険サービス以外の支援・サービスの利用状況（世帯類型別）







②地区別にみる介護保険サービス以外の支援・サービスの利用状況

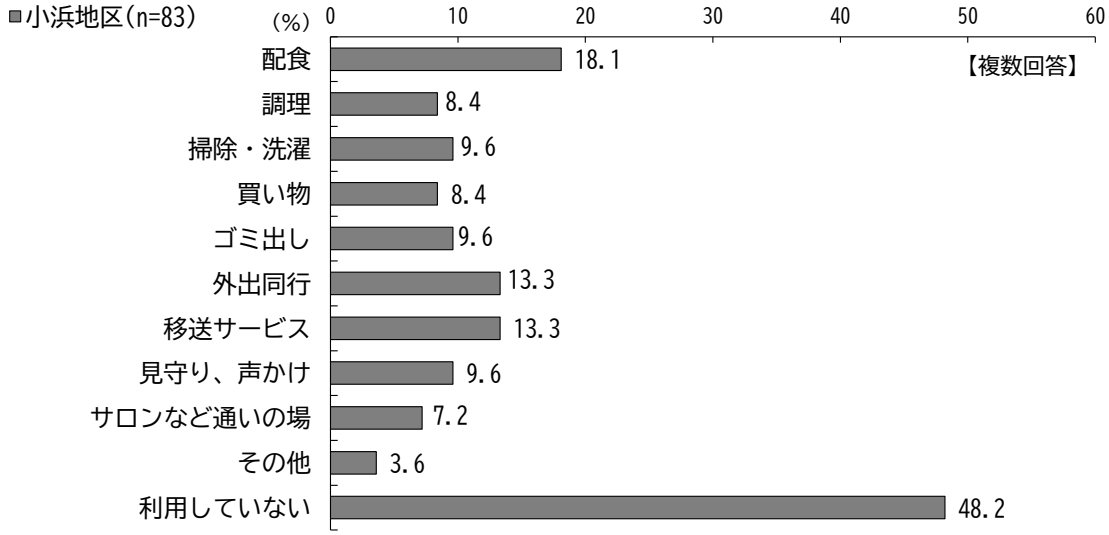
必要な生活支援サービスについて、地区別の利用状況をまとめると次のとおりとなり、「移送サービス」、「外出同行」、「配食」などがそれぞれ上位に挙げられています。

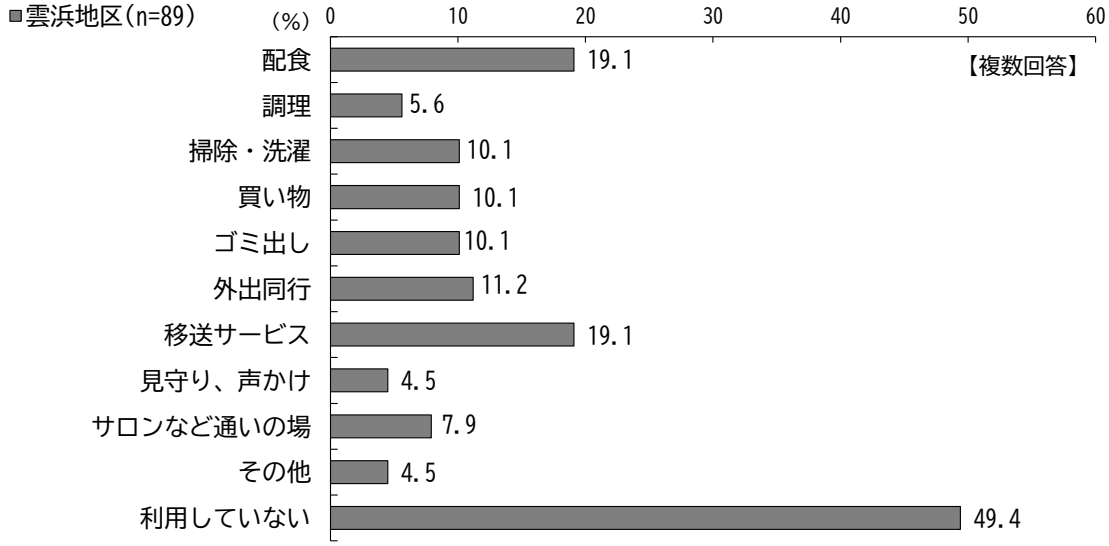
利用している生活支援サービス（地区別）

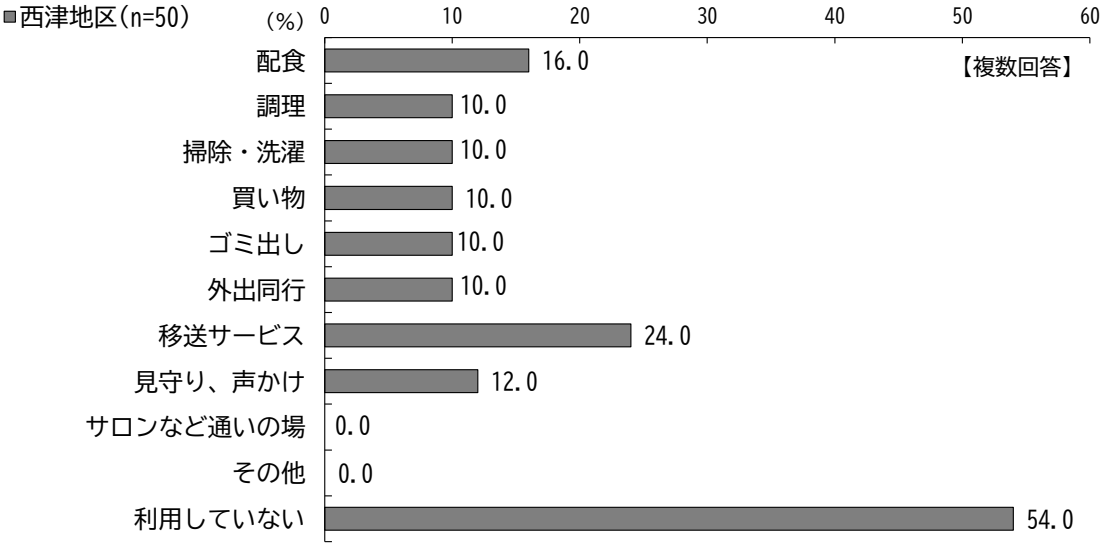
単位：％

地区	上位項目			利用していない
	第１位	第２位	第３位	
小浜地区	配食 18.1	外出同行／移送サービス 13.3		48.2
雲浜地区	配食、移送サービス 19.1		外出同行 11.2	49.4
西津地区	移送サービス 24.0	配食 16.0	見守り、声かけ 12.0	54.0
今富地区	移送サービス 29.8	配食 17.5	外出同行 14.0	49.1
宮川・国富地区	移送サービス 19.6	配食 10.9	ゴミ出し／サロンなど通いの場 6.5	47.8
遠敷・松永地区	移送サービス 17.8	外出同行 13.7	買い物 12.3	49.3
内外海・加斗地区	移送サービス 25.0	外出同行 22.9	買い物 16.7	52.1
中名田・口名田地区	移送サービス 16.9	配食／調理 12.7		45.1

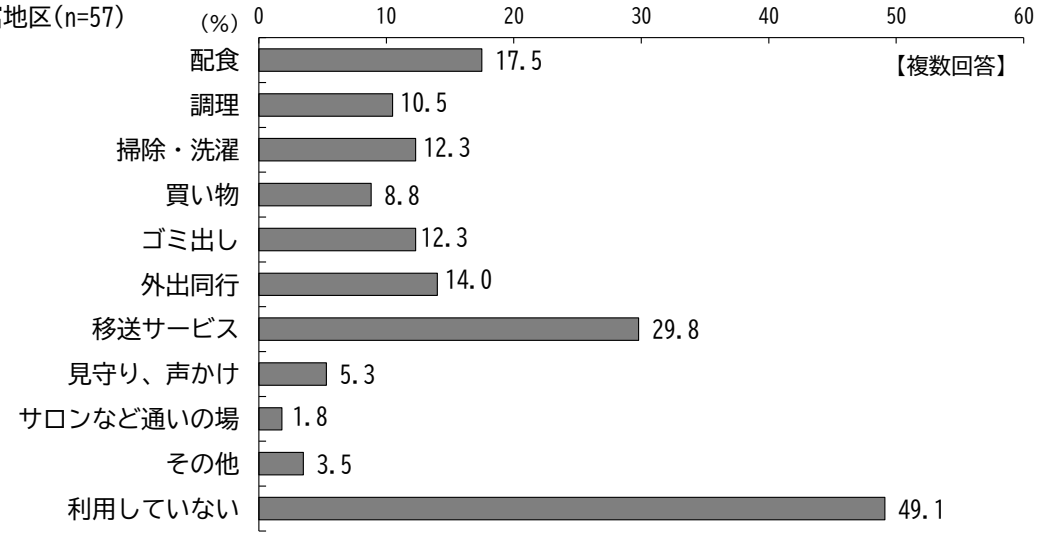
介護保険サービス以外の支援・サービスの利用状況（地区別）



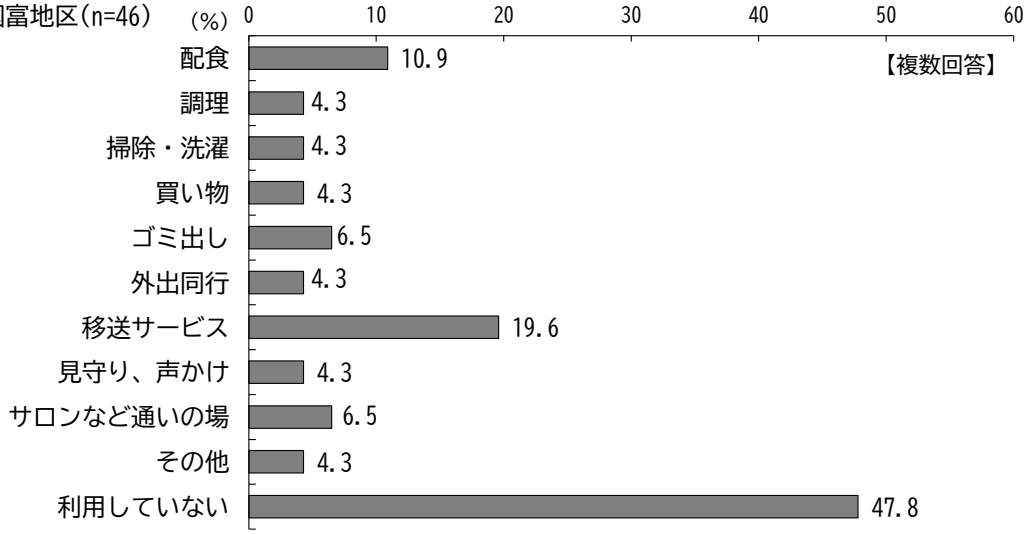




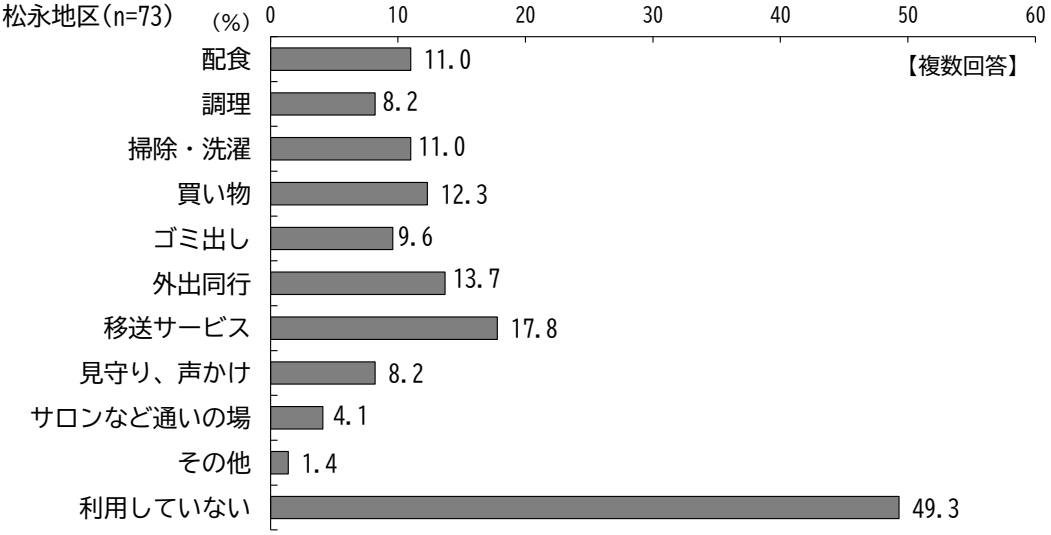
■今富地区(n=57)



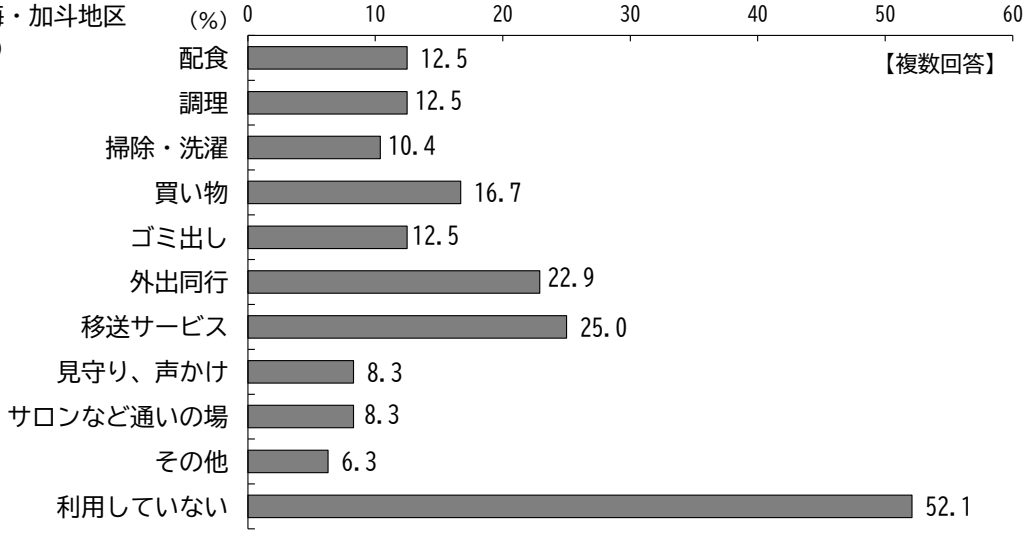
■宮川・国富地区(n=46)



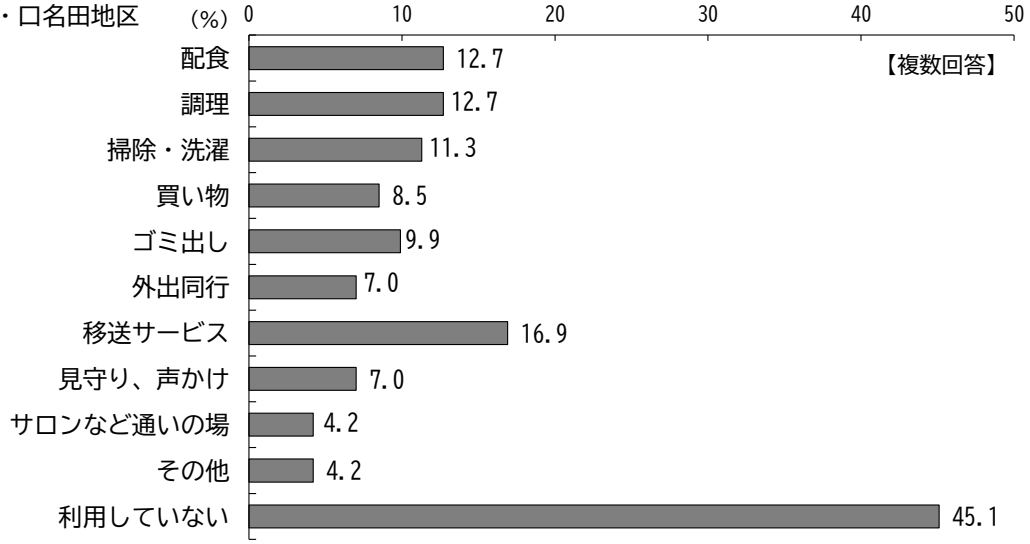
■遠敷・松永地区(n=73)



■内外海・加斗地区
（n=48）



■中名田・口名田地区
（n=71）



（８）在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス

設問	Ａ票問 11　今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（現在利用しているが、さらなる充実が必要と感じる支援・サービスを含む）について、ご回答ください

◆「移送サービス」、「外出同行」が上位を占め、移動手段への要望が強い。

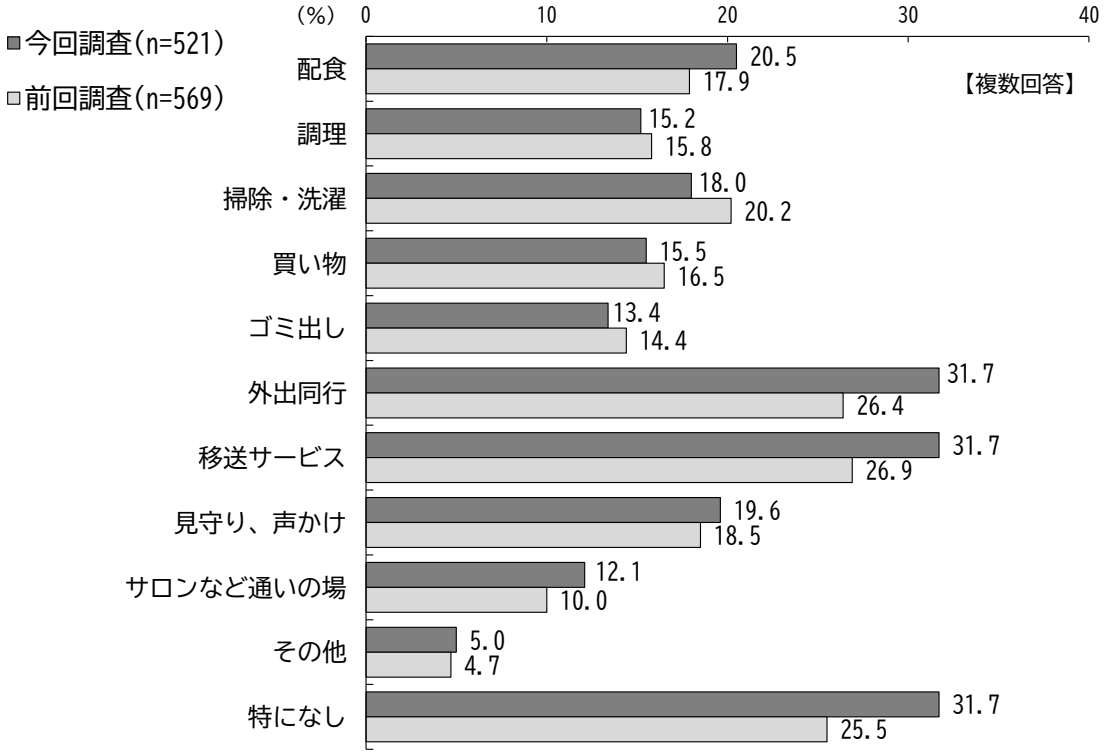
①必要な生活支援サービス

在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービスについては、「移送サービス」及び「外出同行」（同率 31.7%）が上位を占め、移動手段への要望が強いことがうかがえます。前回調査と比較すると、「外出同行」や「移送サービス」が上位を占め、回答する割合がそれぞれ約５ポイント増加しています。

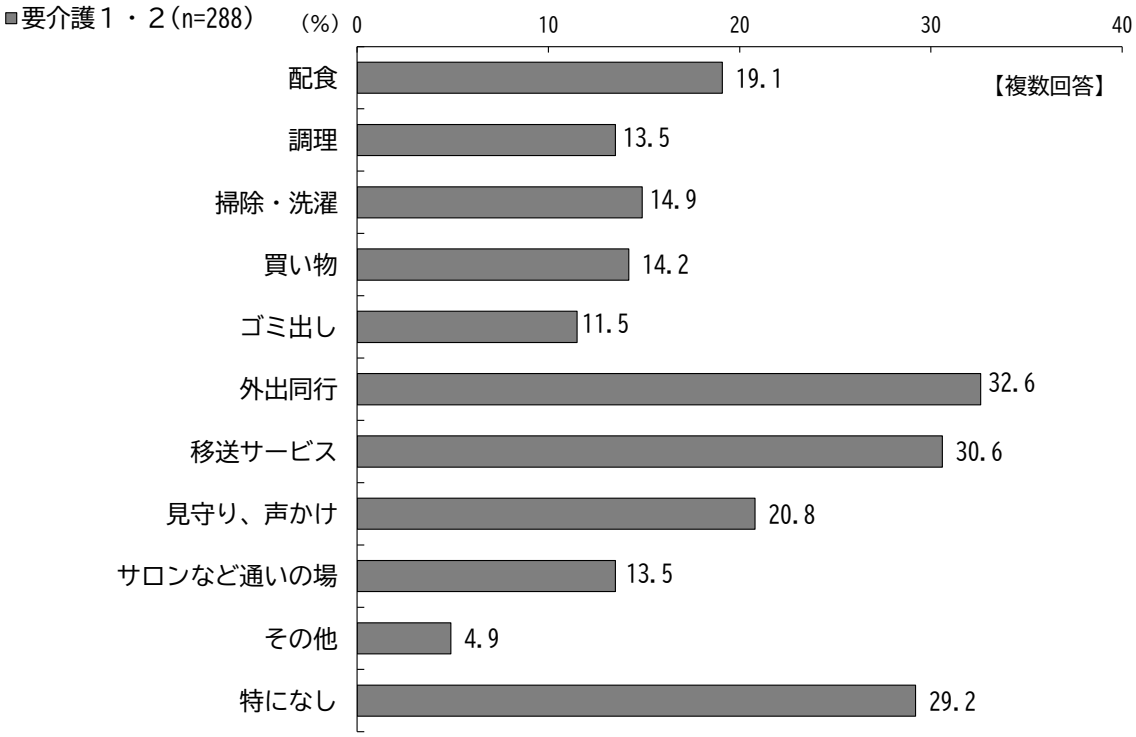
要介護度別では、要介護１・２では「外出同行」(32.6%)、要介護３以上では「移送サービス」（33.6%）が最も多くなっています。

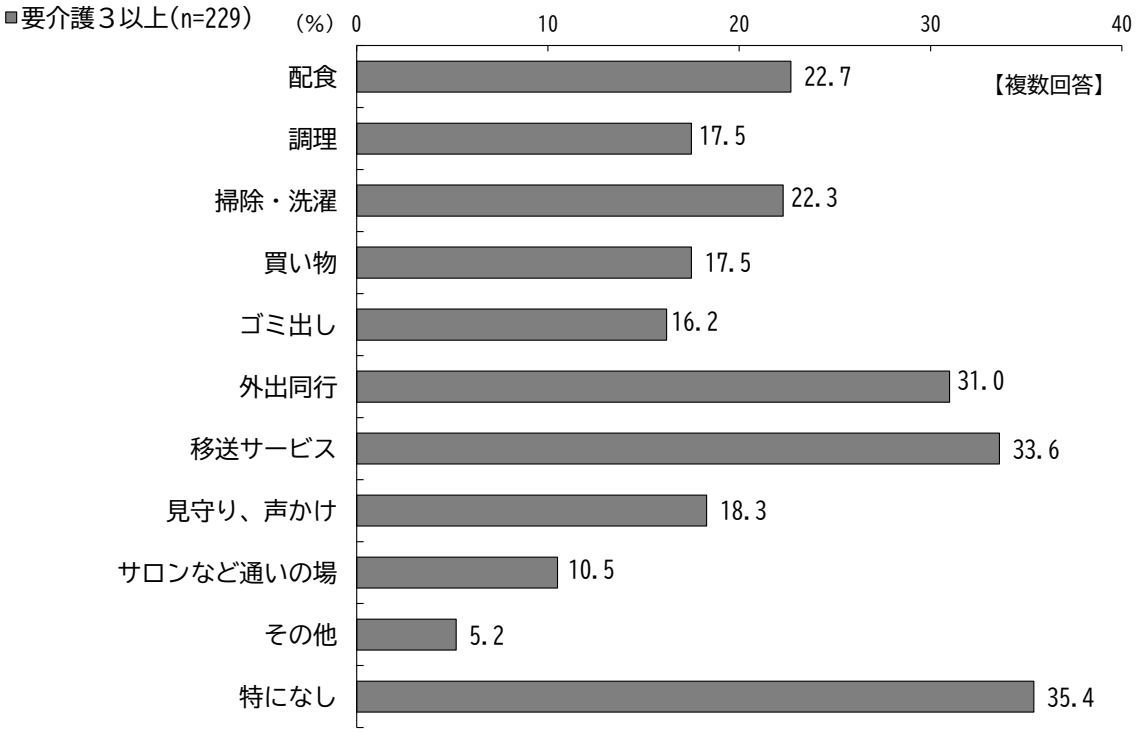
世帯類型別では、単身世帯で多数の項目の回答割合が２割前後となっており、各種支援・サービスへのニーズが強い傾向がみられ、具体的なサービスの上位回答は「外出同行」（33.3%）、「移送サービス」（28.1%）などとなっています。

必要な生活支援サービス（全体／前回調査との比較）

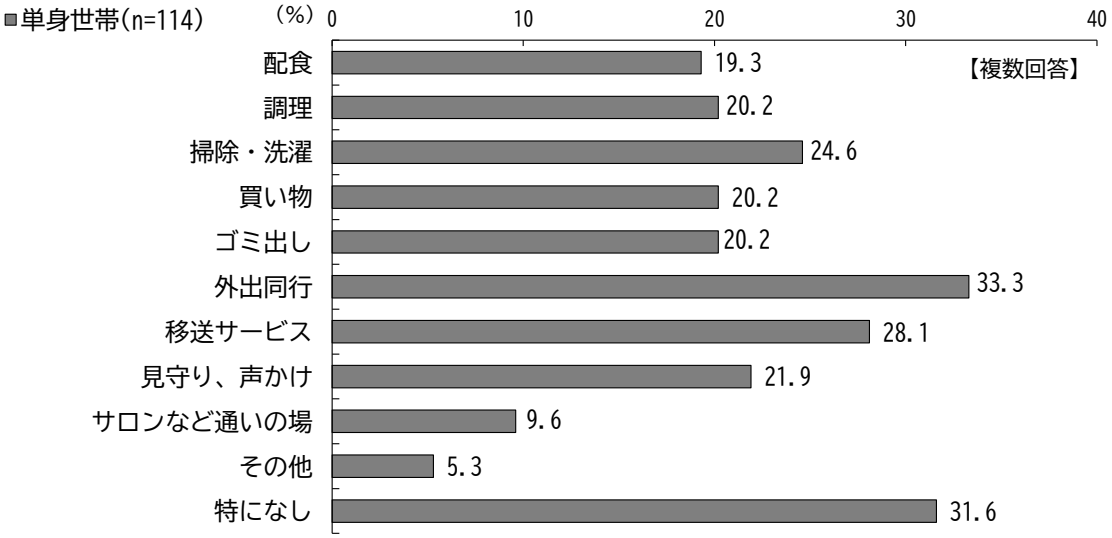


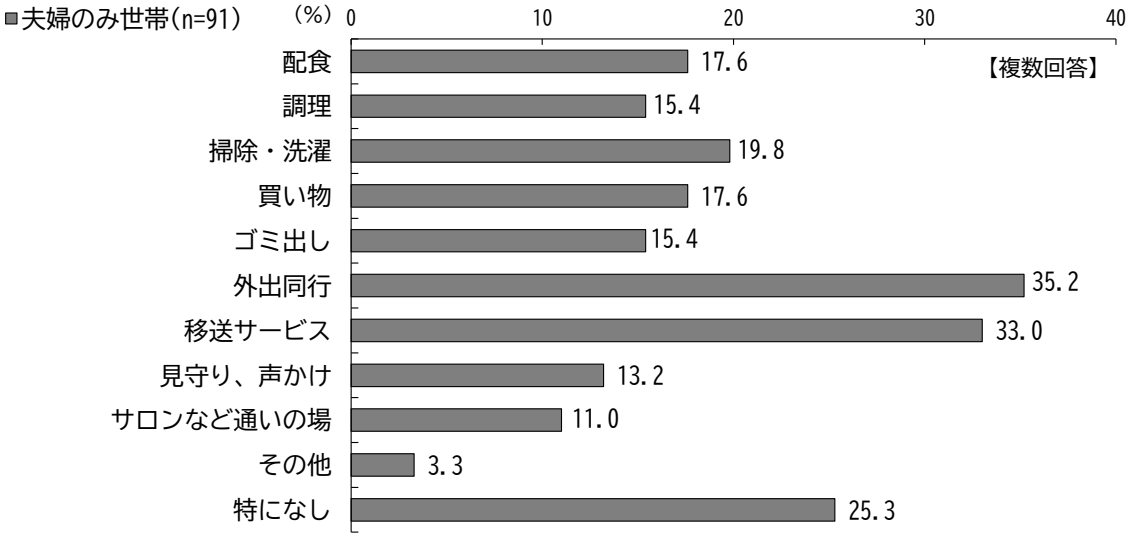
必要な生活支援サービス（要介護度別）

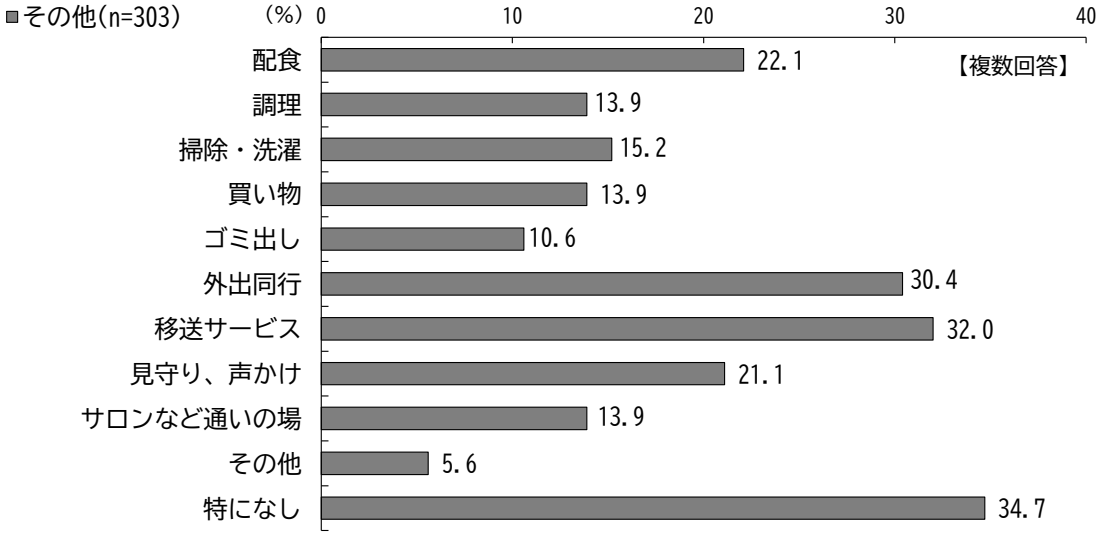




必要な生活支援サービス（世帯類型別）







②地区別にみる必要な生活支援サービス

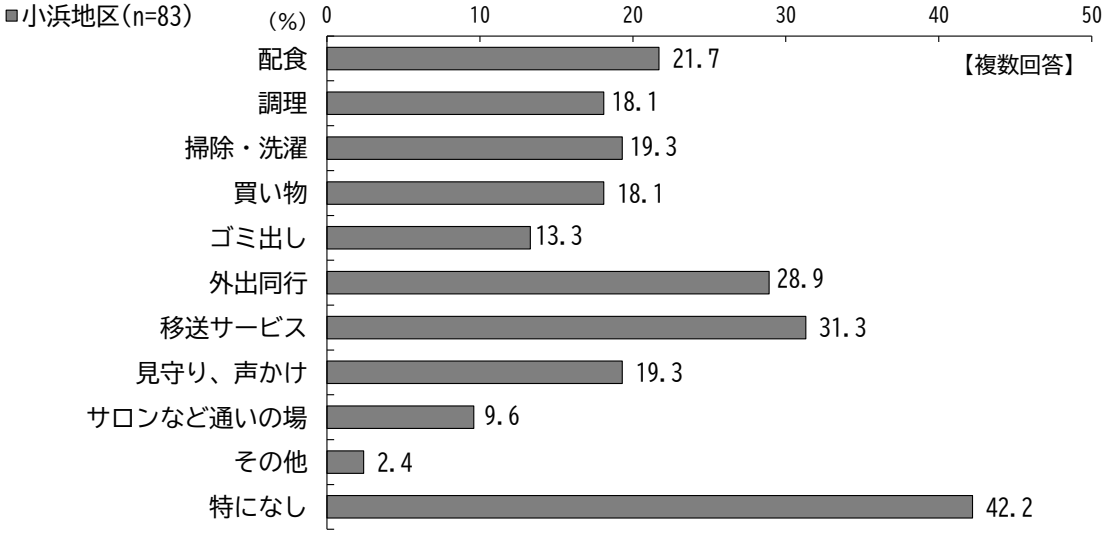
必要な生活支援サービスについて、地区別にニーズの高い項目をまとめると次のとおりとなり、「移送サービス」、「外出同行」、「配食」などがそれぞれ上位に挙げられています。また、西津地区、今富地区、遠敷・松永地区、内外海・加斗地区では「見守り、声かけ」（27.9%）と回答する割合が比較的多くなっています。

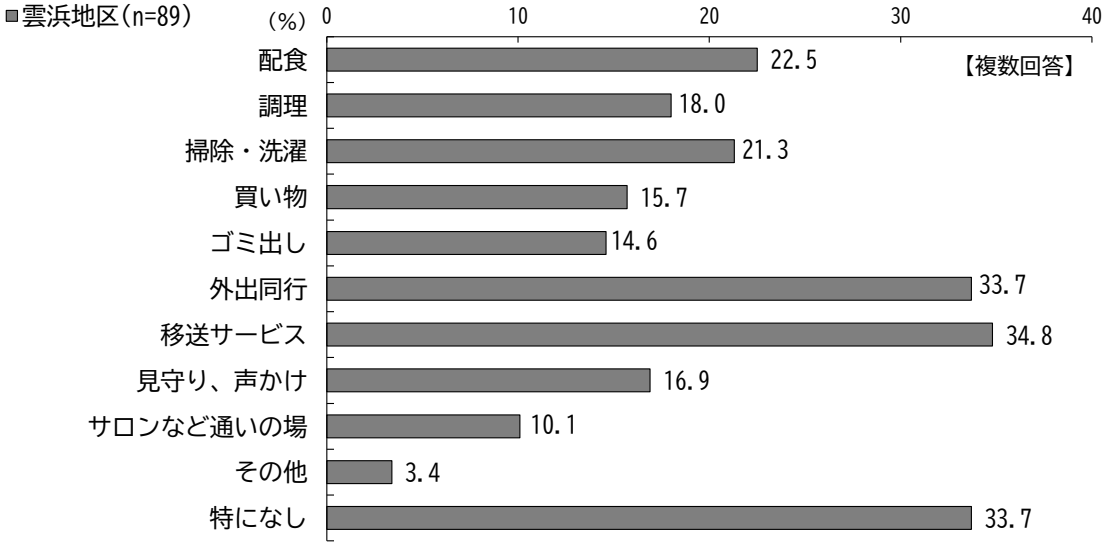
必要な生活支援サービス（地区別）

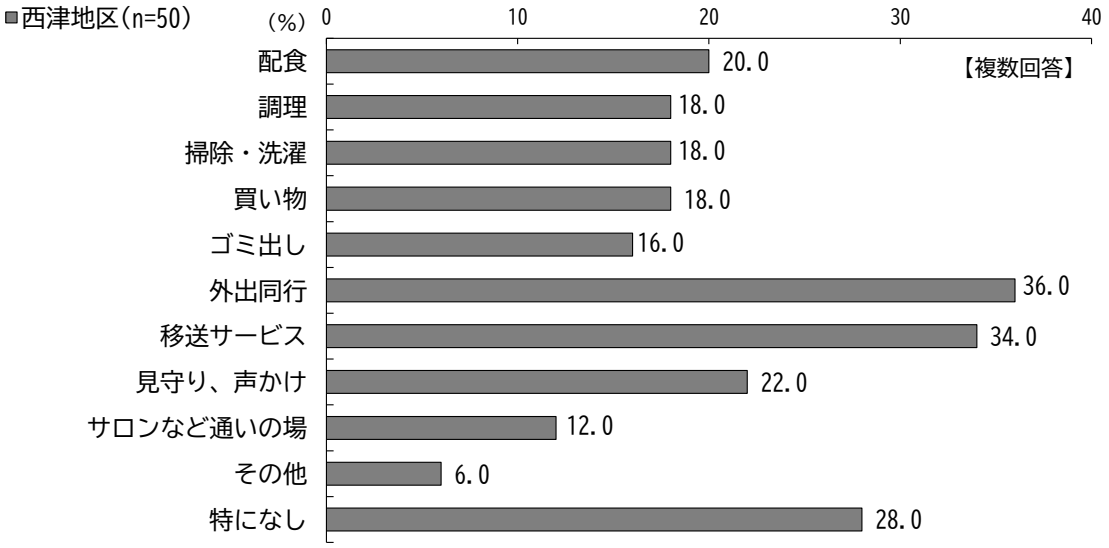
単位：%

地区	上位項目			特になし
	第１位	第２位	第３位	
小浜地区	移送サービス 31.3	外出同行 28.9	配食 21.7	42.2
雲浜地区	移送サービス 34.8	外出同行 33.7	配食 22.5	33.7
西津地区	外出同行 36.0	移送サービス 34.0	見守り、声かけ 22.0	28.0
今富地区	移送サービス 42.1	外出同行 38.6	配食／掃除・洗濯／見守り、声かけ 15.8	29.8
宮川・国富地区	移送サービス 28.3	配食／外出同行 21.7		37.0
遠敷・松永地区	外出同行 32.9	移送サービス 27.4	見守り、声かけ 21.9	26.0
内外海・加斗地区	移送サービス 33.3	外出同行 31.3	見守り、声かけ 25.0	27.1
中名田・口名田地区	外出同行 31.0	移送サービス 25.4	配食 23.9	28.2

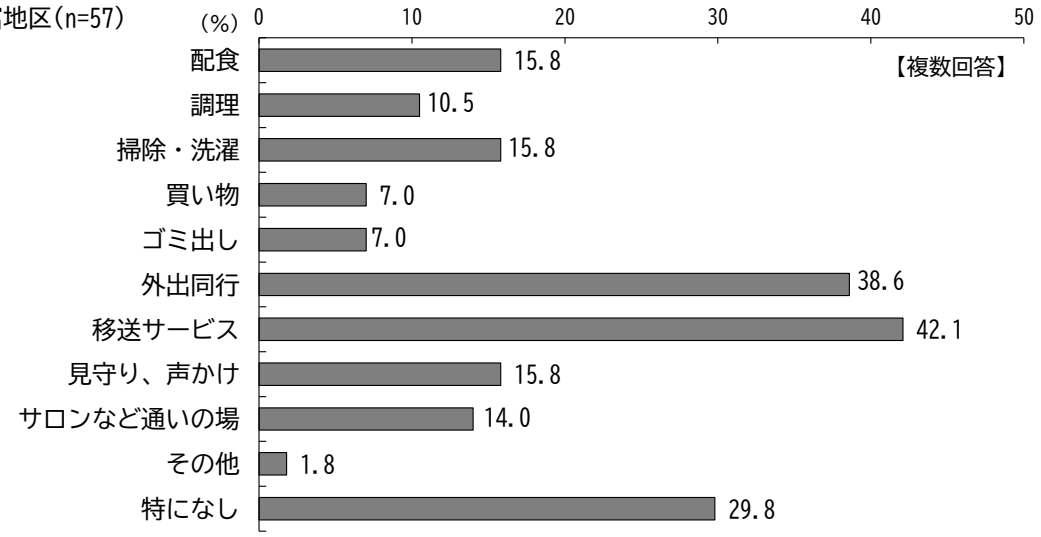
必要な生活支援サービス（地区別）



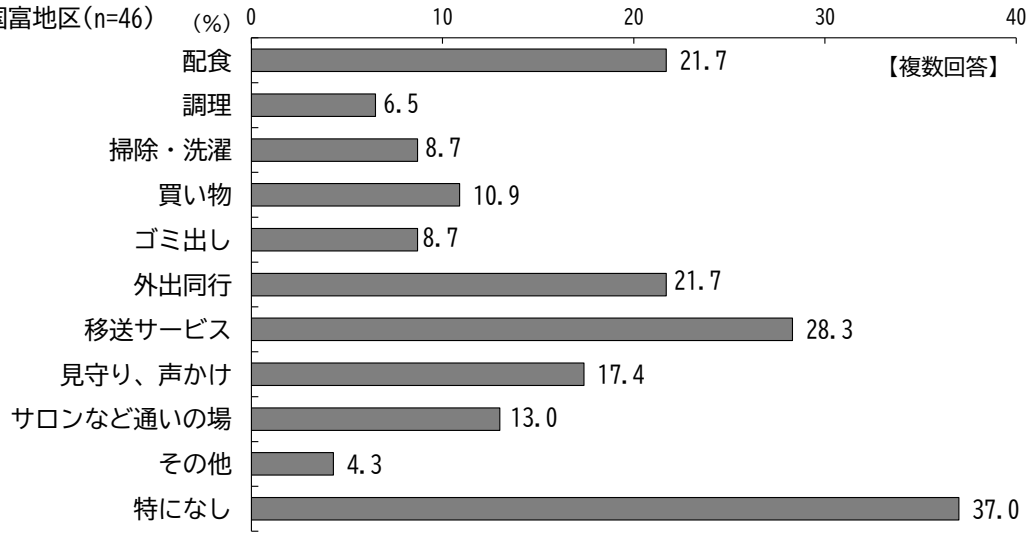




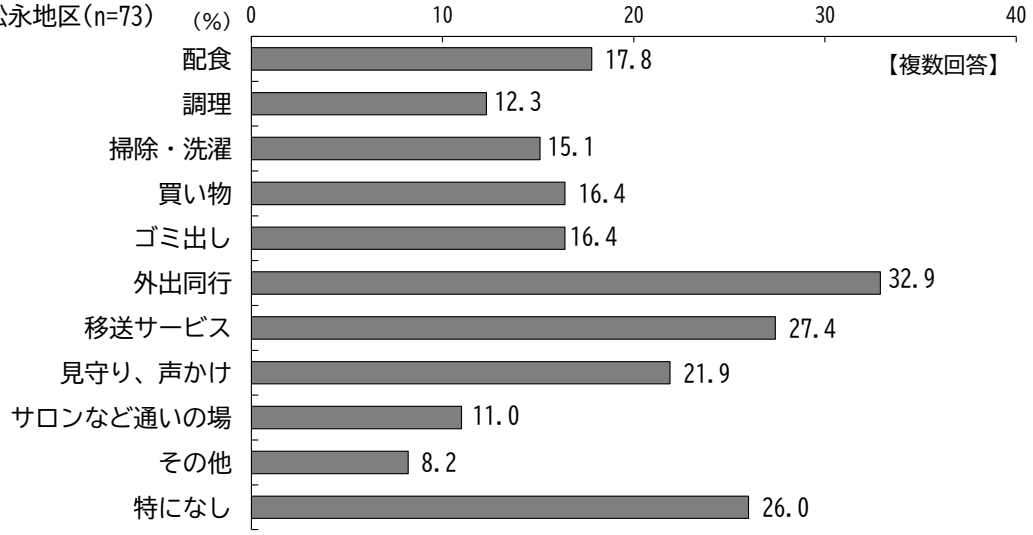
■今富地区(n=57)



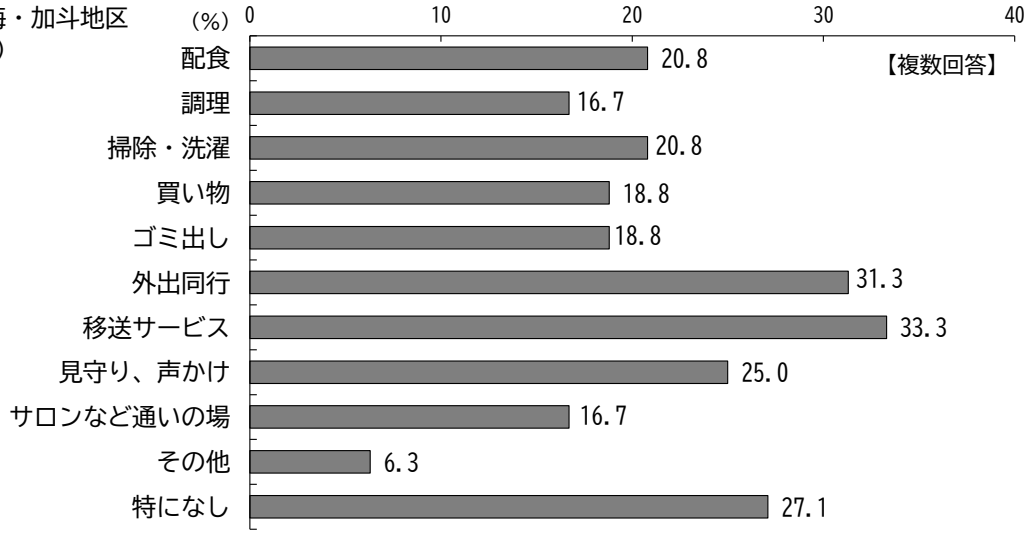
■宮川・国富地区(n=46)



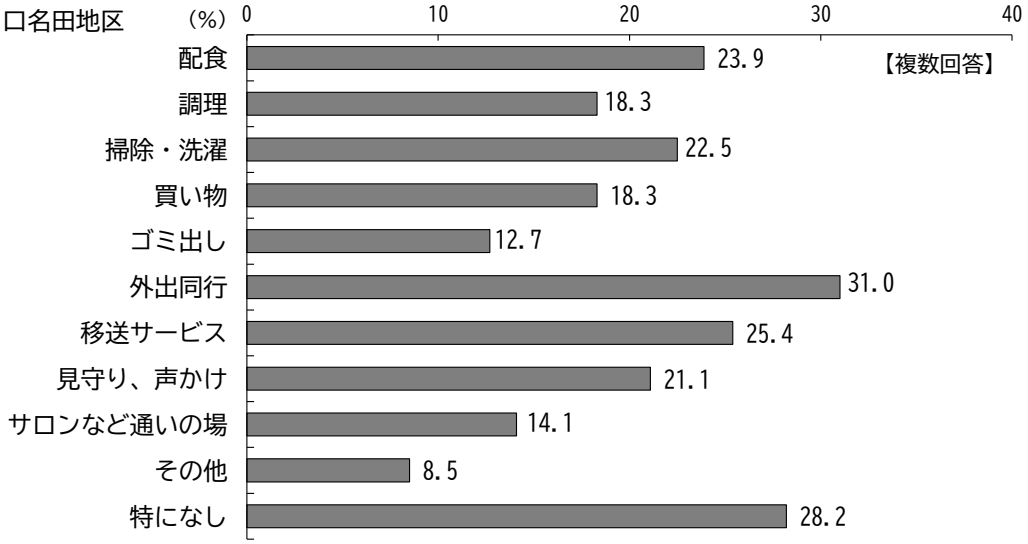
■遠敷・松永地区(n=73)



■内外海・加斗地区
（n=48）



■中名田・口名田地区
（n=71）



（９）本人が抱えている傷病

設問	Ａ票問 12　ご本人（あて名の方）が、現在抱えている傷病について、ご回答ください

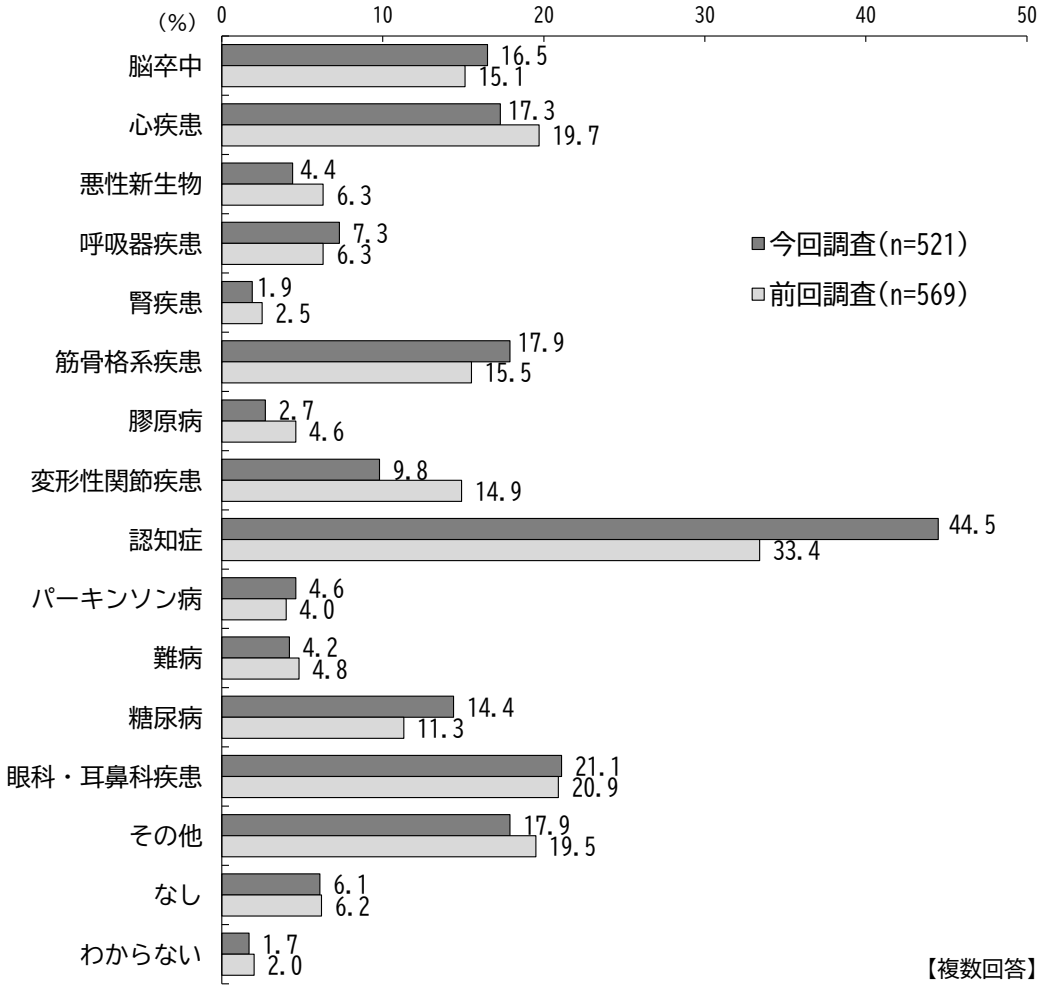
◆「認知症」が最も多く、次いで「眼科・耳鼻科疾患」、「筋骨格系疾患」が続く。

本人が抱えている傷病については、「認知症」が 44.5%で最も多く、次いで「眼科・耳鼻科疾患」(21.1%)、「筋骨格系疾患」及び「その他」(同率 17.9%）が続きます。前回調査と比較すると「認知症」と回答する割合が 10 ポイント以上増加しています。

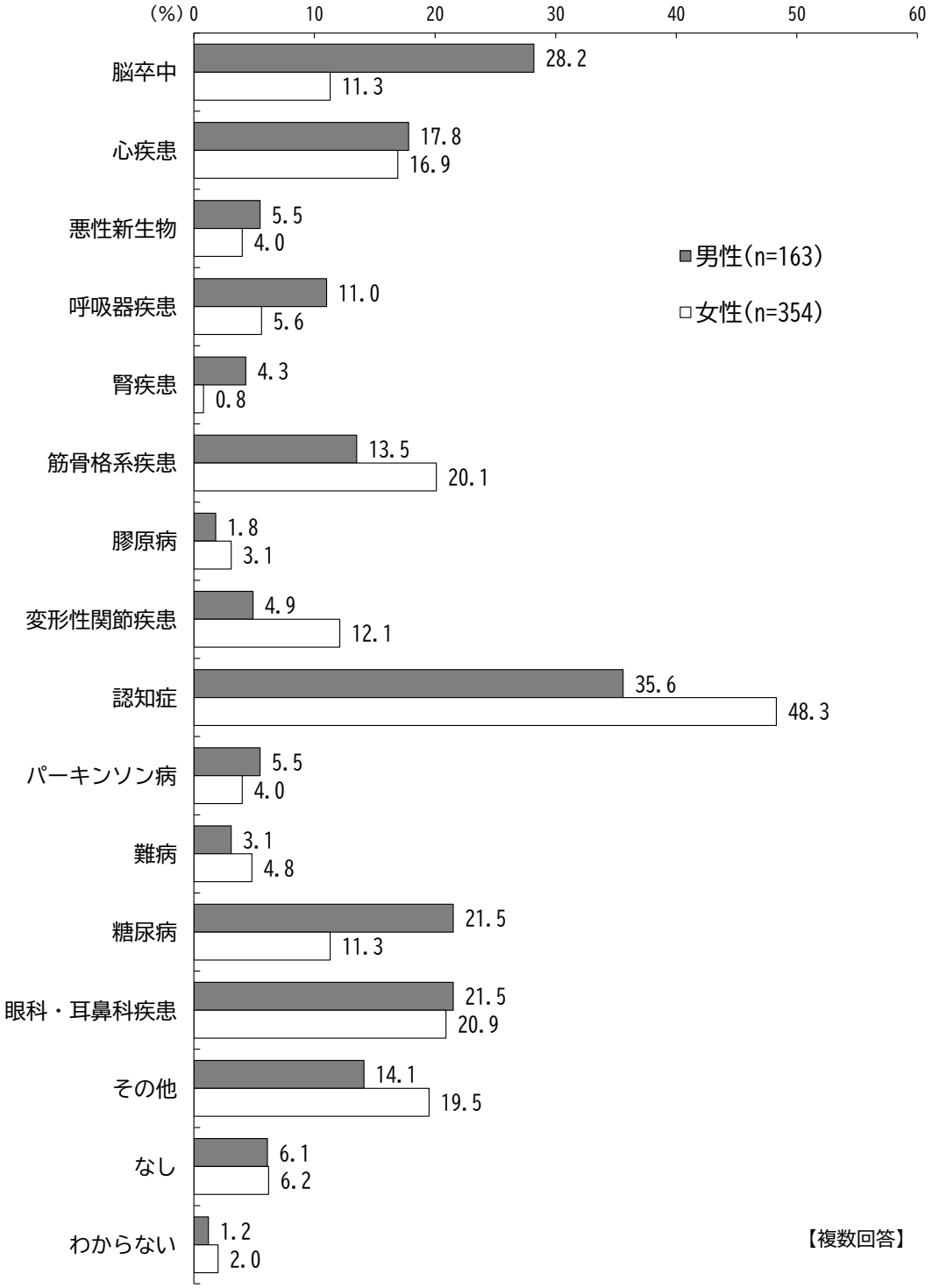
性別では、男性・女性ともに「認知症」が最も多くなっていますが、男性では「糖尿病」(21.5%)、「脳卒中」(28.2%）と回答する割合が比較的多くなっています。

要介護度別では、それぞれ「認知症」最も多くなっていますが、要介護３以上では「脳卒中」と回答する割合が比較的多くなっています。

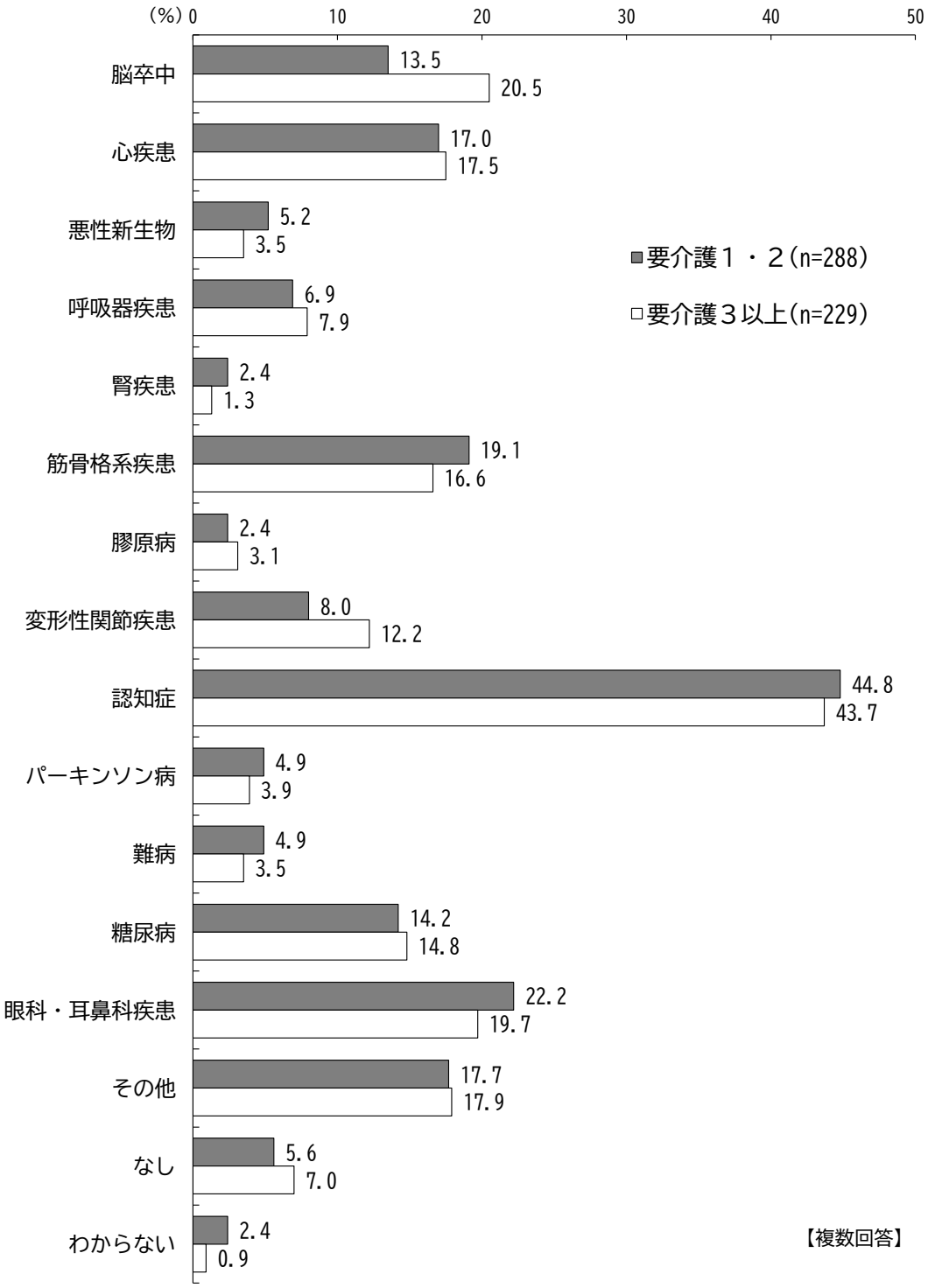
本人が抱えている傷病（全体）



本人が抱えている傷病（性別）



本人が抱えている傷病（要介護度別）



（10）施設等検討の状況

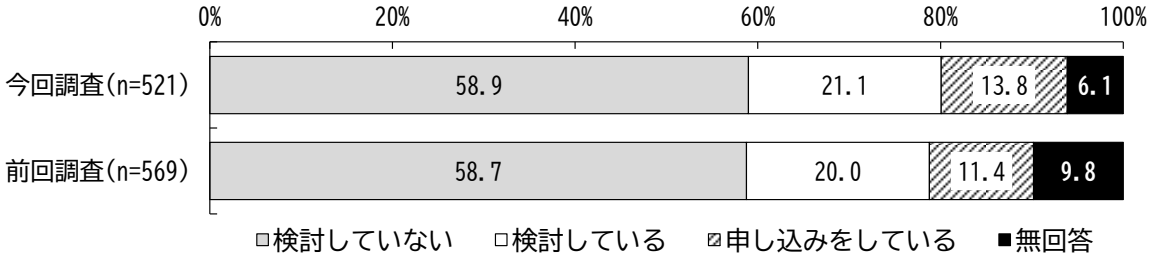
設問	Ａ票問 13　現時点での、施設等への入所・入居の検討状況について、ご回答ください

◆約２割が施設等への入所・入居を検討、１割強が申し込み中。

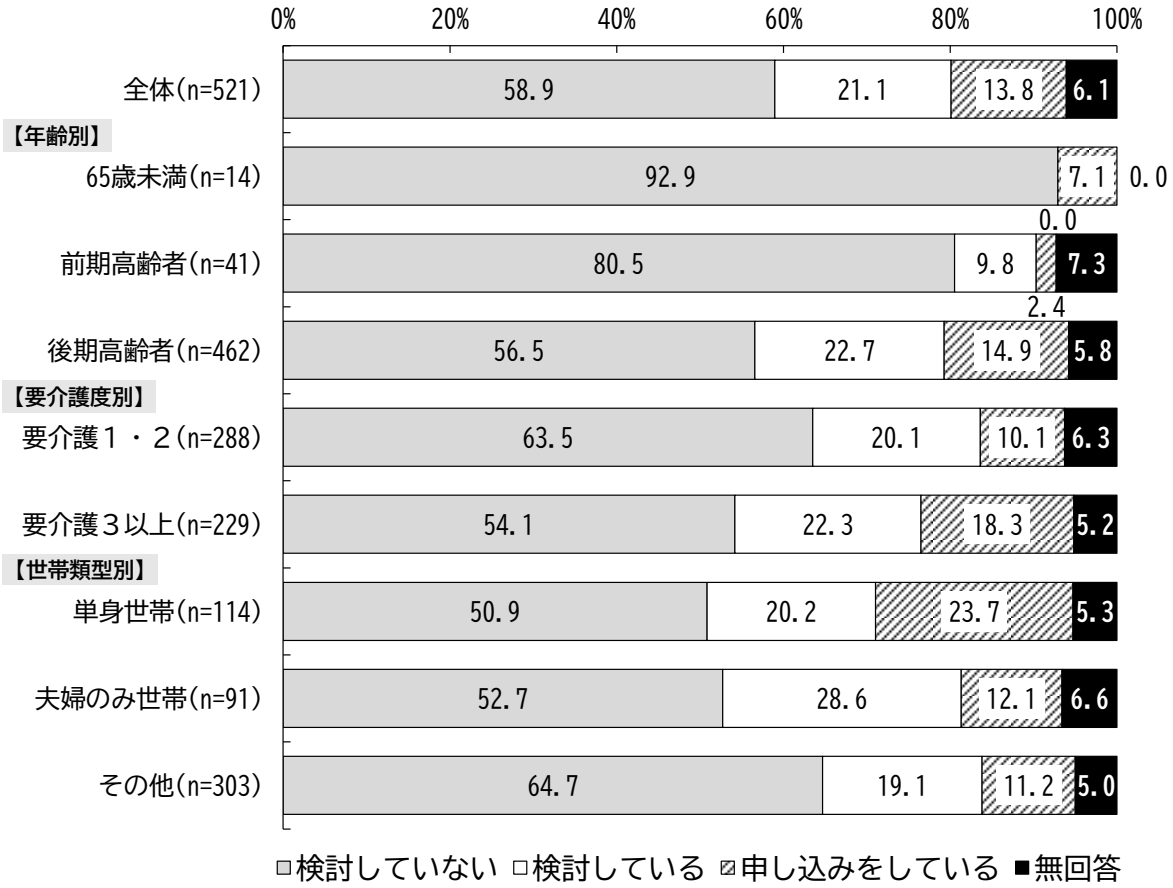
施設等検討の状況については、「検討している」が 21.1%、「申し込みをしている」が 13.8%と、前回調査と比較しても回答の傾向に大きな差はみられません。

「申し込みをしている」と回答する割合は、要介護度別の要介護３以上（18.3%）、世帯類型別の単身世帯（23.7%）で比較的多くなっています。

施設等検討の状況（全体／前回調査との比較）



施設等検討の状況（全体・年齢別・要介護度別・世帯類型別）



（11）訪問診療の利用の有無

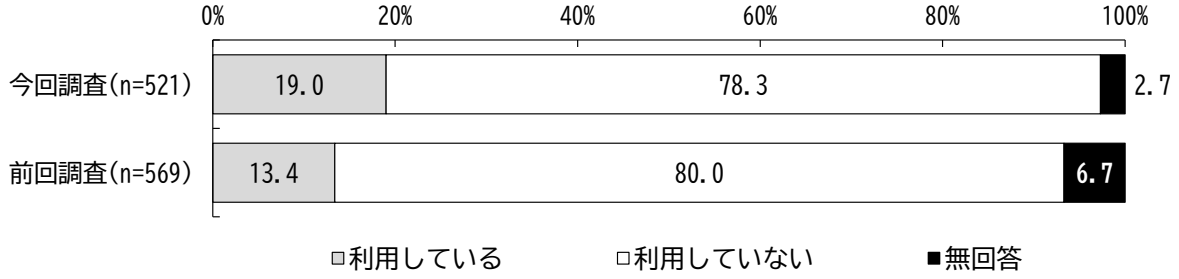
設問	Ａ票問 14　ご本人（あて名の方）は、現在、訪問診療を利用していますか

◆「利用している」が約２割。前回調査から５ポイント以上増加。

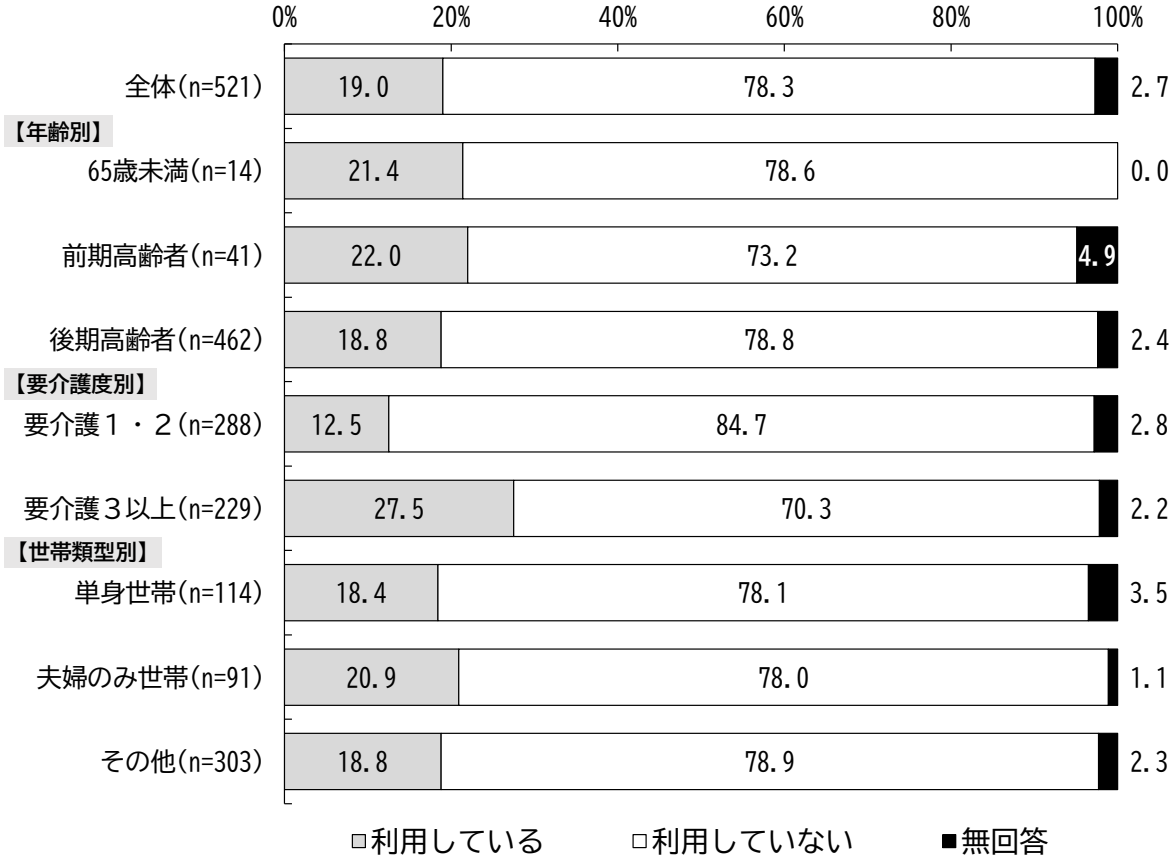
訪問診療の利用の有無については、「利用している」が 19.0％と、前回調査の 13.4％から５ポイント以上増加しています。

「利用している」と回答する割合は、要介護度別の要介護３以上（27.5％）で比較的多くなっています。

訪問診療の利用の有無（全体／前回調査との比較）



訪問診療の利用の有無（全体・年齢別・要介護度別・世帯類型別）



（12）介護保険サービスについての利用の有無

設問	Ａ票問 15　現在、（住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の）介護保険サービスを利用していますか Ａ票問 16　介護保険サービスを利用していない理由は何ですか

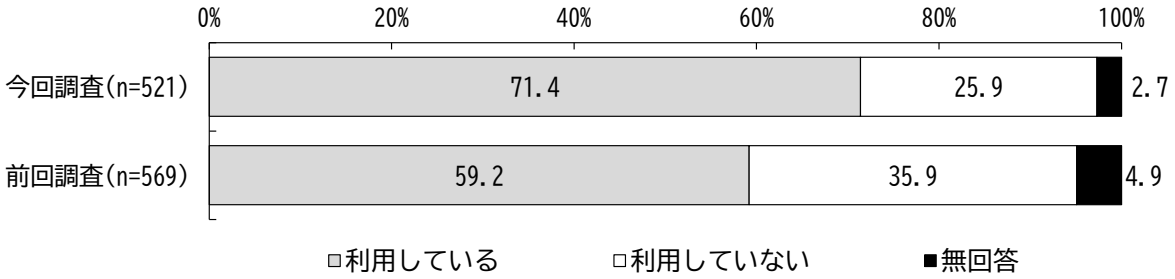
◆「利用している」が約７割。前回調査から約 12 ポイント増加。
◆利用していない主な理由は「利用するほどの状態ではない」。

①介護保険サービスの利用の有無

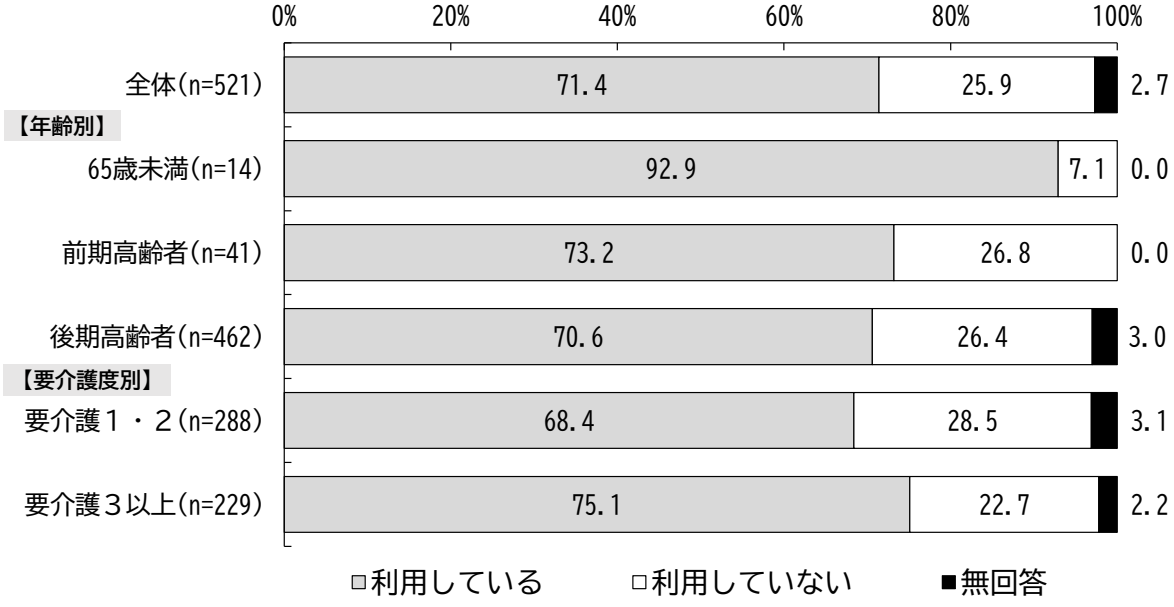
介護保険サービスの利用の有無については、「利用している」が 71.4%と約７割を占め、前回調査の 59.2%から約 12 ポイント増加しています。

「利用している」と回答する割合は、年齢別の 65 歳未満（92.9%）、要介護度別の要介護３以上（75.1%）で比較的多くなっています。

介護保険サービスの利用の有無（全体／前回調査との比較）



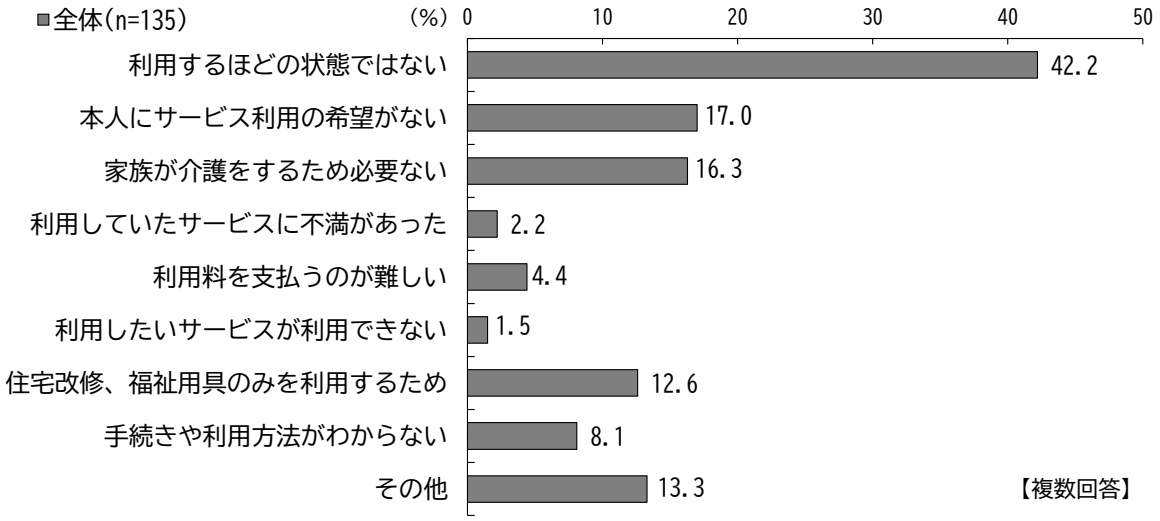
介護保険サービスの利用の有無（全体・要介護度別）



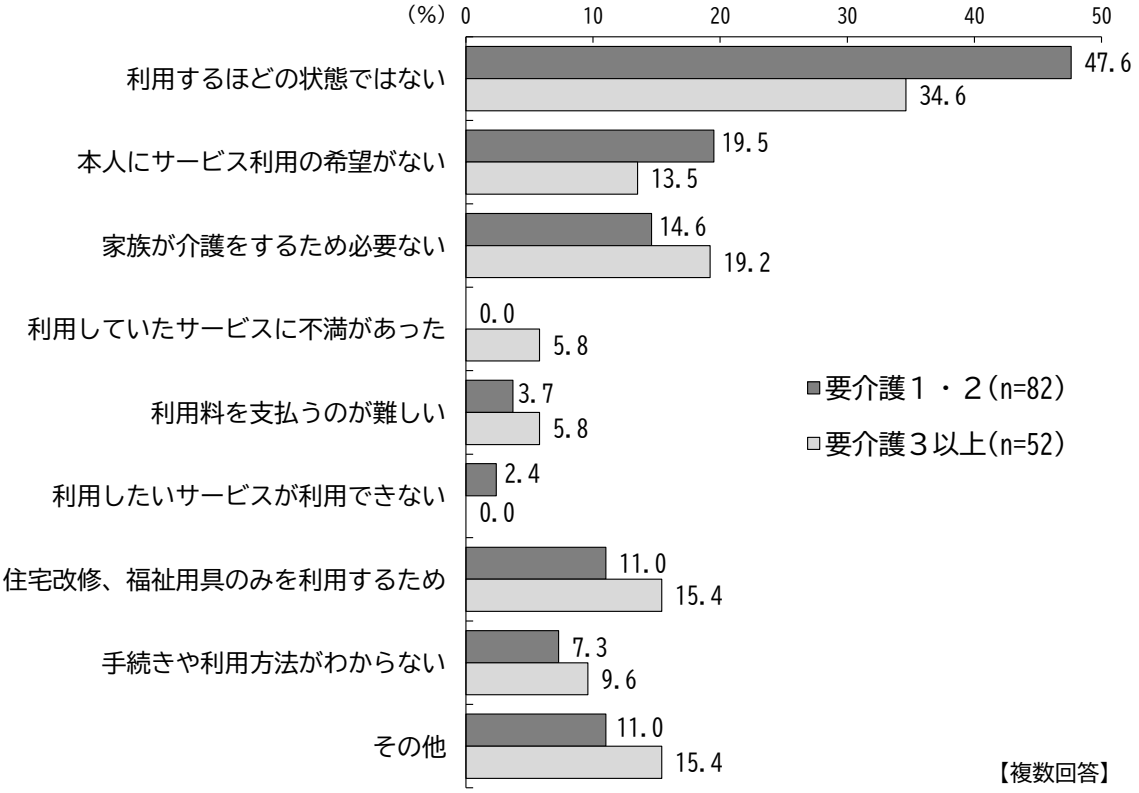
②介護保険サービス未利用の理由

介護保険サービスを「利用していない」と回答した方に、利用していない理由をたずねたところ、「利用するほどの状態ではない」（42.2%）が最も多く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」(17.0%)、「家族が介護をするため必要ない」（16.3%）が続きます。

介護保険サービス未利用の理由（全体）



介護保険サービス未利用の理由（要介護度別）



３．主な介護者に関する調査項目（Ｂ票）

（１）主な介護者の勤務形態

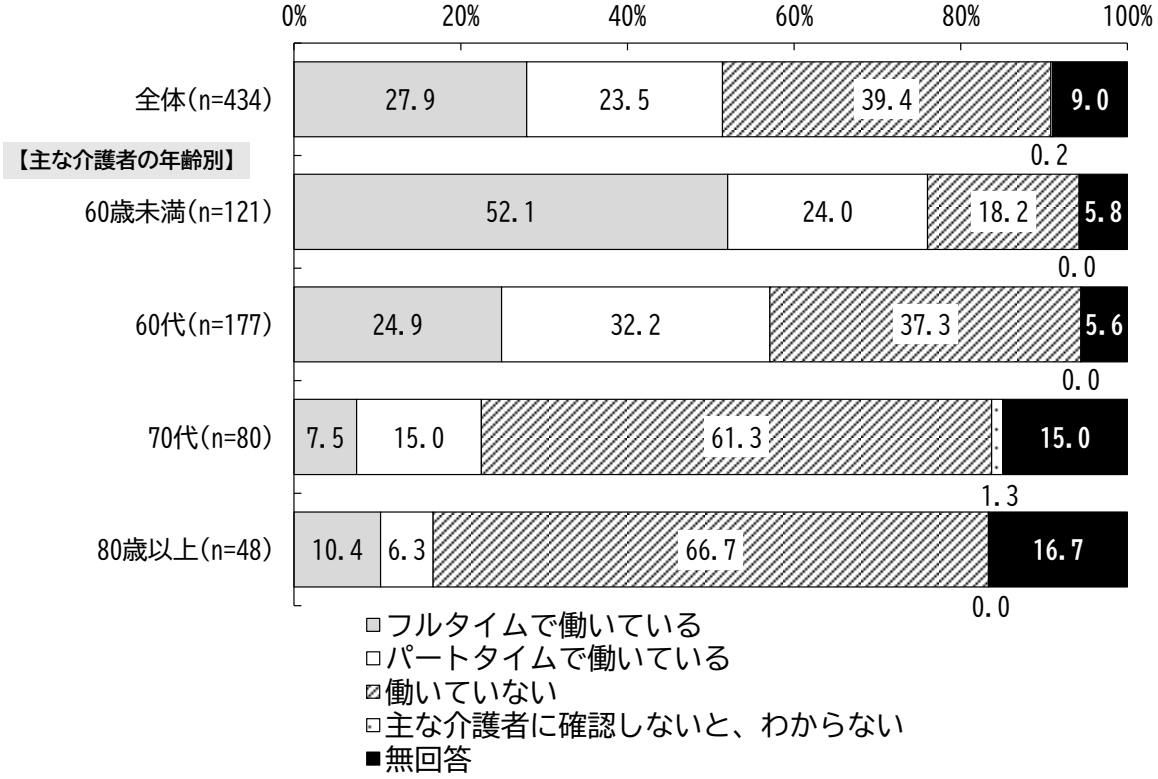
設問	Ｂ票問１　主な介護者の方の現在の勤務形態について、ご回答ください

◆「フルタイムで働いている」が 27.9%、「パートタイムで働いている」が 23.5%。

主な介護者の勤務形態については、「働いていない」が 39.4%、「フルタイムで働いている」が 27.9%、「パートタイムで働いている」が 23.5%となっています。

主な介護者の年齢別でみると、60 歳未満で「フルタイムで働いている」(52.1%)が約半数を占めています。

主な介護者の勤務形態（全体・主な介護者の年齢別）



（２）主な介護者の方の働き方の調整の状況

設問	Ｂ票問２　主な介護者の方は、介護をするにあたって、何か働き方についての調整等をしていますか

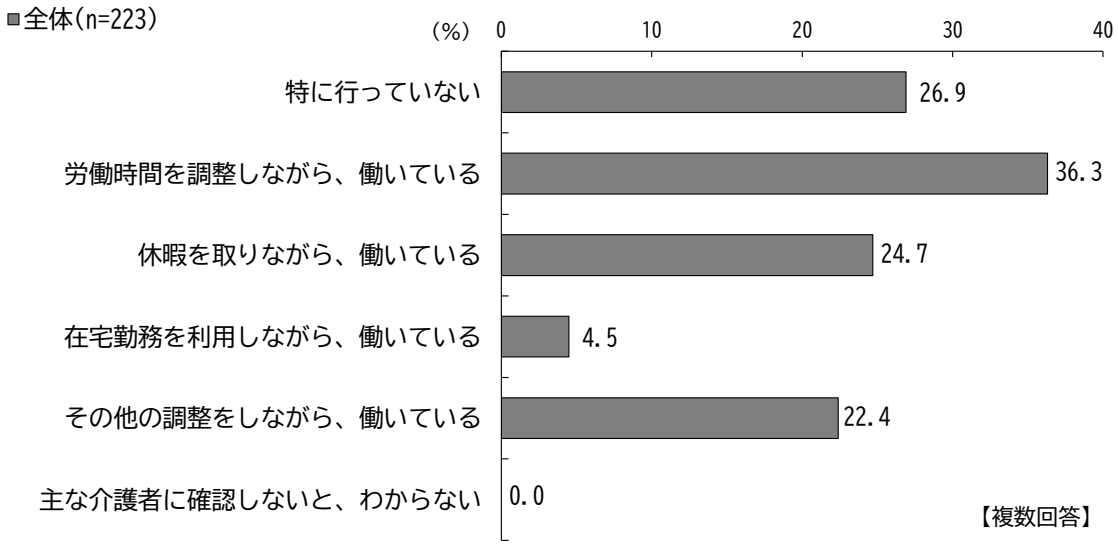
◆「労働時間を調整しながら、働いている」介護者が多い。

主な介護者の方の働き方の調整の状況については、「労働時間を調整しながら、働いている」（36.3%）が最も多く、次いで「特に行っていない」（26.9%）、「休暇を取りながら、働いている」（24.7%）が続きます。

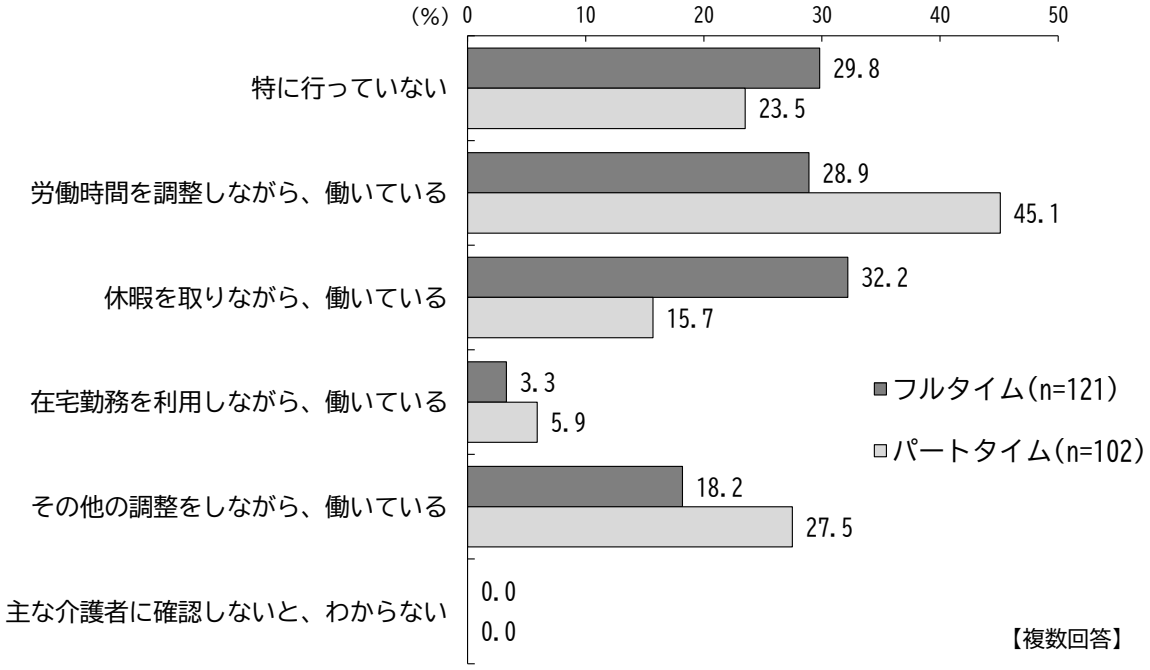
勤務形態別では、フルタイムでは「休暇を取りながら、働いている」（32.2%）、パートタイムでは「労働時間を調整しながら、働いている」（45.1%）が最も多くなっています。

要介護度別では、要介護３以上で「労働時間を調整しながら、働いている」（42.0%）と回答する割合が比較的多くなっています。

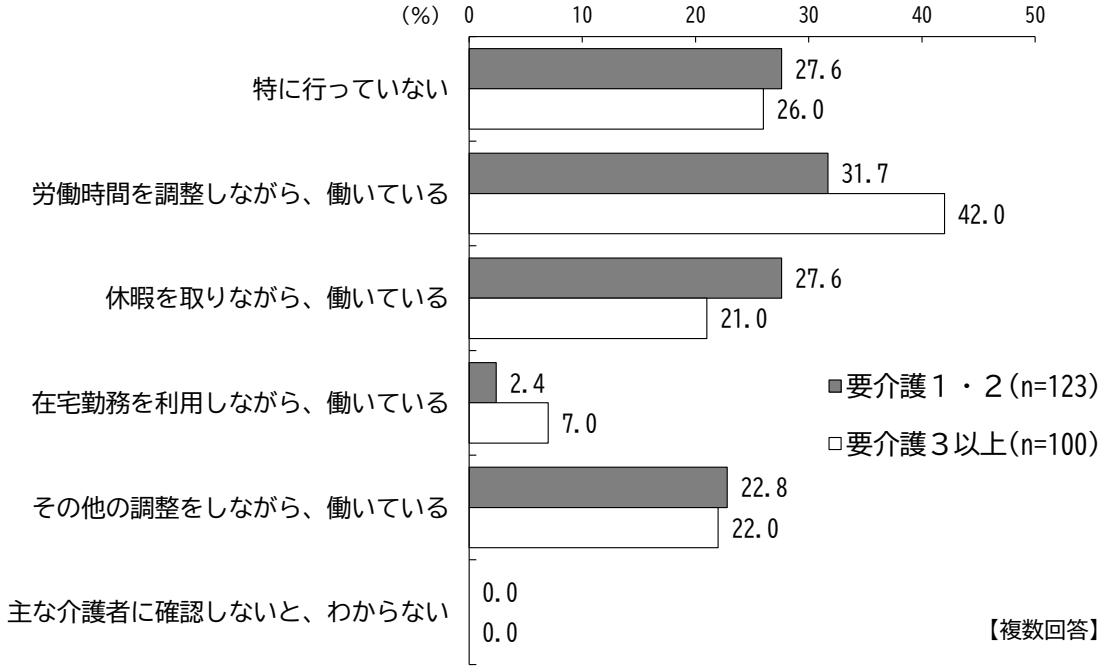
主な介護者の方の働き方の調整の状況（全体）



主な介護者の方の働き方の調整の状況（勤務形態別）



主な介護者の方の働き方の調整の状況（要介護度別）



（３）就労継続に効果的な勤め先からの支援

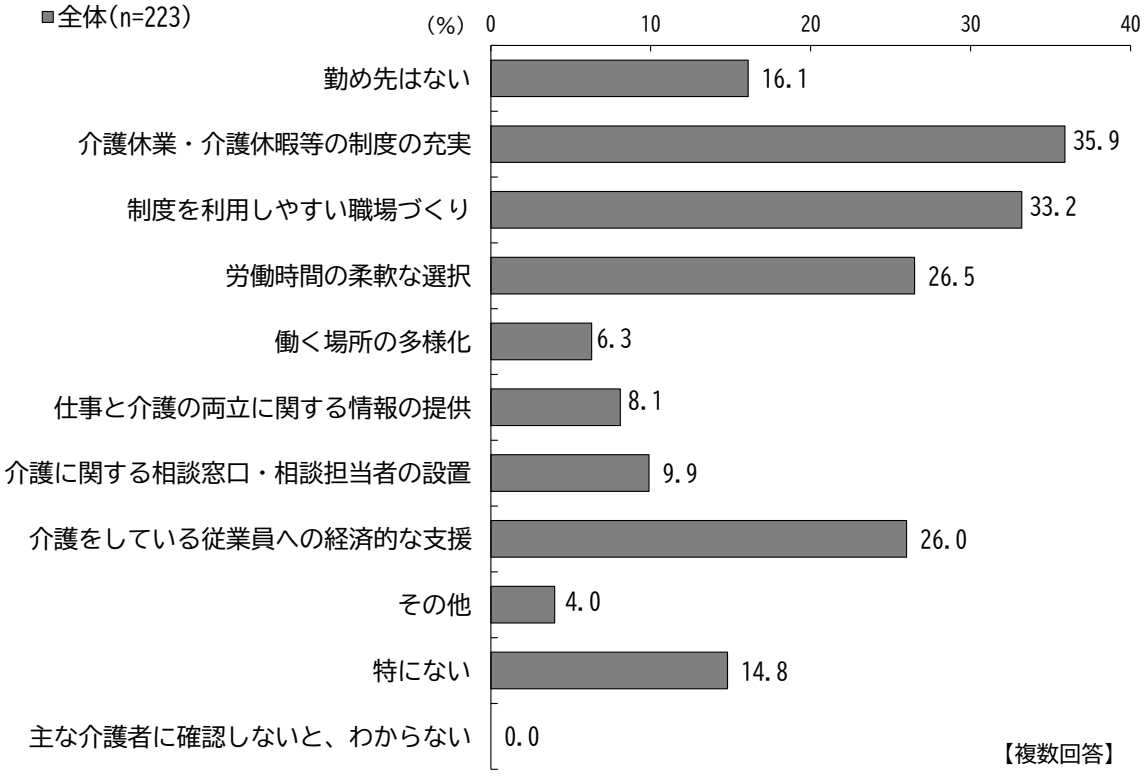
設問	Ｂ票問３　主な介護者の方は、勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果があると思いますか

◆「介護休業・介護休暇等の制度の充実」、「制度を利用しやすい職場づくり」が上位。

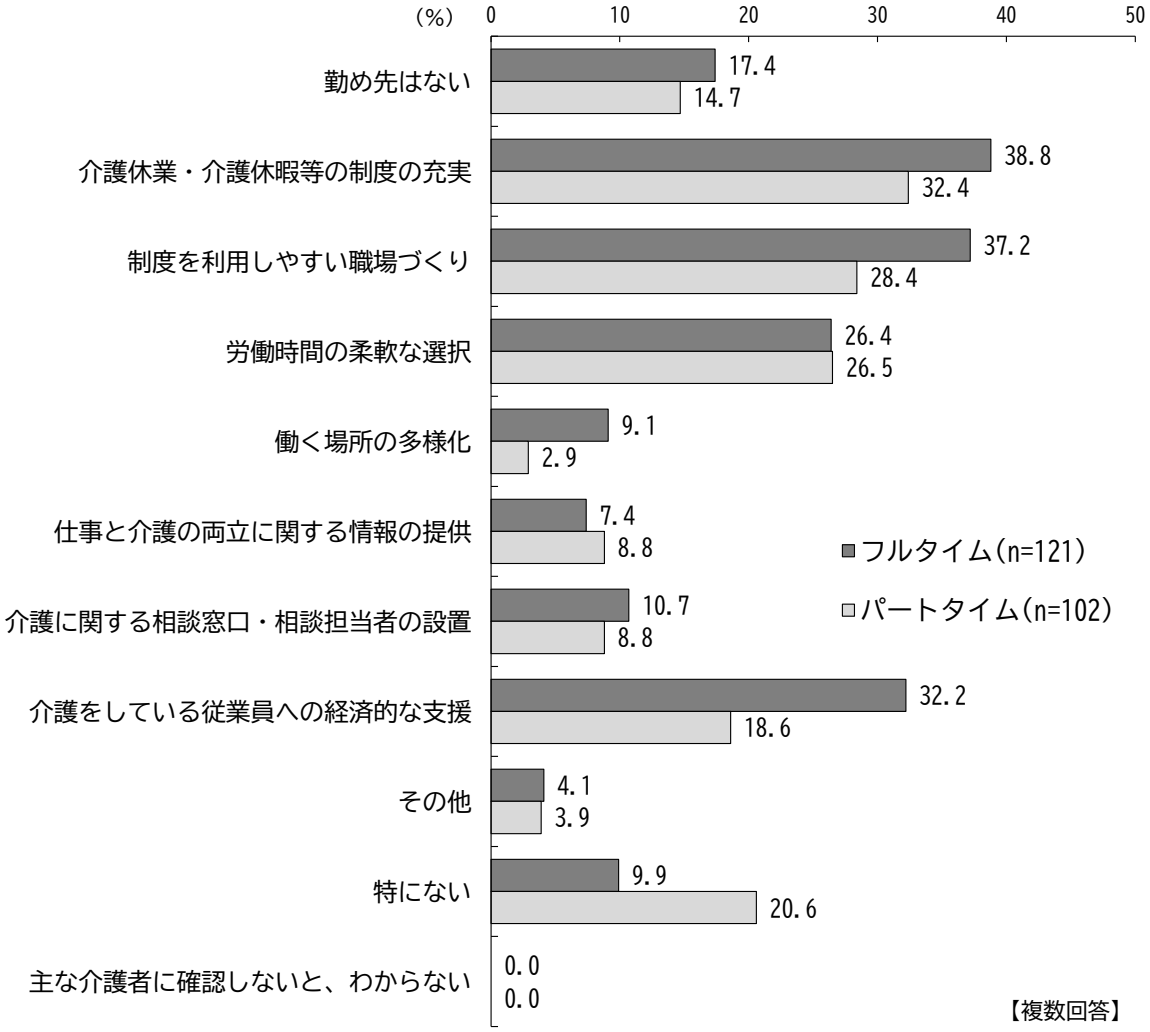
就労継続に効果的な勤め先からの支援については、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」（35.9%）、「制度を利用しやすい職場づくり」（33.2%）が上位に挙げられ、次いで「労働時間の柔軟な選択」（26.5%）が続きます。なお、「特にない」は14.8%となっています。

勤務形態別でみると、フルタイム・パートタイムともに「介護休業・介護休暇等の制度の充実」及び「制度を利用しやすい職場づくり」が上位を占めています。

就労継続に効果的な勤め先からの支援（全体）



就労継続に効果的な勤め先からの支援（勤務形態別）



（４）主な介護者の就労継続の可否に係る意識

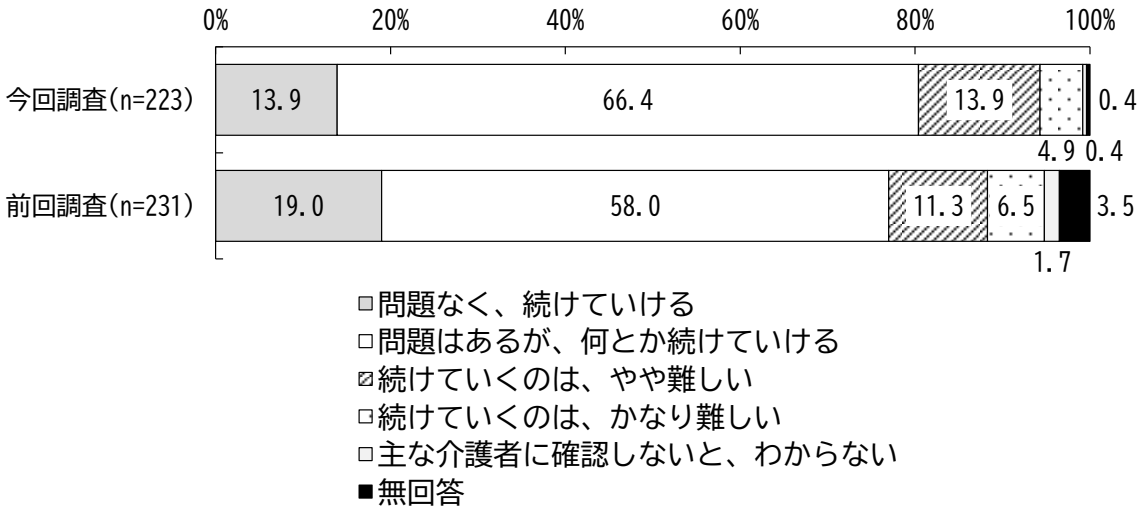
設問	Ｂ票問４　主な介護者の方は、今後も働きながら介護を続けていけそうですか

◆約８割が『継続可能』と回答する一方、『継続困難』は約２割。

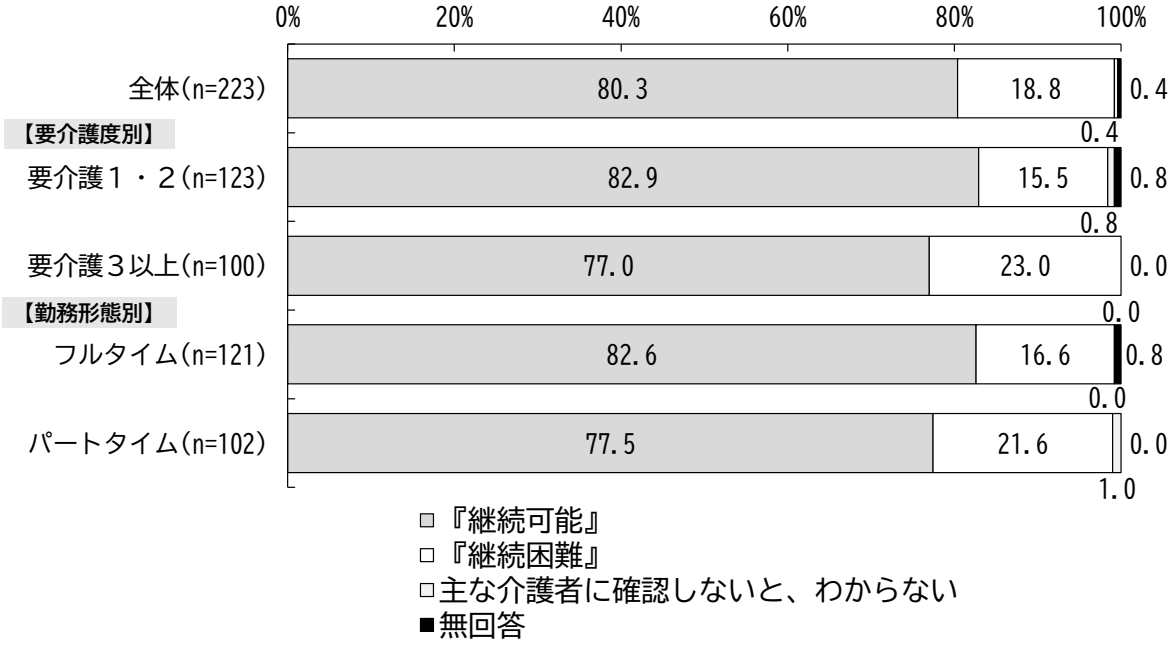
主な介護者の就労継続の可否に係る意識については、「問題はあるが、何とか続けていける」が66.4%を占め、これに「問題なく、続けていける」（13.9%）をあわせた80.3%が『継続可能』と回答しています。一方、『継続困難』（「続けていくのは、やや難しい」13.9%と「続けていくのは、かなり難しい」4.9%の合計）は18.8%と約２割となっており、前回調査（17.8%）から大きな変化はみられません。

『継続困難』と回答する割合は、要介護度別の要介護３以上（23.0%）、勤務形態別のパートタイム（21.6%）で２割を超えています。

主な介護者の就労継続の可否に係る意識（全体／前回調査との比較）



主な介護者の就労継続の可否に係る意識（全体・要介護度別・勤務形態別）



（５）主な介護者が不安に感じる介護

設問	Ｂ票問５　現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安に感じる介護等について、ご回答ください（現状で行っているか否かは問いません）

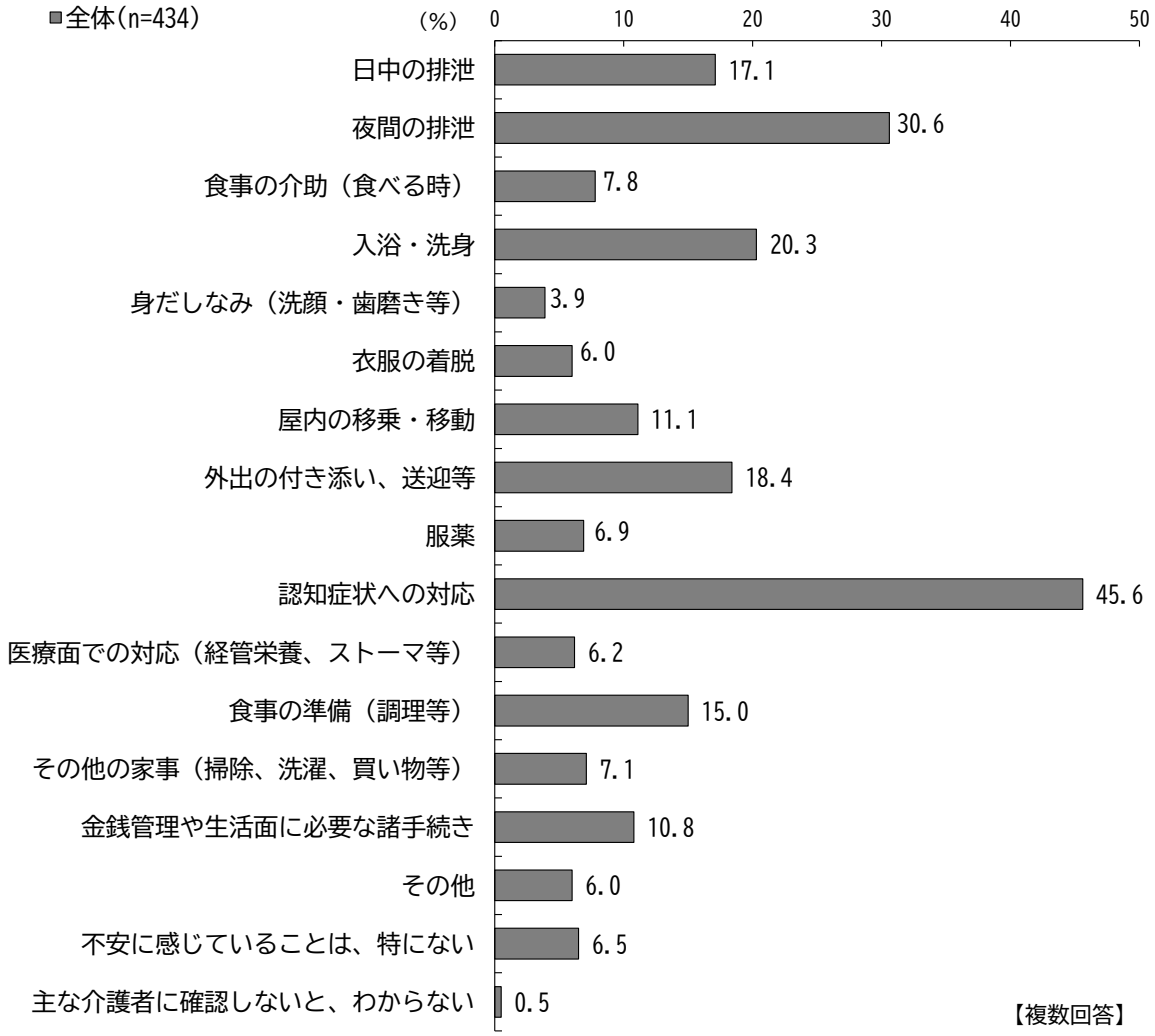
◆「認知症状への対応」が最も多く、次いで「夜間の排泄」、「入浴・洗身」。

主な介護者が不安に感じる介護については、「認知症状への対応」が45.6%で最も多く、次いで「夜間の排泄」(30.6%)、「入浴・洗身」(20.3%)、「外出の付き添い、送迎等」(18.4%）が続きます。

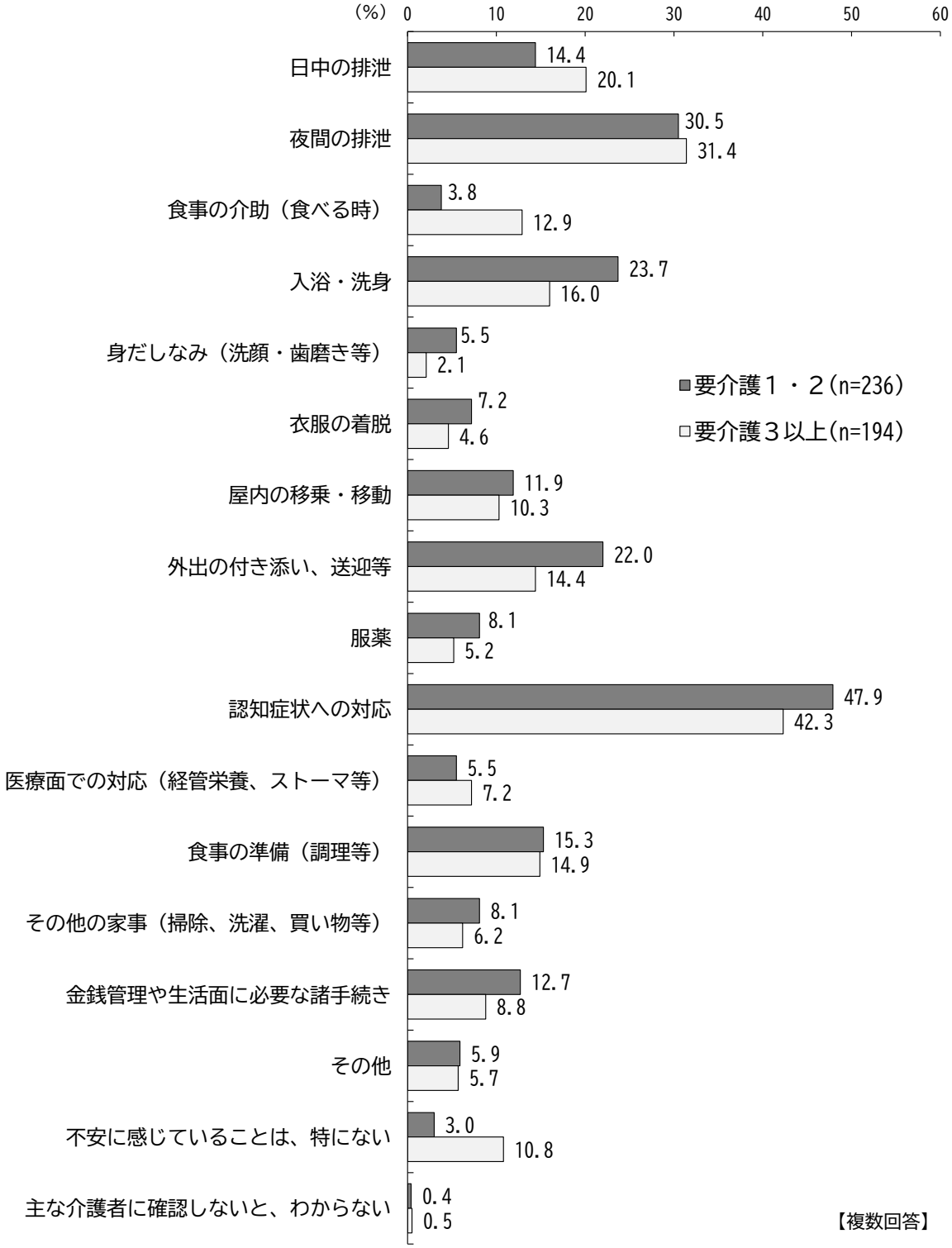
要介護度別でみても、全体と同様に「認知症状への対応」が最も多く、次いで「夜間の排泄」が続きます。

主な介護者の年齢別でみると、各年齢層で「認知症状への対応」、「夜間の排泄」が上位に挙げられています。

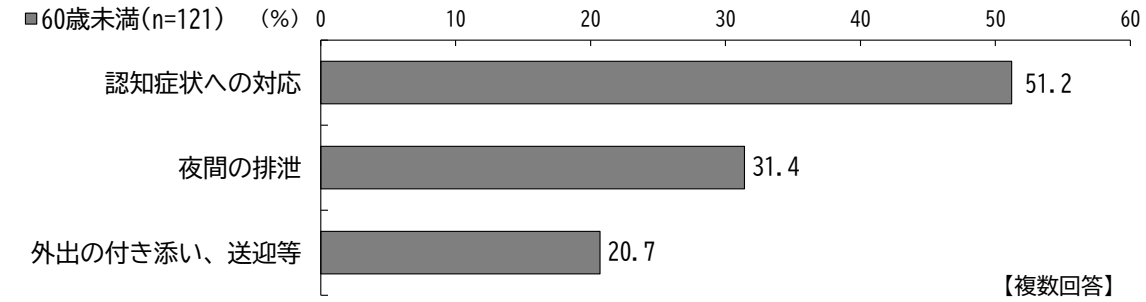
主な介護者が不安に感じる介護（全体）

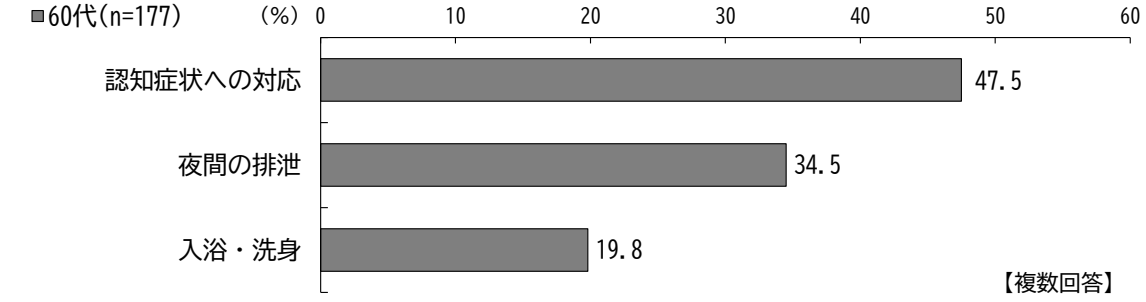


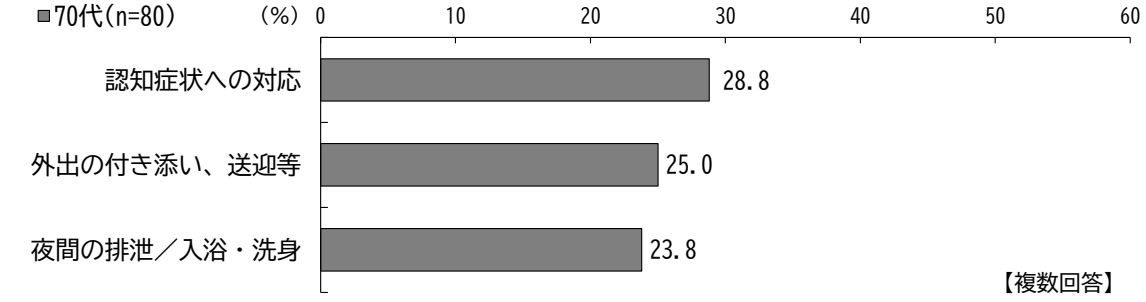
主な介護者が不安に感じる介護（要介護度別）

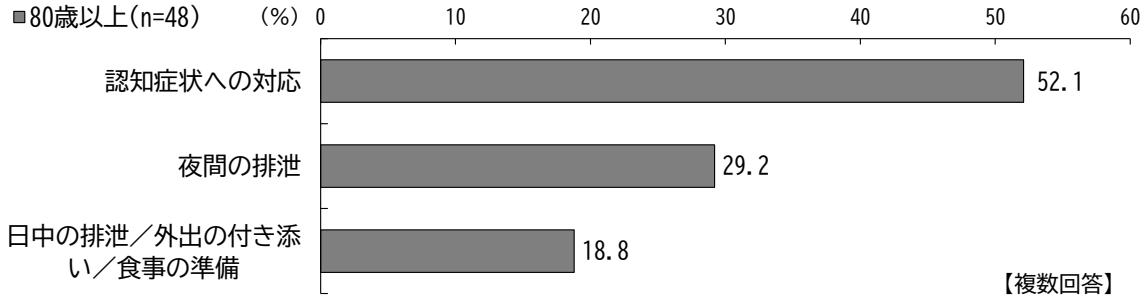


主な介護者が不安に感じる介護（主な介護者の年齢別／上位回答）









（６）地域包括支援センターについて

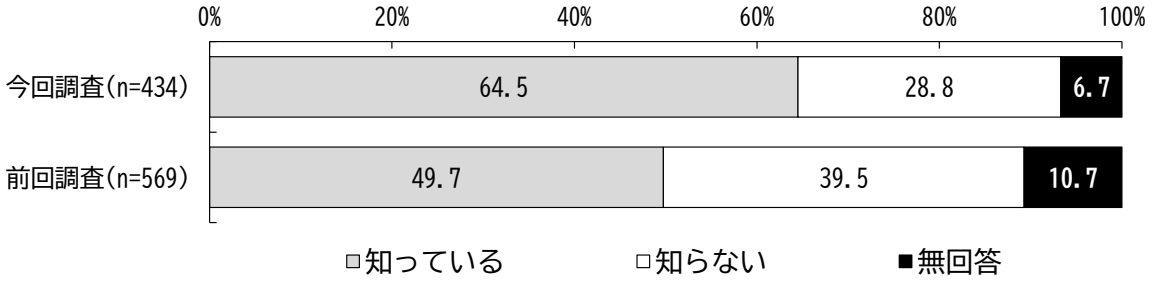
設問	Ｂ票問６　あなたは、お住まいの地区を担当する地域包括支援センターを知っていますか Ｂ票問７　あなたは、地域包括支援センターに相談等をしたことはありますか

◆「知っている」が 64.5%。前回調査から約 15 ポイント増加。
◆「相談したことがある」は３割強、80 歳以上の介護者では４割を超える。

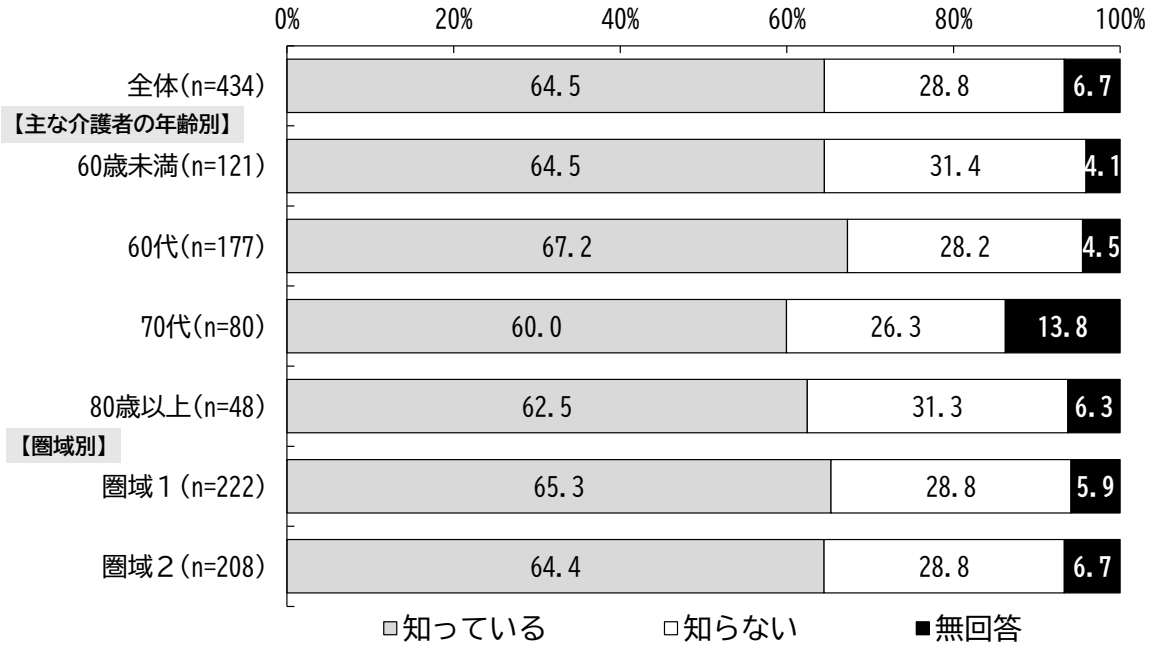
①地域包括支援センターの認知度

お住まいの地区の地域包括支援センターの認知度については、「知っている」が 64.5%と前回調査の 49.7%から約 15 ポイント増加しています。

地域包括支援センターの認知度（全体／前回調査との比較）



地域包括支援センターの認知度（全体・主な介護者の年齢別・圏域別）

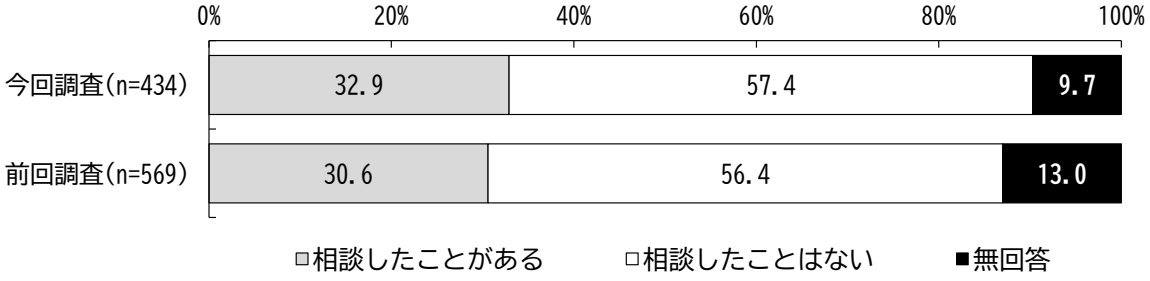


②相談の有無

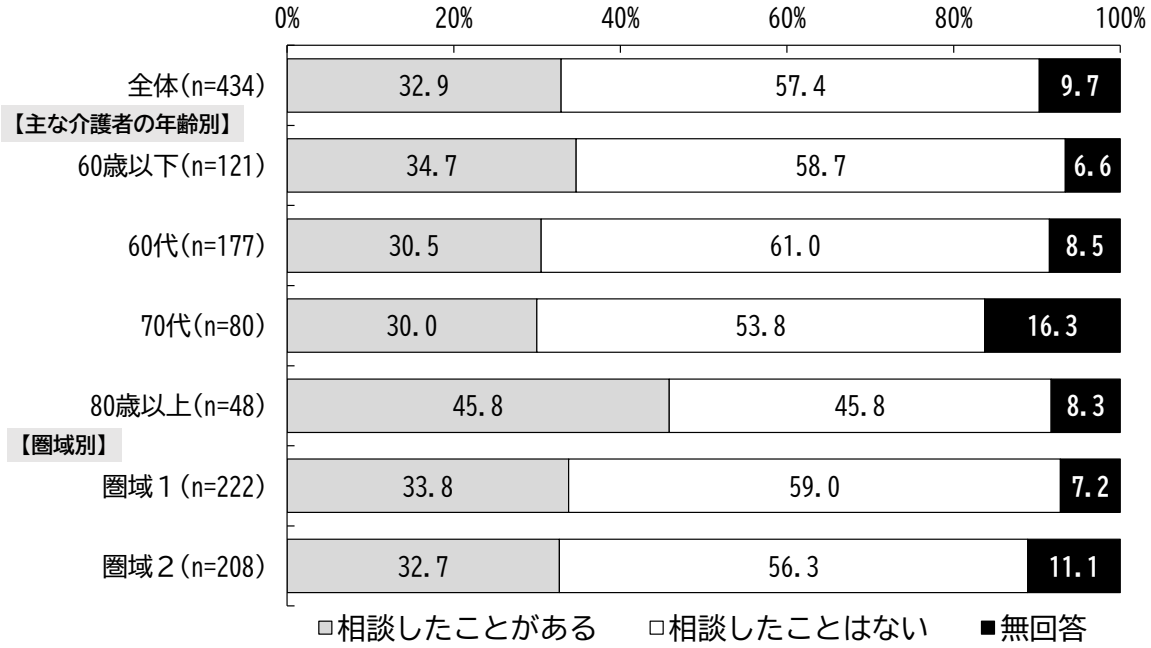
お住まいの地区の地域包括支援センターで相談したことがあるかどうかについては、「相談したことがある」が 32.9%と前回調査の 30.6%とほぼ同率となっています。

「相談したことがある」と回答した割合は、80 歳以上の主な介護者で 45.8%と４割を超えています。

地域包括支援センターでの相談（全体）



地域包括支援センターでの相談（全体・主な介護者の年齢別・圏域別）



（７）介護の相談相手

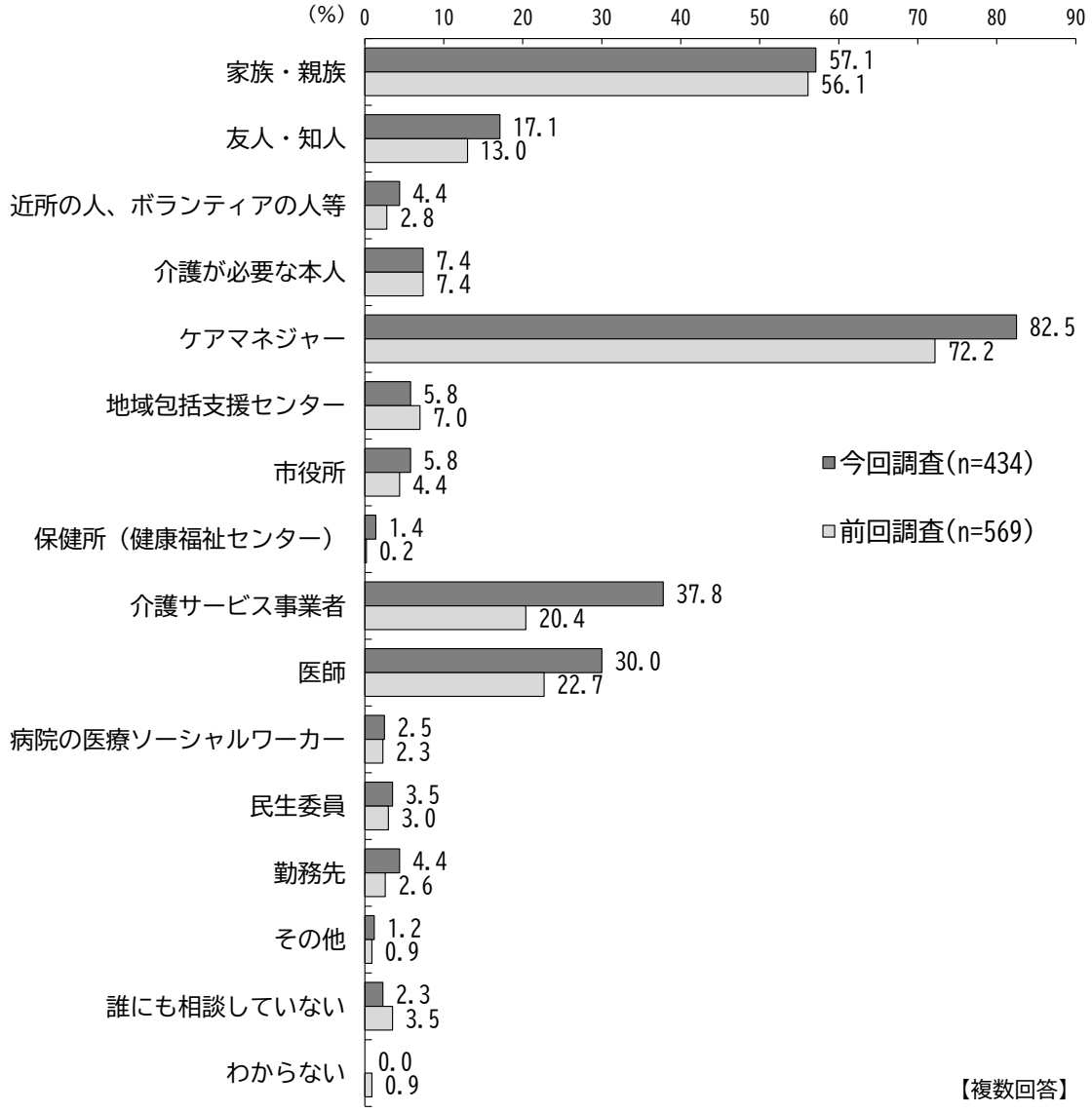
設問	Ｂ票問８　あなたは、介護について誰かに相談していますか

◆「ケアマネジャー」が最も多く、次いで「家族・親族」が続く。

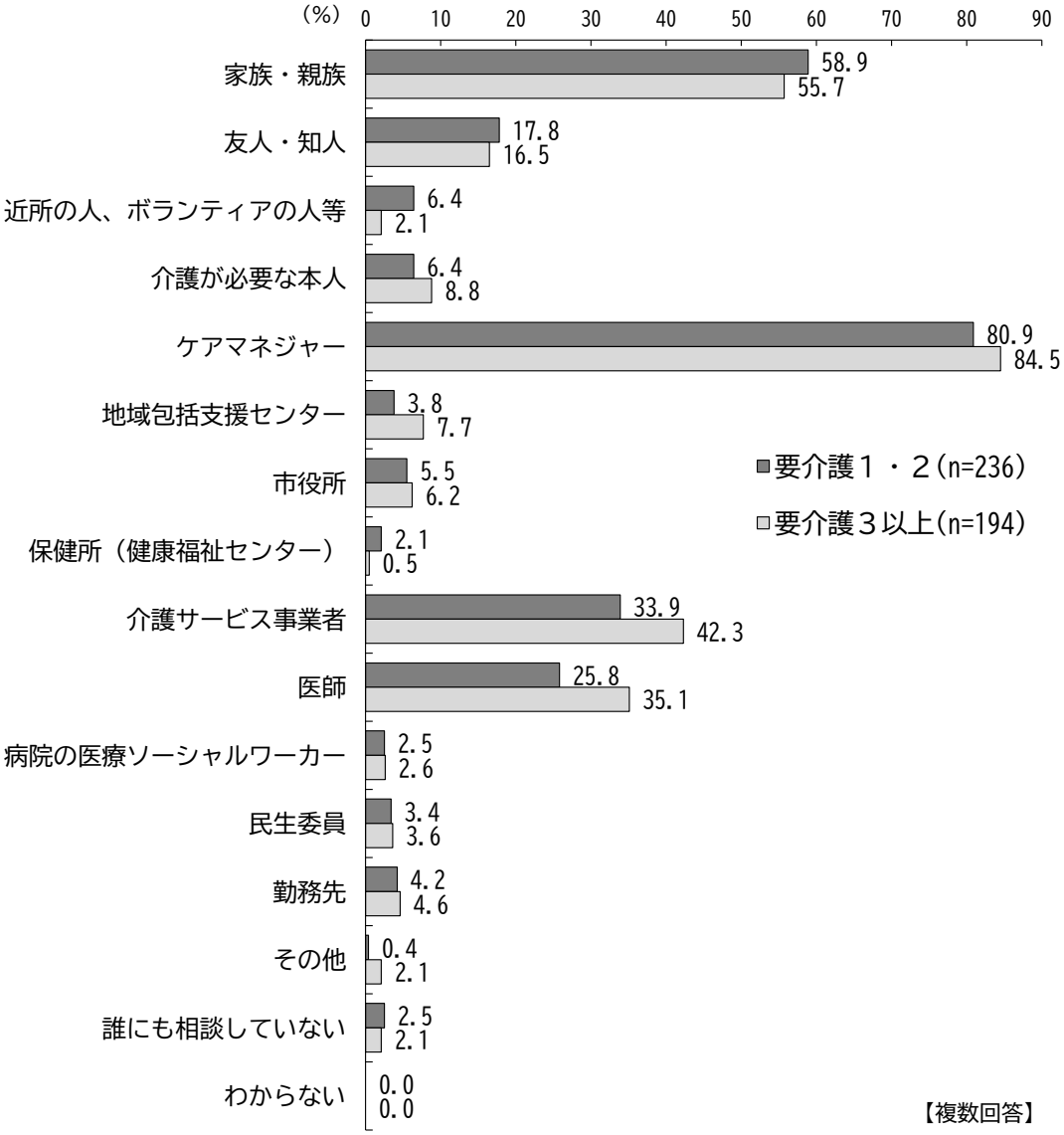
介護についての相談相手については、「ケアマネジャー」(82.5%) が最も多く、次いで「家族・親族」(57.1%)、「介護サービス事業者」(37.8%)、「医師」(30.0%) が続きます。前回調査と比較すると、相談相手の上位回答は同様の傾向となっていますが、「ケアマネジャー」、「介護サービス事業者」、「医師」と回答する割合が増加しています。

要介護度別でみても、相談相手の上位回答は全体と同様の傾向となっています。

介護の相談相手（全体）



介護の相談相手（要介護度別）



（８）成年後見制度の認知度

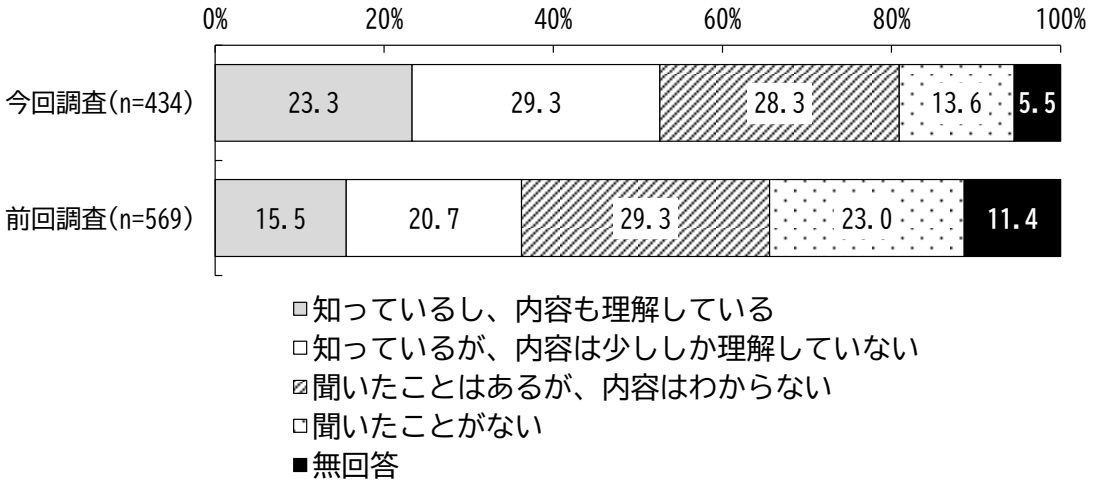
設問	Ｂ票問９　あなたは、成年後見制度をご存知ですか

◆「聞いたことがない」が 10 ポイント減少するなど、成年後見制度の周知が進む。

成年後見制度については、「知っているし、内容も理解している」が 23.3%、「知っているが、内容は少ししか理解していない」が 29.3%と、いずれも前回調査より増加しています。一方、「聞いたことがない」は 13.6%に減少し、成年後見制度の周知が進んでいることがうかがえます。

主な介護者の年齢別でみると、80 歳以上で「聞いたことがない」が 22.9%と２割を超えています。

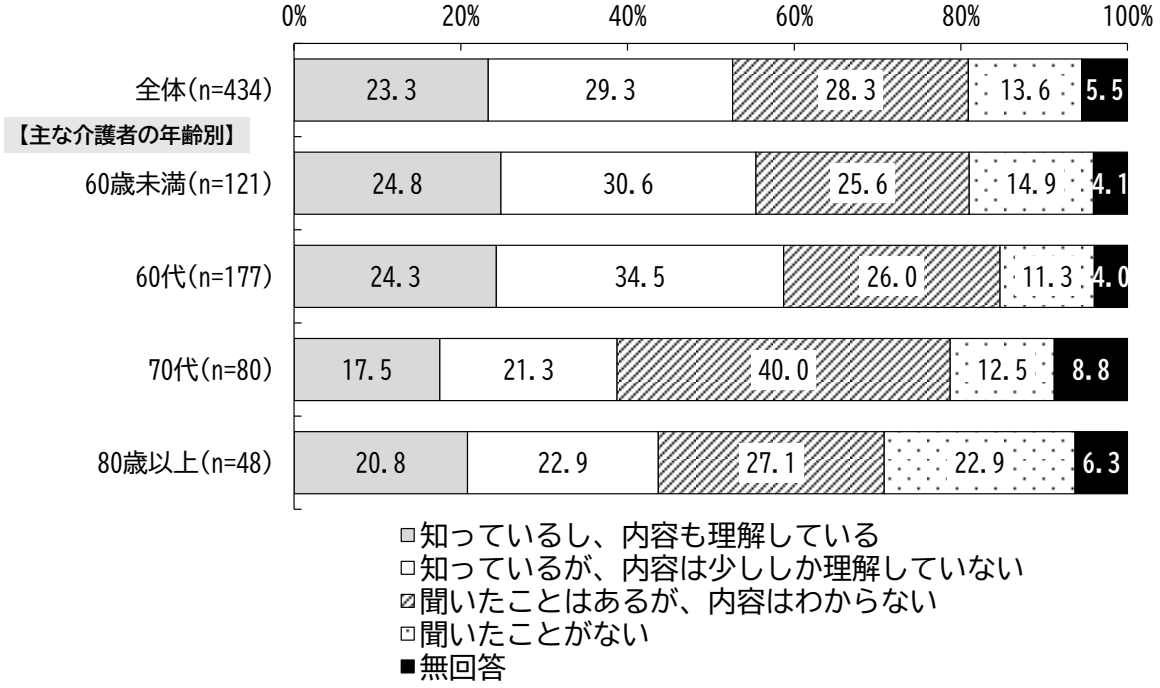
成年後見制度の認知度（全体／前回調査との比較）



成年後見制度

認知症などにより判断能力が十分ではない方について、本人の権利を守る援助者（「成年後見人」等）を選ぶことで、契約や財産管理などの法律行為等をする際などにおいて、本人を法律的に支援する制度です。市では、成年後見制度に関する相談窓口として、「小浜市成年後見ステーション」を小浜市地域包括支援センター内に設置しています。

成年後見制度の認知度（全体・主な介護者の年齢別）



（９）認知症支援サービス・活動の認知度

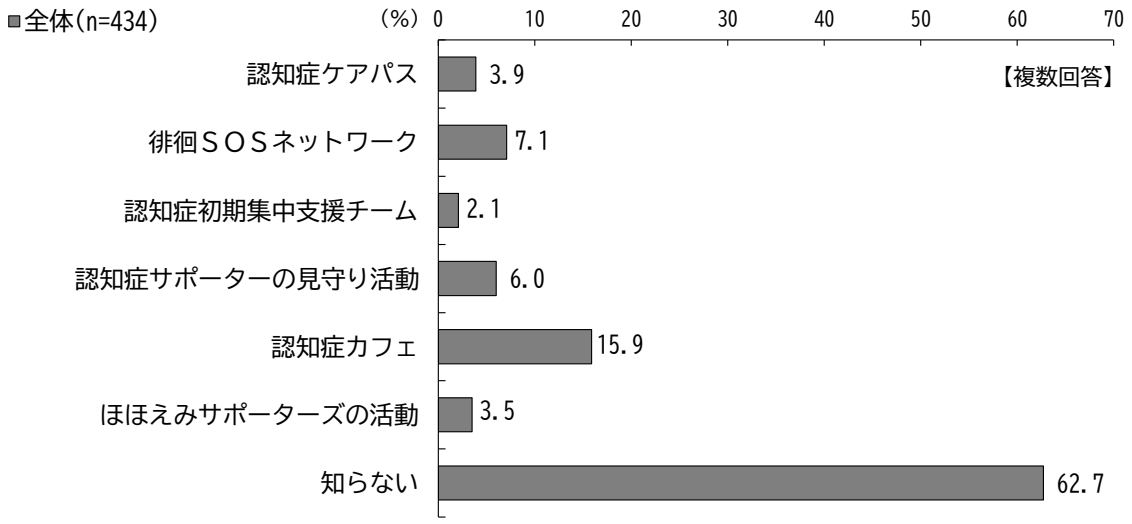
設問	Ｂ票問 10　小浜市が実施している認知症の方を介護している家族への支援体制について、知っているものをお答えください

◆「知らない」が６割以上。

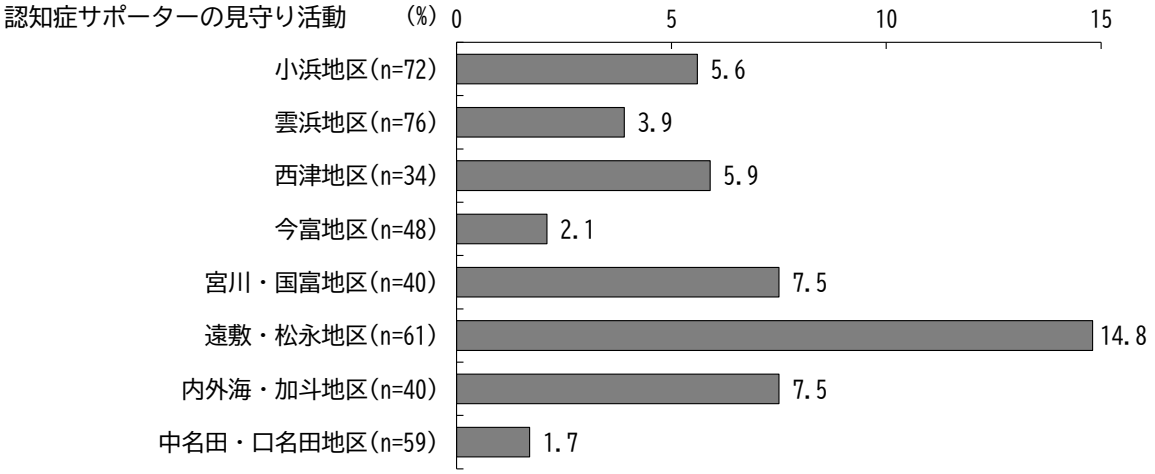
市が実施している認知症の方を介護している家族への支援体制について、知っているサービス・活動をたずねたところ、「知らない」が 62.7%と６割以上を占める結果となっています。具体的なサービス・活動については「認知症カフェ」が 15.9%で最も多く、次いで「徘徊ＳＯＳサービス」(7.1%)、「認知症サポーターの見守り活動」(6.0%）が続きます。

各種認知症支援サービス・活動のうち、地域に密接な活動等を地区別でみると、「認知症サポーターの見守り活動」は遠敷・松永地区（14.8%)、「認知症カフェ」は宮川・国富地区(25.0%)、遠敷・松永地区(26.2%)、内外海・加斗地区(25.0%)、「ほほえみサポーターズの活動」は遠敷・松永地区（9.8%）で比較的認知度が高い傾向がみられます。

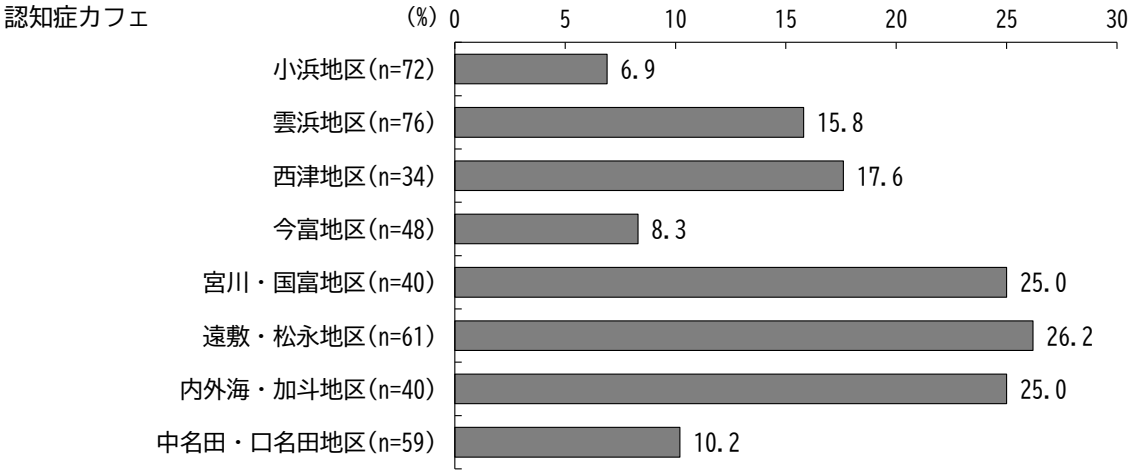
認知症支援サービス・活動の認知度（全体）



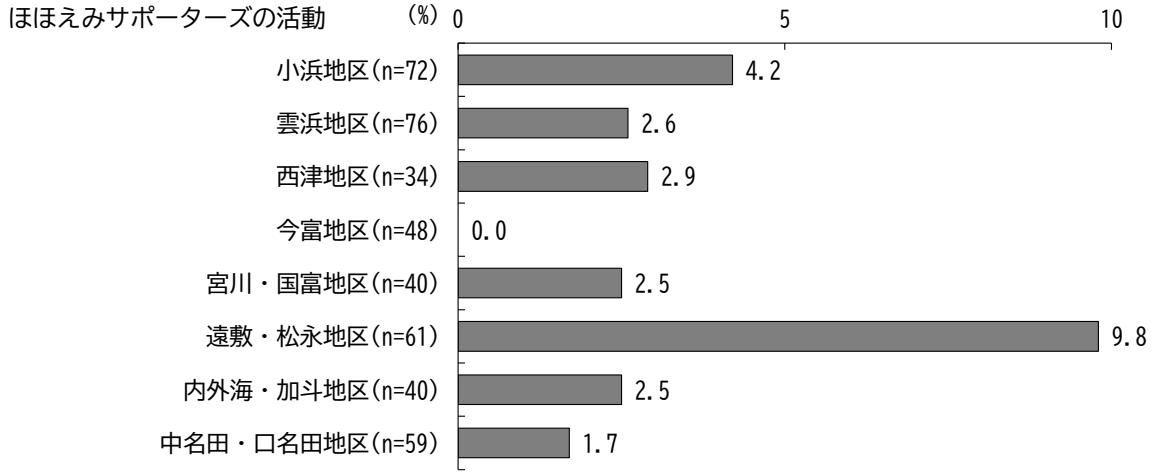
認知症支援サービス・活動の認知度：認知症サポーターの見守り活動（地区別）



認知症支援サービス・活動の認知度：認知症カフェ（地区別）



認知症支援サービス・活動の認知度：ほほえみサポーターズの活動（地区別）



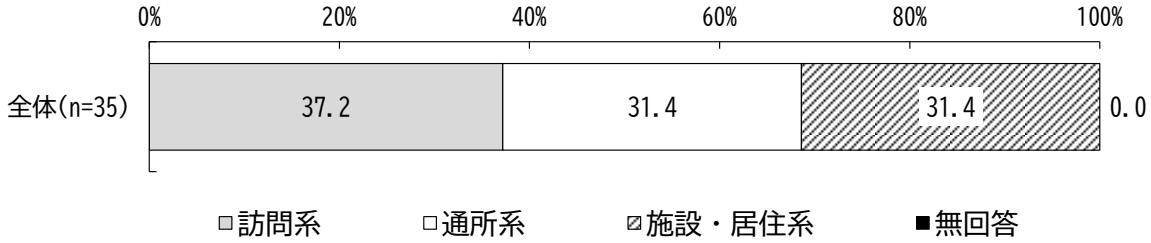
Ⅳ．介護人材実態調査

１．回答事業所の状況

（１）事業所のサービス系統

回答のあった事業所のサービス系統は、「訪問系」が 37.2%、「通所系」及び「施設・居住系」が 31.4%（同率）となっています。

事業所のサービス系統（全体）



サービス系統	内　容
訪問系	訪問介護、訪問入浴、夜間対応型訪問介護、訪問型サービス（総合事業）、小規模多機能型居宅介護、看護小規模多機能型居宅介護
通所系	通所介護（地域密着型含む）、通所リハビリテーション、認知症対応型通所介護、通所型サービス（総合事業）
施設・居住系	特別養護老人ホーム（地域密着型含む）、介護老人保健施設、療養型・介護医療院、ショートステイ、グループホーム、特定施設（地域密着型含む）、住宅型有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅、軽費老人ホーム

※サービス系統は国から提示された介護人材実態調査調査票による区分。

（２）介護職員数

回答のあった事業所の職員の状況をみると、事業所に所属する職員の平均は施設・居住系で 19.8 人、訪問系で 11.9 人、通所系で 8.3 人となっています。

介護職員数（全体・サービス系統別）

	正規職員（人）		非正規職員（人）		職員計（人）	
	職員数	平均	職員数	平均	職員数	平均
全体(n=35)	294	8.4	170	4.9	464	13.3
訪問系(n=13)	66	5.1	89	6.8	155	11.9
通所系(n=11)	46	4.2	45	4.1	91	8.3
施設・居住系(n=11)	182	16.5	36	3.3	218	19.8

２．職員の状況について

（１）過去１年間の採用者数・離職者数からみる職員数

◆全体でみると職員数は昨年比でほぼ横ばい。正規職員がやや増加。

回答のあった事業所の過去１年の採用者数と離職者数から職員数の変化をみると、全体では職員数はほぼ横ばい（昨年比 100.2%）となっており、正規職員数が増加（昨年比で正規職員が 102.1%と増加）しています。

サービス系統別でみると、通所系で職員数が減少（昨年比 97.8%）、特に非正規職員が減少（昨年比 88.2%）していますが、正規職員が増加（昨年比 109.5%）しています。

過去１年間の採用者数・離職者数からみる職員数の変化（全体・サービス系統別）

	職員数（人）			採用者数（人）		
	正規職員	非正規職員	計	正規職員	非正規職員	計
全体(n=35)	294	170	464	18	9	27
訪問系(n=13)	66	89	155	3	7	10
通所系(n=11)	46	45	91	6	2	8
施設・居住系(n=11)	182	36	218	9	0	9

	離職者数（人）			昨年比		
	正規職員	非正規職員	計	正規職員	非正規職員	職員全体
全体(n=35)	12人	14人	26人	102.1%	97.1%	100.2%
訪問系(n=13)	2人	3人	5人	101.5%	104.7%	103.3%
通所系(n=11)	2人	8人	10人	109.5%	88.2%	97.8%
施設・居住系(n=11)	8人	3人	11人	100.6%	92.3%	99.1%

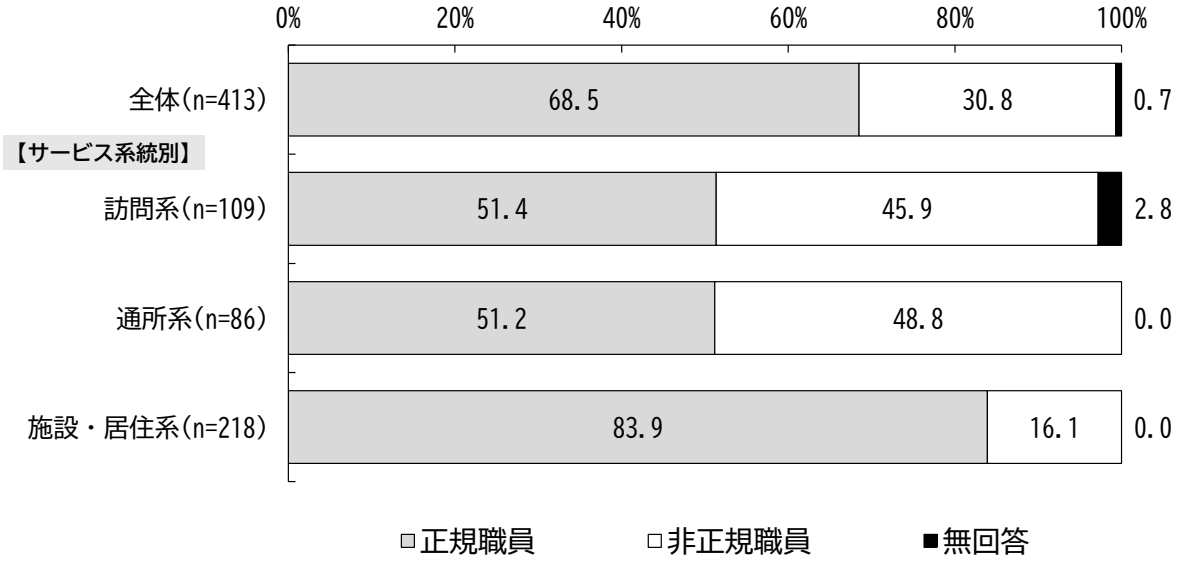
（２）雇用形態の状況

◆施設・居住系では「正規職員」が８割を超える一方、訪問系、通所系では約半数。
◆訪問系、通所系では女性、40 歳以上で非正規職員の割合が多い。

①サービス系統別でみる雇用形態の状況

雇用形態の状況をみると、全体では「正規職員」が 68.5%、「非正規職員」が 30.8%となっていますが、サービス系統別でみると、施設･居住系では「正規職員」が 83.9%と８割を超える一方、訪問系、通所系では約半数にとどまります。

正規職員・非正規職員の状況（全体・サービス系統別）



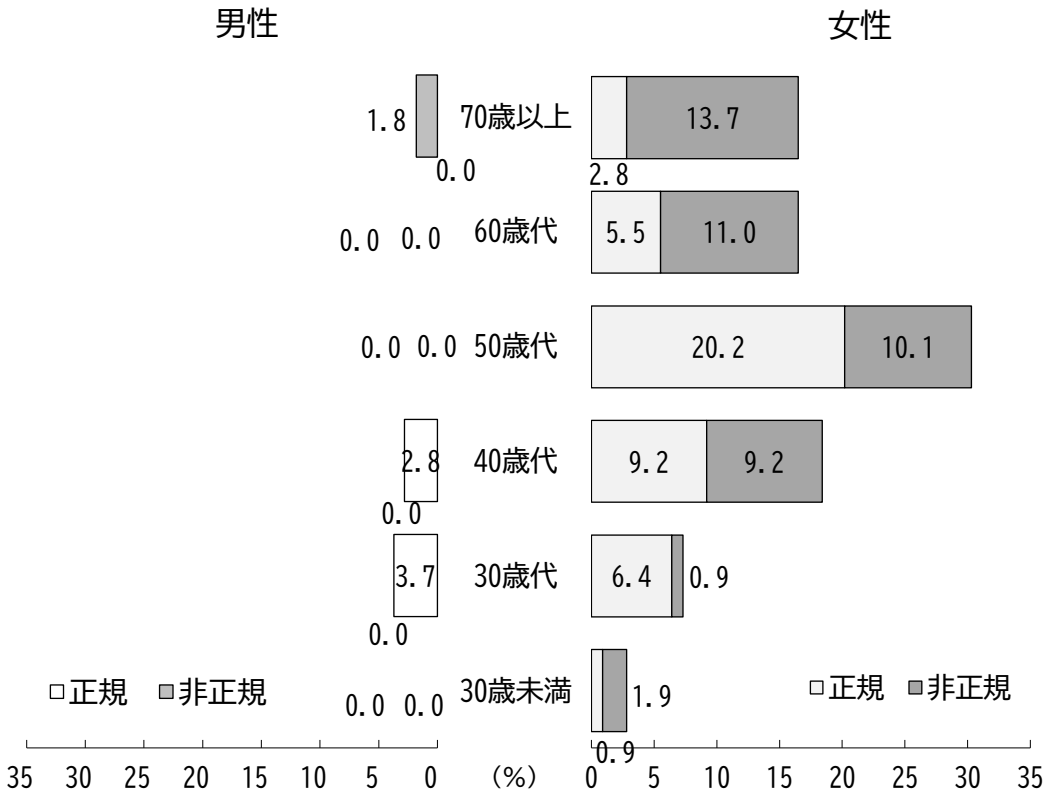
②性別・年齢別でみる雇用形態の状況

雇用形態の状況をサービス系統ごとに、性別・年齢別の構成比（それぞれのサービスに従事する職員全体を 100%とした構成比）でみると、訪問系では 40 歳以上で女性の非正規職員がそれぞれの年齢層で約 1 割となっており、70 歳以上では女性の非正規職員が 13.7%と最も多くなっています。

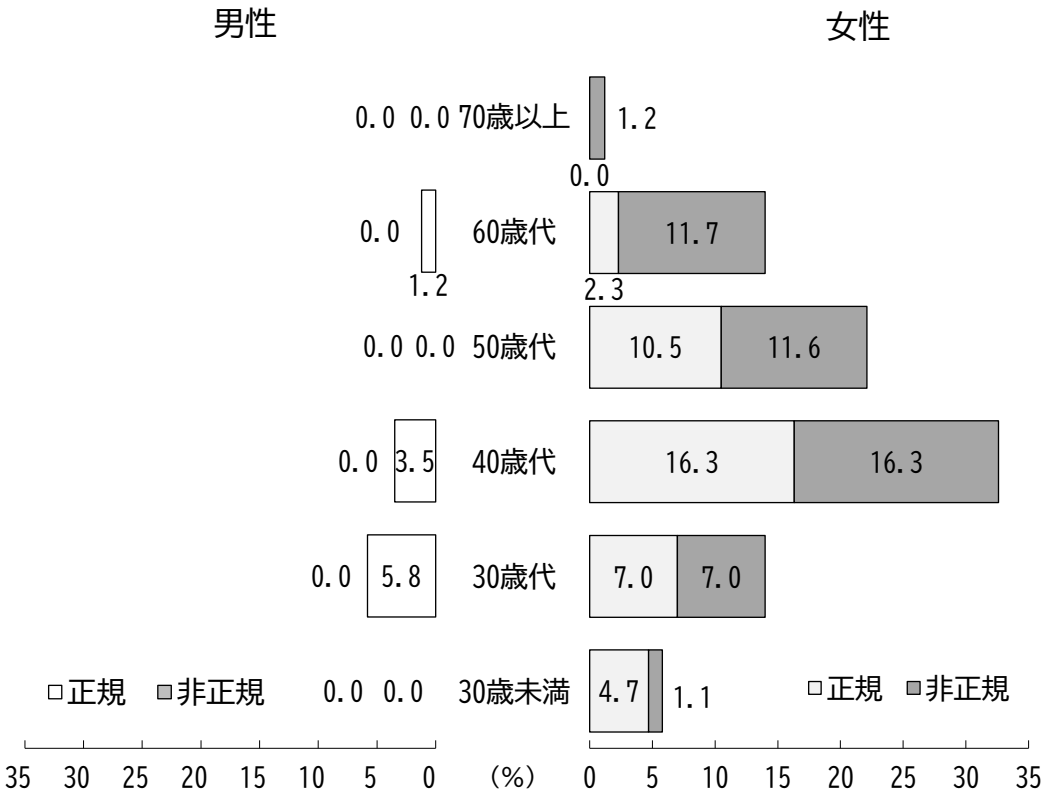
通所系では 40 歳代の女性職員の割合が多く、正規職員と非正規職員がそれぞれ 16.3%となっています。

施設・居住系では、他のサービス系統と異なり、男性職員の割合が多く、男性、女性ともに非正規職員の割合が少ない傾向がみられます。

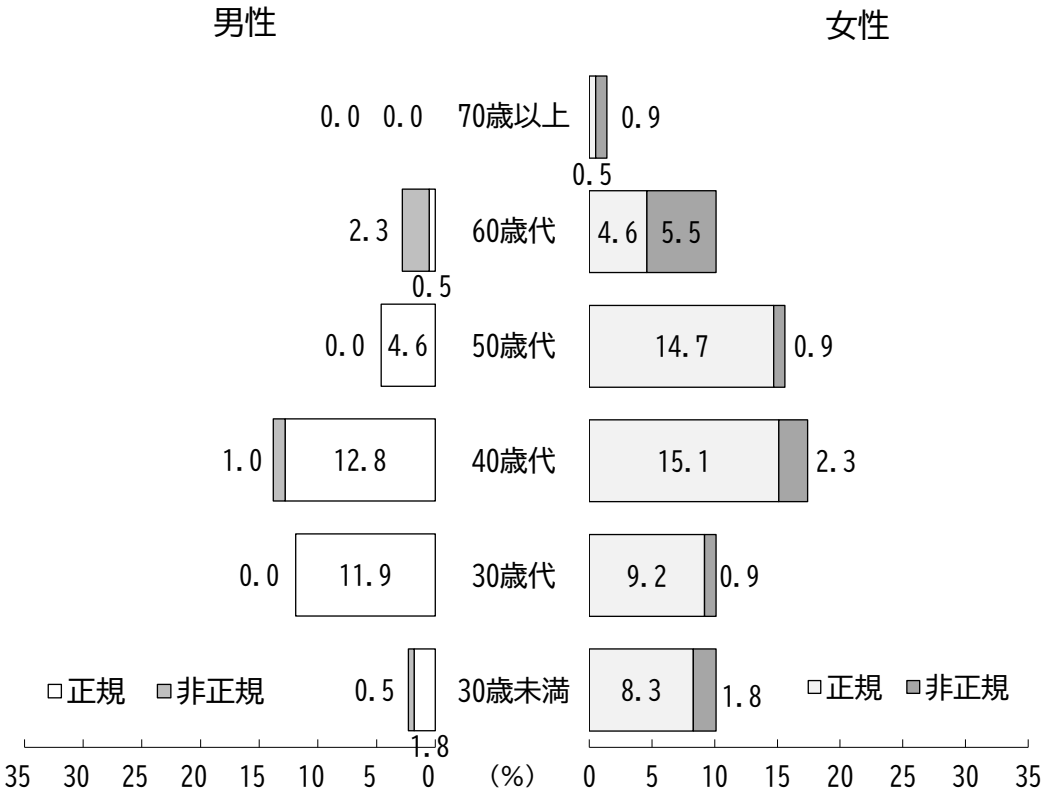
訪問系サービスの雇用形態の構成比（性別・年齢別）



通所系サービスの雇用形態の構成比（性別・年齢別）



施設・居住系サービスの雇用形態の構成比（性別・年齢別）



（３）職員の資格取得の状況

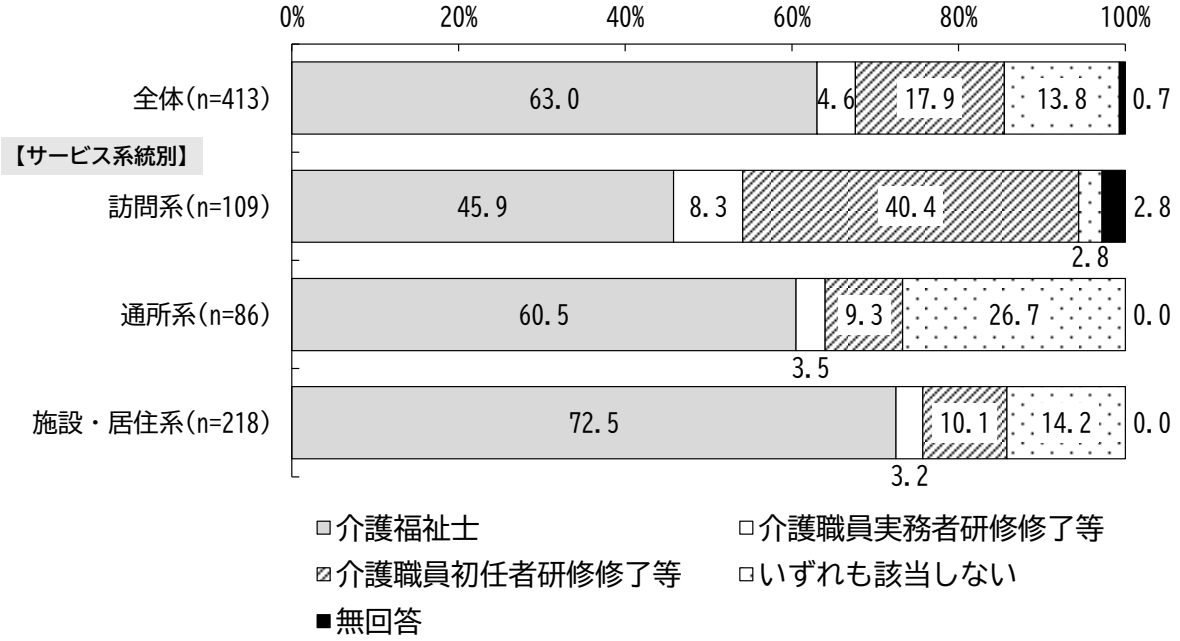
設問	職員票：あなたの資格の取得、研修の修了の状況について、ご回答ください

◆施設・居住系では「介護福祉士」が約７割。訪問系では「介護職員初任者研修終了等」が約４割。
◆年齢別では、30 歳代で「介護福祉士」の資格所有者が７割以上を占める一方、20 歳代では資格を有していない職員が４割を占める。

①サービス系統別でみる保有資格の状況

職員の保有資格の状況をサービス系統別でみると、「介護福祉士」の割合は全体で 63.0%、施設・居住系で 72.5%、通所系で 60.5%、訪問系で 45.9%となっています。また、訪問系では「介護職員初任者研修終了等」が 40.4%と４割を占めています。

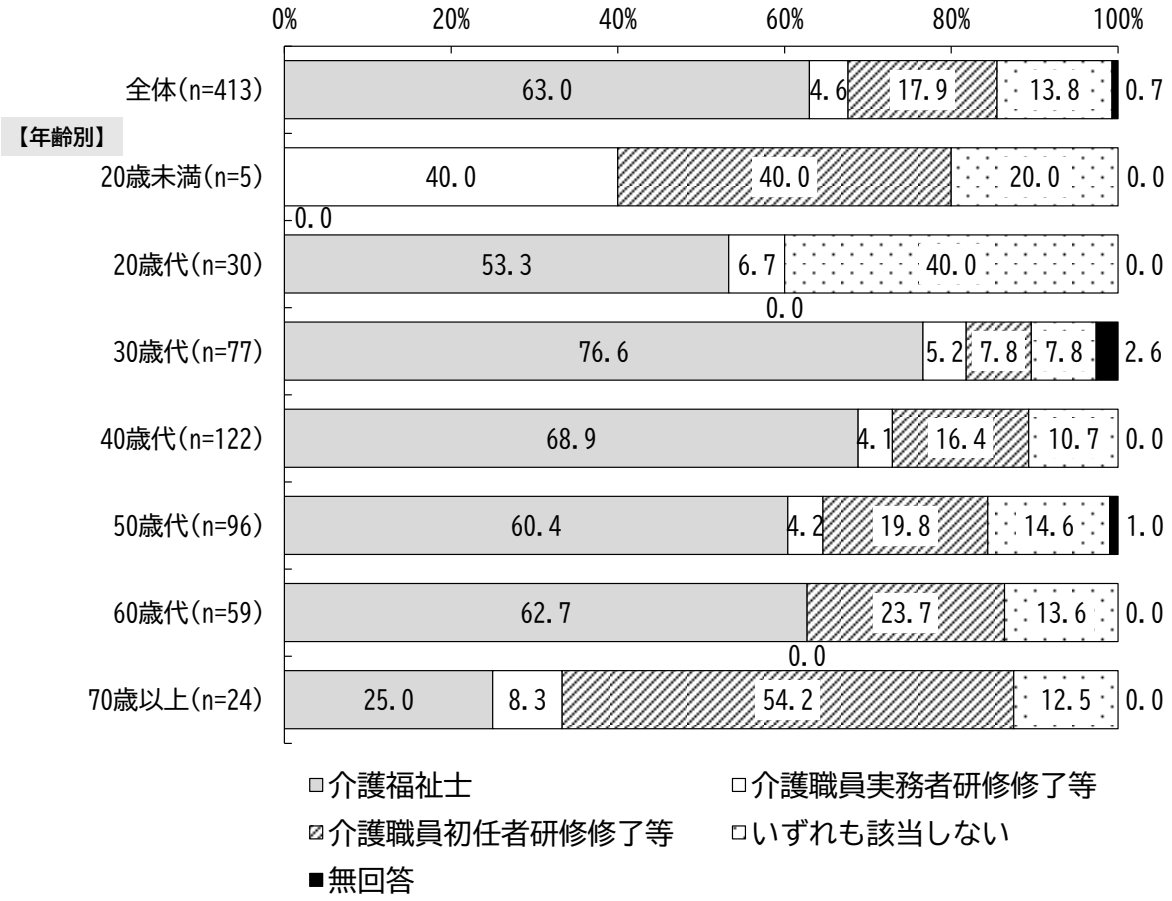
保有資格の状況（全体・サービス系統別）



②年齢別でみる資格保有の状況

職員の保有資格の状況を年齢別でみると、「介護福祉士」は 30 歳代で 76.6%と最も多く、「介護職員実務者研修修了等」は 20 歳未満（40.0%）、「介護職員初任者研修終了等」は 70 歳以上（54.2%）で最も多くなっています。なお、20 歳代では「いずれも該当しない」と資格を有していない職員が 40.0%と４割を占めています。

保有資格の状況（全体・年齢別）



３．訪問介護のサービス提供状況について

（１）訪問介護のサービス提供時間について

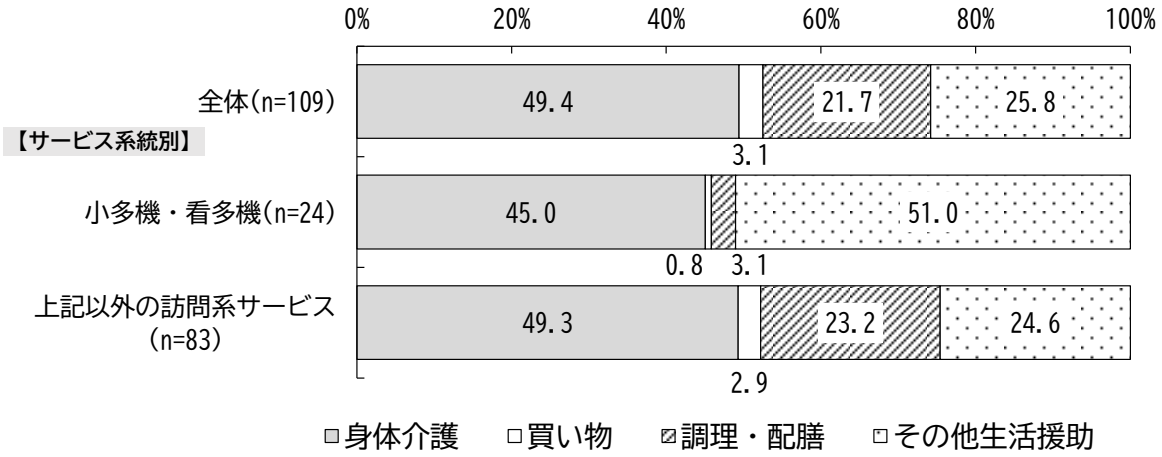
設問	職員票：身体介護・生活援助を提供した時間（分）を記入してください

◆「身体介護」が約半数。「その他生活援助」、「調理・配膳」が２割台。

①訪問介護のサービス提供時間の内訳

１週間の訪問介護の提供サービス時間（１週間）について、「身体介護」、「買い物」、「調理・配膳」、「その他生活援助」の割合をみると、「身体介護」が49.4%で約半数を占め、「その他生活援助」が25.8%、「調理・配膳」が21.7%となっています。

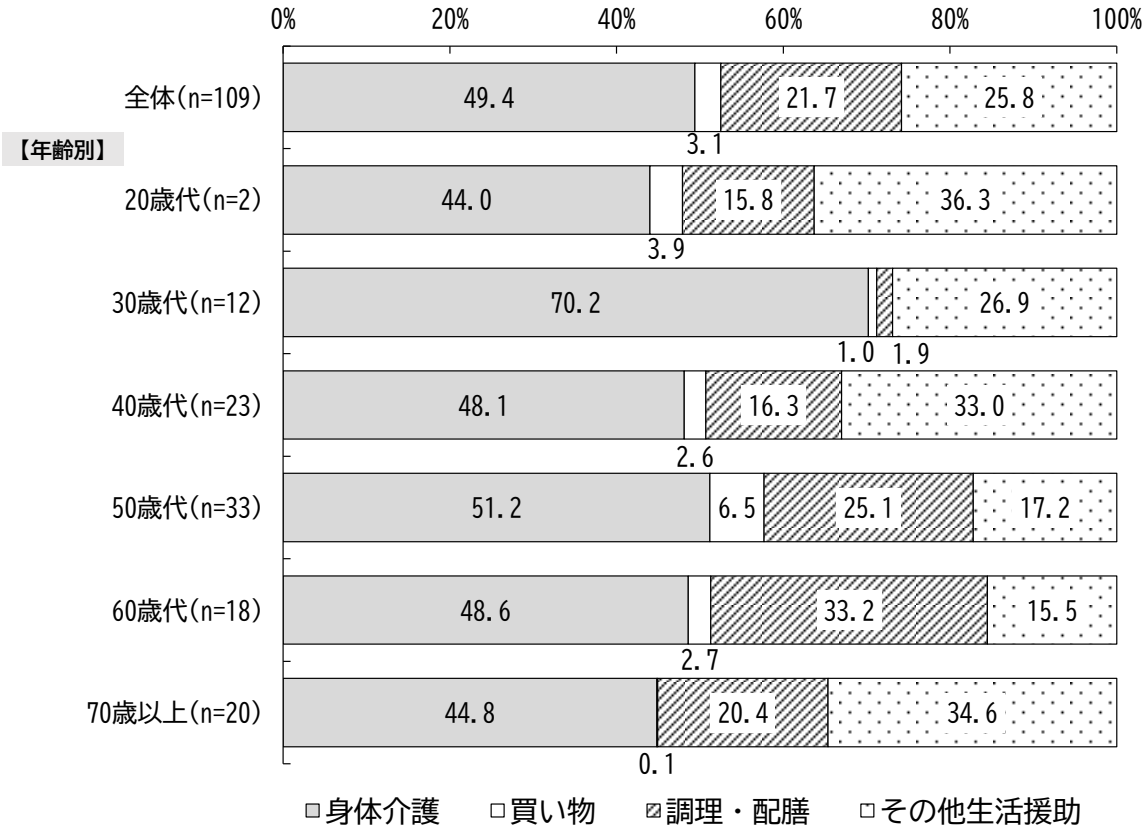
訪問介護のサービス提供時間の内訳（介護給付）



②訪問介護員の年齢別のサービス提供割合

訪問介護の提供サービス時間について、「身体介護」、「買い物」、「調理・配膳」、「その他生活援助」の割合を年齢別でみると、30 歳代では「身体介護」が 70.2%と約７割を占めますが、40 歳以上では４割～半数にとどまり、40 歳代、70 歳以上では「その他生活援助」が３割強、60 歳代では「調理・配膳」が３割強となっています。

訪問介護員の年齢別のサービス提供割合（介護給付／全体・年齢別）



４．人材の確保について

（１）人材確保の状況

設問	事業所票：貴事業所の「介護職員」の人材確保の状況は、いかがですか 事業所票：【「１．確保できている」、「２．おおむね確保できている」と回答された事業所にお聞きします。】貴事業所のどのような方策が確保につながっているとお考えですか

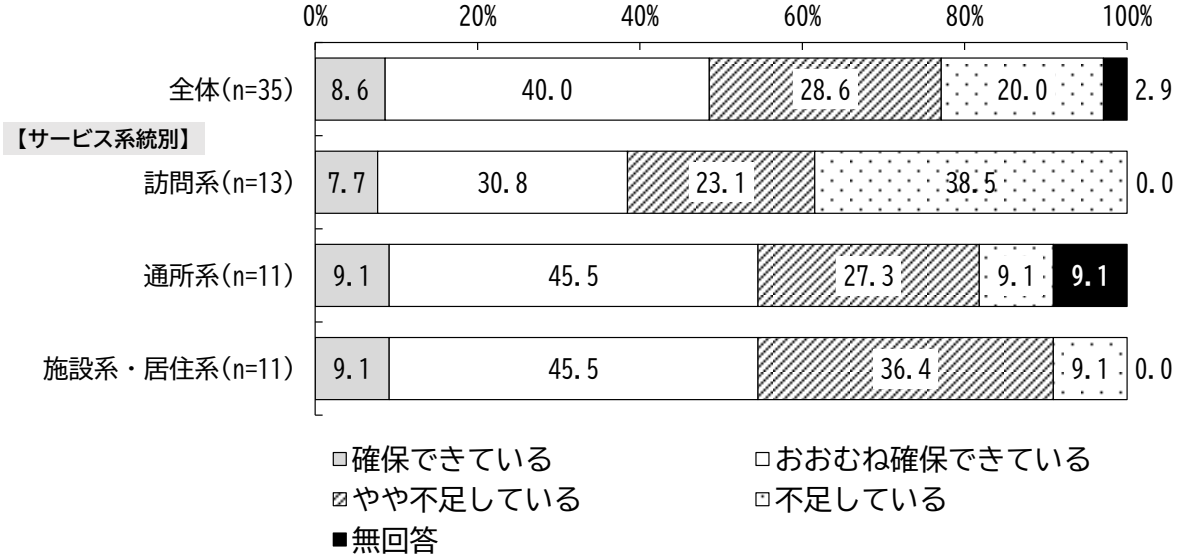
◆『確保している』と『不足している』が同率。訪問系サービスでは『不足している』が約６割。
◆確保策としては「職員からの紹介制度」及び「勤務時間等の希望聴取」が上位。

①人材確保の状況

人材確保の状況をたずねたところ、「おおむね確保できている」が 40.0%を占め、これに「確保できている」（8.6%）をあわせた『確保できている』が 48.6%、一方、『不足している』（「やや不足している」28.6%と「不足している」20.0%の合計）は 48.6%と、『確保している』と『不足している』が同率となっています。

サービス系統別でみると、『不足している』は訪問系で 61.6%と約６割となっており、特に「不足している」が 38.5%と約４割を占め、人材不足の傾向が強い結果となっています。

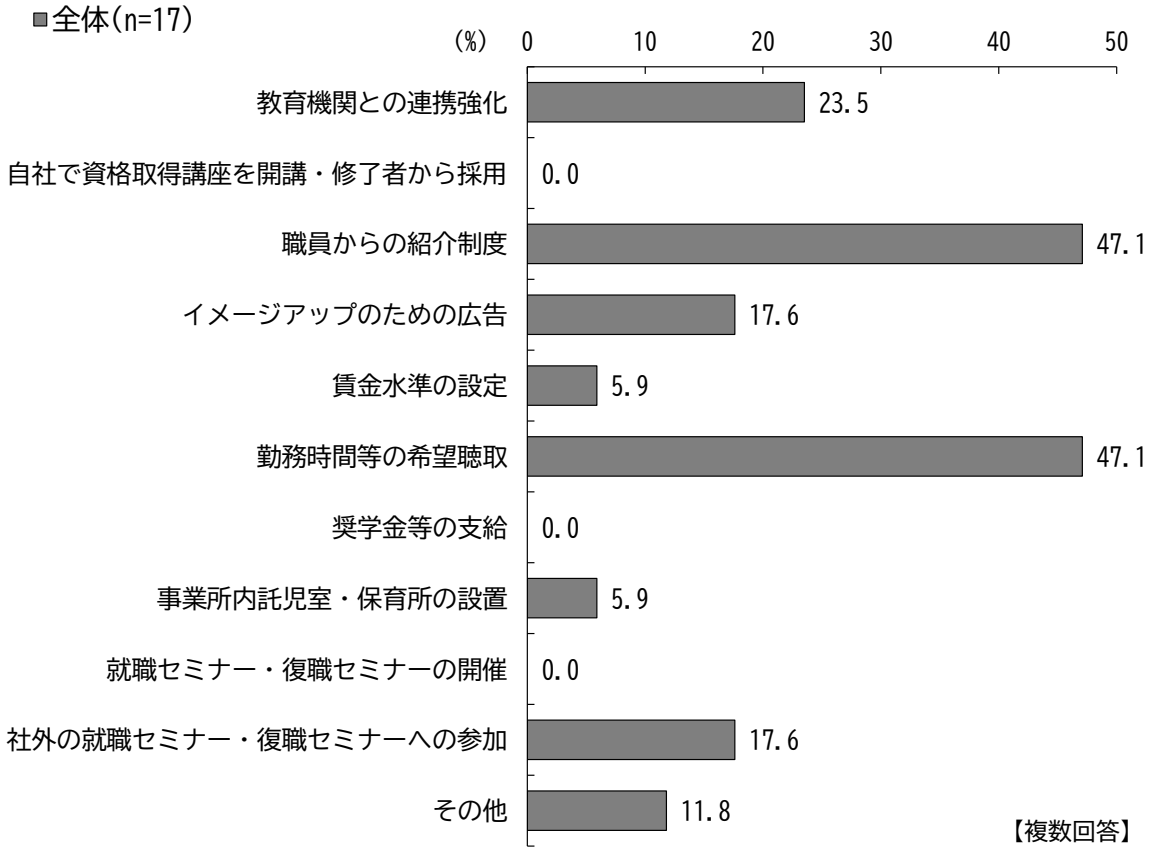
人材確保の状況（全体・サービス系統別）



②人材確保につながる方策

『確保している』と回答した事業所に、人材確保につながっていると思われる方策をたずねたところ、「職員からの紹介制度」及び「勤務時間等の希望聴取」（同率47.1%）が上位に挙げられ、次いで「教育機関との連携強化」（23.5%）、「イメージアップのための広告」及び「社外の就職セミナー・復職セミナーへの参加」（同率17.6%）が続きます。

人材確保につながる方策（全体）



（２）不足している職種

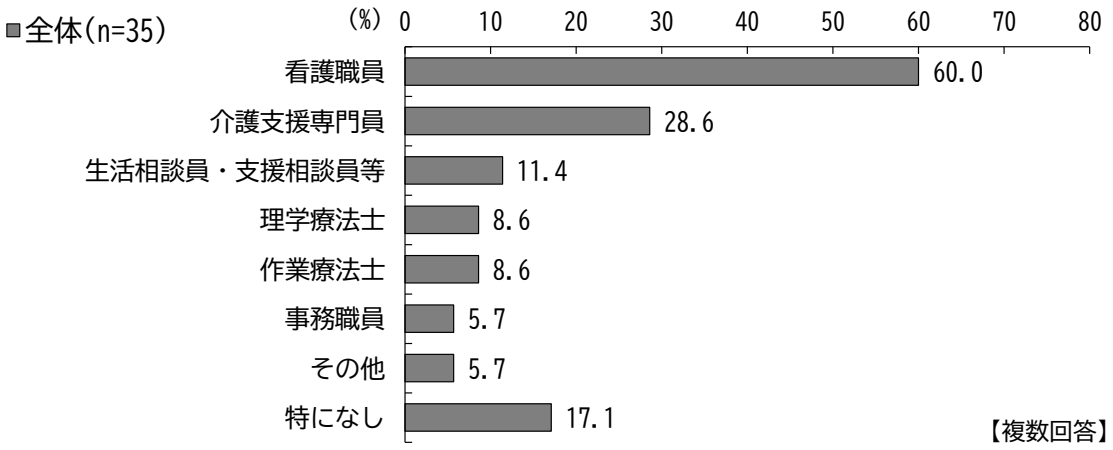
設問	事業所票：介護職員以外で不足していると思う職種は、以下のうちどちらですか

◆「看護職員」が最も多く、次いで「介護支援専門員」、「生活相談員・支援相談員等」の順。
◆通所系で「看護職員」と回答する割合が比較的多い。

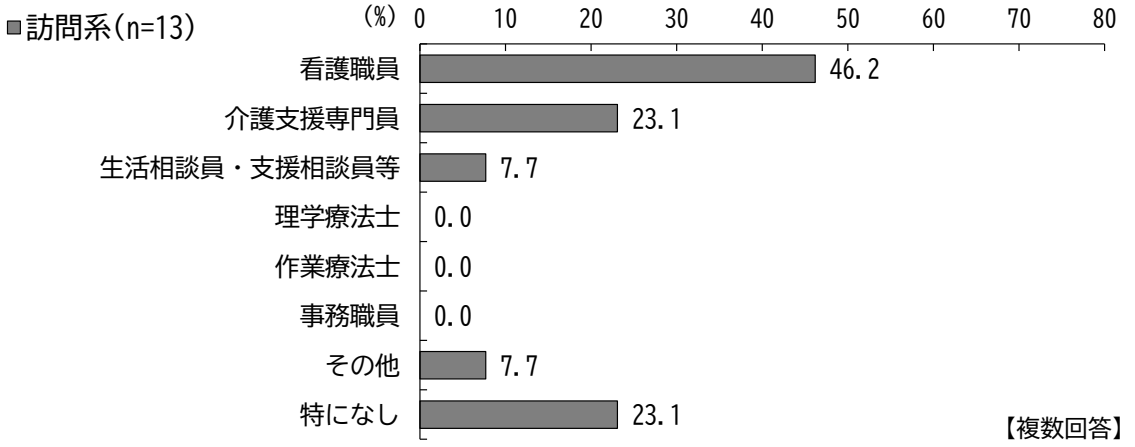
介護職員以外で不足していると思う職種については、「看護職員」が60.0%で最も多く、次いで「介護支援専門員」(28.6%)、「生活相談員・支援相談員等」(11.4%)が続きます。

サービス系統別でみると、すべてのサービス系統で「看護職員」が最も多く、特に通所系では回答割合が72.7%と７割を超え、比較的多くなっています。

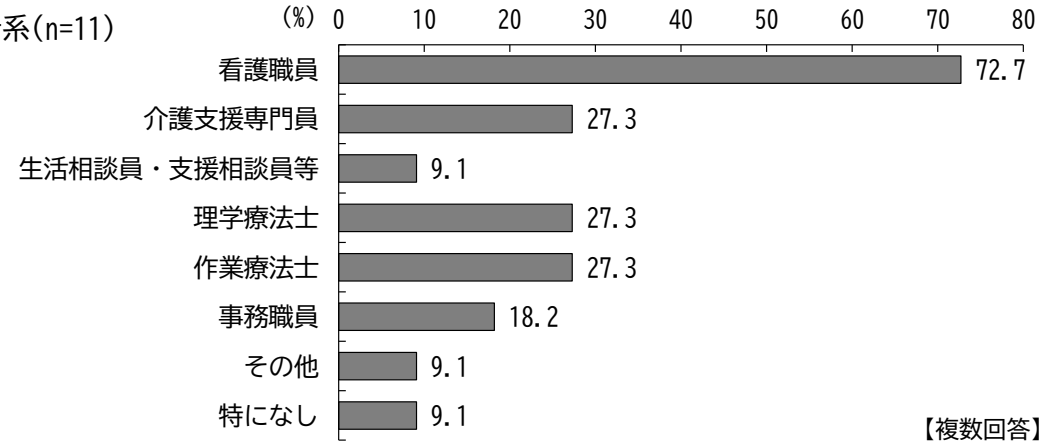
不足している職種（全体）



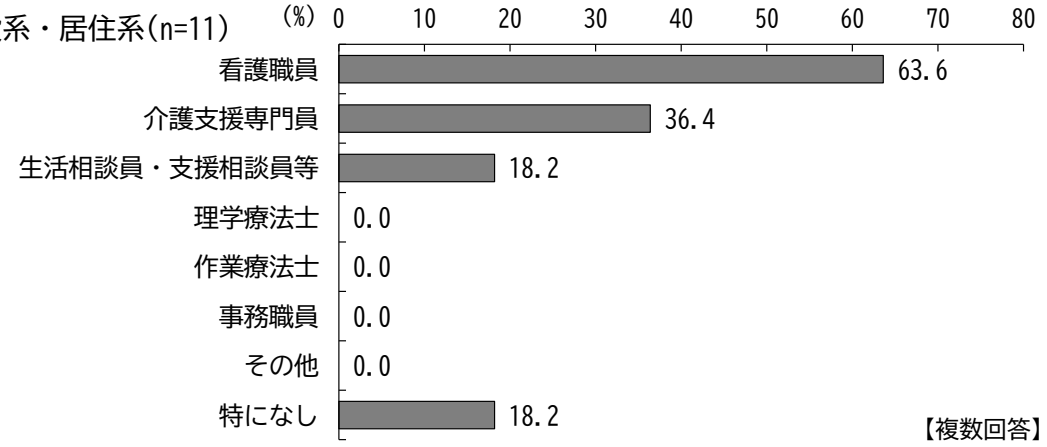
不足している職種（サービス系統別）



■通所系(n=11)



■施設系・居住系(n=11)



（３）実施している職員の定着促進策

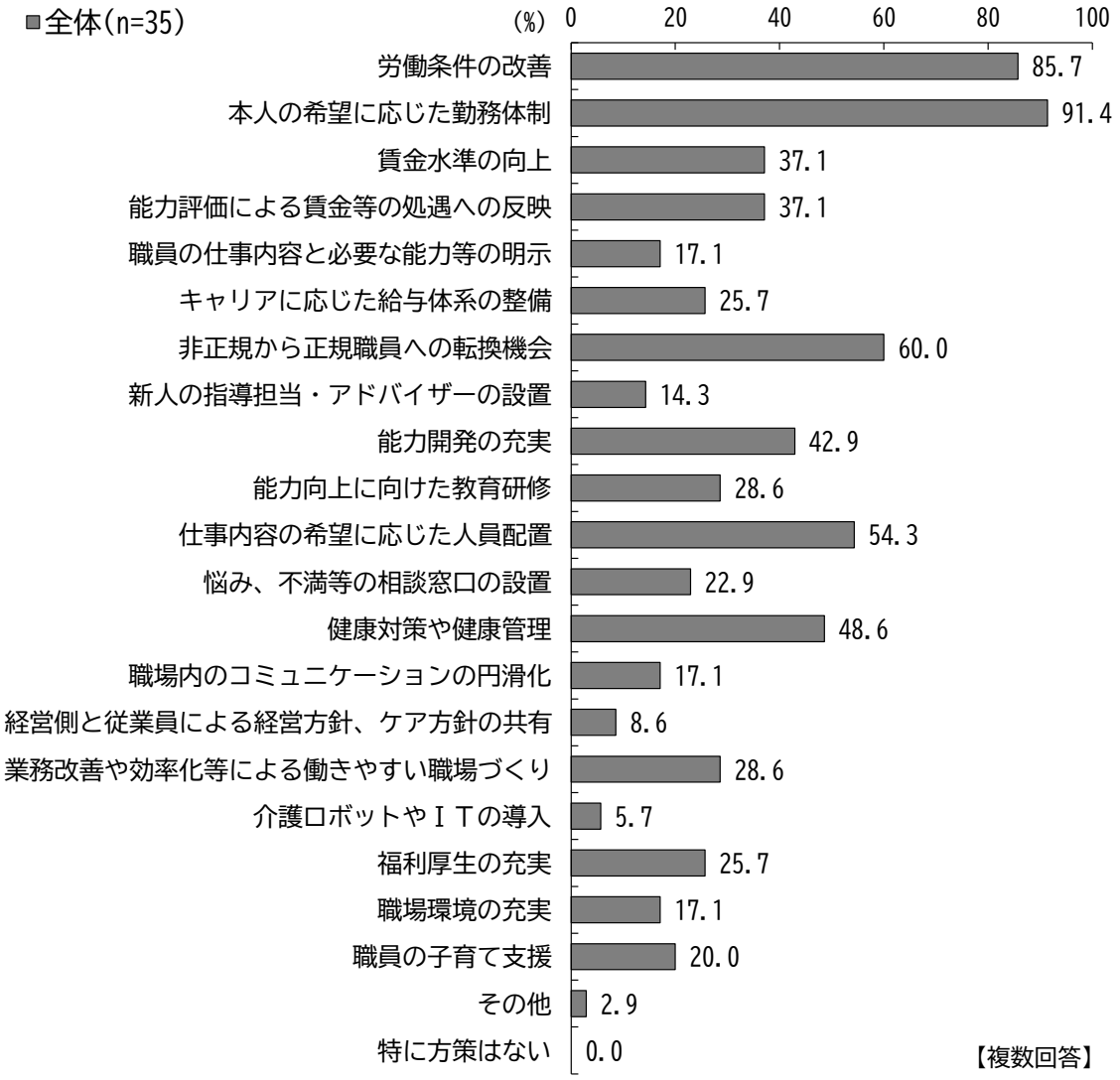
設問	事業所票：貴事業所では、職員の早期離職防止や定着促進を図るためにどのような方策をとっていますか。

◆「本人の希望に応じた勤務体制」及び「労働条件の改善」が上位を占める。

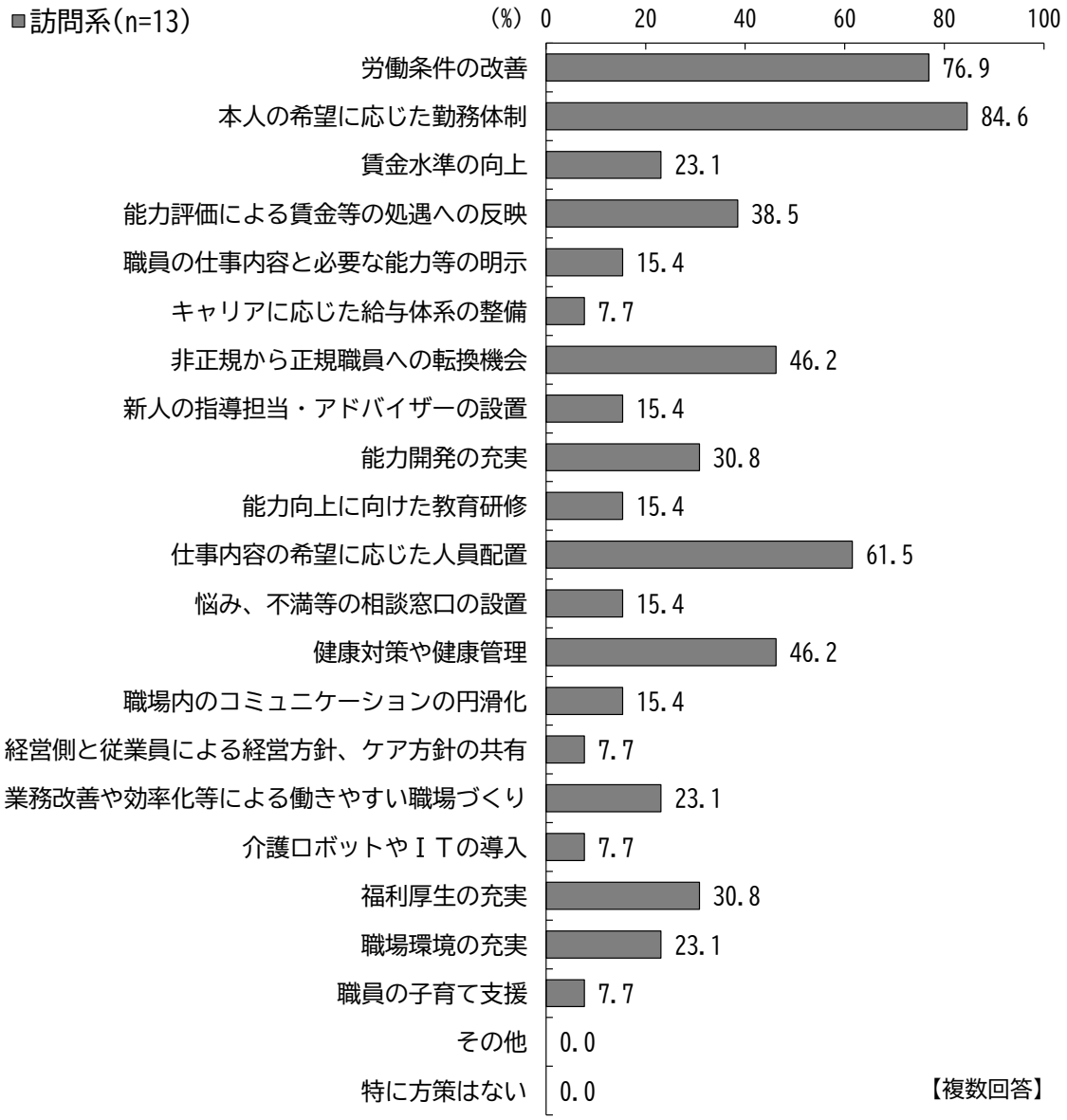
職員の早期離職防止や定着促進を図るために実施している方策をたずねたところ、「本人の希望に応じた勤務体制」（91.4%）、「労働条件の改善」（85.7%）が他を引き離して上位を占め、次いで「非正規から正規職員への転換機会」（60.0%）、「仕事内容の希望に応じた人員配置」（54.3%）などが続きます。

サービス系統別でみても、すべてのサービスで「本人の希望に応じた勤務体制」及び「労働条件の改善」が上位に挙げられています。また、施設・居住系では「健康対策や健康管理」（72.7%）と回答する割合が比較的多くなっています。

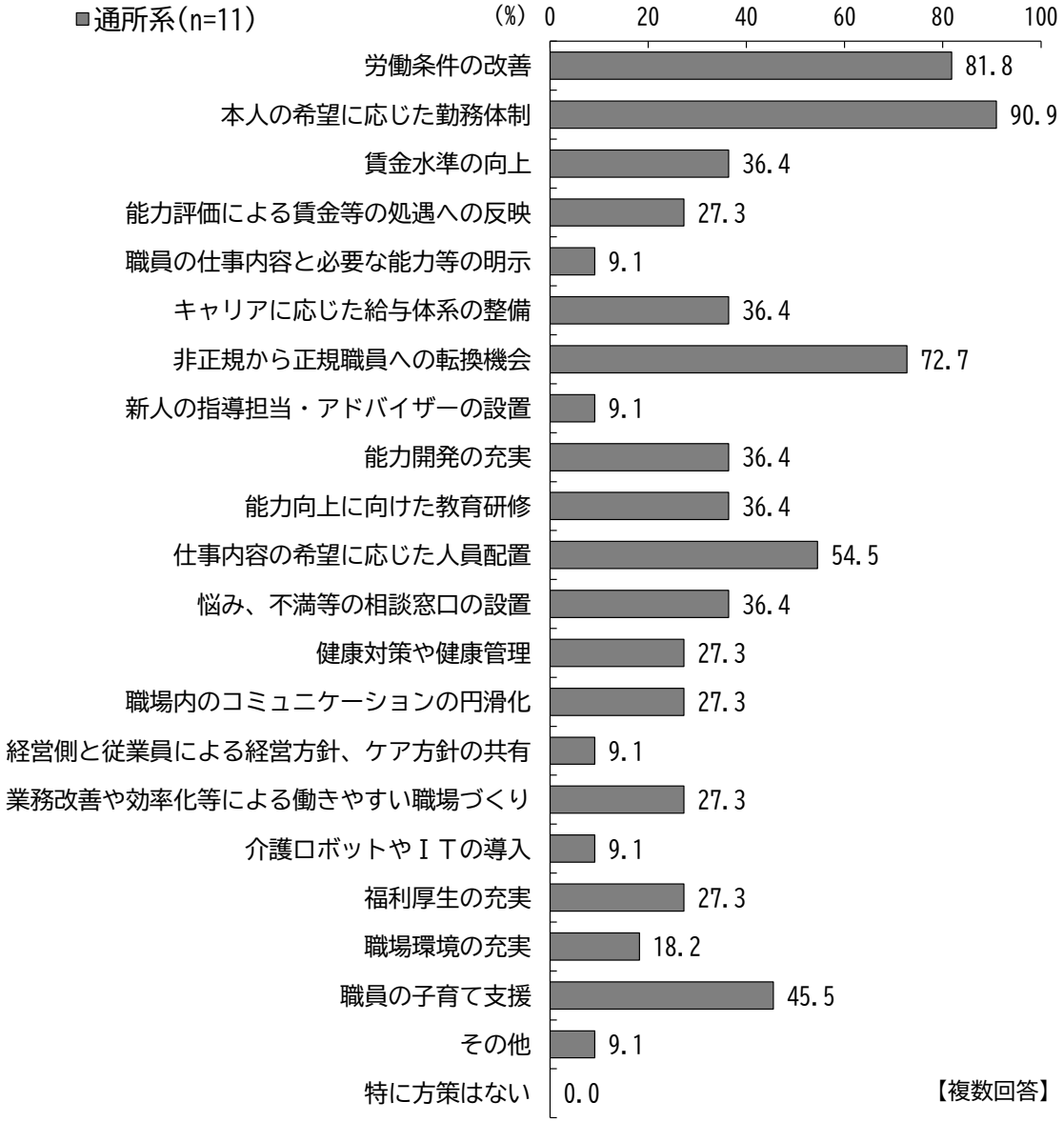
実施している職員の定着促進策（全体）



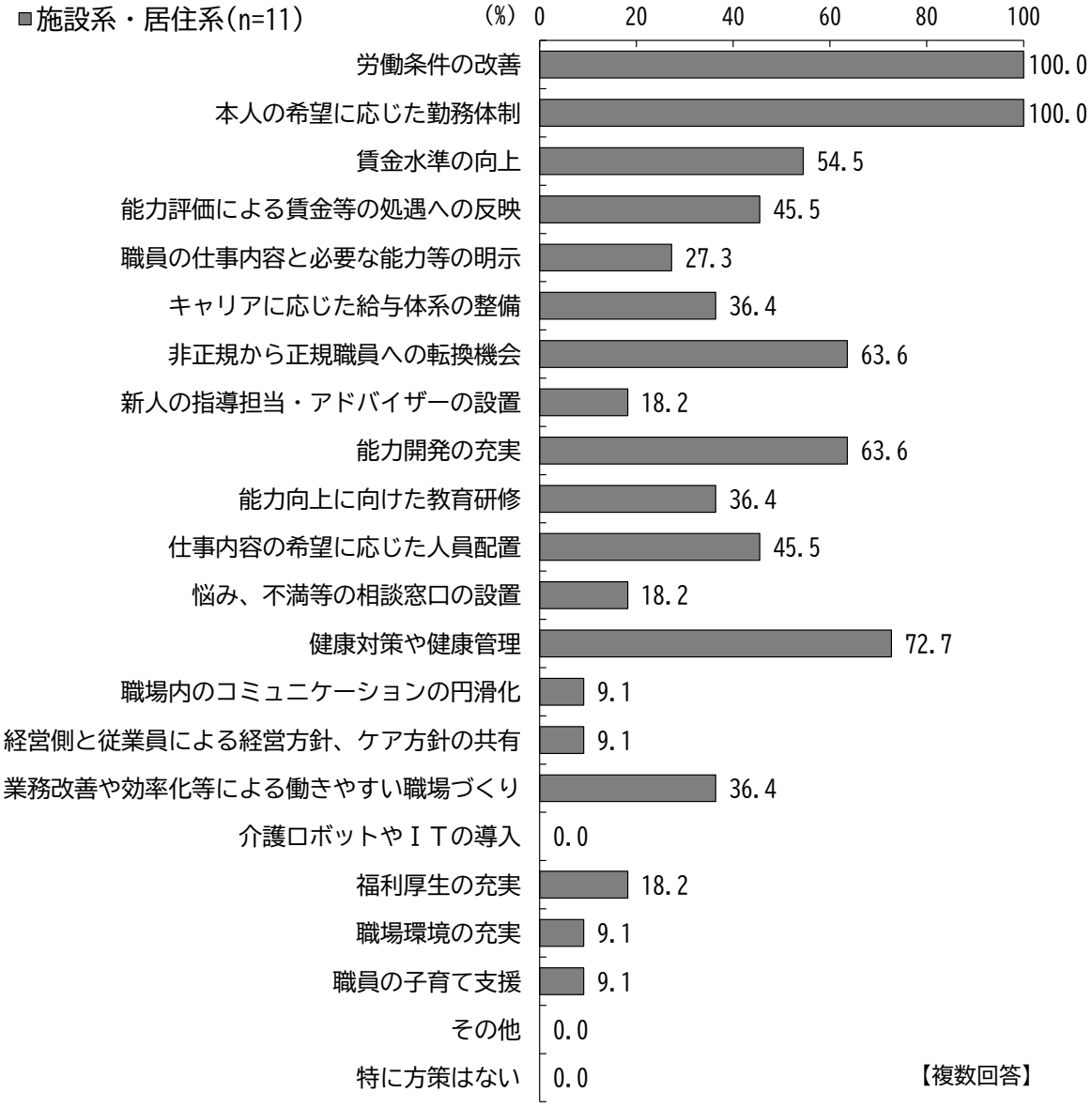
実施している職員の定着促進策（サービス系統別）



■通所系(n=11)


(%)
0
20
40
60
80
100
労働条件の改善 81.8
本人の希望に応じた勤務体制 90.9
賃金水準の向上 36.4
能力評価による賃金等の処遇への反映 27.3
職員の仕事内容と必要な能力等の明示 9.1
キャリアに応じた給与体系の整備 36.4
非正規から正規職員への転換機会 72.7
新人の指導担当・アドバイザーの設置 9.1
能力開発の充実 36.4
能力向上に向けた教育研修 36.4
仕事内容の希望に応じた人員配置 54.5
悩み、不満等の相談窓口の設置 36.4
健康対策や健康管理 27.3
職場内のコミュニケーションの円滑化 27.3
経営側と従業員による経営方針、ケア方針の共有 9.1
業務改善や効率化等による働きやすい職場づくり 27.3
介護ロボットやＩＴの導入 9.1
福利厚生の充実 27.3
職場環境の充実 18.2
職員の子育て支援 45.5
その他 9.1
特に方策はない 0.0
【複数回答】

■施設系・居住系(n=11)


(%)
0
20
40
60
80
100
労働条件の改善 100.0
本人の希望に応じた勤務体制 100.0
賃金水準の向上 54.5
能力評価による賃金等の処遇への反映 45.5
職員の仕事内容と必要な能力等の明示 27.3
キャリアに応じた給与体系の整備 36.4
非正規から正規職員への転換機会 63.6
新人の指導担当・アドバイザーの設置 18.2
能力開発の充実 63.6
能力向上に向けた教育研修 36.4
仕事内容の希望に応じた人員配置 45.5
悩み、不満等の相談窓口の設置 18.2
健康対策や健康管理 72.7
職場内のコミュニケーションの円滑化 9.1
経営側と従業員による経営方針、ケア方針の共有 9.1
業務改善や効率化等による働きやすい職場づくり 36.4
介護ロボットやＩＴの導入 0.0
福利厚生の充実 18.2
職場環境の充実 9.1
職員の子育て支援 9.1
その他 0.0
特に方策はない 0.0
【複数回答】

Ⅴ．ふれあいサロンリーダーアンケート調査

１．回答者について

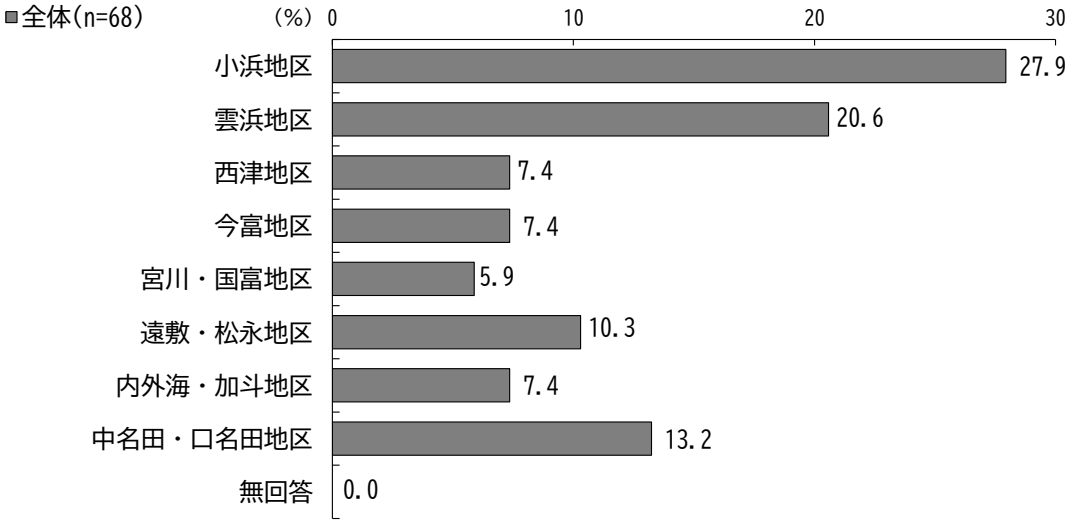
（１）居住地区

設問	１．（１）お住まいの地区を教えてください。

①居住地区

回答者の居住地区は、「小浜地区」（27.9％）が最も多く、次いで「雲浜地区」（20.6％）、「中名田・口名田地区」（13.2％）、「遠敷・松永地区」（10.3％）が続きます。

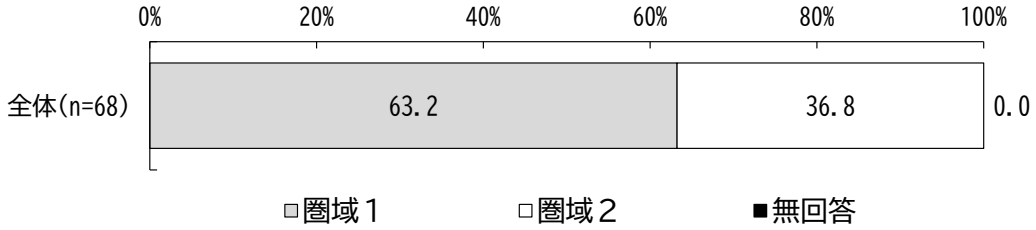
居住地区（全体）



②日常生活圏域

回答者の日常生活圏域は、「圏域１」が 63.2％、「圏域２」が 36.8％となっています。

日常生活圏域（全体）



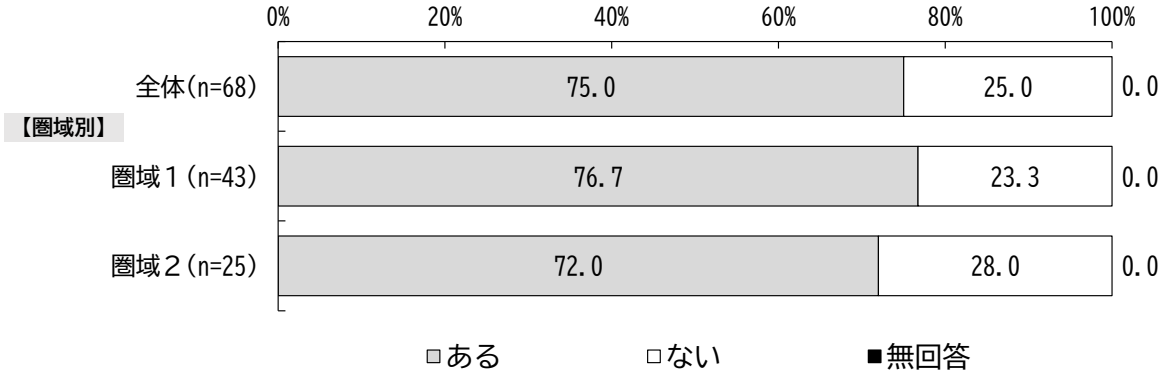
（２）サロンリーダー以外の仕事・役割

設問	１．（２）現在、サロンリーダーの他に仕事や役割はありますか。

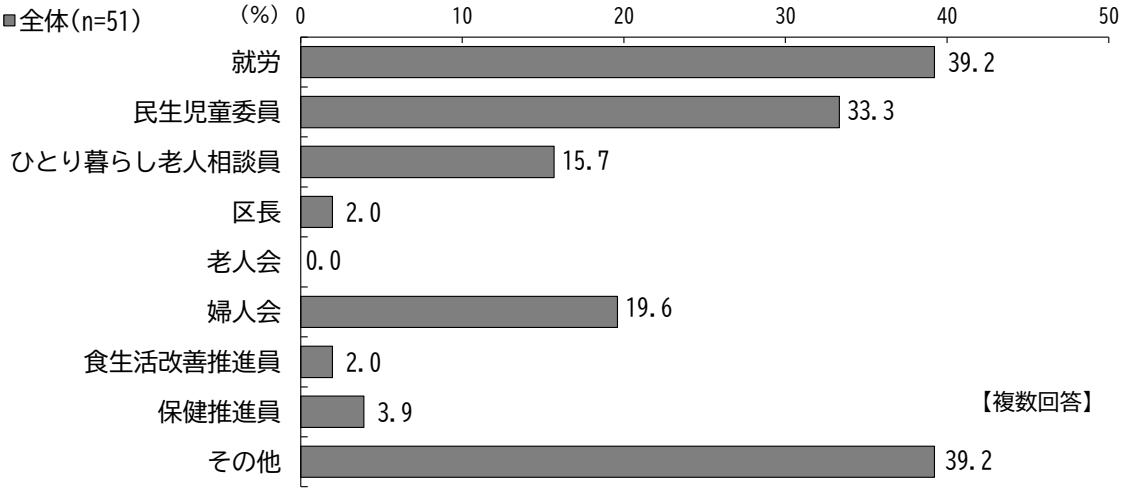
◆サロンリーダー以外の仕事・役割が「ある」が 75.0%。具体的な仕事・役割は「就労」など。

回答者のサロンリーダー以外の仕事・役割については、「ある」が 75.0%となっており、具体的な仕事・役割については「就労」及び「その他」（同率 39.2%）が最も多くなっています。

サロンリーダー以外の仕事・役割の有無（全体・圏域別）



サロンリーダー以外の仕事・役割（全体）



その他記載内容：小浜市ゲートボール協会、下校ボランティア、いきいき百歳体操、小浜市マレットゴルフ協会、やすらぎの郷ボランティア、介護相談員、グループマーメイド、町並み保存資料館、婦人福祉協議会、遺族会、人権擁護委員、ボランティアグループリーダー、サポートナース、ほほえみサポーターズ、小学校での絵本読み、まち協、小学校地域コーディネーター　等

２．ふれあいサロンについて

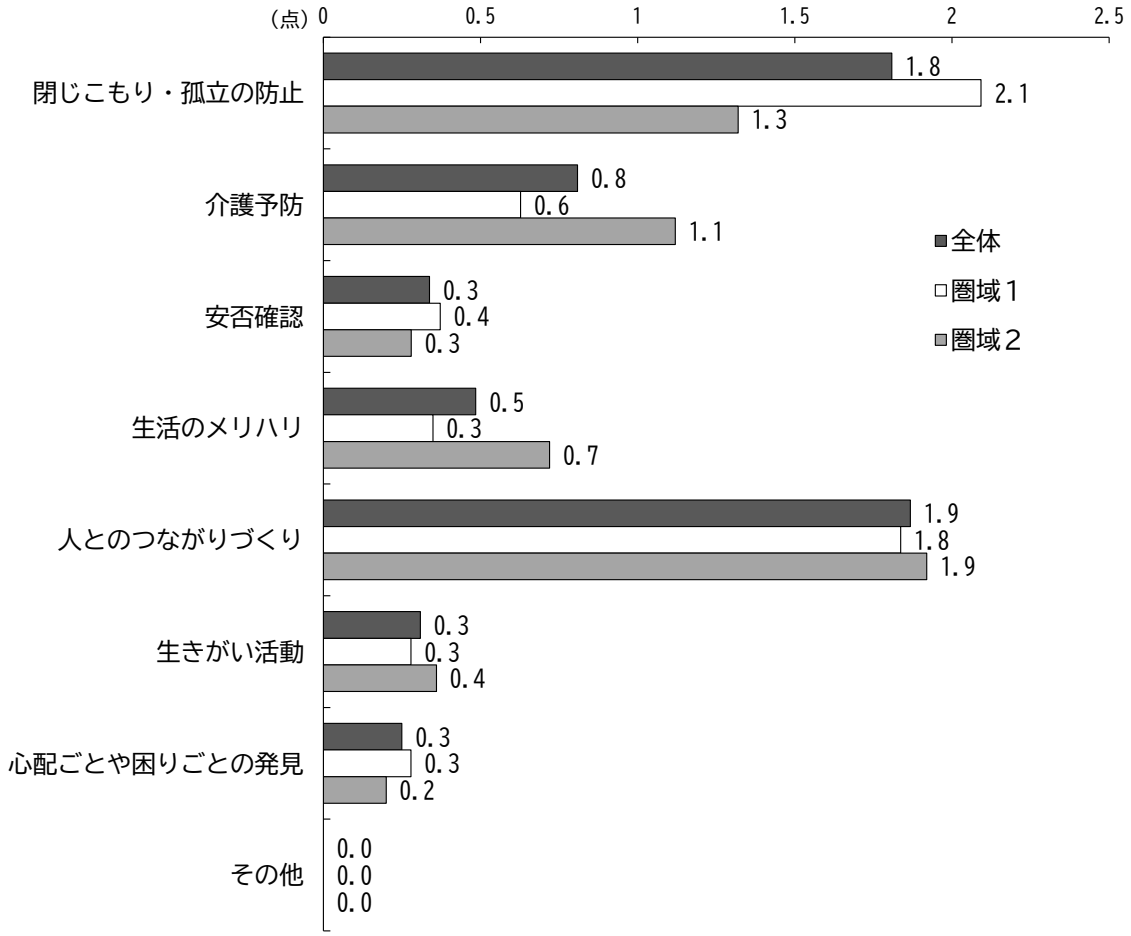
（１）サロン開催目的として大切にしていること

設問	２．（１）サロンの開催目的として大切にしていることは何ですか。大切にしている順に選択肢の番号を記入してください。

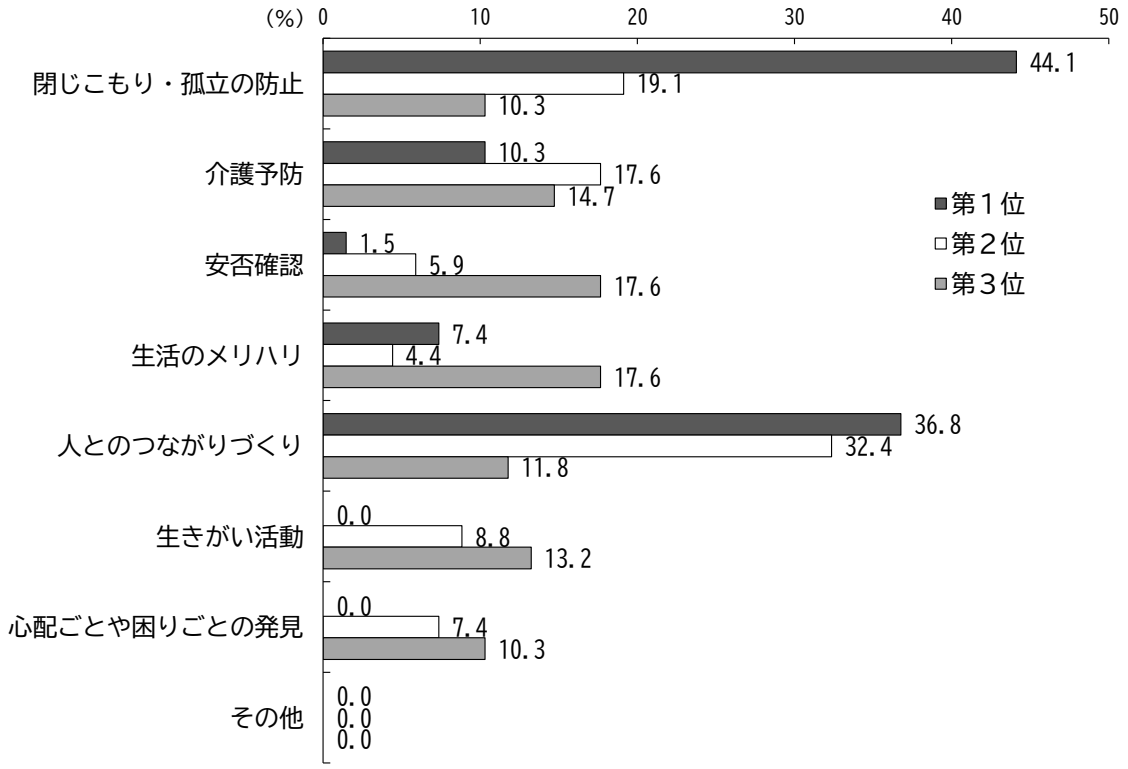
◆重視する開催目的は「人とのつながりづくり」及び「閉じこもり・孤立の防止」。

サロンの開催目的として大切にしていることについて、選択肢から第１位から第３位まで３つ選択していただき、ポイント化（第１位３点、第２位２点、第３位１点として回答者数で除した値、最大３点）した結果をみると、「人とのつながりづくり」及び「閉じこもり・孤立の防止」が僅差で上位を占める結果となっています。また、圏域別でみても「人とのつながりづくり」及び「閉じこもり・孤立の防止」が上位を占めますが、圏域１では「閉じこもり・孤立の防止」がより重視されている傾向がみられます。

サロンの開催目的として大切にしていること：ポイント（全体、圏域別）



サロンの開催目的として大切にしていること（全体／各順位に回答した割合）



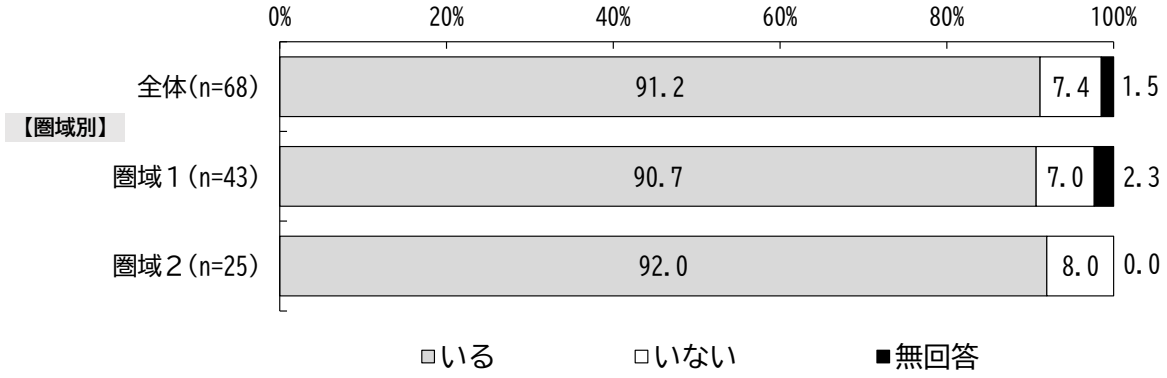
（２）サロン開催の協力者

設問	２．（２）サロン開催のお手伝いをしてくれる協力者はいますか。

◆約９割のサロンで協力者が「いる」。

サロン開催の協力者については、「いる」が91.2%、「いない」が7.4%となっています。圏域別でみても、２つの圏域ともに「いる」が約９割となっています。

サロン開催の協力者（全体・圏域別）



（３）サロンとしての課題

設問	２．（３）サロンとして課題に感じることは何ですか。

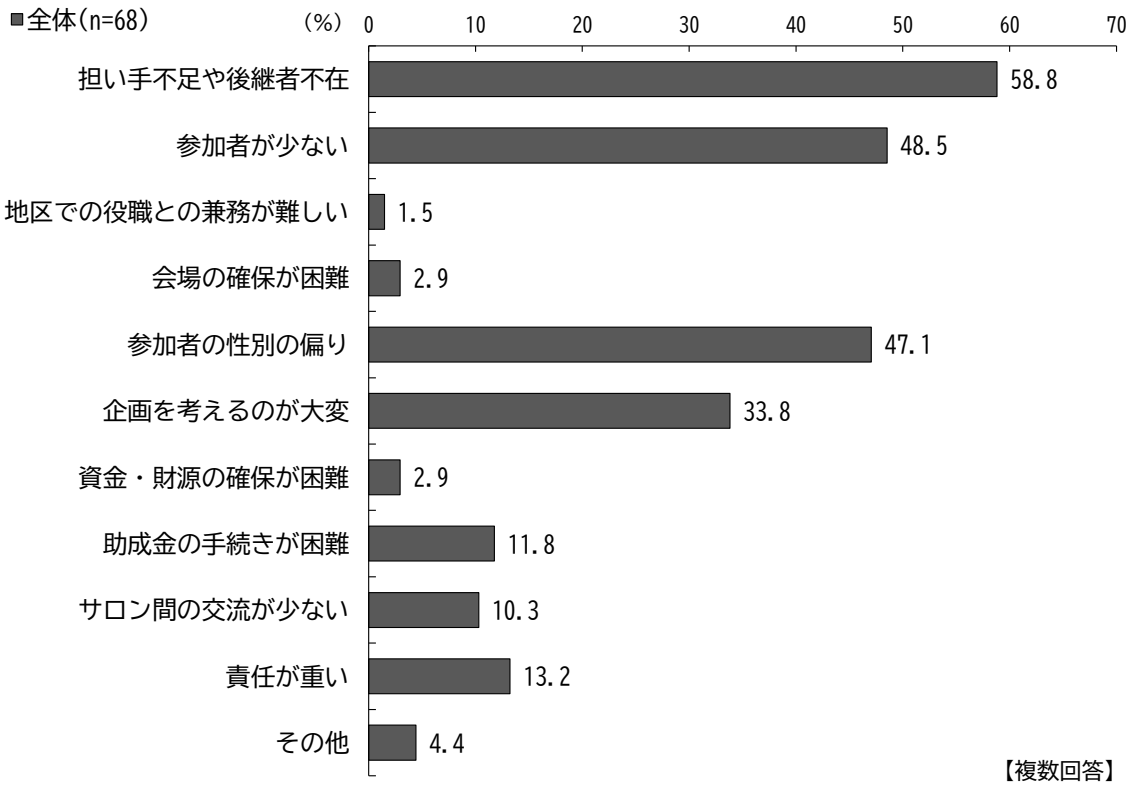
◆サロンとしての主な課題は「担い手不足や後継者不在」、「参加者が少ない」、「参加者の性別の偏り」。

サロンとしての課題については、「担い手不足や後継者不在」が 58.8%で最も多く、次いで「参加者が少ない」（48.5%）、「参加者の性別の偏り」（47.1%）が続きます。

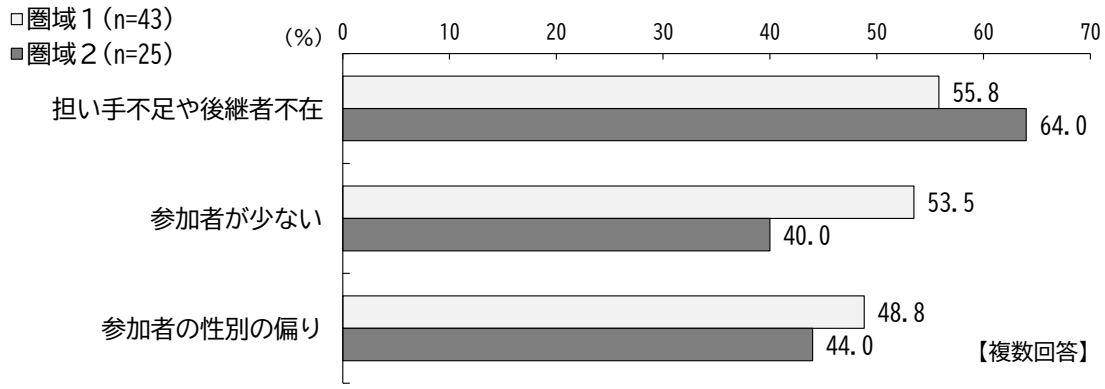
また、圏域別に上位回答の傾向をみると、圏域２では「担い手不足や後継者不在」（64.0%）、圏域１では「参加者が少ない」（53.5%）と回答する割合が比較的多くなっています。

さらに、前問の「サロン開催の協力者」の有無で課題の上位回答をみると、協力者がいないと回答した層で「担い手不足や後継者不在」と回答する割合が 80.0%と非常に多い傾向がみられます。

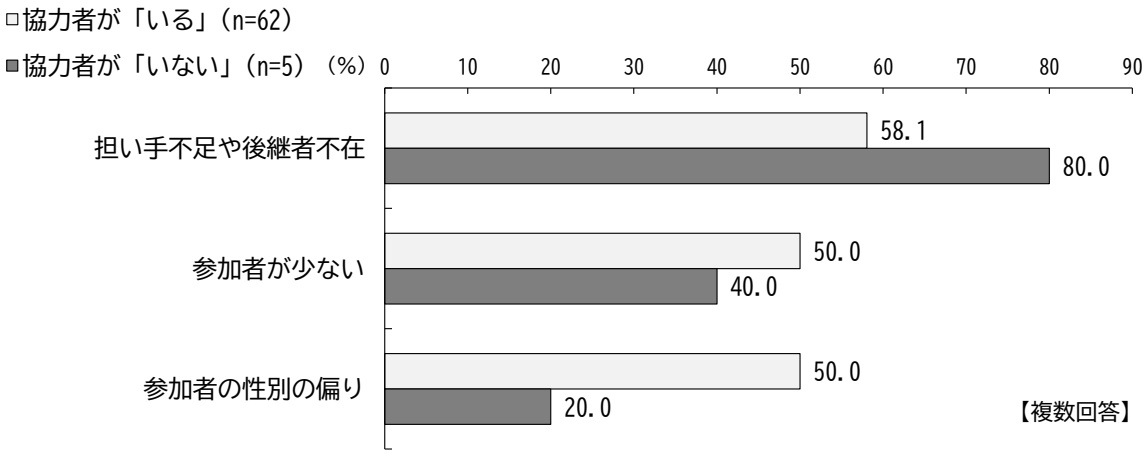
サロンとしての課題（全体）



サロンとしての課題（上位回答／圏域別）



サロンとしての課題（上位回答／協力者の有無）



（４）サロン活動の効果

設問	２.（４）サロン活動を通じて、効果があると感じることは何ですか。【参加者、自身】

◆参加者への効果としては「人と話ができるなど交流がある」、「体を動かしたり歌を歌ったり楽しく過ごせる」など。
◆自身への効果としては「人と話ができるなど交流がある」、「参加者の安否がわかる」など。

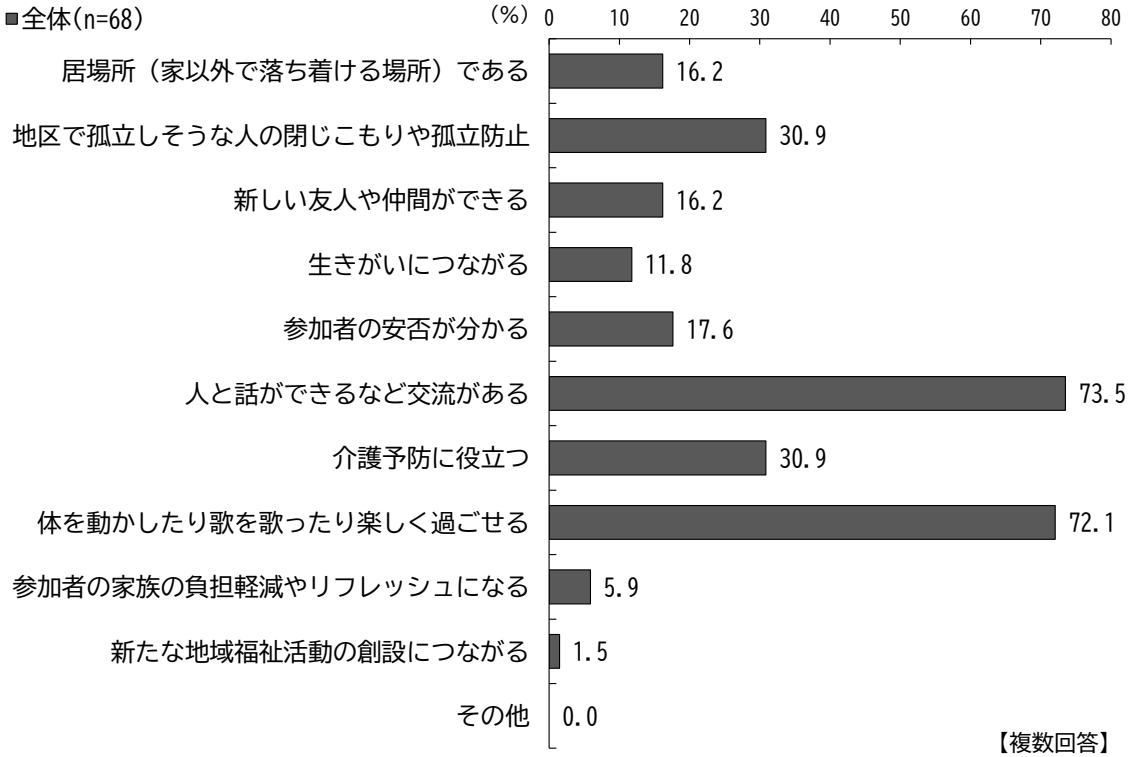
サロン活動の効果について、参加者にとっては「人と話ができるなど交流がある」が73.5%で最も多く、次いで「体を動かしたり歌を歌ったり楽しく過ごせる」（72.1%）が僅差で続きます。

これを圏域別でみても「人と話ができるなど交流がある」及び「体を動かしたり歌を歌ったり楽しく過ごせる」が上位を占めますが、圏域２では「介護予防に役立つ」の割合が44.0%と比較的多くなっています。

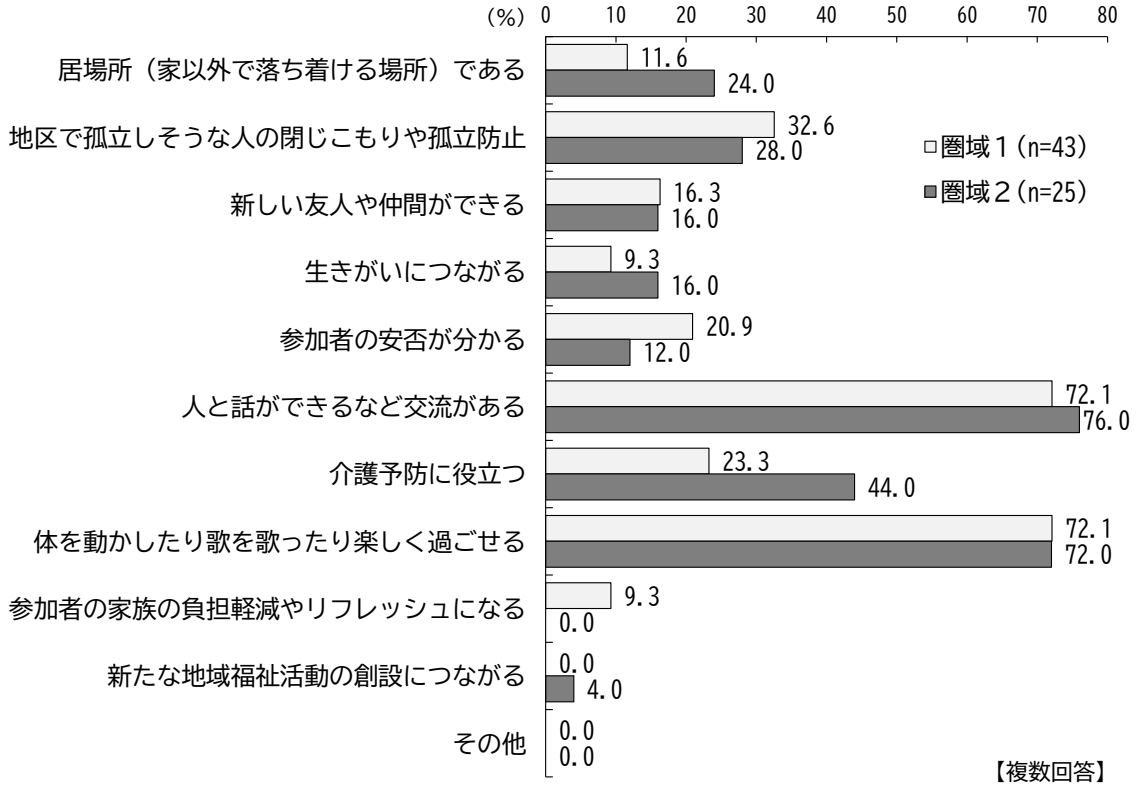
自身の効果としては、「人と話ができるなど交流がある」が58.8%で最も多く、「参加者の安否がわかる」（52.9%）が続きます。

これを圏域別でみると、圏域１では「人と話ができるなど交流がある」(60.5%)、圏域２では「参加者の安否がわかる」(60.0%)がそれぞれ最も多くなっています。

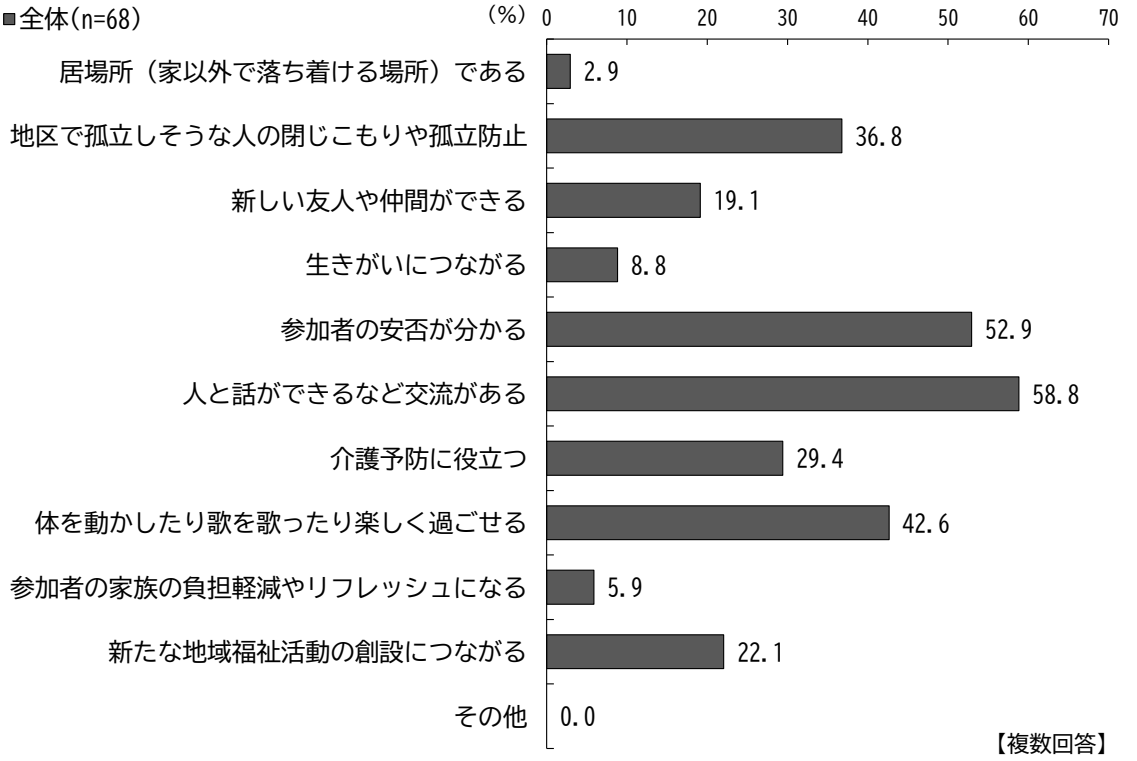
サロン活動の効果：参加者（全体）



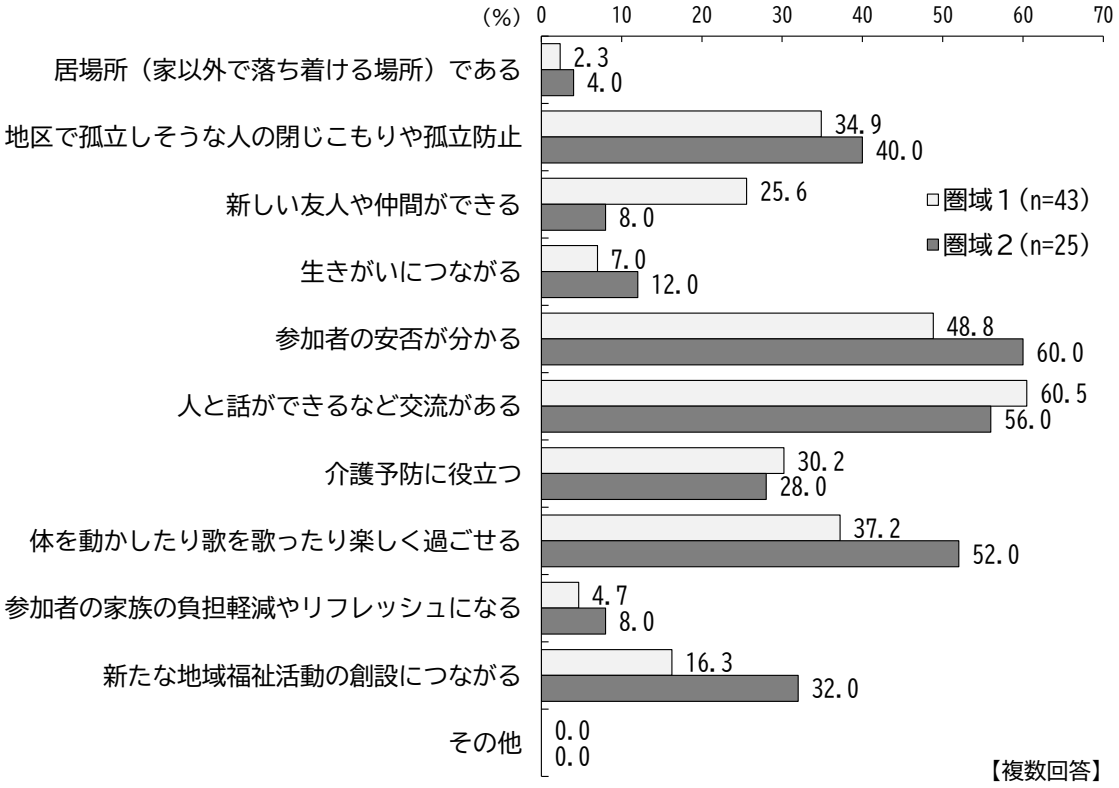
サロン活動の効果：参加者（圏域別）



サロン活動の効果：自身（全体）



サロン活動の効果：自身（圏域別）



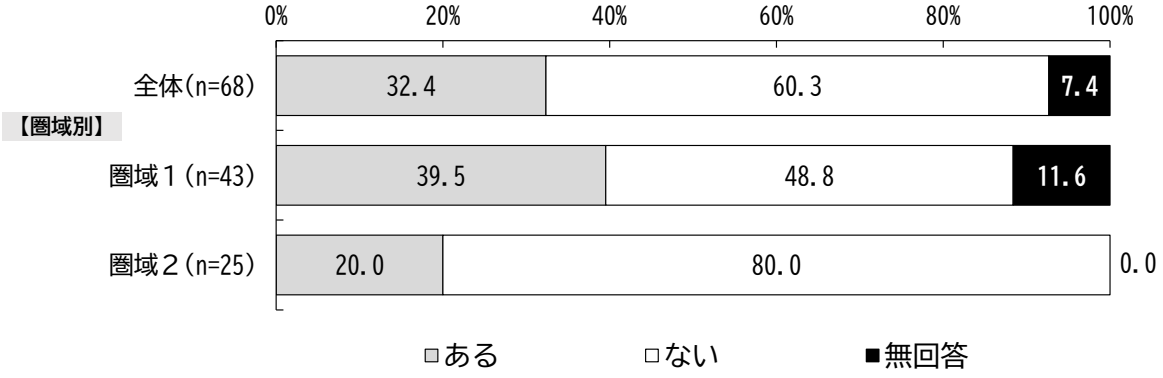
（５）参加者の困りごとの発見

設問	２.（５）サロン活動を通じて参加者の生活上の困りごとを発見したことはありますか。

◆約３割のサロンで参加者の生活上の困りごとを発見。

サロン活動を通じて参加者の生活上の困りごとを発見したことは、「ある」が32.4%となっており、圏域別の圏域１では「ある」が39.5%と約４割となっています。

参加者の困りごとの発見（全体・圏域別）



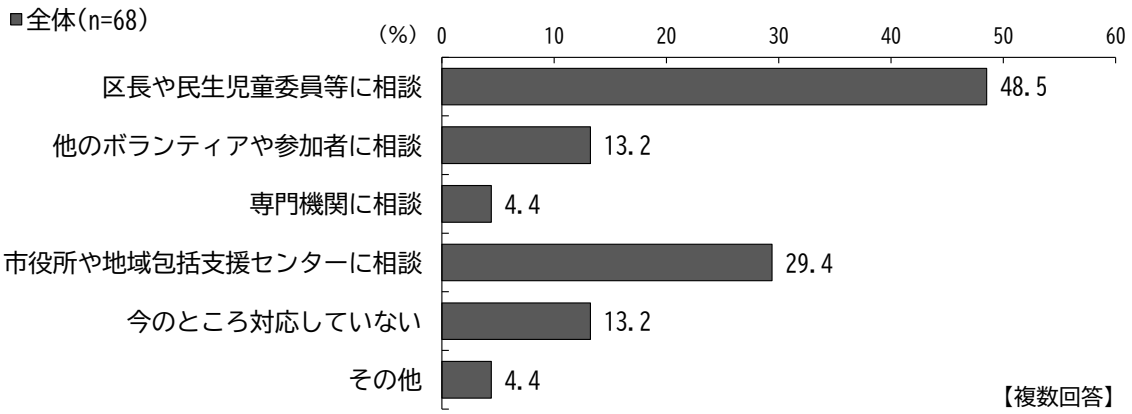
（６）困りごとを発見した際の対応

設問	２.（６）サロン活動を通じて参加者の生活上の困りごとを発見したときどのような対応をしますか。

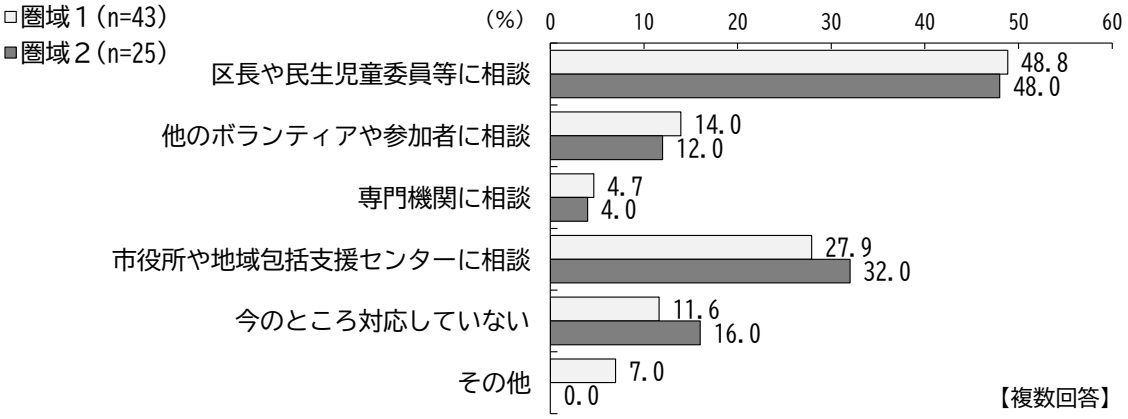
◆困りごとを発見した場合には「区長や民生児童委員等に相談」。

困りごとを発見した際の対応としては、「区長や民生児童委員等に相談」が48.5%で最も多く、次いで「市役所や地域包括支援センターに相談」（29.4%）が続きます。圏域別でみても「区長や民生児童委員等に相談」がそれぞれ最も多くなっています。

困りごとを発見した際の対応（全体）



困りごとを発見した際の対応（圏域別）

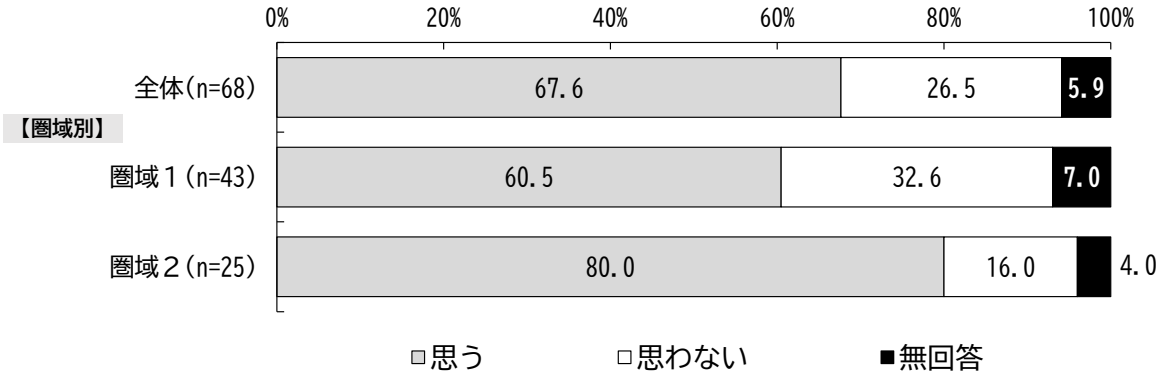


（７）話し合いの場への参加意向

設問	２.（７）自分の地区において高齢者等の生活支援の助け合いについての話し合いの場があれば参加したいと思いますか？

◆話し合いの場への参加意向のあるサロンは全体で 67.6%、圏域２では 80.0%。

高齢者等の生活支援の助け合いについての話し合いの場への参加意向については、「思う」が 67.6%、「思わない」が 26.5%となっています。

圏域別でみると、圏域２で「思う」が 80.0%と約８割となっています。

話し合いの場への参加意向（全体）